

家庭環境が幼児の読書能力に及ぼす影響

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2014年 3月

村野 亜子

目次

1. 研究の背景と目的	1
1.1. 背景	1
1.1.1. 子どもと読書	1
1.1.2. 読書能力	1
1.1.3. 読書のレディネス	1
1.1.4. 想像力	2
1.1.5. 家庭環境と読書能力	3
1.1.6. 長期的な影響の検討の必要性	5
1.2. 目的	5
1.3. 研究概要	6
2. 調査方法	7
2.1. 質問紙調査（家庭環境についての調査）	7
2.1.1. 調査概要	7
2.1.2. 調査対象	7
2.1.3. 調査内容	7
2.1.4. 手続き	8
2.1.4.1. 調査実施日	8
2.1.4.2. 対象の選出および協力依頼	8
2.1.4.3. 質問紙の配布・回収	9
2.1.4.4. 倫理的配慮	9
2.2. 面接調査1（読書のレディネスの測定）	10
2.2.1. 調査概要	10
2.2.2. 調査対象	10
2.2.3. 調査内容	10
2.2.4. 手続き	11
2.2.4.1. 調査実施日	11
2.2.4.2. 調査室と調査環境	11
2.2.4.3. 調査者	12
2.2.4.4. 調査の流れ	12
2.2.4.5. 倫理的配慮	13
2.2.5. 採点方法	13
2.3. 面接調査2（想像力の測定）	15
2.3.1. 調査概要	15
2.3.2. 調査対象	15
2.3.3. 調査材料	15
2.3.4. 調査内容	15

2.3.5. 手続き	15
2.3.5.1. 調査実施日	15
2.3.5.2. 調査室と調査環境.....	15
2.3.5.3. 調査者	16
2.3.5.4. 調査の流れ	16
2.3.5.5. 倫理的配慮	17
2.3.6. 評定方法	17
2.3.6.1. 評定の基準	17
2.3.6.2. 評定の一致率.....	18
2.4. 施設向け質問紙調査	19
2.4.1. 調査概要	19
2.4.2. 調査対象	19
2.4.3. 調査内容	19
2.4.4. 手続き	20
2.4.4.1. 調査実施日	20
2.4.4.2. 質問紙の配布・回収	20
2.4.4.3. 倫理的配慮	20
3. 全体の結果	21
3.1. 1回目調査および2回目調査の分析結果	21
3.1.1. 分析対象	21
3.1.2. 質問紙調査結果（幼児の家庭環境）	21
3.1.2.1. 幼児の属性	21
3.1.2.2. 保護者の読書好意度・読書量.....	23
3.1.2.3. 子どもに対する保護者の行動.....	24
3.1.2.4. 回答者の属性.....	35
3.1.3. 面接調査1結果（幼児の読書のレディネス）	36
3.1.4. 面接調査2結果（幼児の想像力）	38
3.1.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係	39
3.1.5.1. 分析モデル	39
3.1.5.2. 結果.....	39
3.1.6. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	40
3.1.6.1. 分析モデル	40
3.1.6.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係.....	42
3.1.6.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係.....	42
3.1.7. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	44
3.1.7.1. 分析モデル	44
3.1.7.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係.....	46
3.1.7.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係.....	46
3.2. 2回目調査および3回目調査の分析結果	48
3.2.1. 分析対象	48

3.2.2. 質問紙調査結果（幼児の家庭環境）	48
3.2.2.1. 幼児の属性	48
3.2.2.2. 保護者の読書好意度・読書量.....	50
3.2.2.3. 子どもに対する保護者の行動.....	51
3.2.2.4. 回答者の属性.....	63
3.2.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）	64
3.2.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）	66
3.2.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係	67
3.2.5.1. 分析モデル	67
3.2.5.2. 結果.....	67
3.2.6. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	68
3.2.6.1. 分析モデル	68
3.2.6.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係.....	70
3.2.6.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係.....	70
3.2.7. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	72
3.2.7.1. 分析モデル	72
3.2.7.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係.....	74
3.2.7.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係.....	74
3.3. 1 回目調査および 3 回目調査の分析結果	76
3.3.1. 分析対象	76
3.3.2. 質問紙調査結果（幼児の家庭環境）	76
3.3.2.1. 幼児の属性	76
3.3.2.2. 保護者の読書好意度・読書量.....	78
3.3.2.3. 子どもに対する保護者の行動.....	79
3.3.2.4. 回答者の属性.....	91
3.3.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）	92
3.3.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）	94
3.3.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係	95
3.3.5.1. 分析モデル	95
3.3.5.2. 結果.....	95
3.3.6. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	96
3.3.6.1. 分析モデル	96
3.3.6.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係.....	98
3.3.6.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係.....	98
3.3.7. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	100
3.3.7.1. 分析モデル	100
3.3.7.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係.....	102
3.3.7.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係.....	102
3.4. 1 回目調査・2 回目調査・3 回目調査の分析結果.....	104
3.4.1. 分析対象	104
3.4.2. 質問紙調査結果（幼児の家庭環境）	104

3.4.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	104
3.4.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	105
3.4.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）	111
3.4.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）	112
3.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係の結果まとめ	113
3.6. 家庭環境と幼児の読書能力の影響関係の結果まとめ	114
3.6.1. 家庭環境と読書のレディネスの影響関係	114
3.6.2. 家庭環境と想像力の影響関係	117
3.7. 絵本の読み聞かせ量と幼児の読書能力の影響関係への他の家庭環境の調整効果の結果まとめ	118
3.7.1. 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果.....	118
3.7.2. 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果	119
4. 施設環境をふまえた結果.....	120
4.1. 施設向け質問紙調査結果	120
4.1.1. 分析対象	120
4.1.2. 施設での絵本・紙芝居の蔵書量.....	120
4.1.2.1. 施設での絵本の蔵書量	120
4.1.2.2. 施設での紙芝居の蔵書量.....	121
4.1.3. 施設でのおはなし会.....	121
4.1.4. 施設での活動内容	122
4.1.4.1. 自由保育と一斉保育の割合	122
4.1.4.2. 文字指導の程度	122
4.1.4.3. 絵本の貸出の有無.....	122
4.1.4.4. 絵本や読み聞かせに関する保護者への情報提供	123
4.1.4.5. 各活動の頻度.....	123
4.1.5. 回答者の属性	124
4.1.6. 今後の分析について.....	124
4.2. 1 回目調査および 2 回目調査の分析結果	125
4.2.1. 分析対象	125
4.2.2. 質問紙調査結果.....	125
4.2.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	125
4.2.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	126
4.2.3. 面接調査 1 結果.....	131
4.2.4. 面接調査 2 結果.....	131
4.2.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	132
4.2.5.1. 施設環境を統制した分析	132
4.2.5.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析	134
4.2.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	136

4.2.6.1. 施設環境を統制した分析	136
4.2.6.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析	137
4.3. 2 回目調査および 3 回目調査の分析結果	138
4.3.1. 分析対象	138
4.3.2. 質問紙調査結果.....	138
4.3.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	138
4.3.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	138
4.3.3. 面接調査 1 結果.....	143
4.3.4. 面接調査 2 結果.....	143
4.3.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	144
4.3.5.1. 施設環境を統制した分析	144
4.3.5.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析	146
4.3.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	148
4.3.6.1. 施設環境を統制した分析	148
4.3.6.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析	150
4.4. 1 回目調査および 3 回目調査の分析結果	151
4.4.1. 分析対象	151
4.4.2. 質問紙調査結果.....	151
4.4.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	151
4.4.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	151
4.4.3. 面接調査 1 結果.....	156
4.4.4. 面接調査 2 結果.....	156
4.4.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	157
4.4.5.1. 施設環境を統制した分析	157
4.4.5.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析	159
4.4.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	161
4.4.6.1. 施設環境を統制した分析	161
4.4.6.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析	162
4.5. 家庭環境と幼児の読書能力の影響関係への保育・教育施設環境による調整効果の結果まとめ.....	163
5. 習い事・家庭学習の経験をふまえた結果	165
5.1. 習い事・家庭学習の経験の結果	165
5.1.1. 分析対象	165
5.1.2. 習い事・家庭学習の経験および始めた時期	165
5.1.3. 今後の分析について.....	166
5.2. 1 回目調査および 2 回目調査の分析結果	166
5.2.1. 分析対象	166
5.2.2. 質問紙調査結果.....	167
5.2.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	167
5.2.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	168

5.2.3. 面接調査 1 結果.....	181
5.2.4. 面接調査 2 結果.....	182
5.2.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	184
5.2.5.1. 分析モデル	184
5.2.5.2. 全体の結果と共通する影響関係	184
5.2.5.3. 新しく見られた影響関係.....	186
5.2.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	188
5.2.6.1. 分析モデル	188
5.2.6.2. 全体の結果と共通する影響関係	188
5.2.6.3. 新しく見られた影響関係.....	189
5.3. 2 回目調査および 3 回目調査の分析結果	190
5.3.1. 分析対象	190
5.3.2. 質問紙調査結果.....	190
5.3.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	190
5.3.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	191
5.3.3. 面接調査 1 結果.....	204
5.3.4. 面接調査 2 結果.....	205
5.3.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	207
5.3.5.1. 分析モデル	207
5.3.5.2. 全体の結果と共通する影響関係	207
5.3.5.3. 新しく見られた影響関係.....	209
5.3.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	210
5.3.6.1. 分析モデル	210
5.3.6.2. 全体の結果と共通する影響関係	210
5.3.6.3. 新しく見られた影響関係.....	212
5.4. 1 回目調査および 3 回目調査の分析結果	213
5.4.1. 分析対象	213
5.4.2. 質問紙調査結果.....	213
5.4.2.1. 保護者の読書好意度・読書量.....	213
5.4.2.2. 子どもに対する保護者の行動.....	215
5.4.3. 面接調査 1 結果.....	227
5.4.4. 面接調査 2 結果.....	228
5.4.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係.....	230
5.4.5.1. 分析モデル	230
5.4.5.2. 全体の結果と共通する影響関係	230
5.4.5.3. 新しく見られた影響関係.....	232
5.4.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係.....	233
5.4.6.1. 分析モデル	233
5.4.6.2. 全体の結果と共通する影響関係	233
5.4.6.3. 新しく見られた影響関係.....	234

6. 考察	235
6.1. 幼児の家庭環境	235
6.1.1. 幼児の属性	235
6.1.1.1. きょうだいの有無・きょうだいの中での幼児の位置	235
6.1.1.2. 同居している人	235
6.1.2. 保護者の読書好意度・読書量	235
6.1.3. 子どもに対する保護者の行動	236
6.1.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）	236
6.1.3.2. 絵本の読み聞かせをする人	236
6.1.3.3. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）	236
6.1.3.4. 読み聞かせ方	237
6.1.3.5. 自宅の蔵書量	238
6.1.3.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度	238
6.1.3.7. 親子の交流の頻度	238
6.1.4. 回答者の属性	239
6.2. 幼児の読書のレディネス	240
6.3. 幼児の想像力	241
6.4. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係	242
6.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係	243
6.5.1. 読書のレディネスを高める要因	243
6.5.1.1. 絵本の種類別読み聞かせ量	243
6.5.1.2. 絵本の読み聞かせ方	244
6.5.1.3. 自宅の蔵書量	245
6.5.1.4. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度	246
6.5.1.5. 親子の交流の頻度	247
6.5.2. 読書のレディネスを低める要因	248
6.5.2.1. 保護者の読書好意度・読書量	248
6.5.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ量	249
6.5.2.3. 絵本の読み聞かせ方	250
6.5.2.4. 親子の交流の頻度	252
6.5.3. 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因	253
6.5.3.1. 絵本の種類別読み聞かせ量	253
6.5.3.2. 親子の交流の頻度	254
6.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係	255
6.6.1. 想像力を高める要因	255
6.6.1.1. 絵本の読み聞かせ量	255
6.6.1.2. 絵本の種類別読み聞かせ量	256
6.6.1.3. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度	257
6.6.2. 想像力を低める要因	257
6.6.2.1. 親子の交流の頻度	257
6.7. 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果	258

6.7.1. 読書のレディネスを高める要因.....	258
6.7.2. 読書のレディネスを低める要因.....	260
6.8. 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果.....	261
6.8.1. 想像力を高める要因.....	261
6.8.2. 想像力を低める要因.....	262
6.9. 家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果.....	263
6.9.1. 読書のレディネスを高める要因.....	263
6.9.2. 読書のレディネスを低める要因.....	265
6.9.3. 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因.....	267
6.10. 家庭環境と想像力の影響関係への保育・教育施設環境による調整効果.....	269
6.11. 今後の課題.....	269
7. 結論.....	270

謝辞

参考文献

付録

- 付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）
- 付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）
- 付録3 保護者向け質問紙（3回目調査）
- 付録4 読書のレディネス調査用紙（1回目調査）
- 付録5 読書のレディネス調査用紙（2回目調査）
- 付録6 読書のレディネス調査用紙（3回目調査）
- 付録7 施設向け質問紙
- 付録8 施設向け質問紙（追加調査）

1. 研究の背景と目的

1.1. 背景

1.1.1. 子どもと読書

近年、子どもへの読書推進は盛んに行われている。日本では、2000年の「子ども読書年」を契機に、2001年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」^[1]が公布・施行され、それに伴い、2002年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」^[2]の閣議決定が行われた。これらの法律や計画に沿って、全都道府県において「都道府県子ども読書活動推進計画」が策定されたり、学校が公立図書館と連携したりする取り組みが行われた（岩崎, 2012）^[3]。現在は、2013年5月に閣議決定された「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」^[4]に沿って、市町村での「子ども読書活動推進計画」の策定を進めたり、主に中高生の不読者に対して読書活動を促したりする取り組みが行われている。

読書は人間形成のために有効で、大きな可能性を持つと言われており（朝比奈, 2009）^[5]、たとえば、心の成長や心の癒しなどを含む心理的側面への効果や、学力の伸びや学習意欲の伸びなどを含む学力的側面への効果など、読書に期待される効果にはさまざまなものがある（鈴木, 2012）^[6]。

家庭においても幼児期の読み聞かせが盛んに行われている。小学3年生以下の子どもを持つ男女1000人（20歳～59歳）に行った「子どもの絵本と教育に関する調査」（メディアケア生命保険株式会社, 2013）^[7]によると、未就学児への絵本の読み聞かせを「週に1日以上」行っていると回答した保護者は半数以上いることが示された。また、「子どもへの絵本の読み聞かせにどのようなことを期待しているか」については、「子どもが本に慣れ親しむ習慣がつく」（58.0%）という回答が最も多く、次いで「子どもが言葉をおぼえる」（55.4%）、「子どもとのスキンシップがとれる」（53.6%）、「子どもに想像力がつく」（49.6%）であった。

1.1.2. 読書能力

読書を行う上で必要となってくるのが、読書能力である。読書能力とは、「書かれている文字・記号から意味を正確にしかも早く理解する能力」（阪本, 1978）^[8]であり、視覚の機制、読字力、語彙力、文章理解力、読書の速度など、様々な因子から構成されている（阪本, 1978）^[8]。また、広義には読書を楽しむ能力である（朝比奈, 2009）^[9]。赤星(2009)^[10]によると、自分が主体となって楽しむ「読書」へは、一定の知的、情緒的な準備が必要である。また、読書を楽しむということは、「ことばをイメージ化し、イメージを言語化し、ことばとイメージとの間を自由自在に行き来」（朝比奈, 2009）^[10]することであると言われている。これらに関連する概念として、読書のレディネスと想像力が挙げられる。

1.1.3. 読書のレディネス

レディネス（readiness）とは、なんらかの行動を学習しようとするとき、その学習を可能にするための指針の成熟・発達の状態であり、「準備性」や「用意性」と訳される（福沢, 1981）^[11]。読書能力に関するレディネスとしては2種類挙げられる。ひとつは「読みのレディネス」であり、もうひとつは「読書のレディネス」である。読みのレディネスとは、「国語科の中で指導される文字を読むことの学習に対する心理的生理的成熟」（阪本, 1977）^[12]であり、読書のレディネスとは、「読書を楽しむことが可能な心理的準備ができ上がった状

態にあるということ」(朝比奈, 2009) [9]である。阪本(1977)[12]によると、読みのレディネスによって読むことの学習が進み、それに伴って読書のレディネスが固まってくると考えられている。

読書のレディネスは、読書のための基礎力として重要視されている。この読書のレディネスは5～6歳で最も発達し、7歳で高原状態に達すると言われている(阪本, 1953) [13]。阪本(1977)[12]は、読みのレディネスは成熟しているが読書のレディネスは成熟していない者が、本を読めとまわりから強いられるために、読書嫌いになると述べている。つまり、子どもが一人読みを楽しむためには、一斉に読書指導が始まる小学校に入学するまでに読書のレディネスが形成されていることが望ましい。

読書のレディネスを測定する道具としては、読書レディネステストがある。国内外において標準化された読書レディネステストはいくつかあるが表記や絵が古いものが多いため、村野・鈴木(2012)[14]はこれらを参考に現代でも使用できる読書レディネステストの開発を行った。まず、過去に作成された国内外の6つの読書レディネステストの文献調査を行い、その後、4歳児クラスの幼児217名、5歳児クラスの幼児181名を対象に面接調査を行った。その結果、「読字(文字を理解しているかを測定)」「絵と文字の結合(事物に対応する正しい言葉を結びつけられるかを測定)」「物語理解(お話の内容を理解しているかを測定)」「お話の構成(文の内容を理解して場面をイメージできるかを測定)」の4つを下位テストとした、平均点に差のない3回分のテストを作成した。

1.1.4. 想像力

想像力とは、「目に見えないものを思い浮かべ」、「想像でつくり出した世界を自分の現実にする」力である(内田, 1994) [15]。赤星(2009)[10]は想像力について、以下のように述べている。

真の想像力とは、現実にはありえない架空の「こと」や「もの」を空想することだけをさすのではない。他人の立場に身を置いて、感じたり考えたりする力、現実には立脚しながらも可能性を広く探る能力など人間の精神的な活動の根底をなす歓声であり、知性への基本である。

想像力は、幼児の現実の生活にあっては絵本を理解する力や、自ら物語をつくりだす力の発達といった形で現れてくる(堂野, 1994) [16]。また、幼児は一般に目の前で体験した事実に基づいて具体的に思考する傾向が強いが、5歳前後頃から言語を手段として「想像力」を働かせ、現実をある程度離れて思考することが始まってくる(堂野, 1994) [16]。

想像力の測定には「幼児に物語を語ってもらう」という方法がある。内田(1994)[15]が、「物語の発話資料は、低年齢児の想像活動の展開を知り、子どもが頭の中に抱いた表象(イメージ)がどのようなものかを推測したり、そのような表現が作り出されるまでの過程を考えたりする恰好の材料を提供してくれる」と述べていることから、幼児に物語を語ってもらうことによって想像力の測定ができると考えられる。なお、この方法は、佐渡・岩男(1991)[17]、堂野(1994)[16]、中澤・中道ら(2005)[18]、中澤・杉本ら(2005)[19]、森田(2008)[20]などの多数の想像力に関する研究で用いられている。

内田(1994)^[18]によると、「ことばと想像力は相互に依存する関係にある」という。したがって、幼児の語った物語を動詞中心に区切ることによって、「イメージ量」として想像力を測定することができると考えられる(中澤・杉本ら, 2005)^[19]。また、イメージが豊かに形成された幼児の作話には、多くのエピソードが語られ、新しく創造されたキャラクターや物が多く登場すると考えられる(中澤・杉本ら, 2005)^[19]。

想像力は、読書のレディネスに一部含まれると考えられる。読書のレディネスに含まれる想像力は、文字で書かれていることをもとに一つひとつの言葉や場面のイメージをつないで、ストーリー全体をイメージ化することを指す(朝比奈, 2009)^[9]。つまり、書かれていることを自分の経験と直接結びつけて思い描くことであると言える。一方で、読書のレディネスに含まれない想像力の中には、単にイメージを思い描くだけではなく、想像の素材である経験が再構成されて、かつての姿とは異なったかたちで再構成される創造的想像がある(内田, 1999)^[21]。これは、「ある状況(その場面の情景やその人物の心理状態など)をイメージし、これを自分自身の経験の記憶と重ねあわせて、自分なりの感動を呼び起こさせる」(朝比奈, 2009)^[9]のために必要となってくる。つまり、どちらの想像力も読書を楽しむためには必要となってくると考えられる。

1.1.5. 家庭環境と読書能力

読みの学習は幅広い年齢層で行われるもので、家庭から始まり、正式な教育へと続いていく(Hart & Petrill, 2009)^[22]。また、Sénéchal(2011)^[23]によると、親が家庭で行っている読み書きの活動のタイプが異なるならば、これらの違いが子どもの成果の違いをもたらすという。つまり、子どもの読書能力の発達には、家庭環境が重要であると考えられる。

秋田(1992)^[24]は、親が読書好きであることが、自宅の蔵書量、図書館・本屋へ連れて行く頻度、読み聞かせ頻度などの子に対する様々な行動の量に影響を与えることを明らかにしている。しかし、これは小中学生にたずねているものであり、必ずしも保護者の本当の読書好意度・読書量ではないと考えられる。その後、安藤(1996)^[25]によって、保護者に直接たずねるかたちで同様の調査が行われ、同様のことが明らかにされた。しかし、この調査においても対象は小学6年生の保護者であるため、「小さい頃の読み聞かせ頻度」は記憶をたどって回答することとなっている。したがって、幼児の保護者に直接たずねることによって、保護者の読書好意度・読書量が家庭における子どもに対する保護者の行動に影響するのかを検討する必要がある。

就学前の家庭での活動と子どもの読み書き能力とのつながりを示すモデルのひとつとして、Home Literacy Modelが提唱されている(図 1-1 参照)。このモデルは、Sénéchal & LeFevre(2002)^[26]の提示した就学前の家庭での読み書き活動についての発見の要旨を、Sénéchal(2006)^[27]が拡張し、提唱された。このモデルによると、親による読み聞かせ(Parent Reads to Child)は語彙(Vocabulary)の発達を促進し、幼児の語彙は小学4年生での物語理解(Reading Comprehension)と関係している。また、親による読み聞かせは、幼児の語彙や音素認識(Phonological Awareness)、小学1年生での読み(Word Reading)を介して小学4年生の読みの流暢さ(Reading Fluency)と間接的に関係している。小学4年生での楽しみ読み(Reading for Pleasure)については例外であり、親による読み聞かせと直接的な関係があることが示されている。一方で、親による読み書き教育(Parent Teaches Child)は初期の読

み書き能力(Early Literacy)の習得を促進する。そして、親による読み書き教育は、初期の読み書き能力や小学1年生での読みを介して、小学4年生での物語理解や読みの流暢さと間接的に関係していることが示されている。この Home Literacy Model は、フランス語を話す家庭や韓国の家庭、スペインの家庭に拡張されているだけでなく、英語によっても再現されている (Sénéchal, 2011) [23]。

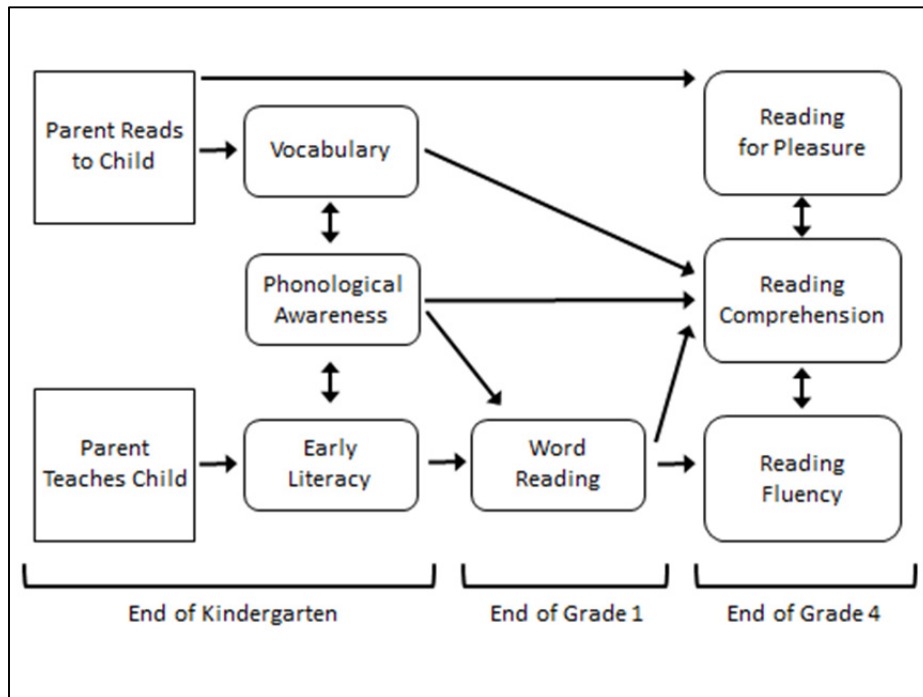


図 1-1 Home Literacy Model (Sénéchal, 2011)

日本においても、家庭における蔵書量なども読書能力に関係していることが、さまざまな研究で明らかになっている(岡田, 1971) [28]。絵本の読み聞かせに関しては、森田(2008)[20]において絵本の接触量が幼児の想像力に影響を及ぼしていることが明らかになっている。また、事例分析によって、遠足、ごっこ遊び、おしゃべり、絵本の読み聞かせ等、いわゆることばそのものを伸ばすものではない総合的な興味ある遊びが、読書のレディネスを高めていることが示唆されている(三神, 1998) [29]。さらに、佐藤・安岡(1997)[30]は、子どもが本に書かれていることを理解できるのはすでに心に記憶された経験やそのあとに続く様々な経験があるからである」と述べており、家庭における親子の交流の中でさまざまな経験を経験することは、読書のレディネスおよび想像力の発達に効果があると考えられる。

以上のように、家庭環境としては「保護者の読書好意度・読書量」と、絵本の読み聞かせ、自宅の蔵書量、親子の交流などの「子どもに対する保護者の行動」がある。しかし、このようなさまざまな家庭環境が実際に読書のレディネスおよび想像力に影響するのかといったことは明らかになっていない。

家庭環境の中でも、絵本の読み聞かせは上述したように、子どもの語彙能力を促進することが明らかになっている[26]。また、「耳で聞き、目で楽しむ<ストーリー>に接することが、読書能力の発達にとって大切である」(朝比奈, 2009) [9]とされていることから、絵

本の読み聞かせは読書のレディネスおよび想像力によい影響を与えるものであることが示唆される。しかし、実証的な研究は少なく、読み聞かせる絵本の種類や読み聞かせ方が幼児の読書のレディネス・想像力に影響を及ぼすのかといったことは明らかになっていない。また、絵本の読み聞かせが読書のレディネスおよび想像力に及ぼす影響は、自宅における子どもを対象とした本の蔵書量や図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ方などによっても異なることが考えられる。

また、4歳児、5歳児のほとんどすべての子どもが幼稚園や保育所などの就学前の幼児教育・保育機関を利用している（住田・山瀬ら, 2012）^[31]が、これらの施設間の質格差は学校間格差以上に大きいといわれている（秋田・佐川, 2011）^[32]。したがって、幼児が通っている保育・教育施設環境の差も考慮に入れて家庭環境が幼児の読書のレディネスおよび想像力に影響するのかを検討していく必要がある。

1.1.6. 長期的な影響の検討の必要性

Sénéchal(2011)^[23]によると、家庭における読み書きに関する研究の多くは相関関係のみが示されており、影響関係は実証されていない。したがって、家庭における親の読み聞かせなどを含んだ家庭環境と読書能力についての影響関係について検討していく必要があると考えられる。

また、読書の効果については、長期的に検討する必要があることが示唆されている（足立・坂元ほか, 1999）^[33]。しかし、このような様々な家庭環境が読書のレディネスおよび想像力に及ぼす影響を長期的に検討している研究は見られない。

1.2. 目的

以上より、まず家庭での子どもに対する保護者の行動の促進要因として、保護者の読書好意度・読書量が子どもに対する保護者の行動（蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ量）に及ぼす影響を検討することを目的とする（目的1）。

次に、読書のレディネスや想像力への影響については、以下の3点を目的とする。

第1に、家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響を検討する（目的2）。

第2に、家庭環境（絵本の読み聞かせ量）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への他の家庭環境（図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ方など）による調整効果を検討する（目的3）。

第3に、家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への保育・教育施設による調整効果を検討する（目的4）。

1.3. 研究概要

本研究は、質問紙調査、面接調査 1、面接調査 2、施設向け質問紙調査の 4 つの調査から構成されている。質問紙調査では、幼児の保護者に対して家庭環境に関する質問紙調査を行った。面接調査 1 では、読書レディネステストを実施して、幼児の読書のレディネスを測定した。面接調査 2 では、物語の続きを語ってもらうことによって、幼児の想像力を測定した。施設向け質問紙調査では、前述した調査を行った施設に対して、各施設の環境に関する質問紙調査を行った。

質問紙調査、面接調査 1、面接調査 2 の 3 つの調査は、それぞれ約半年の期間をあけた 3 時点のパネル調査を行った。施設向け質問紙調査は 1 回のみ実施した。

2. 調査方法

2.1. 質問紙調査（家庭環境についての調査）

2.1.1. 調査概要

保護者に対して、幼児の家庭環境についての質問紙調査を実施した。

2.1.2. 調査対象

読書のレディネスは5～6歳で最も発達すると言われている^[11]。また、想像力についても5歳前後頃から働かせるようになってくるという^[16]。したがって、2011年11月時点で4歳児クラスに属する幼児の保護者を対象に質問紙調査を行った。1回目の調査では保育園・幼稚園（6園）に通う幼児の保護者126名、2回目の調査では保育園・幼稚園（7園）に通う幼児の保護者180名、3回目の調査では保育園・幼稚園（7園）に通う幼児の保護者181名を対象とした。

2.1.3. 調査内容

幼児の保護者に対して、家庭環境についての質問紙調査を実施した。質問項目は、秋田・無藤(1996)^[34]、藤野・北浦(2006)^[35]、森田(2008)^[20]を参考に作成し、幼児の属性、保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動、回答者の属性とした。子どもに対する保護者の行動は、絵本の読みきかせ量、読み聞かせ方、自宅の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度、親子の交流の頻度などについて尋ねた（表2-1参照）。

読み聞かせ量は絵本の種類別にも尋ねており、金沢(2011)^[36]の作成した、①創作絵本、②昔話絵本、③ことばの絵本、④知識・科学絵本、⑤その他の絵本（赤ちゃん絵本、しかけ絵本、文字なし絵本、写真絵本、ハイパー絵本など）という分類に、張替(2009)^[37]の分類に含まれるわらべうた・詩の絵本を加えた、計6種類に分類した。

1回目調査において、「きょうだいの中での幼児の位置」の選択肢が不十分であったため、2回目調査からは「きょうだいの有無」を尋ねた後に「きょうだいの中での幼児の位置」を尋ねた。

また、3回目調査においてベネッセ教育総合研究所(2008)^[38]、ベネッセ教育総合研究所(2011)^[39]を参考に作成した、習い事・家庭学習（習字、小学校受験目的の学習塾など）に関する質問項目も追加した。

なお、実際に1回目・2回目・3回目調査で使用した質問紙は、付録1、2、3に掲載した。

表 2-1 質問紙調査の質問項目

大項目	小項目
幼児の属性	性別、月齢、きょうだいの有無（2回目・3回目調査のみ） きょうだいの中で幼児の位置、同居している人
保護者の 読書好意度・読書量	保護者の読書好意度 保護者の読書量
子どもに対する 保護者の行動	絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数） 絵本の読み聞かせを行う人 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数） 読み聞かせ方（会話型、一人読み促進型） 自宅の蔵書量（子どもの本・大人の本） 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 親子の交流の頻度（夕食・会話・遊び・旅行・スポーツ観戦・ 映画鑑賞・スポーツ・買い物・料理）
習い事・家庭学習 (3回目調査のみ)	習字、小学校受験目的の学習塾、受験目的ではない学習塾 定期的に教材が送られてくる通信教育、市販されている教材
回答者の属性	性別、年齢、幼児との関係

2.1.4. 手続き

2.1.4.1. 調査実施日

1回目調査は2011年11月中旬から12月上旬、2回目調査は2012年5月下旬から6月、3回目調査は2012年12月中旬から2013年1月に実施した。

2.1.4.2. 対象の選出および協力依頼

2011年6月につくば市子育て支援情報システム^[40]を参考に、つくば市内の認可されている保育園・幼稚園の中からランダムに対象を選出した。認可外保育施設は園ごとに特色のある保育活動が行われているため、対象外とした。事前に電話連絡で本調査に関する資料送付の了承を得た後に、資料を送付し、調査協力の承諾を得た。

電話連絡を行った49園（公立保育所22園、私立保育園12園、公立幼稚園14園、私立幼稚園1園）のうち、資料郵送の了承が得られたのは42園（公立保育所20園、私立保育園10園、公立幼稚園11園、私立幼稚園1園）であった。その中で、最終的に3回の調査の承諾を得られたのは6園（公立保育所3園、私立保育園2園、公立幼稚園1園）であった。

また、2回目調査以降の対象者を増やすために、2012年4月につくば市内の残りの保育園・幼稚園に電話連絡を行った。電話連絡を行った16園（公立保育所1園、私立保育園4園、公立幼稚園3園、私立幼稚園8園）のうち、資料郵送の了承が得られたのは11園（公立保育所1園、私立保育園3園、公立幼稚園3園、私立幼稚園4園）であった。その中で、最終的に2回の調査の承諾を得られたのは1園（私立幼稚園1園）であった。

したがって、本調査の1回目調査は6園（公立保育所3園、私立保育園2園、公立幼稚園

園 1 園)、2 回目・3 回目調査は 7 園 (公立保育所 3 園、私立保育園 2 園、公立幼稚園 1 園、私立幼稚園 1 園) で実施することとなった。

2.1.4.3. 質問紙の配布・回収

質問紙の配布は、面接調査の実施と同時期に行った。あらかじめ施設に幼児の人数について回答してもらい、その人数分の質問紙と保護者への添え状を 1 部ずつ封筒に入れ、施設ごとにまとめて郵送した。封筒には、面接調査のデータとの照合のために出席番号を調査者が事前に記入しておいた。1つの施設で2クラス以上に協力を得られた施設の封筒には、クラス名も記入した。

郵送した質問紙は、各施設で質問紙の入った封筒を 1 部ずつ、封筒に書かれた番号と同じ出席番号の幼児の保護者へ配布してもらった。保護者はその封筒を持ち帰り、自宅で記入してもらった。記入には約 1 週間の期間を設けた。

回答した質問紙は、それぞれの家庭で再び封筒の中に入れ、封をした上で各施設へ提出してもらった。提出された質問紙は、面接調査実施日に回収するか、後日改めて調査者が各施設を訪問し、回収を行った。

2.1.4.4. 倫理的配慮

本調査は筑波大学図書館情報メディア系の研究倫理委員会の研究倫理審査制度ができる前から継続して行っていた研究であったため、1・2 回目調査では研究倫理審査を受けていないが、3 回目調査のみ承認を受けて実施した。

2.2. 面接調査 1（読書のレディネスの測定）

2.2.1. 調査概要

幼児に対して読書レディネステストを行うことで、幼児の読書のレディネスを測定した。テストは約 6 人ずつの集団面接調査を実施した。

2.2.2. 調査対象

質問紙調査を行った、2011 年 11 月時点で 4 歳児クラスに属する幼児を対象とした。1 回目調査では 126 名（男児 74 名、女児 52 名）、2 回目調査では 180 名（男児 109 名、女児 71 名、平均月齢 68.1 カ月）、3 回目調査では 181 名（男児 109 名、女児 72 名、平均月齢 74.86 カ月）であった。

2.2.3. 調査内容

村野・鈴木(2012)^[14]において作成された読書レディネステストを使用して、読書のレディネスの測定を行った。このテストは「読字」「絵と文字の結合」「物語理解」「お話の構成」の 4 つの下位テストから構成されており、1 回につき各下位テストが 3 問ずつ、計 12 問、18 点満点のテストであった。各回とも違う問題であり、それらの難易度に差はない（村野・鈴木, 2012）^[14]。各下位テストの詳細は以下の通りである。

(1) 読字 読字は、文字が 5 つ並んでおり、その中から調査者が言う文字にマルをつけるテストである。これは、文字を理解しているかを測定するものであり、読みのレディネスの部分測定するテストである。このテストは、読書レディネス診断テスト（阪本, 1953）^[13]、就学時前児童の言語能力に関する全国調査（国立国語研究所, 1967）^[41]を参考に作成した。

(2) 絵と文字の結合 絵と文字の結合は、絵を表している単語にマルをつけるテストである。これは、文字を理解しているということだけでなく、それぞれの事物に対応する正しい言葉を結びつけられるかを測定するものであり、読みのレディネスの部分と読書のレディネスの部分測定するテストである。このテストは、読書レディネス・テスト（大西, 1971）^[42]、就学時前児童の言語能力に関する全国調査（国立国語研究所, 1967）^[41]を参考に作成した。

(3) お話の構成 お話の構成は、短い文を聞き、ランダムに並んでいる 3 つの絵を文の順番に並べ替えるテストである。これは、文の内容を理解して、その場面をイメージできるかを測定するものであり、読書のレディネスの部分測定するテストである。このテストは、読書レディネス・テスト（大西, 1971）^[42]、日本版 WISC-R 知能検査法（1982 年修正版）^[43]を参考に作成した。

(4) 物語理解 物語理解は、ひとつの短いお話を読み、その後で各問題の設定にあった絵を選ぶテストである。これは、お話の内容を理解しているかを測定するものであり、読書のレディネスの部分測定するテストである。このテストは、Metropolitan Readiness Tests, Sixth Edition (MRT6)（Nurss, 1994）^[44]を参考に作成した。

なお、実際に 1 回目・2 回目・3 回目調査で使用した調査用紙は、付録 4、5、6 に掲載した。

2.2.4. 手続き

2.2.4.1. 調査実施日

面接調査 1 は質問紙調査、面接調査 2 と同時期に行った。1 回目調査は 2011 年 11 月中旬から 12 月上旬、2 回目調査は 2012 年 5 月下旬から 6 月、3 回目調査は 2012 年 12 月中旬から 2013 年 1 月に実施した。

2.2.4.2. 調査室と調査環境

(1) **調査場所** 各施設の一部屋を利用して実施した。下図のように 2 がけの机を 3 台置き、机と机の間にパーティションを置いた。また、机の上にも仕切りを設けることで、隣の幼児の答えが見えないようにした (図 2-1 参照)。机と椅子は各施設から借りた。机と机の間のパーティションと机の上の仕切りは研究室から持参した。

(2) **面接時間** 読書レディネステストは 25 分程度で終了するように作成した。保育園・幼稚園の負担軽減および幼児の負担軽減のために、面接時間が短くなるように努めた結果、全てのグループにおいて 25 分以内に調査が終了した。

(3) **緊急時の対処** 各施設ともに、幼児が泣き出したり、お手洗いへ行ったりするなどの事態が起きた時にはすぐに相談させてもらう旨を、事前に先生に伝えてあった。そのため、突然の事態が起きた時はすぐに対応できる状態にあった。なお、そのような事態が起きて調査が一時中断した場合には、調査が再開可能であれば、中断した問題からやり直すことにした。

(4) **親しみやすい雰囲気を作るための工夫** 幼児の人見知りなどの影響を防ぐために、幼児が調査室に入室する際、調査者が幼児一人ひとりにパペットを用いて名前を聞いた。また、幼児が席についてから調査を始めるまでの間に、パペットを用いて簡単な問題を 2 問行なった。さらに調査者は、黒や原色などの派手な服装を避け、パステルカラーなどの柔らかい色の服を着用したり、調査中に話しかける時は幼児の名前を呼んだりして、幼児が親しみやすくなるよう工夫した。

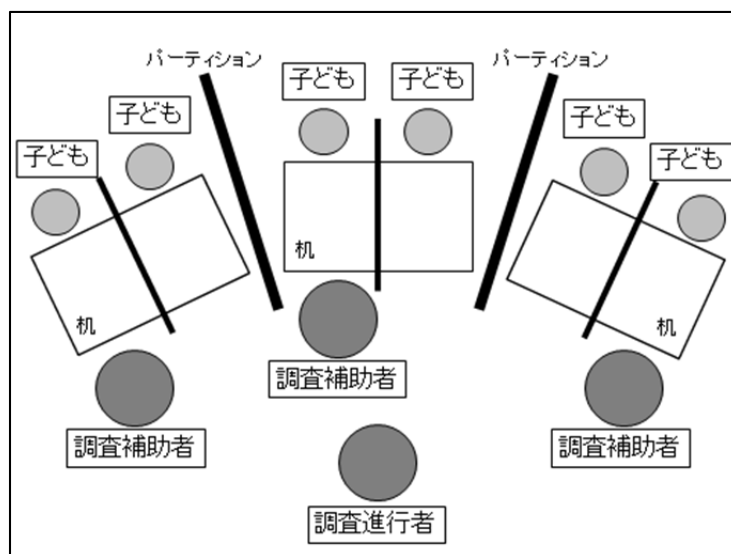


図 2-1 面接調査 1 : 調査室の配置

2.2.4.3. 調査者

調査は、調査進行者 1 名、調査補助者 3 名（もしくは 2 名）の、計 4 名（もしくは 3 名）で実施した。調査進行者は、前に立って問題を読み調査を進めていった。調査補助者は、各テーブルの幼児の回答補助、監督、質問対応、緊急時対応を行った。調査補助者が 2 名の場合は、中央の机の調査補助役を調査進行者が兼ねた。

調査者として面接調査 1 に関わった人数は、1 回目調査は 8 名（男子学生 1 名、女子学生 7 名）、2 回目調査は 8 名（男子学生 1 名、女子学生 7 名）、3 回目調査は 9 名（男子学生 2 名、女子学生 7 名）であった。また、調査進行者は全日程とも同一人物（本論文の執筆者）が実施した。なお、調査者の違いによる影響を防ぐために、調査者は事前に十分な打ち合わせを行った。

2.2.4.4. 調査の流れ

調査は、以下に示す手順で実施した。

(1) 調査室への入室 幼児を 6 人ずつ、各クラスの部屋から調査室に案内した。調査室に入室する際に、調査進行者がパペットを使用して幼児から名前を直接聞き、調査用紙に記入した。名前を答えた幼児から、調査補助者が席へ案内した。なお、別の調査補助者が「さっきの時間は何をしていたの？」「朝ごはんは何を食べた？」などの質問をして、先に着席した幼児が飽きないように工夫にした。

(2) 調査用紙の配布 幼児が全員着席してから調査用紙を配布した。その際に、「○○ちゃん（くん）、中はまだ見ちゃダメだよ。」と声かけをして、幼児が調査用紙の中を見るのを防いだ。それでも見ようとした場合は、調査補助者が阻止した。

(3) 調査の開始 全員に調査用紙を配布したら、「みなさん、こんにちは！これからお姉さんたちと一緒に面白いクイズをしましょう！」と言って始めた。その時に、「今からは、隣のお友達の答えは絶対に見ないようにしてくださいね。お約束できる人！？」と言って、幼児に手を挙げてもらい、隣の幼児の答えを見ないように促した。

(4) 簡単な問題 幼児がテストに慣れることができるよう、読書レディネステストの前に簡単な問題を 2 問出題した。調査用紙の表紙に生き物と植物の絵が描いてあり、「紙に、○○（植物）の絵が描いてありますね。見つけたかな？では、その○○の絵にマルを書いてください。」と言って、マルを書かせた。次に、「○○の隣には△△（生き物）がいますね。みんないるかな？では、△△にはバツをつけてください。」と言って、バツを書かせた。全員が書けたことを確認してから、「みなさんよくできました。では、次に違うクイズをやるので、紙を一枚めくりましょう。」と言って、調査用紙のページをめくらせた。

(5) 読書レディネステスト 「では、今からお姉さんの言うことをよく聞いてください。隣のお友達の答えは絶対に見てはいけませんよ。」と言って、読書レディネステストを開始した。各調査ともに、印をつけた人には「書けたらそのまま待っててね。」と声かけをし、悩んでいる子には「わからなくても大丈夫だよ。」と声かけをした。問題と問題の間は 30 秒計測し、時間がきたら次の問題へ進んだ。なお、30 秒たつ前に全員が印を書けたのを確認したら、その時点で次の問題へ進んだ。各下位テストの調査の流れは、以下のとおりである。

①**読字** 最初に、「一番上の箱を見てください。」と言って、問題の場所を見るように促した。その後、「この箱の中から○という文字を見つけて、マルをしましょう。」と言って回答させた。次は、「同じ箱の中から△という文字を見つけて、マルをしましょう。」と言って回答させた。このように、順番に問題を進めた。問題の後半は、「この箱の中から○と△という文字を見つけて、マルをつけましょう。」と言って回答させた。

②**絵と文字の結合** 最初に、「今から、絵の名前は絶対に喋らないようにしてくださいね。」と言って、問題を始めた。その後、「一番上にある絵を見てください。」と言って、問題の場所を見るように促し、「その絵の名前は、隣の4つの言葉のどれかです。4つの言葉から絵の名前を選んで、マルをつけましょう。」と言って回答させた。このように、順番に問題を進めた。

③**お話の構成** 最初に、「一番上の3つの絵を見ましょう」と言って、問題の場所を見るように促した。その後、「今からお姉さんが短いお話をします。でも、この3つの絵はお話の順番に並んでいません。バラバラに並んでいます。なので、みんなにお話の順番に並べ替えてほしいと思います。お話の1番目だと思う絵にマルを、お話の2番目だと思う絵にバツを、お話の3番目だと思う絵にサンカクを書いてください。」と言ってから短いお話を読み、回答させた。このように順番に問題を進めた。

④**物語理解** 最初に、「では、最初の△△（生き物）の描いてあるところに戻ってください」と言って、全員に表紙のページに戻らせた。そして、「今からお姉さんが絵本を読みます。後で、このお話についてのクイズに答えてもらうので、お話の内容をしっかりと覚えておいてくださいね。」と言ってから、お話の読み聞かせを始めた。読み聞かせが終わると、「これでお話はおしまいです。今からクイズに答えてもらうので、最後のページにいきましょう。」と言って紙をめくらせ、問題へ移った。最初に、「一番上の絵を見ましょう。」と言って問題の場所を見るように促し、「この3つの絵の中で、～にマルをつけましょう。」と言って、回答させた。このように順番に問題を進めた。

2.2.4.5. 倫理的配慮

本調査は筑波大学図書館情報メディア系の研究倫理委員会の研究倫理審査制度ができる前から継続して行っていた研究であったため、1・2回目調査では研究倫理審査を受けていないが、3回目調査のみ承認を受けて実施した。

2.2.5. 採点方法

採点は、以下の方法で行った。

(1)**読字** 1問につき2つの文字を選択する問題だったため、採点基準にしたがって、2文字とも正解していれば2点、どちらか1文字が正解していれば1点、2文字とも不正解であれば0点を与えた。なお、1つの文字を選択する時に2つの文字を選択した場合（例えば、「た」を選択する問題で、正しい「た」と鏡文字の「た」の2つを選択した場合）には、正しい文字を理解していないとして0点を与えた。

(2)**絵と文字の結合** 採点基準にしたがって、絵を正しく表している単語を選択していれば1点、それ以外のものを選択した場合は0点を与えた。

(3)**お話の構成** 採点基準にしたがって、マルとバツが正しい絵に書かれていれば2点、

マルのみが正しい絵に書かれていれば 1 点、それ以外の場合は 0 点を与えた。バツのみが正しい絵に書かれていた場合は、お話の最初を理解していないとして 0 点を与えた。また、全ての問題において同じ順番にマル、バツ、サンカクが書かれていた場合は問題の意味を理解していないとみなし、全ての問題に 0 点を与えた。

(4) 物語理解 採点基準にしたがって、正しい絵を選択していただければ 1 点、それ以外の場合は 0 点を与えた。

2.3. 面接調査 2（想像力の測定）

2.3.1. 調査概要

幼児に絵本を途中まで読み聞かせ、その後の物語の続きを語ってもらうことで、幼児の想像力を測定した。調査は個別面接調査を実施した。

2.3.2. 調査対象

質問紙調査、面接調査 1 を行った、2011 年 11 月時点で 4 歳児クラスに属する幼児を対象とした。1 回目調査では 126 名（男児 74 名、女児 52 名）、2 回目調査では 180 名（男児 109 名、女児 71 名、平均月齢 68.1 カ月）、3 回目調査では 181 名（男児 109 名、女児 72 名、平均月齢 74.86 カ月）であった。

2.3.3. 調査材料

調査に使用する絵本は、森田(2008)^[20]において使用された『ねこのジンジャー』^[45]『だきしめてほしくって』^[46]『ハエくん』^[47]の 3 冊であった。この 3 冊は、森田(2008)^[20]において絵本間に有意差は見られないことが明らかになっている。

この 3 冊にそれぞれ数字をふり、乱数を発生させて読む順番を決定した。その結果、1 回目調査では『だきしめてほしくって』、2 回目調査では『ハエくん』、3 回目調査では『ねこのジンジャー』を使用した。

2.3.4. 調査内容

内田(1994)^[15]によると、「物語の発話資料は、低年齢児の想像活動の展開を知り、子どもが頭の中に抱いた表象（イメージ）がどのようなものかを推測したり、そのような表現つくり出されるまでの過程を考えたりする恰好の材料を提供してくれる」と考えられている。したがって、中澤・中道ら(2005)^[18]、中澤・杉本ら(2005)^[19]、堂野(1994)^[16]、森田(2008)^[20]を参考に、幼児に絵本を途中まで読み聞かせた後に、物語の続きを自由に語ってもらうことによって想像力を測定した。

2.3.5. 手続き

2.3.5.1. 調査実施日

面接調査 2 は質問紙調査、面接調査 1 と同時期に行った。1 回目調査は 2011 年 11 月中旬から 12 月上旬、2 回目調査は 2012 年 5 月下旬から 6 月、3 回目調査は 2012 年 12 月中旬から 2013 年 1 月に実施した。

2.3.5.2. 調査室と調査環境

(1) 調査場所 各施設の一部屋を利用して実施した。下図のようにパーティションを 2 つ置いて仕切りを設け、一度に 2 名の調査を実施できるようにした（図 2-2 参照）。

(2) 面接時間 面接時間は 1 名あたり 7～8 分で終了した。幼児が入室し次第すぐに調査を始めるなどして、保育園・幼稚園および幼児の負担軽減に努めた。

(3) 回答の記録 回答内容は、許可が得られた施設（7 園中 6 園）については、幼児 1 名につき IC レコーダー 1 台によって記録した。さらに全ての施設において、記録者が回答内

容を紙面に記録した。

(4) 緊急時の対処 各施設ともに、幼児が泣き出したり、お手洗いへ行ったりするなどの事態が起きた時にはすぐに相談させてもらう旨を、事前に先生に伝えてあった。そのため、突然の事態が起きた時はすぐに対応できる状態にあった。なお、そのような事態が起きて調査が一時中断した場合には、調査が再開可能であれば、中断した問題からやり直すことにした。

(5) 親しみやすい雰囲気を作るための工夫 幼児の人見知りなどの影響を防ぐために、調査前に調査者はパペットを用いて、幼児全員と 5 分程度の簡単なゲームを行った。さらに調査者は、黒や原色などの派手な服装を避け、パステルカラーなどの柔らかい色の服を着用したり、調査中に話しかける時は幼児の名前を呼んだりして、幼児が親しみやすくなるよう工夫した。

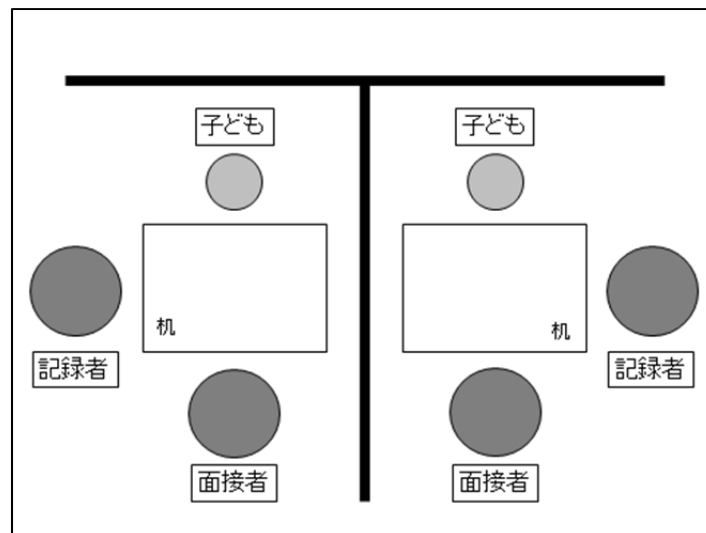


図 2-2 面接調査 2：調査室の配置

2.3.5.3. 調査者

調査は、1 回につき面接者 2 名、記録者 2 名（もしくは 1 名）で実施した。面接者は絵本を読み聞かせ、その後のお話を尋ねた。記録者は幼児の回答を紙に記入した。記録者が 1 名の場合は、片方の面接者（本論文の執筆者）が記録者を兼ねた。

調査者として面接調査 2 に関わった人数は、1 回目調査は 8 名（男子学生 1 名、女子学生 7 名）、2 回目調査は 8 名（男子学生 1 名、女子学生 7 名）、3 回目調査は 9 名（男子学生 2 名、女子学生 7 名）であった。また、面接者として関わったのは、1 回目調査は 3 名、2 回目調査は 4 名、3 回目調査は 5 名であり、全員女子学生であった。なお、調査者の違いによる影響を防ぐために、調査者は事前に十分な打ち合わせを行った。

2.3.5.4. 調査の流れ

調査は、以下に示す手順で実施した。

(1) 調査室への入室 幼児を 2 人ずつ調査室へ入室させ、別々の席へ案内した。席についた幼児から面接者が名前を聞き、「今から、絵本のクイズを始めるね。」と言って調査を始

めた。

(2) 絵本に関する質問 面接者が絵本に関する簡単な質問を行った。質問は、「絵本は好き?」「絵本を自分で読むのと、誰かに読んでもらうのと、どっちが好き?」「お外でお友達をと遊ぶのと、絵本を読むのと、どっちが好き?」の3つであった。これらの質問を行うことで、絵本の興味を引き出すとともに、最初に会話をはさむことで面接者と話しやすくなるように心がけた。

(3) 読み聞かせ 簡単な質問が終わり次第、調査を開始した。最初に、「○○ちゃん(くん)はこの絵本を読んだことある?」と尋ね、幼児が調査材料の絵本を読んだ経験がないことを確認した。読んだ経験があった幼児は、その旨を記録用紙に記入し、そのまま調査を続行した。その後、「今からお姉さんが絵本を途中まで読むから、その続きはどうなるのかを考えてみてね。では、始めます。」と言って、読み聞かせを始めた。

(4) 想像力の測定 予め決めておいたページで読み聞かせを終了し、「さて、ここで問題です。この続きはどうなったのでしょうか?」と幼児に尋ね、自由にお話を語ってもらった。幼児の回答中は、面接者は相槌をうったりして幼児の回答を認めるようにした。幼児が言葉に詰まった場合などは、「それで?」「その後はどうなるの?」などの声かけをして、続きの物語を促した。記録者は、幼児の回答内容を記録用紙に記入した。なお、「この続きはどうなったのでしょうか?」の質問の後、幼児が答えられない場合は、「なんでもいいよ。」「間違っても大丈夫だよ。」「思ったとおりに自由にお話してみてね。」などの声かけを行い、1分経過しても回答がない場合は調査を終了した。

(5) 調査の終わり 想像力の測定が終了したら、最後に、「これで絵本のクイズを終わりにするね。お話を聞いてくれてありがとう。それから、お姉さんからのお願いなんだけど、どういうクイズだったかは他のお友達には絶対に内緒にしてね。お約束できるかな?」と言って、調査を終了した。

2.3.5.5. 倫理的配慮

本調査は筑波大学図書館情報メディア系の研究倫理委員会の研究倫理審査制度ができる前から継続して行っていた研究であったため、1・2回目調査では研究倫理審査を受けていないが、3回目調査のみ承認を受けて実施した。

2.3.6. 評定方法

2.3.6.1. 評定の基準

中澤・中道ら(2005)^[18]、中澤・杉本ら(2005)^[19]を参考に、幼児が語ったお話を「イメージ量」「エピソード数」「創造物数」の3つの観点から評定を行い、それぞれを想像力得点とした。

(1) イメージ量 幼児の作ったお話の登場人物の行動(主に動詞)を単位として内容を区切り、1つの区切りに対して1点を与えた。

(2) エピソード数 意味内容のまとまりとして、幼児の作ったお話を場面や展開が変わるところで区切り、1つの区切りに対して1点を与えた。

(3) 創造物数 幼児の作ったお話の中で、絵本には出てこない新しく登場したキャラクター、もの、場所を見つけ、1つの創造物に対して1点を与えた。なお、絵本に文字では書か

れていないが、絵で描かれているものは創造物には含めなかった。

たとえば、『ねこのジンジャー』を読んだ幼児が「ジンジャーとこねこが一緒に遊んで、その後、寝た。そこにネズミがやってきてケンカした。そしたらネズミは悲しくなっちゃった。」というお話をつくったとする。この場合、「ジンジャーとこねこが一緒に遊んで、／その後、寝た。／そこにネズミがやってきて／ケンカした。／そしたらネズミは悲しくなっちゃった。／」というように、登場人物の行動を単位として区切ることができるので、イメージ量は 5 となる。また、意味内容のまとまりとしては「ジンジャーとこねこが一緒に遊んで、その後、寝た。／そこにネズミがやってきてケンカした。そしたらネズミは悲しくなっちゃった。／」と区切ることができるので、エピソード数は 2 となる。さらに、『ねこのジンジャー』の絵本の中でネズミは出てこないなので、「ネズミ」が創造物となり、創造物数は 1 となる。

2.3.6.2. 評定の一致率

幼児が語ったお話を評定するにあたり、本研究の目的を知らない評定協力者に評定を行ってもらい、一致率を出した。評定協力者は、1 回目調査 1 名、2 回目調査 1 名、3 回目調査 1 名の、計 3 名であった。

1 回目調査の評定一致率は、イメージ量が 97.6%、エピソード数が 80.8%、創造物数が 73.3%であった。2 回目調査の評定一致率は、イメージ量が 96.3%、エピソード数が 80.2%、創造物数が 77.8%であった。3 回目調査の評定一致率は、イメージ量が 99.3%、エピソード数が 82.1%、創造物数が 83.3%であった。

また、一致率の低かった 1 回目調査および 2 回目調査の創造物数については、再び別の評定協力者 1 名に評定を行ってもらった。その際、より詳細に評定基準の説明を行った。その結果、1 回目調査創造物数の評定一致率は 82.2%、2 回目調査創造物数の評定一致率は 84.8%であった。

なお、一致しなかったところについては評定協力者と協議を行い、最終的な評定値を決定した。

2.4. 施設向け質問紙調査

2.4.1. 調査概要

幼児の通う施設の環境についても把握するために、質問紙調査、面接調査1、面接調査2を行った保育園・幼稚園に対して施設の環境に関する質問紙調査を、面接調査などを行った翌年に実施した。

2.4.2. 調査対象

質問紙調査、面接調査1、面接調査2を行った保育園・幼稚園7園（公立保育所3園、私立保育園2園、公立幼稚園1園、私立幼稚園1園）を対象とした。質問紙の記入は、できるかぎり各施設の園長（所長）に行ってもらった。転勤などで昨年度の状況がわからない場合は、当時のクラス担任に記入を依頼した。

2.4.3. 調査内容

園長（所長）に対して、各施設の環境についての質問紙調査を実施した。質問項目は、山本(1984)^[48]、浜野・内田ら(2012)^[49]を参考に作成し、絵本・紙芝居の蔵書量（園全体、保育室）、おはなし会（頻度、1回あたりの冊数など）、活動内容（1日あたりの自由保育と一斉保育の割合、文字の指導の状況など）、回答者の属性（性別、役職、勤務年数）とした（表 2-2 参照）。

また、保護者への情報提供に関する項目が不十分だったため、追加調査を行った。追加調査では、情報の内容（絵本の紹介、施設での読み聞かせ活動、読み聞かせの方法）ごとに、それぞれ方法（おたより、施設での掲示、保護者会、インターネット、その他）と頻度を尋ねた。なお、実際に使用した質問紙は、付録7、8に掲載した。

表 2-2 施設向け質問紙調査の質問項目

大項目	小項目
絵本・紙芝居の蔵書量	絵本の蔵書量（園全体・保育室）、紙芝居の蔵書量（園全体・保育室）
おはなし会	頻度、1回あたりの冊数・時間・人数、 行っていた人、親子で参加するおはなし会の頻度
活動内容	1日あたりの自由保育と一斉保育の割合、文字指導の状況 絵本の貸出の有無、保護者への情報提供 各活動の頻度（外遊び、飼育・栽培、ごっこ遊び、劇あそび、 図画工作活動、読み聞かせ、リズム表現・身体表現、音楽活動、 園外保育、文字の読み書き、たし算・ひき算、英語、詩・俳句の暗唱）
回答者の属性	性別、役職、勤務年数

2.4.4. 手続き

2.4.4.1. 調査実施日

調査は 2013 年 10 月中旬～下旬に行った。また、保護者への情報提供に関する追加調査は 2013 年 11 月下旬に行った。

2.4.4.2. 質問紙の配布・回収

事前に各施設に対して電話で調査依頼を行い、質問紙送付の承諾を得た。質問紙は各施設へ郵送して配布し、質問紙の記入は各施設で行ってもらい、記入には約 2 週間の期間を設けた。記入した質問紙は、同封した返信用封筒を使って郵送してもらった。

保護者への情報提供に関する追加調査に関しても、事前に核施設に対して電話で調査依頼を行い、質問紙送付の承諾を得た。質問紙は各施設へ FAX で送付し、質問紙の記入は各施設で行ってもらった。記入には約 1 週間の期間を設けた。記入した質問紙は、FAX にて返信してもらった。

2.4.4.3. 倫理的配慮

本調査は、筑波大学図書館情報メディア系の研究倫理委員会の研究倫理審査の承認を受けて実施した。

3. 全体の結果

3.1. 1 回目調査および 2 回目調査の分析結果

3.1.1. 分析対象

本分析では、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 1・2 回目面接調査 1 の 3 つ全ての回答が得られた幼児、および、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 2・2 回目面接調査 2 の 3 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた(1 回目調査 11 名、2 回目調査 5 名)。

したがって、本分析の分析対象は 70 名(男児 44 名、女児 26 名、1 回目調査時の平均月齢 61.03 カ月、2 回目調査時の平均月齢 67.74 カ月)とした。

3.1.2. 質問紙調査結果(幼児の家庭環境)

3.1.2.1. 幼児の属性

3.1.2.1.1. きょうだいの有無・きょうだいの中での幼児の位置

きょうだいの有無について、度数分布を示した(図 3-1 参照)。なお、この項目は 2 回目調査以降から加えたものであるため、2 回目調査の結果のみを示す。

集計の結果、2 回目調査で「一人っ子」と回答したのは 10 名(14.3%)、「兄弟姉妹がいる」と回答したのは 54 名(77.1%)であった。

また、きょうだいの中での幼児の位置について、度数分布を示した(図 3-2 参照)。

集計の結果、1 回目調査で「長子」と回答したのは 31 名(44.3%)、「中間子」と回答したのは 11 名(15.7%)、「末子」と回答したのは 28 名(40.0%)であった。2 回目調査で「長子」と回答したのは 30 名(42.9%)、「中間子」と回答したのは 6 名(8.6%)、「末子」と回答したのは 28 名(40.0%)であった。

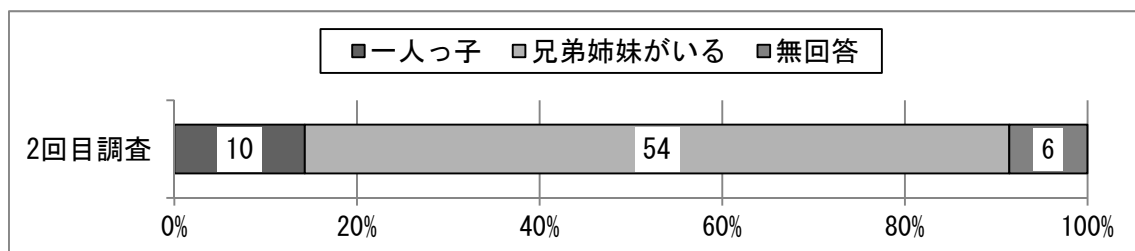


図 3-1 きょうだいの有無

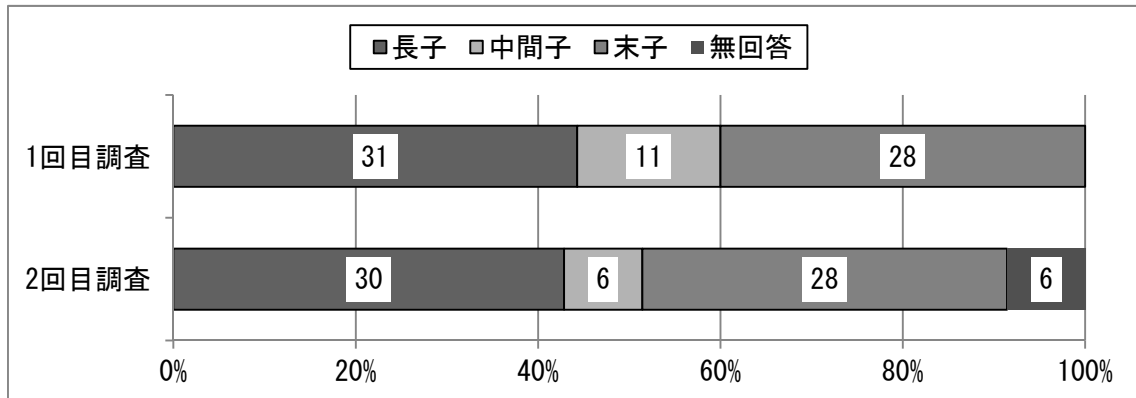


図 3-2 きょうだいの中での幼児の位置

3.1.2.1.2. 同居している人

幼児と同居している人について、度数分布を示した（図 3-3 参照）。

集計の結果、どちらの調査においても母親と同居している幼児が最も多く、1回目調査では69名（98.6%）、2回目調査では63名（90.0%）であった。次いで多かったのが父親と同居している幼児であり、1回目調査では62名（88.6%）、2回目調査では57名（81.4%）であった。また、その他という回答はどちらの調査でも2件あり、「おば」「父親は単身赴任ですが、よく会っています」「母の兄」という回答であった。

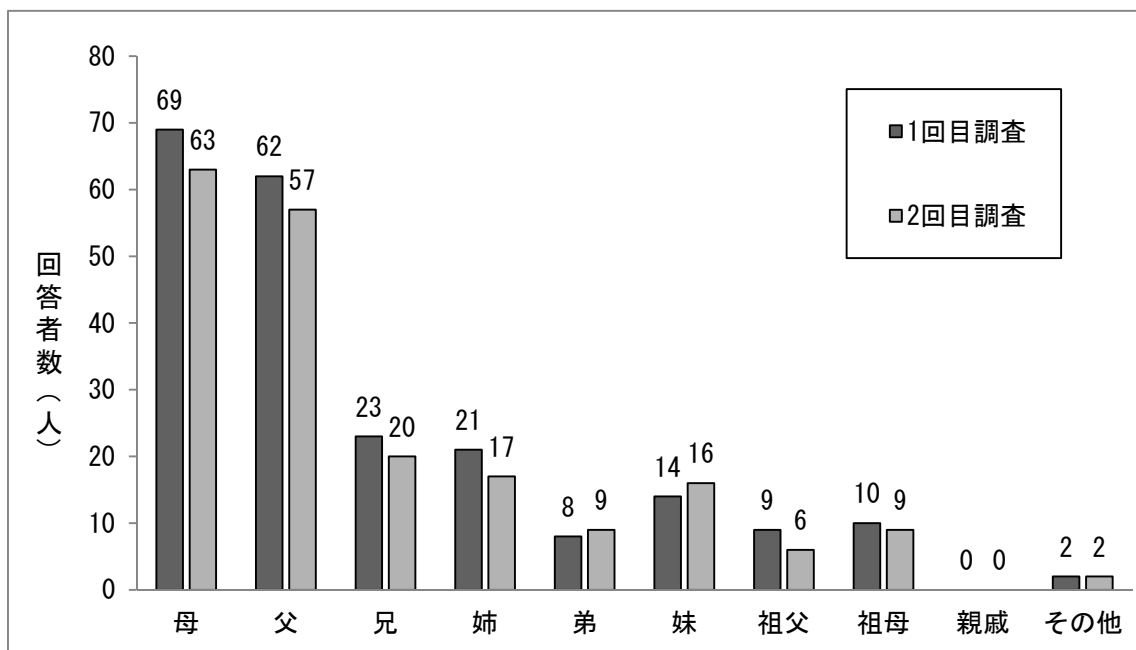


図 3-3 同居している人

3.1.2.2. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-1 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-2 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-1 保護者の読書好意度・読書量 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値
読書好意度	3.91 (1.15) $N = 64$	4.00 (1.02) $N = 64$.93	3.93 (1.07) $N = 42$	3.95 (1.04) $N = 42$.21	3.86 (1.32)	4.09 (1.02)	1.16
読書量	1.98 (.83) $N = 64$	1.92 (.70) $N = 64$.68	2.05 (.83) $N = 42$	2.00 (.73) $N = 42$.44	1.86 (.83)	1.77 (.61)	.53

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差

表 3-2 保護者の読書好意度・読書量 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	1回目調査			2回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
読書好意度	3.95 (1.06) $N = 44$	3.85 (1.32) $N = 26$.38	3.95 (1.04) $N = 42$	4.09 (1.02) $N = 22$.51
読書量	2.05 (.81) $N = 44$	1.81 (.80) $N = 26$	1.20	2.00 (.73) $N = 42$	1.77 (.61) $N = 22$	1.24

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差

3.1.2.3. 子どもに対する保護者の行動

3.1.2.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ頻度と 1 週間あたりの読み聞かせ冊数について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-3 参照）。その結果、全体において 2 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ冊数が多いことが示された ($t(61) = 2.60, p < .05$)。女兒においては、2 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度が高く ($t(20) = 2.26, p < .05$)、読み聞かせ冊数が多いこと ($t(20) = 2.58, p < .05$) が示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-4 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-3 絵本の読み聞かせ量（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女兒		
	1 回目	2 回目	t 値	1 回目	2 回目	t 値	1 回目	2 回目	t 値
読み聞かせ 頻度	2.68 (.82) $N = 63$	2.48 (.95) $N = 63$	1.82 †	2.64 (.79) $N = 42$	2.55 (.97) $N = 42$.68	2.76 (.89) $N = 21$	2.33 (.91) $N = 21$	2.26*
読み聞かせ 冊数	3.40 (1.63) $N = 62$	2.89 (1.53) $N = 62$	2.60*	3.10 (1.39) $N = 41$	2.88 (1.54) $N = 41$	1.12	4.00 (1.92) $N = 21$	2.90 (1.55) $N = 21$	2.58*

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法

※2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法で尋ねたが、分析の際は 7 件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$

表 3-4 絵本の読み聞かせ量（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			2 回目調査		
	男児	女兒	性差 (t 値)	男児	女兒	性差 (t 値)
読み聞かせ 頻度	2.66 (.81) $N = 44$	2.81 (.90) $N = 26$.72	2.55 (.97) $N = 42$	2.33 (.91) $N = 21$.84
読み聞かせ 冊数	3.25 (1.59) $N = 44$	3.96 (1.95) $N = 25$	1.64	2.88 (1.54) $N = 41$	2.86 (1.52) $N = 22$.04

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法

※2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法で尋ねたが、分析の際は 7 件法に統一した

※括弧内は標準偏差

3.1.2.3.2. 絵本の読み聞かせをする人

絵本の読み聞かせを行う人について、それぞれ回答者数を示した（図 3-4 参照）。

集計の結果、どちらの調査においても、最も読み聞かせを行う人は母親であるという回答が最も多く、1回目調査では57名（81.4%）、2回目調査では51名（72.9%）であった。

2番目に読み聞かせを行う人については、どちらの調査においても父親という回答が最も多く、1回目調査では27名（38.6%）、2回目調査では18名（25.7%）であった。

3番目に読み聞かせを行う人については、1回目調査では祖母という回答が最も多く、4名（5.7%）であった。2回目調査ではきょうだいという回答が最も多く、4名（5.7%）であった。

また、最も読み聞かせを行う人、2番目に読み聞かせを行う人、3番目に読み聞かせを行う人の回答者数を合計したところ、最も回答者が多かったのは母親（1回目調査65名（92.9%）、2回目調査57名（81.4%））で、次いで多かったのは父親（1回目調査35名（50.0%）、2回目調査26名（37.1%））であった。

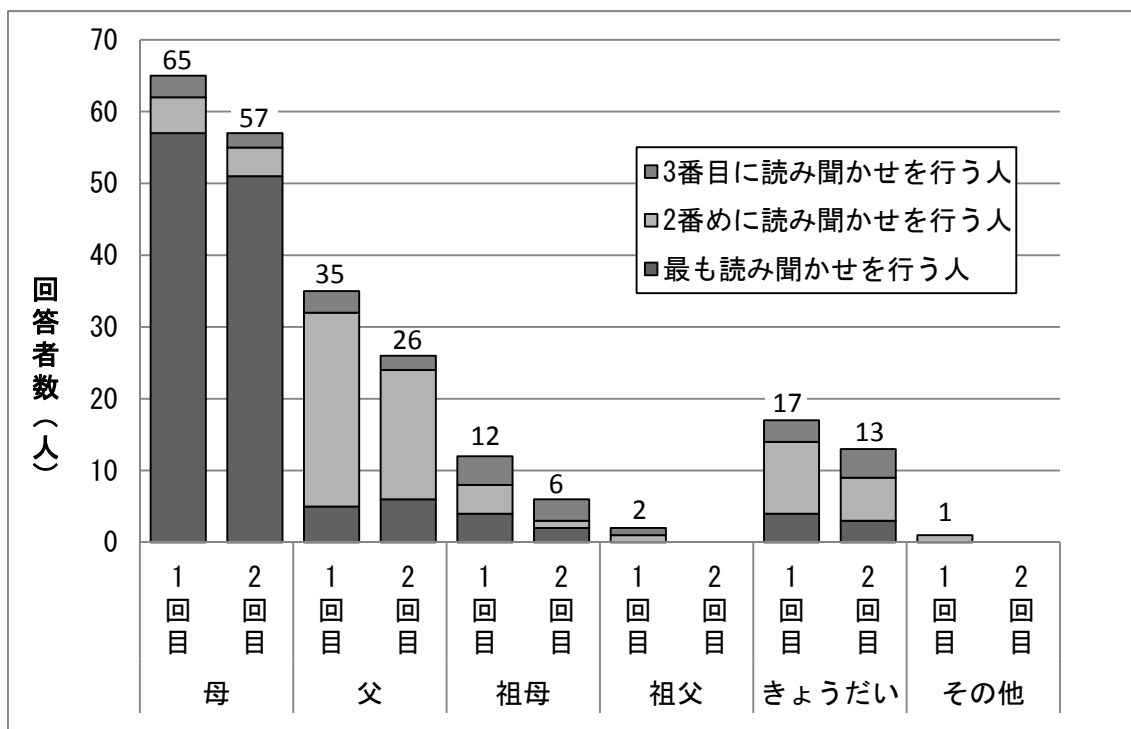


図 3-4 絵本の読み聞かせをする人

3.1.2.3.3. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 カ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-5 参照）。その結果、全体において 2 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度（合計）（ $t(57) = 2.82, p < .01$ ）、創作絵本（ $t(62) = 2.03, p < .05$ ）、その他の絵本（ $t(61) = 2.05, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いことが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-6 参照）。その結果、1 回目調査において女兒より男児のほうが知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された（ $t(67) = 2.26, p < .05$ ）。また、2 回目調査においても同様の結果が得られた（ $t(60.03) = 2.69, p < .01$ ）。

表 3-5 絵本の種類別読み聞かせ頻度（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女兒		
	1 回目	2 回目	t 値	1 回目	2 回目	t 値	1 回目	2 回目	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	9.93 (.37) $N = 58$	9.21 (.38) $N = 58$	2.82**	9.95 (.27) $N = 38$	9.32 (.47) $N = 38$	2.01 †	9.90 (.61) $N = 20$	9.00 (.25) $N = 20$	1.99 †
創作絵本	2.37 (.79) $N = 63$	2.14 (.90) $N = 63$	2.03*	2.29 (.81) $N = 42$	2.07 (.89) $N = 42$	1.65	2.52 (.75) $N = 21$	2.29 (.90) $N = 21$	1.16
昔話絵本	1.75 (.73) $N = 60$	1.62 (.69) $N = 60$	1.53	1.74 (.68) $N = 39$	1.67 (.66) $N = 39$.65	1.76 (.73) $N = 21$	1.52 (.75) $N = 21$	2.02 †
ことばの絵本	1.42 (.62) $N = 62$	1.35 (.55) $N = 62$.66	1.43 (.55) $N = 42$	1.36 (.53) $N = 42$.62	1.40 (.75) $N = 20$	1.35 (.59) $N = 20$.27
知識・科学 絵本	1.62 (.71) $N = 63$	1.60 (.71) $N = 63$.20	1.74 (.67) $N = 42$	1.74 (.77) $N = 42$.00	1.38 (.74) $N = 21$	1.33 (.48) $N = 21$.37
わらべうた・ 詩の絵本	1.13 (.38) $N = 63$	1.13 (.34) $N = 63$.00	1.14 (.42) $N = 42$	1.14 (.35) $N = 42$.00	1.10 (.30) $N = 21$	1.10 (.30) $N = 21$.00
その他の絵本	1.63 (.71) $N = 62$	1.44 (.69) $N = 62$	2.05*	1.63 (.70) $N = 41$	1.44 (.74) $N = 41$	1.75 †	1.62 (.74) $N = 21$	1.43 (.60) $N = 21$	1.07

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-6 絵本の種類別読み聞かせ頻度（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			2 回目調査		
	男児	女児	性差 (<i>t</i> 値)	男児	女児	性差 (<i>t</i> 値)
読み聞かせ 頻度 (合計)	10.02 (2.22) <i>N</i> = 43	9.88 (2.51) <i>N</i> = 24	.25	9.41 (2.51) <i>N</i> = 39	9.00 (2.19) <i>N</i> = 21	.63
創作絵本	2.30 (.85) <i>N</i> = 44	2.50 (.83) <i>N</i> = 24	.65	2.07 (.89) <i>N</i> = 42	2.27 (.88) <i>N</i> = 22	.86
昔話絵本	1.77 (.65) <i>N</i> = 43	1.76 (.78) <i>N</i> = 25	.04	1.68 (.66) <i>N</i> = 40	1.55 (.74) <i>N</i> = 22	.71
ことばの絵本	1.41 (.54) <i>N</i> = 44	1.44 (.77) <i>N</i> = 25	.20	1.36 (.53) <i>N</i> = 42	1.33 (.58) <i>N</i> = 21	.16
知識・科学 絵本	1.77 (.74) <i>N</i> = 44	1.36 (.70) <i>N</i> = 25	2.26*	1.74 (.77) <i>N</i> = 42	1.32 (.48) <i>N</i> = 22	2.69**
わらべうた・ 詩の絵本	1.14 (.41) <i>N</i> = 44	1.16 (.37) <i>N</i> = 25	.24	1.14 (.35) <i>N</i> = 42	1.14 (.35) <i>N</i> = 22	.07
その他の絵本	1.64 (.69) <i>N</i> = 44	1.56 (.71) <i>N</i> = 25	.44	1.44 (.74) <i>N</i> = 41	1.41 (.59) <i>N</i> = 22	.16

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

直近 1 カ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために *t* 検定を行った (表 3-7 参照)。その結果、全体において 2 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ冊数 (合計) ($t(52) = 3.85, p < .01$)、その他の絵本 ($t(60) = 3.22, p < .01$) の読み聞かせ冊数が多いことが示された。男児においては、2 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ冊数 (合計) ($t(37) = 3.31, p < .01$)、その他の絵本 ($t(40) = 3.00, p < .01$) の読み聞かせ冊数が多いことが示された。

また、性差を検討するために *t* 検定を行った (表 3-8 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-7 絵本の種類別読み聞かせ冊数（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t値	1回目	2回目	t値	1回目	2回目	t値
読み聞かせ冊数（合計）	10.38 (2.85) N = 53	9.25 (2.57) N = 53	3.85**	10.42 (2.93) N = 36	9.25 (2.78) N = 36	3.31**	10.29 (2.76) N = 17	9.24 (2.14) N = 17	1.94 †
創作絵本	2.76 (1.48) N = 58	2.38 (1.49) N = 58	1.74 †	2.58 (1.20) N = 38	2.32 (1.61) N = 38	1.26	3.10 (1.89) N = 20	2.50 (1.24) N = 20	1.20
昔話絵本	1.87 (1.07) N = 61	1.62 (.78) N = 61	2.00 †	1.85 (.98) N = 40	1.63 (.74) N = 40	1.39	1.90 (1.26) N = 21	1.62 (.87) N = 21	1.55
ことばの絵本	1.47 (.92) N = 62	1.39 (.73) N = 62	.62	1.40 (.59) N = 42	1.31 (.52) N = 42	.78	1.60 (1.39) N = 20	1.55 (1.05) N = 20	.16
知識・科学絵本	1.70 (.99) N = 63	1.60 (.73) N = 63	.93	1.81 (.77) N = 42	1.64 (.73) N = 42	1.64	1.48 (1.33) N = 21	1.52 (.75) N = 21	.20
わらべうた・詩の絵本	1.10 (.35) N = 62	1.11 (.32) N = 62	.38	1.12 (.40) N = 42	1.12 (.33) N = 42	.00	1.05 (.22) N = 20	1.10 (.31) N = 20	.57
その他の絵本	1.66 (.81) N = 61	1.36 (.58) N = 61	3.22**	1.68 (.85) N = 41	1.34 (.53) N = 41	3.00**	1.60 (.75) N = 20	1.40 (.68) N = 20	1.29

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「7. 11冊以上」の7件法

※2回目調査では「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法で尋ねたが、分析の際は7件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 ** p < .01

表 3-8 絵本の種類別読み聞かせ冊数（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1回目調査			2回目調査		
	男児	女児	性差(t値)	男児	女児	性差(t値)
読み聞かせ冊数（合計）	10.44(2.75) N = 43	11.61(4.82) N = 23	1.07	9.43(2.96) N = 37	9.05(2.15) N = 19	.50
創作絵本	2.65(1.33) N = 43	3.21(1.89) N = 25	1.41	2.44(1.76) N = 39	2.48(1.21) N = 21	.09
昔話絵本	1.86(.96) N = 44	1.96(1.24) N = 25	.36	1.63(.74) N = 40	1.64(.85) N = 22	.06
ことばの絵本	1.39(.58) N = 44	1.64(1.32) N = 25	.91	1.31(.52) N = 42	1.52(1.03) N = 21	.90
知識・科学絵本	1.82(.79) N = 44	1.52(1.33) N = 25	1.18	1.64(.73) N = 42	1.50(.74) N = 22	.74
わらべうた・詩の絵本	1.11(.39) N = 44	1.17(.48) N = 24	.50	1.12(.33) N = 42	1.14(.35) N = 22	.20
その他の絵本	1.68(.83) N = 44	1.76(1.30) N = 25	.31	1.34(.53) N = 41	1.38(.67) N = 21	.25

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「7. 11冊以上」の7件法

※2回目調査では「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法で尋ねたが、分析の際は7件法に統一した

※括弧内は標準偏差

3.1.2.3.4. 読み聞かせ方

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ方について、平均と標準偏差を求めた。また、秋田・無藤(1996)^[34]を参考に、4 項目を合計した「会話型読み聞かせ」(1 回目調査 $\alpha = .85$ 、2 回目調査 $\alpha = .62$)、5 項目を合計した「一人読み促進型読み聞かせ」(1 回目調査 $\alpha = .76$ 、2 回目調査 $\alpha = .78$) についても、平均と標準偏差を求めた。さらに、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-9 参照)。

その結果、全体において 2 回目調査より 1 回目調査のほうが「会話型読み聞かせ」($t(56) = 2.14, p < .05$) をしており、1 回目調査より 2 回目調査のほうが「あまり話しかけたりせず、書かれている文章をそのまま読むようにした」読み聞かせ方をしていること ($t(56) = 2.23, p < .05$) が示された。男児においては、2 回目調査より 1 回目調査のほうが「会話型読み聞かせ」($t(38) = 2.08, p < .05$) をしていることが示された。女児においては、1 回目調査より 2 回目調査のほうが「子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ」読み聞かせ方をしていること ($t(18) = 3.24, p < .01$) が示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-10 参照)。その結果、1 回目調査では男児より女児のほうが「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方をされていることが示された ($t(62.01) = 2.29, p < .05$)。また、2 回目調査では男児より女児のほうが「子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ」読み聞かせ方をされていることが示された ($t(56) = 2.06, p < .05$)。

表 3-9 読み聞かせ方（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t値	1回目	2回目	t値	1回目	2回目	t値
会話型(合計)	13.95 (3.32) N = 57	12.93 (3.05) N = 57	2.14*	13.97 (3.13) N = 39	12.74 (3.33) N = 39	2.08*	13.89 (3.79) N = 18	13.33 (2.35) N = 18	.68
会話を しながら	3.70 (.94) N = 57	3.56 (1.04) N = 57	.94	3.64 (.90) N = 39	3.46 (1.14) N = 39	.96	3.83 (1.04) N = 18	3.78 (.73) N = 18	.22
絵に説明を 加えながら	3.54 (1.10) N = 57	3.30 (1.09) N = 57	1.55	3.56 (1.02) N = 39	3.32 (1.06) N = 39	1.65	3.50 (1.30) N = 18	3.44 (1.15) N = 18	.22
ものの名前を 教えながら	3.35 (1.08) N = 57	3.11 (1.16) N = 57	1.57	3.38 (1.04) N = 39	3.05 (1.19) N = 39	1.74 +	3.28 (1.18) N = 18	3.22 (1.11) N = 18	.20
そのまま読む (逆転項目)	3.35 (.88) N = 57	2.96 (1.18) N = 57	2.23*	3.38 (.96) N = 39	3.00 (1.30) N = 39	1.81 +	3.28 (.67) N = 18	2.89 (.90) N = 18	1.28
一人読み 促進型(合計)	15.70 (4.00) N = 54	15.85 (4.37) N = 54	.21	15.67 (4.46) N = 36	15.36 (4.75) N = 36	.31	15.78 (3.00) N = 18	16.83 (3.38) N = 18	1.31
子どもが読め るところは 読ませながら	2.75 (1.20) N = 56	2.93 (1.29) N = 56	.83	2.78 (1.25) N = 37	2.68 (1.29) N = 37	.36	2.68 (1.11) N = 19	3.42 (1.17) N = 19	3.24**
字を 教えながら	2.43 (1.08) N = 56	2.30 (1.28) N = 56	.63	2.55 (1.18) N = 38	2.18 (1.31) N = 38	1.48	2.17 (.79) N = 18	2.56 (1.20) N = 18	1.28
読み方を 教えてあげた	3.19 (1.22) N = 58	3.40 (1.27) N = 58	1.13	3.03 (1.31) N = 39	3.26 (1.35) N = 39	.91	3.53 (.97) N = 19	3.68 (1.06) N = 19	.72
内容に説明を 加えながら	3.49 (1.12) N = 57	3.25 (1.11) N = 57	1.27	3.46 (1.17) N = 39	3.31 (1.15) N = 39	.62	3.56 (1.04) N = 18	3.11 (1.02) N = 18	1.51
自分で読んだ 時には褒める	3.93 (1.06) N = 58	3.95 (.96) N = 58	.10	3.90 (1.19) N = 39	3.85 (1.07) N = 39	.21	4.00 (.75) N = 19	4.16 (.69) N = 19	.83

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 3-10 読み聞かせ方（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			2 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
会話型(合計)	13.86(3.09) N = 44	14.21(3.85) N = 24	.40	12.74(3.30) N = 39	13.10(2.36) N = 20	.43
会話をしながら	3.61(.92) N = 44	3.83(1.05) N = 24	.90	3.46(1.14) N = 39	3.75(.72) N = 20	1.19
絵に説明を加えながら	3.55(.98) N = 44	3.54(1.22) N = 24	.01	3.23(1.06) N = 39	3.35(1.14) N = 20	.40
ものの名前を教えながら	3.36(1.06) N = 44	3.42(1.14) N = 24	.19	3.05(1.19) N = 39	3.15(1.09) N = 20	.31
そのまま読む(逆転項目)	3.34(.96) N = 44	3.42(.88) N = 24	.32	3.00(1.30) N = 39	2.85(.88) N = 20	.53
一人読み促進型(合計)	15.48(4.47) N = 42	16.13(3.06) N = 24	.70	15.24(4.66) N = 38	16.89(3.30) N = 19	1.55
子どもが読めるところは読ませながら	2.70(1.25) N = 43	2.68(1.18) N = 25	.06	2.63(1.30) N = 38	3.35(1.18) N = 20	2.06*
字を教えながら	2.51(1.18) N = 43	2.33(.92) N = 24	.69	2.18(1.30) N = 39	2.53(1.17) N = 19	.99
読み方を教えてあげた	2.98(1.29) N = 44	3.60(.96) N = 25	2.29*	3.26(1.35) N = 39	3.60(1.10) N = 20	.98
内容に説明を加えながら	3.39(1.17) N = 44	3.54(.93) N = 24	.56	3.31(1.15) N = 39	3.10(.97) N = 20	.69
自分で読んだ時には褒める	3.86(1.15) N = 44	4.08(.86) N = 25	.82	3.85(1.07) N = 39	4.05(.83) N = 20	.75

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ * p < .05

3.1.2.3.5. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、子どもを対象とした本と大人を対象とした本それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-11 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-12 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-11 自宅の蔵書量 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値
子どもを対象にした本	4.73 (1.52) $N = 62$	4.53 (1.36) $N = 62$	1.80 †	4.51 (1.45) $N = 41$	4.37 (1.30) $N = 41$	1.14	5.14 (1.59) $N = 21$	4.86 (1.46) $N = 21$	1.45
大人を対象にした本	4.58 (1.87) $N = 64$	4.45 (1.93) $N = 64$.89	4.67 (1.88) $N = 42$	4.43 (1.98) $N = 42$	1.46	4.41 (1.87) $N = 22$	4.50 (1.87) $N = 22$.35

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 3-12 自宅の蔵書量 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	1回目調査			2回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
子どもを対象にした本	4.61 (1.47) $N = 44$	5.23 (1.58) $N = 26$	1.65	4.37 (1.30) $N = 41$	4.86 (1.46) $N = 21$	1.35
大人を対象にした本	4.64 (1.89) $N = 44$	4.31 (1.83) $N = 26$.71	4.43 (1.98) $N = 42$	4.50 (1.87) $N = 22$.14

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

3.1.2.3.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 カ月の図書館、本屋、本のイベントへ連れて行く頻度について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-13 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-14 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-13 図書館などへ連れて行く頻度 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.08 (1.19) $N = 64$	5.08 (1.42) $N = 64$.00	5.02 (1.20) $N = 42$	4.95 (1.13) $N = 42$.42	5.18 (1.18) $N = 22$	5.32 (1.86) $N = 22$.37
図書館	1.84 (.86) $N = 64$	1.81 (.89) $N = 64$.33	1.76 (.82) $N = 42$	1.71 (.84) $N = 42$.42	2.00 (.93) $N = 22$	2.00 (.98) $N = 22$.00
本屋	2.11 (.62) $N = 64$	2.13 (.68) $N = 64$.18	2.10 (.58) $N = 42$	2.10 (.53) $N = 42$.00	2.14 (.71) $N = 22$	2.18 (.91) $N = 22$.25
本のイベント	1.13 (.33) $N = 64$	1.14 (.39) $N = 64$.33	1.17 (.38) $N = 42$	1.14 (.42) $N = 42$.44	1.05 (.21) $N = 22$	1.14 (.35) $N = 22$	1.00

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法
※括弧内は標準偏差

表 3-14 図書館などへ連れて行く頻度 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	1回目調査			2回目調査		
	男児	女児	性差(t 値)	男児	女児	性差(t 値)
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.02(1.19) $N = 44$	5.00(1.20) $N = 26$.08	4.95(1.13) $N = 42$	5.32(1.86) $N = 22$.98
図書館	1.75(.81) $N = 44$	1.88(.91) $N = 26$.64	1.71(.84) $N = 42$	2.00(.98) $N = 22$	1.23
本屋	2.09(.56) $N = 44$	2.04(.72) $N = 26$.34	2.10(.53) $N = 42$	2.18(.91) $N = 22$.41
本のイベント	1.18(.39) $N = 44$	1.08(.27) $N = 26$	1.32	1.14(.42) $N = 42$	1.14(.35) $N = 22$.06

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法
※括弧内は標準偏差

3.1.2.3.7. 親子の交流の頻度

直近 1 カ月の親子の交流の頻度について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-15 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差を検討するために t 検定を行った。その結果、1 回目調査において女兒より男児のほうが「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いことが示された ($t(65) = 2.15, p < .05$)。2 回目調査においては、女兒より男児のほうが「一緒にスポーツ観戦に行く」頻度が高いことが示された ($t(46.40) = 2.70, p < .05$)。

表 3-15 親子の交流の頻度 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女兒		
	1 回目	2 回目	t 値	1 回目	2 回目	t 値	1 回目	2 回目	t 値
親子の交流の頻度 (合計)	22.86 (3.56) $N = 58$	23.34 (3.74) $N = 58$	1.08	23.18 (3.78) $N = 38$	23.71 (3.81) $N = 38$.91	22.25 (3.11) $N = 20$	22.65 (3.59) $N = 20$.56
旅行や遊び	3.02 (.81) $N = 60$	2.85 (.84) $N = 60$	1.49	3.13 (.77) $N = 39$	3.00 (.76) $N = 39$.82	2.81 (.87) $N = 21$	2.57 (.93) $N = 21$	1.75 †
夕飯	3.48 (.70) $N = 60$	3.50 (.68) $N = 60$.19	3.46 (.68) $N = 39$	3.51 (.68) $N = 39$.47	3.52 (.75) $N = 21$	3.48 (.68) $N = 21$.33
映画	1.31 (.75) $N = 60$	1.46 (.75) $N = 60$	1.24	1.41 (.85) $N = 39$	1.51 (.76) $N = 39$.66	1.10 (.45) $N = 20$	1.35 (.75) $N = 20$	1.23
話	3.42 (.56) $N = 60$	3.53 (.50) $N = 60$	1.73 †	3.41 (.60) $N = 39$	3.51 (.51) $N = 39$	1.16	3.43 (.51) $N = 21$	3.57 (.51) $N = 21$	1.37
買い物	3.20 (.68) $N = 60$	3.37 (.71) $N = 60$	1.74 †	3.21 (.66) $N = 39$	3.28 (.76) $N = 39$.72	3.19 (.75) $N = 21$	3.52 (.60) $N = 21$	1.78 †
スポーツ観戦	1.22 (.59) $N = 59$	1.29 (.74) $N = 59$.63	1.29 (.69) $N = 38$	1.42 (.89) $N = 38$.82	1.10 (.30) $N = 21$	1.05 (.22) $N = 21$.57
ゲームや歌	2.95 (.85) $N = 60$	2.90 (.99) $N = 60$.36	2.97 (.87) $N = 39$	2.95 (.97) $N = 39$.16	2.90 (.83) $N = 21$	2.81 (1.03) $N = 21$.36
スポーツ	2.31 (.90) $N = 59$	2.31 (.97) $N = 59$.00	2.32 (.90) $N = 39$	2.37 (.97) $N = 39$.30	2.29 (.90) $N = 21$	2.19 (.98) $N = 21$.49
料理	2.03 (.74) $N = 60$	2.10 (.84) $N = 60$.73	2.00 (.76) $N = 39$	2.18 (.89) $N = 39$	1.42	2.10 (.70) $N = 21$	1.95 (.74) $N = 21$	1.37

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 3-16 親子の交流の頻度（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			2 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
親子の交流の頻度 (合計)	23.07 (3.91) N = 42	22.48 (2.89) N = 25	.66	23.73 (3.82) N = 40	22.33 (3.79) N = 21	1.36
旅行や遊び	3.07 (.78) N = 42	2.60 (1.00) N = 25	2.15*	2.98 (.76) N = 41	2.55 (.91) N = 22	2.00 †
夕飯	3.48 (.67) N = 42	3.48 (.77) N = 25	.02	3.51 (.68) N = 41	3.41 (.73) N = 22	.56
映画	1.38 (.83) N = 42	1.08 (.40) N = 25	2.00 †	1.49 (.75) N = 41	1.33 (.73) N = 21	.77
話	3.43 (.59) N = 42	3.48 (.51) N = 25	.36	3.51 (.51) N = 41	3.55 (.51) N = 22	.25
買い物	3.19 (.67) N = 42	3.32 (.75) N = 25	.73	3.29 (.75) N = 41	3.45 (.67) N = 22	.85
スポーツ観戦	1.26 (.67) N = 42	1.16 (.47) N = 25	.67	1.45 (.90) N = 40	1.05 (.21) N = 22	2.70*
ゲームや歌	2.95 (.88) N = 42	3.00 (.82) N = 25	.22	2.98 (.96) N = 41	2.77 (1.02) N = 22	.78
スポーツ	2.31 (.95) N = 42	2.20 (.87) N = 25	.47	2.40 (.98) N = 40	2.18 (.96) N = 22	.84
料理	2.00 (.83) N = 42	2.16 (.69) N = 25	.81	2.15 (.88) N = 41	1.91 (.75) N = 22	1.07

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

3.1.2.4. 回答者の属性

回答者の属性について、性別と年齢の度数分布を示した（図 3-5、図 3-6 参照）。

集計の結果、回答者の性別はどちらの調査においても女性が多く、1 回目調査では 65 名（92.9%）、2 回目調査では 62 名（88.6%）であった。なお、別の質問項目で子どもとの関係について尋ねたところ、性別を「女性」と回答した人は全員母親であり、「男性」と回答した人は全員父親であった。回答者の年齢については、どちらの調査においても 30 歳代という回答が多く、1 回目調査では 49 名（70.0%）、2 回目調査では 45 名（64.3%）であった。

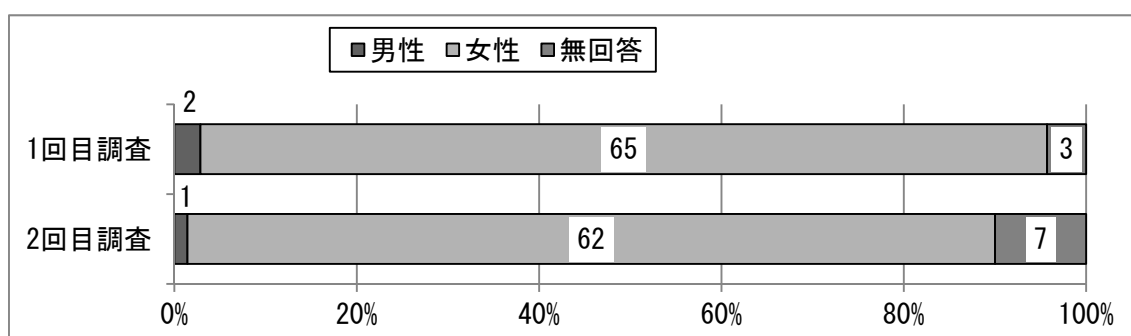


図 3-5 回答者の性別

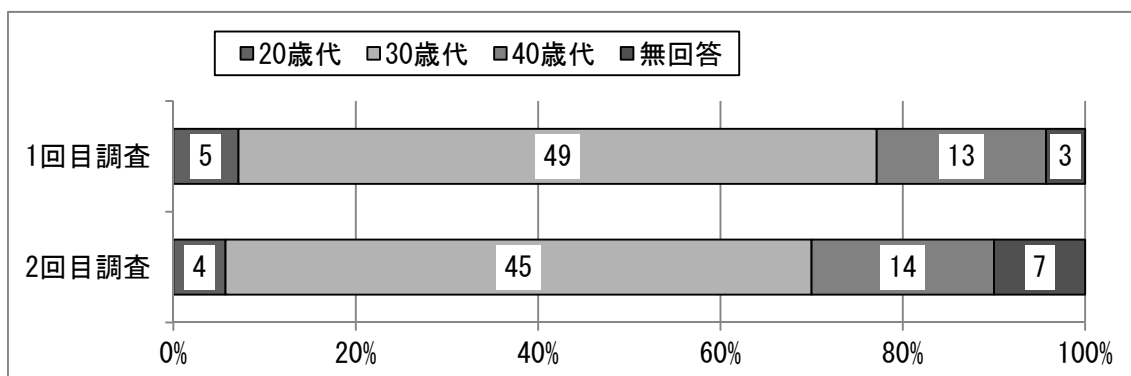


図 3-6 回答者の年齢

3.1.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-17 参照）。

その結果、全体においては 1 回目調査より 2 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(67) = 10.18, p < .01$ ）、読字（ $t(67) = 3.66, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(67) = 4.41, p < .01$ ）、お話の構成（ $t(67) = 5.69, p < .01$ ）、物語理解（ $t(67) = 7.95, p < .01$ ）の得点が高いということが示された。また、男児においては 1 回目調査より 2 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(41) = 6.84, p < .01$ ）、読字（ $t(41) = 2.95, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(41) = 2.99, p < .01$ ）、お話の構成（ $t(41) = 4.70, p < .01$ ）、物語理解（ $t(41) = 4.94, p < .01$ ）の得点が高いということが示された。さらに、女兒においては 1 回目調査より 2 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(25) = 8.50, p < .01$ ）、読字（ $t(25) = 2.18, p < .05$ ）、絵と文字の結合（ $t(25) = 3.74, p < .01$ ）、お話の構成（ $t(25) = 3.20, p < .01$ ）、物語理解（ $t(25) = 7.34, p < .01$ ）の得点が高いということが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-18 参照）。その結果、1 回目調査では男児より女兒のほうが絵と文字の結合の得点が高いことが示された（ $t(62.61) = 2.20, p < .05$ ）。また、2 回目調査でも同様の結果が得られた（ $t(25) = 7.34, p < .01$ ）。

表 3-17 読書のレディネス得点（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t値	1回目	2回目	t値	1回目	2回目	t値
読書のレディネス(合計)	9.85 (3.67) N = 68	13.74 (3.93) N = 68	10.18**	9.60 (4.09) N = 42	13.29 (4.25) N = 42	6.84**	10.27 (2.88) N = 26	14.46 (3.29) N = 26	8.50**
読字	4.60 (1.61) N = 68	5.24 (1.07) N = 68	3.66**	4.48 (1.69) N = 42	5.07 (1.20) N = 42	2.95**	4.81 (1.50) N = 26	5.50 (.76) N = 26	2.18*
絵と文字の結合	1.68 (1.29) N = 68	2.31 (1.00) N = 68	4.41**	1.43 (1.36) N = 42	2.05 (1.08) N = 42	2.99**	2.08 (1.06) N = 26	2.73 (.67) N = 26	3.74**
お話の構成	2.21 (2.15) N = 68	3.74 (2.38) N = 68	5.69**	2.24 (2.13) N = 42	3.79 (2.32) N = 42	4.70**	2.15 (2.22) N = 26	3.65 (2.51) N = 26	3.20**
物語理解	1.37 (.88) N = 68	2.46 (.72) N = 68	7.95**	1.45 (.94) N = 42	2.38 (.76) N = 42	4.94**	1.23 (.77) N = 26	2.58 (.64) N = 26	7.34**

※読字は6点満点、絵と文字の結合は3点満点、お話の構成は6点満点、物語理解は3点満点

※読書のレディネス(合計)は18点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-18 読書のレディネス得点（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1回目調査			2回目調査		
	男児	女児	性差(t値)	男児	女児	性差(t値)
読書のレディネス(合計)	9.60(4.09) N = 42	10.27(2.88) N = 26	.80	13.23(4.18) N = 44	14.46(3.29) N = 26	1.29
読字	4.48(1.69) N = 42	4.81(1.50) N = 26	.82	5.05(1.18) N = 44	5.50(.76) N = 26	1.76
絵と文字の結合	1.43(1.36) N = 42	2.08(1.06) N = 26	2.20*	2.05(1.08) N = 44	2.73(.67) N = 26	3.29**
お話の構成	2.24(2.13) N = 42	2.15(2.22) N = 26	.16	3.75(2.36) N = 44	3.65(2.51) N = 26	.16
物語理解	1.45(.94) N = 42	1.23(.77) N = 26	1.01	2.39(.75) N = 44	2.58(.64) N = 26	1.08

※読字は6点満点、絵と文字の結合は3点満点、お話の構成は6点満点、物語理解は3点満点

※読書のレディネス(合計)は18点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

3.1.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）

想像力得点（イメージ量、エピソード数、創造物数）について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-19 参照）。その結果、全体において1回目調査より2回目調査のほうがエピソード数が増えることが示された($t(54) = 2.36, p < .05$)。男児においては、1回目調査より2回目調査のほうがイメージ量($t(32) = 3.53, p < .01$)、エピソード数($t(32) = 3.60, p < .01$)、創造物数($t(32) = 3.88, p < .01$)が増えることが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-20 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-19 想像力得点（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値	1回目	2回目	t 値
イメージ量	2.42 (4.00) $N = 55$	3.71 (3.70) $N = 55$	1.93 †	1.82 (1.94) $N = 33$	3.88 (3.75) $N = 33$	3.53**	3.32 (5.83) $N = 22$	3.45 (3.70) $N = 22$.10
エピソード数	1.20 (1.92) $N = 55$	2.00 (1.82) $N = 55$	2.36*	.94 (1.12) $N = 33$	2.09 (1.77) $N = 33$	3.60**	1.59 (2.70) $N = 22$	1.86 (1.91) $N = 22$.39
創造物数	.36 (1.31) $N = 55$.78 (1.18) $N = 55$	1.81 †	.09 (.29) $N = 33$	1.03 (1.40) $N = 33$	3.88**	.77 (2.00) $N = 22$.41 (.59) $N = 22$.90

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-20 想像力得点（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1回目調査			2回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
イメージ量	1.82 (1.94) $N = 33$	3.44 (5.71) $N = 25$	1.52	4.64 (5.06) $N = 42$	3.57 (3.65) $N = 23$.90
エピソード数	.94 (1.12) $N = 33$	1.76 (2.76) $N = 25$	1.55	2.19 (1.78) $N = 42$	1.91 (1.88) $N = 23$.59
創造物数	.09 (.29) $N = 33$.80 (1.94) $N = 25$	1.82 †	1.12 (1.71) $N = 42$.52 (.79) $N = 23$	1.58

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

3.1.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係

3.1.5.1. 分析モデル

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係を検討するために、重回帰モデルを用いて分析を行った。なお、子どもに対する保護者の行動は読書と直接的な関係はないと考えられる親子の交流の頻度を除いた項目（読み聞かせ量、読み聞かせ方、自宅の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）を用い、合計値のあるものは合計値のみを用いた。

まず、1回目調査の保護者の読書好意度・読書量、回答者の性別、回答者の年齢、各子どもに対する保護者の行動を独立変数、2回目調査の各子どもに対する保護者の行動を従属変数として重回帰分析を行った（図 3-7 参照）。そして、時間的に前にある1回目調査の保護者の読書好意度・読書量から2回目調査の各子どもに対する保護者の行動へのパスが統計的に有意であれば、1回目調査の保護者の読書好意度・読書量が2回目調査の各子どもに対する保護者の行動に影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

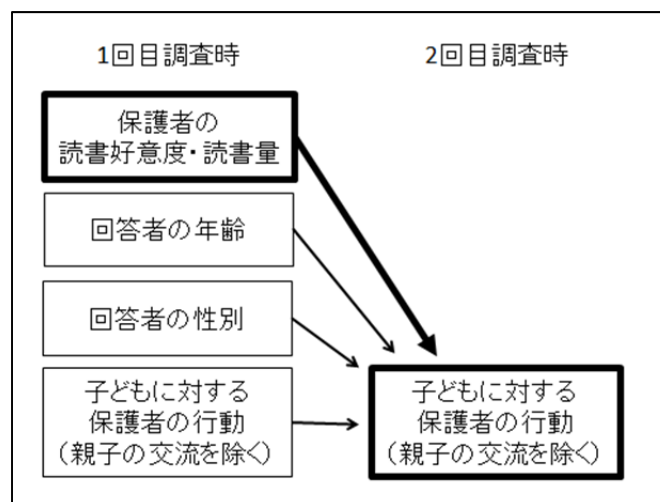


図 3-7 重回帰モデル

3.1.5.2. 結果

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。

その結果、保護者の読書好意度が高いほど大人を対象とした本の蔵書量が多くなること ($R^2 = .70$, $\beta = .24$, $p < .05$) が示された。

3.1.6. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

3.1.6.1. 分析モデル

(1)主効果 本分析では重回帰モデルを用いた。1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネスを独立変数、2回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った(図 3-8 参照)。そして、時間的に前にある1回目調査の幼児の家庭環境から2回目調査の幼児の読書のレディネスへのパスが統計的に有意であれば、1回目調査の幼児の家庭環境が2回目調査の幼児の読書のレディネスに影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

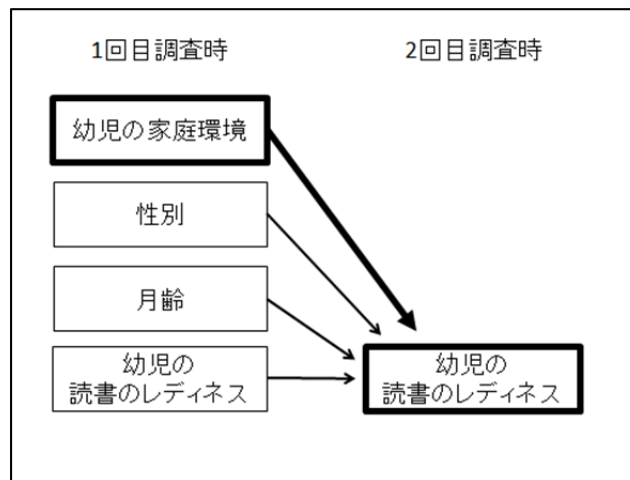


図 3-8 重回帰モデル

(2)交互作用 幼児の家庭環境の中でも絵本の読み聞かせは、子どもの読書能力と影響関係があると考えられる。また、絵本の読み聞かせが読書能力に及ぼす影響は、他の家庭環境によっても異なると考えられる。したがって、絵本の読み聞かせ量(頻度・冊数、絵本の種類別頻度・冊数の合計値)と調整要因と考えられる他の家庭環境(読み聞かせ方、子どもを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度)との交互作用についても分析を行った。なお、調整要因の家庭環境は、合計値のあるものは合計値のみについて分析を行った。

まず、絵本の読み聞かせ量と他の家庭環境の交互作用項の検定を行った。1回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境(調整要因)、絵本の読み聞かせ量と家庭環境(調整要因)の積(交互作用項)、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、2回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行った(図 3-9 参照)。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、下位検定として以下の分析を行った。まず、交互作用項が有意であった1回目調査の家庭環境(調整要因)の数値に+1SDと-1SDを加えた変数を作成した。次に、1回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境(調整要因)+1SD(-1SD)の交互作用項を作成した。そして、1回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境(調整要因)+1SD(-1SD)、1回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境(調整要因)+1SD

(-1SD) の交互作用項、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、2 回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行い、絵本の読み聞かせ量の主効果を検討した (図 3-10 参照)。

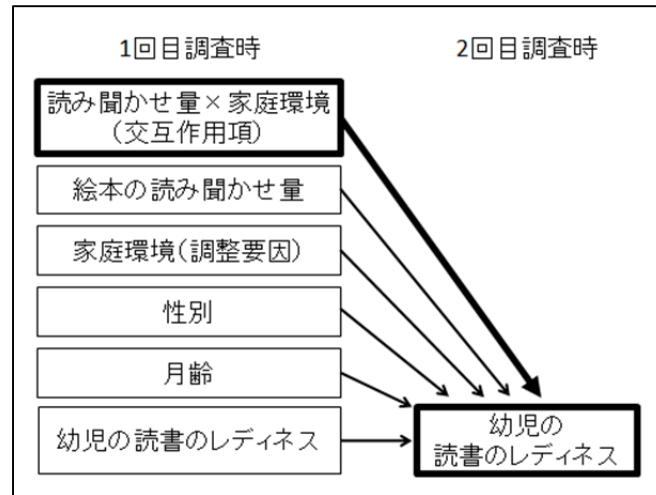


図 3-9 交互作用の分析モデル

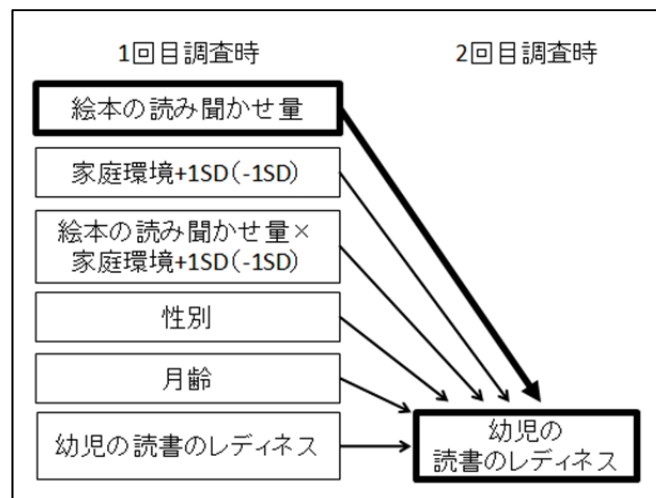


図 3-10 交互作用の下位検定の分析モデル

3.1.6.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。

その結果、保護者の読書好意度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .31$, $\beta = -.30$, $p < .01$)、保護者の読書量が多いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .35$, $\beta = -.36$, $p < .01$) が示された。

3.1.6.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係

3.1.6.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネスの影響関係

(1) **主効果** 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と各読書のレディネス得点に影響関係はみられなかった。

(2) **交互作用** 絵本の読み聞かせ量とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、お話の構成においては、読み聞かせ冊数と子どもを対象とした本の蔵書量の交互作用 ($R^2 = .34$, $B = .33$, $p < .01$)、読み聞かせ冊数と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .37$, $B = .50$, $p < .01$) が有意であった。

また、読書のレディネス（合計）においては、読み聞かせ冊数と子どもを対象とした本の蔵書量の交互作用 ($R^2 = .40$, $B = .34$, $p < .01$) が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、子どもを対象とした本の蔵書量が多いと、読み聞かせ冊数が多いほどお話の構成が低くなること ($R^2 = .34$, $B = -.64$, $p < .05$) が示された。

また、図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いと、読み聞かせ冊数が多いほどお話の構成が低くなること ($R^2 = .37$, $B = -.66$, $p < .05$)、図書館などへ連れて行く頻度が低いと、読み聞かせ冊数が多いほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .37$, $B = .44$, $p < .05$) が示された。

3.1.6.3.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネスの影響関係

(1) **主効果** 絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各種類の絵本の読み聞かせ量を合計した、絵本の読み聞かせ頻度（合計）および冊数（合計）と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほど物語理解が高まること ($R^2 = .10$, $\beta = .28$, $p < .05$)、わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほどお話の構成が低くなること ($R^2 = .31$, $\beta = -.27$, $p < .05$)、わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が低くなること ($R^2 = .39$, $\beta = -.21$, $p < .05$)、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .27$, $\beta = -.22$, $p < .05$) が示された。

(2) **交互作用** 絵本の読み聞かせ頻度（合計）または冊数（合計）とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いず

れの交互作用項も有意ではなかった。

3.1.6.3.3. 読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係

絵本の読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、「会話型読み聞かせ（合計）」「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」のそれぞれと読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .09$, $\beta = -.27$, $p < .05$)、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .11$, $\beta = -.30$, $p < .01$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .10$, $\beta = -.29$, $p < .05$)、「一人で読んだら褒める」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .10$, $\beta = -.28$, $p < .05$) が示された。

3.1.6.3.4. 自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係

自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、自宅の蔵書量と各読書のレディネス得点に影響関係はみられなかった。

3.1.6.3.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係

図書館などへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各連れて行く頻度を合計した、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）が高いほど読書のレディネス（合計）が高まること ($R^2 = .41$, $\beta = .24$, $p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度が高いほどお話の構成が高まること ($R^2 = .29$, $\beta = .22$, $p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が高まること ($R^2 = .43$, $\beta = .28$, $p < .01$) が示された。

3.1.6.3.6. 親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係

親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各親子の交流の頻度を合計した、親子の交流の頻度（合計）と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、一緒に買物に行く頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .26$, $\beta = -.25$, $p < .05$)、一緒に旅行や遊びに行く頻度が高いほど物語理解が高まること ($R^2 = .11$, $\beta = .31$, $p < .05$)、話をする頻度が高いほど物語理解が高まること ($R^2 = .09$, $\beta = .25$, $p < .05$) が示された。

3.1.7. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

3.1.7.1. 分析モデル

(1)主効果 本分析では重回帰モデルを用いた。1 回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力を独立変数、2 回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図 3-11 参照）。そして、時間的に前にある 1 回目調査の幼児の家庭環境から 2 回目調査の幼児の想像力へのパスが統計的に有意であれば、1 回目調査の幼児の家庭環境が 2 回目調査の幼児の想像力に影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

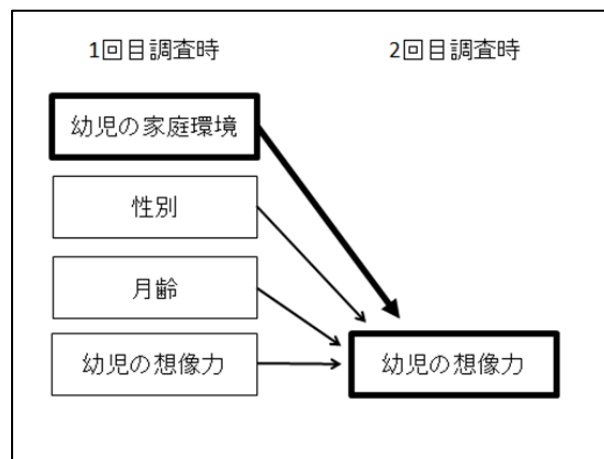


図 3-11 重回帰モデル

(2)交互作用 幼児の家庭環境の中でも絵本の読み聞かせは、子どもの読書能力と影響関係があると考えられる。また、絵本の読み聞かせが読書能力に及ぼす影響は、他の家庭環境によっても異なると考えられる。したがって、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数、絵本の種類別頻度・冊数の合計値）と調整要因と考えられる他の家庭環境（読み聞かせ方、子どもを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）との交互作用についても分析を行った。なお、調整要因の家庭環境は、合計値のあるものは合計値のみについて分析を行った。

まず、絵本の読み聞かせ量と他の家庭環境の交互作用項の検定を行った。1 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）、絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）の積（交互作用項）、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、2 回目調査の各想像力得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 3-12 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、下位検定として以下の分析を行った。まず、交互作用項が有意であった 1 回目調査の家庭環境（調整要因）の数値に+1SD と-1SD を加えた変数を作成した。次に、1 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項を作成した。そして、1 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD)、1 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、2 回目調査の各想像力得

点を従属変数とする重回帰分析を行い、絵本の読み聞かせ量の主効果を検討した（図 3-13 参照）。なお、本研究では交互作用を検討する家庭環境（調整要因）は、読み聞かせ方（会話型、一人読み促進型）、子どもの対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度（合計）を用いた。

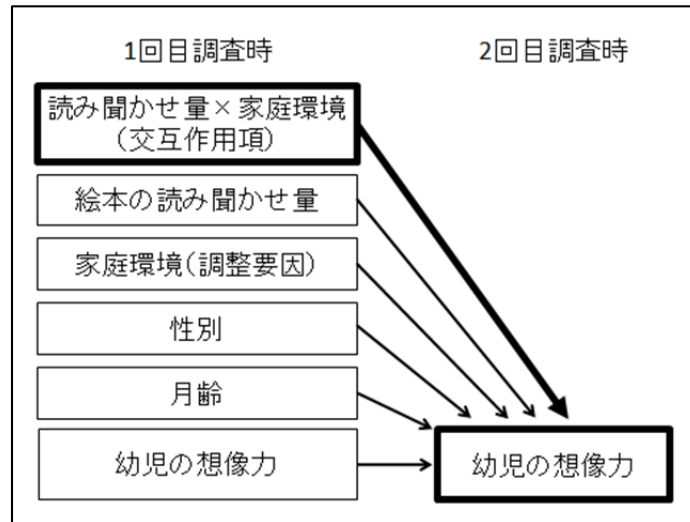


図 3-12 交互作用の分析モデル

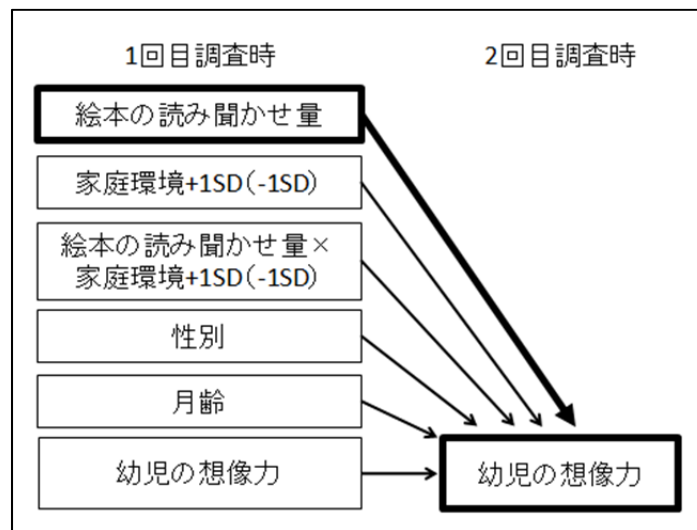


図 3-13 交互作用の下位検定の分析モデル

3.1.7.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、保護者の読書好意度・読書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.1.7.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係

3.1.7.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力の影響関係

(1)主効果 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、絵本の読み聞かせ量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ量とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、創造物数においては、読み聞かせ冊数と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .18$, $B = .25$, $p < .05$) が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いと、読み聞かせ冊数が多いほど創造物数が少なくなること ($R^2 = .18$, $B = -.38$, $p < .05$) が示された。

3.1.7.3.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力の影響関係

(1)主効果 絵本の種類別読み聞かせ量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各種類の絵本の読み聞かせ量を合計した、絵本の読み聞かせ頻度（合計）および冊数（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。

その結果、絵本の種類別読み聞かせ量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ頻度（合計）または冊数（合計）とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、イメージ量においては、読み聞かせ頻度（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .20$, $B = .66$, $p < .01$)、読み聞かせ冊数（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .23$, $B = .53$, $p < .05$) が有意であった。

エピソード量においては、読み聞かせ頻度（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .15$, $B = .25$, $p < .05$) が有意であった。

創造物数においては、読み聞かせ頻度（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .19$, $B = .19$, $p < .05$)、読み聞かせ冊数（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .21$, $B = .16$, $p < .05$) が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いと、読み聞かせ頻度（合計）が高いほどイメージ量 ($R^2 = .20$, $B = -.80$, $p < .05$)、創造物数 ($R^2 = .19$, $B = -.23$, $p < .10$) が少なくなること、読み聞かせ冊数（合計）が多いほどイメージ量 ($R^2 = .23$, $B = -.96$, $p < .01$)、創造物数 ($R^2 = .21$, $B = -.29$, $p < .01$) が少なくなることが示された。

3.1.7.3.3. 読み聞かせ方と想像力の影響関係

絵本の読み聞かせ方と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、

「会話型読み聞かせ（合計）」「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」のそれぞれと想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、読み聞かせ方と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.1.7.3.4. 自宅の蔵書量と想像力の影響関係

自宅の蔵書量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、自宅の蔵書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.1.7.3.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と想像力の影響関係

図書館などへ連れて行く頻度と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各連れて行く頻度を合計した、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.1.7.3.6. 親子の交流の頻度と想像力の影響関係

親子の交流の頻度と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各親子の交流の頻度を合計した、親子の交流の頻度（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。

その結果、「一緒にゲームや、歌を歌ったりする」頻度が多いほど、イメージ量が少なくなること ($R^2 = .13$, $\beta = -.34$, $p < .05$) が示された。

3.2. 2 回目調査および 3 回目調査の分析結果

3.2.1. 分析対象

本分析では、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、2 回目質問紙調査・2 回目面接調査 1・3 回目面接調査 1 の 3 つ全ての回答が得られた幼児、および、2 回目質問紙調査・2 回目面接調査 2・3 回目面接調査 2 の 3 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた(2 回目調査 12 名、3 回目調査 9 名)。したがって、本分析の分析対象は 140 名(男児 90 名、女児 50 名、2 回目調査時の平均月齢 67.89 カ月、3 回目調査時の平均月齢 74.71 カ月)とした。

3.2.2. 質問紙調査結果(幼児の家庭環境)

3.2.2.1. 幼児の属性

3.2.2.1.1. きょうだいの有無・きょうだいの中での幼児の位置

きょうだいの有無について、度数分布を示した(図 3-14 参照)。

集計の結果、2 回目調査で「一人っ子」と回答したのは 22 名(15.7%)、「兄弟姉妹がいる」と回答したのは 118 名(84.3%)であった。3 回目調査で「一人っ子」と回答したのは 22 名(15.7%)、「兄弟姉妹がいる」と回答したのは 109 名(77.9%)であった。

また、きょうだいの中での幼児の位置について、度数分布を示した(図 3-15 参照)。

集計の結果、2 回目調査で「長子」と回答したのは 70 名(50%)、「中間子」と回答したのは 15 名(10.7%)、「末子」と回答したのは 55 名(39.3%)であった。3 回目調査で「長子」と回答したのは 69 名(49.3%)、「中間子」と回答したのは 12 名(8.6%)、「末子」と回答したのは 50 名(35.7%)であった。

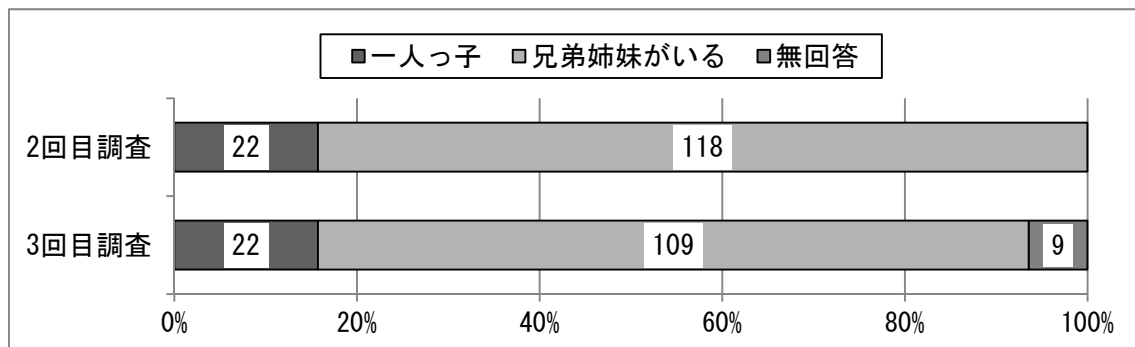


図 3-14 きょうだいの有無

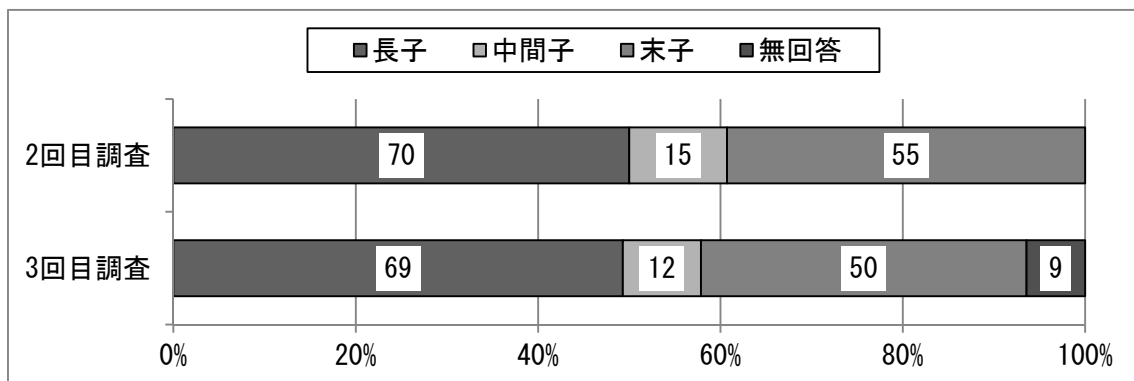


図 3-15 きょうだいの中での幼児の位置

3.2.2.1.2. 同居している人

幼児と同居している人について、度数分布を示した（図 3-16 参照）。

集計の結果、どちらの調査においても母親と同居している幼児が最も多く、2回目調査では135名（96.4%）、3回目調査では127名（90.7%）であった。次いで多かったのは父親と同居している幼児であり、2回目調査では131名（93.6%）、3回目調査では125名（89.3%）であった。

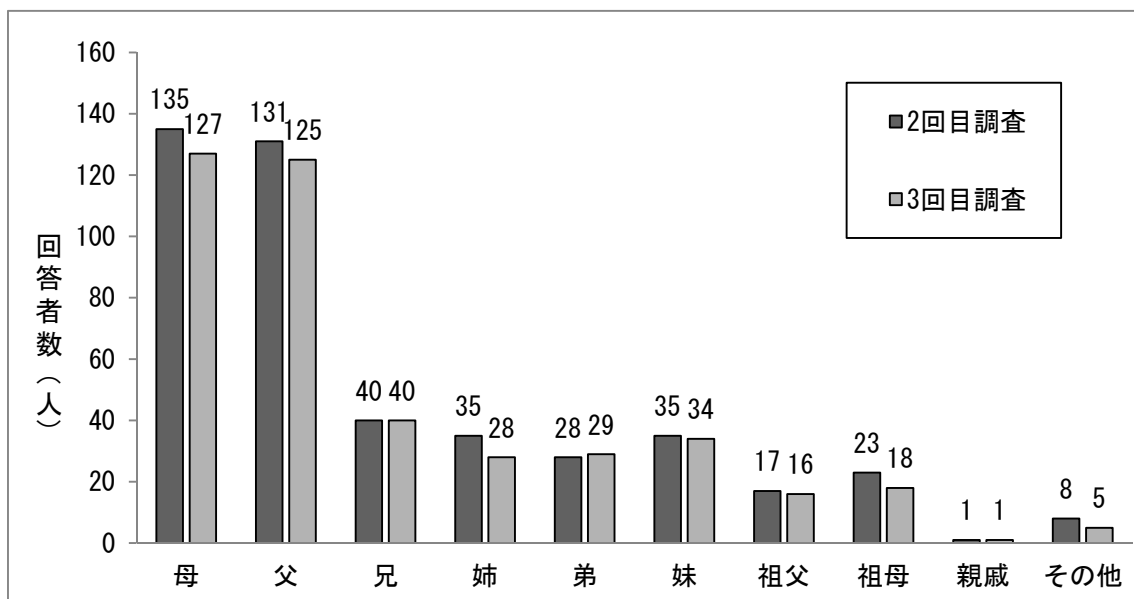


図 3-16 同居している人

3.2.2.2. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書量・読書好意度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-21 参照)。

その結果、全体において 3 回目調査より 2 回目調査のほうが保護者の読書量が多いことが示された ($t(130) = 2.14, p < .05$)。また、男児においても、3 回目調査より 2 回目調査のほうが保護者の読書量が多いことが示された ($t(83) = 2.55, p < .05$)。さらに女兒においては、3 回目調査より 2 回目調査のほうが保護者の読書好意度が高いことが示された ($t(46) = 2.66, p < .05$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-22 参照) その結果、2 回目調査において男児より女兒のほうが保護者の読書好意度が高いということが示された ($t(125.18) = 2.29, p < .05$)。

表 3-21 保護者の読書好意度・読書量 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女兒		
	2 回目	3 回目	t 値	2 回目	3 回目	t 値	2 回目	3 回目	t 値
読書好意度	3.99 (1.03) $N = 131$	3.87 (1.14) $N = 131$	1.90 †	3.86 (1.11) $N = 84$	3.82 (1.18) $N = 84$.45	4.23 (.84) $N = 47$	3.96 (1.06) $N = 47$	2.66*
読書量	1.97 (.68) $N = 131$	1.84 (.70) $N = 131$	2.14*	1.99 (.70) $N = 84$	1.80 (.69) $N = 84$	2.55*	1.94 (.64) $N = 47$	1.91 (.72) $N = 47$.21

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † $< .10$ * $p < .05$

表 3-22 保護者の読書好意度・読書量 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	2 回目調査			3 回目調査		
	男児	女兒	性差 (t 値)	男児	女兒	性差 (t 値)
読書好意度	3.86 (1.12) $N = 90$	4.24 (.85) $N = 50$	2.29*	3.82 (1.18) $N = 84$	3.96 (1.06) $N = 47$.65
読書量	1.97 (.71) $N = 84$	1.92 (.67) $N = 47$.38	1.80 (.69) $N = 84$	1.91 (.72) $N = 47$.92

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

3.2.2.3. 子どもに対する保護者の行動

3.2.2.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近1ヵ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、それぞれ平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-23 参照）。

その結果、全体において3回目調査より2回目調査のほうが読み聞かせ頻度が高く ($t(129) = 2.91, p < .05$)、冊数も多い ($t(129) = 2.47, p < .05$) ことが示された。また、男児においても3回目調査より2回目調査のほうが読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(83) = 2.47, p < .05$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-24 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-23 絵本の読み聞かせ量（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t 値	2回目	3回目	t 値	2回目	3回目	t 値
読み聞かせ 頻度	2.55 (.87) $N = 130$	2.34 (.81) $N = 130$	2.91**	2.58 (.87) $N = 84$	2.36 (.82) $N = 84$	2.47*	2.50 (.89) $N = 46$	2.30 (.81) $N = 46$	1.54
読み聞かせ 冊数	3.82 (1.85) $N = 130$	3.47 (1.93) $N = 130$	1.99*	3.73 (1.78) $N = 83$	3.46 (1.90) $N = 83$	1.45	3.96 (1.97) $N = 47$	3.49 (2.00) $N = 47$	1.36

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-24 絵本の読み聞かせ量（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
読み聞かせ 頻度	2.56 (.88) $N = 90$	2.49 (.87) $N = 49$.42	2.36 (.82) $N = 84$	2.30 (.81) $N = 47$.40
読み聞かせ 冊数	3.70 (1.77) $N = 89$	3.90 (1.93) $N = 50$.63	3.50 (1.93) $N = 84$	3.49 (2.00) $N = 47$.03

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差

3.2.2.3.2. 絵本の読み聞かせをする人

直近1カ月の絵本の読み聞かせを行う人について、それぞれ回答者数を示した（図 3-17 参照）。

集計の結果、どちらの調査においても、最も読み聞かせを行う人は母親であるという回答が最も多く、2回目調査では110名（78.6%）、3回目調査では103名（73.6%）であった。

2番目に読み聞かせを行う人については、どちらの調査においても父親という回答が最も多く、2回目調査では15名（10.7%）、3回目調査では12名（8.6%）であった。

3番目に読み聞かせを行う人については、2回目調査では父、きょうだいという回答が最も多く、8名（5.7%）であった。3回目調査ではきょうだいという回答が最も多く、6名（4.3%）であった。

また、最も読み聞かせを行う人、2番目に読み聞かせを行う人、3番目に読み聞かせを行う人の回答者数を合計したところ、最も回答者が多かったのは母親（2回目調査127名（90.7%）、3回目調査112名（80.0%））で、次いで多かったのは父親（2回目調査63名（45.0%）、3回目調査58名（41.4%））であった。

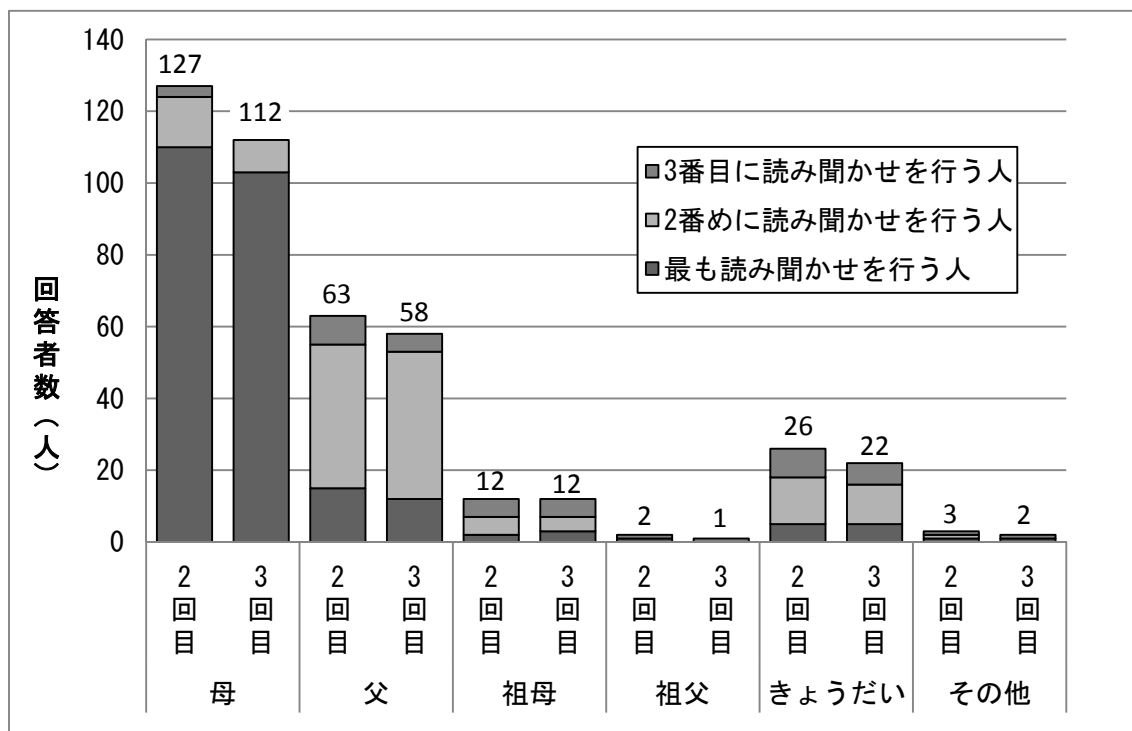


図 3-17 絵本の読み聞かせをする人

3.2.2.3.3. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-25 参照）。

その結果、全体において 3 回目調査より 2 回目調査のほうが読み聞かせ頻度（合計）($t(115) = 4.22, p < .01$)、創作絵本($t(123) = 4.42, p < .01$)、ことばの絵本($t(126) = 2.79, p < .01$)、わらべうた・詩の絵本($t(127) = 2.45, p < .05$)の読み聞かせ頻度が高いことが示された。また、男児においても 3 回目調査より 2 回目調査のほうが読み聞かせ頻度（合計）($t(74) = 3.84, p < .01$)、創作絵本($t(80) = 2.97, p < .01$)、ことばの絵本($t(81) = 2.90, p < .01$)の読み聞かせ頻度が高いことが示された。さらに、女児においても 3 回目調査より 2 回目調査のほうが創作絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された($t(42) = 3.33, p < .01$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-26 参照）。その結果、いずれの調査においても女児より男児のほうが知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された(2 回目調査 $t(130.41) = 4.24, p < .01$ 、3 回目調査 $t(126.79) = 3.57, p < .01$)。

表 3-25 絵本の種類別読み聞かせ頻度（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2 回目	3 回目	t 値	2 回目	3 回目	t 値	2 回目	3 回目	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	9.68 (2.41) $N = 116$	8.83 (2.01) $N = 116$	4.22**	10.05 (2.51) $N = 75$	9.03 (2.05) $N = 75$	3.84**	9.00 (2.05) $N = 41$	8.46 (1.90) $N = 41$	1.82 †
創作絵本	2.25 (.85) $N = 124$	1.91 (.69) $N = 124$	4.42**	2.19 (.82) $N = 81$	1.93 (.72) $N = 81$	2.97**	2.37 (.90) $N = 43$	1.88 (.63) $N = 43$	3.33**
昔話絵本	1.63 (.67) $N = 128$	1.58 (.66) $N = 128$.96	1.67 (.69) $N = 81$	1.58 (.69) $N = 81$	1.15	1.57 (.65) $N = 47$	1.57 (.62) $N = 47$.00
ことばの絵本	1.43 (.61) $N = 127$	1.27 (.51) $N = 127$	2.79**	1.49 (.63) $N = 82$	1.27 (.50) $N = 82$	2.90**	1.31 (.56) $N = 45$	1.27 (.54) $N = 45$.57
知識・科学 絵本	1.73 (.82) $N = 130$	1.66 (.78) $N = 130$	1.00	1.93 (.87) $N = 83$	1.82 (.86) $N = 83$	1.07	1.38 (.61) $N = 47$	1.38 (.53) $N = 47$.00
わらべうた・ 詩の絵本	1.16 (.39) $N = 128$	1.07 (.29) $N = 128$	2.45*	1.16 (.40) $N = 81$	1.07 (.31) $N = 81$	1.83 †	1.15 (.36) $N = 47$	1.06 (.25) $N = 47$	1.66
その他の絵本	1.47 (.68) $N = 127$	1.38 (.58) $N = 127$	1.27	1.53 (.75) $N = 80$	1.40 (.59) $N = 80$	1.22	1.38 (.53) $N = 47$	1.34 (.56) $N = 47$.42

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-26 絵本の種類別読み聞かせ頻度（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (<i>t</i> 値)	男児	女児	性差 (<i>t</i> 値)
読み聞かせ 頻度 (合計)	9.91 (2.50) <i>N</i> = 85	9.19 (2.27) <i>N</i> = 48	1.65	9.03 (2.05) <i>N</i> = 78	8.40 (1.91) <i>N</i> = 42	1.62
創作絵本	2.18 (.82) <i>N</i> = 90	2.34 (.87) <i>N</i> = 50	1.10	1.93 (.72) <i>N</i> = 81	1.88 (.63) <i>N</i> = 43	.32
昔話絵本	1.66 (.68) <i>N</i> = 88	1.56 (.64) <i>N</i> = 50	.84	1.57 (.69) <i>N</i> = 82	1.57 (.62) <i>N</i> = 47	.01
ことばの絵本	1.46 (.62) <i>N</i> = 90	1.33 (.59) <i>N</i> = 49	1.19	1.27 (.50) <i>N</i> = 82	1.26 (.54) <i>N</i> = 46	.08
知識・科学 絵本	1.91 (.86) <i>N</i> = 89	1.38 (.60) <i>N</i> = 50	4.24**	1.82 (.86) <i>N</i> = 83	1.38 (.53) <i>N</i> = 47	3.57**
わらべうた・ 詩の絵本	1.16 (.40) <i>N</i> = 89	1.14 (.35) <i>N</i> = 50	.26	1.07 (.31) <i>N</i> = 82	1.06 (.25) <i>N</i> = 47	.179
その他の絵本	1.51 (.74) <i>N</i> = 88	1.39 (.53) <i>N</i> = 49	1.13	1.40 (.59) <i>N</i> = 82	1.34 (.56) <i>N</i> = 47	.59

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ ** $p < .01$

直近1カ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、それぞれ平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために *t* 検定を行った (表 3-27 参照)。

その結果、全体において3回目調査より2回目調査のほうが読み聞かせ冊数(合計)($t(109) = 2.39, p < .05$)、創作絵本($t(125) = 2.95, p < .01$)、ことばの絵本($t(126) = 2.04, p < .05$)の読み聞かせ冊数が多いことが示された。また、男児においても3回目調査より2回目調査のほうが創作絵本($t(80) = 2.21, p < .05$)、ことばの絵本($t(81) = 2.24, p < .05$)の読み聞かせ冊数が多いことが示された。

また、性差を検討するために *t* 検定を行った (表 3-28 参照)。その結果、いずれの調査においても女児より男児のほうが知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いことが示された(2回目調査 $t(130.86) = 3.51, p < .01$ 、3回目調査 $t(127) = 2.36, p < .05$)。

表 3-27 絵本の種類別読み聞かせ冊数（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値
読み聞かせ冊数（合計）	11.23 (4.08) N = 110	10.16 (4.05) N = 110	2.39*	11.42 (4.05) N = 69	1.36 (4.32) N = 69	1.72 †	10.90 (4.17) N = 41	9.83 (3.57) N = 41	1.78 †
創作絵本	3.21 (2.00) N = 126	2.63 (1.60) N = 126	2.95**	3.11 (1.90) N = 81	2.63 (1.61) N = 81	2.21*	3.38 (2.18) N = 45	2.64 (1.61) N = 45	1.95 †
昔話絵本	1.92 (1.26) N = 126	1.80 (1.13) N = 126	.95	1.84 (1.14) N = 80	1.79 (1.16) N = 80	.33	2.07 (1.44) N = 46	1.83 (1.10) N = 46	1.12
ことばの絵本	1.54 (.92) N = 127	1.34 (.90) N = 127	2.04*	1.63 (.99) N = 82	1.33 (.94) N = 82	2.24*	1.38 (.78) N = 45	1.36 (.83) N = 45	.17
知識・科学絵本	1.88 (1.11) N = 126	1.71 (.95) N = 126	1.72 †	2.10 (1.21) N = 79	1.86 (.98) N = 79	1.71 †	1.51 (.83) N = 47	1.47 (.86) N = 47	.41
わらべうた・詩の絵本	1.15 (.40) N = 128	1.13 (.70) N = 128	.37	1.14 (.38) N = 81	1.16 (.86) N = 81	.26	1.17 (.43) N = 47	1.06 (.25) N = 47	1.70 †
その他の絵本	1.62 (1.00) N = 126	1.51 (1.02) N = 126	.97	1.60 (.96) N = 80	1.48 (.89) N = 80	.91	1.65 (1.06) N = 46	1.57 (1.22) N = 46	.42

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法
 ※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 3-28 絵本の種類別読み聞かせ冊数（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差(t値)	男児	女児	性差(t値)
読み聞かせ冊数（合計）	11.16(3.96) N = 79	10.78(4.04) N = 46	.52	10.40(4.22) N = 78	9.86(3.81) N = 44	.69
創作絵本	3.07(1.89) N = 87	3.27(2.13) N = 49	.56	2.64(1.60) N = 83	2.63(1.60) N = 46	.03
昔話絵本	1.83(1.11) N = 87	2.02(1.39) N = 50	.89	1.85(1.33) N = 82	1.83(1.10) N = 46	.12
ことばの絵本	1.58(.96) N = 89	1.45(1.00) N = 49	.78	1.33(.94) N = 82	1.35(.82) N = 46	.11
知識・科学絵本	2.10(1.91) N = 87	1.50(.81) N = 50	3.51**	1.88(1.00) N = 82	1.47(.86) N = 47	2.36*
わらべうた・詩の絵本	1.13(.38) N = 89	1.16(.42) N = 50	.36	1.16(.85) N = 82	1.06(.25) N = 47	.74
その他の絵本	1.58(.94) N = 88	1.65(1.04) N = 48	.38	1.48(.88) N = 82	1.55(1.21) N = 47	.42

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法
 ※括弧内は標準偏差 ※ * p < .05 ** p < .01

3.2.2.3.4. 読み聞かせ方

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ方について、平均と標準偏差を求めた。また、秋田・無藤(1996)^[34]を参考に、4 項目を合計した「会話型読み聞かせ」(2 回目調査 $\alpha = .73$ 、3 回目調査 $\alpha = .78$)、5 項目を合計した「一人読み促進型読み聞かせ」(2 回目調査 $\alpha = .76$ 、3 回目調査 $\alpha = .68$) についても、平均と標準偏差を求めた。さらに、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-29 参照)。

その結果、全体において 2 回目調査より 3 回目調査のほうが「あまり話しかけたりせず、書かれている文章をそのまま読むようにした」読み聞かせ方でなかったことが示された ($t(116) = 2.42, p < .05$)。また、男児においても 2 回目調査より 3 回目調査のほうが「あまり話しかけたりせず、書かれている文章をそのまま読むようにした」読み聞かせ方でなかったことが示された ($t(76) = 2.16, p < .05$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-30 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-29 読み聞かせ方（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値
会話型(合計)	13.37 (2.99) N=117	13.46 (3.39) N=117	.33	13.17 (3.11) N=77	13.26 (3.46) N=77	.24	13.75 (2.73) N=40	13.85 (3.25) N=40	.27
会話をしながら	3.59 (.95) N=117	3.50 (1.06) N=117	.88	3.57 (1.01) N=77	3.40 (1.12) N=77	1.18	3.63 (.84) N=40	3.68 (.94) N=40	.35
絵に説明を加えながら	3.49 (1.02) N=117	3.44 (1.13) N=117	.41	3.40 (1.02) N=77	3.36 (1.17) N=77	.29	3.65 (1.03) N=40	3.60 (1.03) N=40	.32
ものの名前を教えながら	3.15 (1.00) N=117	3.13 (1.05) N=117	.27	3.09 (.99) N=77	3.13 (1.06) N=77	.32	3.28 (1.01) N=40	3.13 (1.04) N=40	.97
そのまま読む (逆転項目)	3.14 (1.10) N=117	3.39 (1.08) N=117	2.42*	3.10 (1.17) N=77	3.36 (1.05) N=77	2.16*	3.20 (.97) N=40	3.45 (1.15) N=40	1.20
一人読み 促進型(合計)	15.90 (4.09) N=115	15.83 (3.77) N=115	.20	15.70 (4.33) N=76	15.87 (3.60) N=76	.46	16.28 (3.59) N=39	15.77 (4.15) N=39	1.02
子どもが読めるところは 読ませながら	2.84 (1.23) N=116	2.90 (1.24) N=116	.43	2.78 (1.25) N=76	2.97 (1.19) N=76	1.42	2.98 (1.21) N=40	2.75 (1.34) N=40	1.01
字を 教えながら	2.34 (1.21) N=116	2.39 (1.19) N=116	.38	2.35 (1.29) N=77	2.48 (1.19) N=77	.84	2.33 (1.06) N=39	2.21 (1.20) N=39	.90
読み方を 教えてあげた	3.32 (1.27) N=117	3.17 (1.19) N=117	1.29	3.32 (1.31) N=77	3.18 (1.11) N=77	.98	3.33 (1.21) N=40	3.15 (1.35) N=40	.83
内容に説明を加えながら	3.33 (1.06) N=117	3.26 (1.09) N=117	.69	3.30 (1.10) N=77	3.13 (1.12) N=77	1.36	3.40 (.98) N=40	3.53 (.99) N=40	.78
自分で読んだ 時には褒める	4.00 (.97) N=117	4.11 (.88) N=117	1.24	3.94 (.98) N=77	4.13 (.82) N=77	1.59	4.13 (.94) N=40	4.08 (1.00) N=40	.44

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ * p < .05

表 3-30 読み聞かせ方（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
会話型(合計)	13.10(3.18) N = 83	13.67(2.76) N = 46	1.04	13.23(3.45) N = 80	13.69(3.34) N = 42	.72
会話をしながら	3.54(.99) N = 83	3.61(.86) N = 46	.38	3.38(1.13) N = 80	3.60(1.01) N = 42	1.06
絵に説明を加えながら	3.37(1.03) N = 83	3.61(1.00) N = 46	1.25	3.34(1.18) N = 80	3.52(1.09) N = 42	.85
ものの名前を教えながら	3.08(1.00) N = 83	3.26(1.02) N = 46	.95	3.11(1.07) N = 80	3.10(1.08) N = 42	.09
そのまま読む(逆転項目)	3.10(1.19) N = 83	3.20(.98) N = 46	.49	3.40(1.05) N = 80	3.48(1.13) N = 42	.37
一人読み促進型(合計)	15.74(4.43) N = 82	16.23(3.42) N = 44	.68	15.83(3.60) N = 80	15.55(4.07) N = 42	.39
子どもが読めるところは読ませながら	2.79(1.27) N = 82	2.93(1.20) N = 46	.62	2.96(1.20) N = 80	2.76(1.32) N = 42	.85
字を教えながら	2.36(1.28) N = 83	2.34(1.06) N = 44	.10	2.50(1.18) N = 80	2.19(1.17) N = 42	1.38
読み方を教えてあげた	3.35(1.31) N = 83	3.37(1.14) N = 46	.09	3.15(1.13) N = 80	3.12(1.37) N = 42	.13
内容に説明を加えながら	3.27(1.13) N = 83	3.35(.97) N = 46	.42	3.11(1.13) N = 80	3.45(1.02) N = 42	1.64
自分で読んだ時には褒める	3.96(.96) N = 83	4.09(.92) N = 46	.71	4.10(.84) N = 80	4.02(1.00) N = 42	.45

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差

3.2.2.3.5. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、子どもを対象にした本と大人を対象にした本それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-31 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-32 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-31 自宅の蔵書量 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t 値	2回目	3回目	t 値	2回目	3回目	t 値
子どもを対象にした本	4.95 (1.39) $N=129$	4.88 (1.42) $N=129$.85	4.82 (1.40) $N=83$	4.78 (1.44) $N=83$.38	5.17 (1.36) $N=46$	5.07 (1.39) $N=46$.96
大人を対象にした本	4.87 (1.86) $N=130$	4.82 (1.90) $N=130$.46	4.75 (1.91) $N=83$	4.76 (1.87) $N=83$.10	5.09 (1.77) $N=47$	4.94 (1.97) $N=47$.81

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

表 3-32 自宅の蔵書量 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	2回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
子どもを対象にした本	4.80 (1.42) $N=89$	5.08 (1.40) $N=49$	1.13	4.79 (1.43) $N=84$	5.09 (1.38) $N=47$	1.16
大人を対象にした本	4.72 (1.91) $N=90$	5.02 (1.78) $N=50$.91	4.76 (1.87) $N=83$	4.94 (1.97) $N=47$.51

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

3.2.2.3.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-33 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差について検討するために t 検定を行った (表 3-34 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-33 図書館などへ連れて行く頻度 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t 値	2回目	3回目	t 値	2回目	3回目	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	4.89 (1.42) $N=131$	4.80 (1.30) $N=131$.73	4.87 (1.30) $N=84$	4.74 (1.36) $N=84$.97	4.91 (1.63) $N=47$	4.91 (1.20) $N=47$.00
図書館	1.69 (.84) $N=131$	1.66 (.80) $N=131$.35	1.65 (.81) $N=84$	1.58 (.80) $N=84$.88	1.74 (.90) $N=47$	1.81 (.80) $N=47$.57
本屋	2.05 (.65) $N=131$	2.05 (.65) $N=131$.00	2.07 (.58) $N=84$	2.06 (.65) $N=84$.16	2.02 (.77) $N=47$	2.04 (.66) $N=47$.17
本のイベント	1.15 (.38) $N=131$	1.08 (.28) $N=131$	1.90†	1.14 (.39) $N=84$	1.10 (.30) $N=84$	1.16	1.15 (.36) $N=47$	1.06 (.25) $N=47$	1.66

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 3-34 図書館などへ連れて行く頻度 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	2回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差(t 値)	男児	女児	性差(t 値)
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	4.88(1.28) $N=90$	4.86(1.60) $N=50$.07	4.74(1.36) $N=84$	4.91(1.20) $N=47$.74
図書館	1.67(.81) $N=90$	1.72(.88) $N=50$.36	1.58(.80) $N=84$	1.81(.80) $N=47$	1.55
本屋	2.08(.57) $N=90$	2.00(.76) $N=50$.69	2.06(.65) $N=84$	2.04(.66) $N=47$.14
本のイベント	1.13(.37) $N=90$	1.14(.35) $N=50$.10	1.10(.30) $N=84$	1.06(.25) $N=47$.62

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法

※括弧内は標準偏差

3.2.2.3.7. 親子の交流の頻度

直近 1 ヶ月の親子の交流の頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-35 参照)。

その結果、全体において 2 回目調査より 3 回目調査のほうが「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いことが示された ($t(127) = 2.05, p < .05$)。また、男児においては 3 回目調査より 2 回目調査のほうが「一緒にスポーツ観戦に行く」頻度 ($t(81) = 2.13, p < .05$)、「一緒にスポーツをする」頻度 ($t(81) = 2.05, p < .05$) が高いことが示された。さらに、女兒においては 2 回目調査より 3 回目調査のほうが「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」の頻度が高いことが示された ($t(45) = 2.01, p < .05$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-36 参照)。

その結果、2 回目調査においては男児より女兒のほうが「よく話をする」頻度が高く ($t(119.08) = 2.57, p < .05$)、女兒より男児のほうが「一緒にスポーツ観戦に行く」頻度が高いこと ($t(133.16) = 2.35, p < .05$) が示された。3 回目調査においては、男児より女兒のほうが「よく話をする」頻度 ($t(115.44) = 3.13, p < .05$)、「一緒に買物に行く」頻度 ($t(123.04) = 3.03, p < .05$)、「一緒に料理をする」頻度 ($t(76.52) = 3.04, p < .05$) の頻度が高いことが示された。

表 3-35 親子の交流の頻度（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値
親子の交流の 頻度（合計）	23.52 (4.02) N = 126	23.56 (3.97) N = 126	.11	23.62 (4.11) N = 81	23.11 (3.72) N = 81	1.06	23.33 (3.88) N = 45	24.36 (4.31) N = 45	1.85 †
旅行や遊び	2.93 (.87) N = 129	3.01 (.85) N = 129	.89	2.99 (.82) N = 83	3.06 (.82) N = 83	.73	2.83 (.95) N = 46	2.91 (.92) N = 46	.52
夕飯	3.50 (.69) N = 129	3.49 (.69) N = 129	.24	3.49 (.67) N = 83	3.48 (.71) N = 83	.14	3.52 (.72) N = 46	3.50 (.66) N = 46	.21
映画	1.52 (.79) N = 129	1.48 (.88) N = 129	.37	1.57 (.78) N = 83	1.42 (.86) N = 83	1.35	1.42 (.81) N = 45	1.60 (.92) N = 45	1.31
話	3.55 (.53) N = 129	3.56 (.56) N = 129	.14	3.47 (.55) N = 83	3.46 (.59) N = 83	.16	3.70 (.47) N = 46	3.74 (.44) N = 46	.57
買い物	3.28 (.77) N = 129	3.36 (.74) N = 129	1.16	3.20 (.78) N = 83	3.24 (.81) N = 83	.37	3.41 (.75) N = 46	3.59 (.54) N = 46	1.66
スポーツ観戦	1.31 (.81) N = 128	1.22 (.65) N = 128	1.19	1.41 (.89) N = 82	1.18 (.57) N = 82	2.13*	1.13 (.62) N = 46	1.28 (.78) N = 46	1.64
ゲームや歌	2.86 (.91) N = 128	3.03 (.83) N = 128	2.05*	2.88 (.89) N = 82	2.99 (.84) N = 82	1.04	2.83 (.95) N = 46	3.11 (.82) N = 46	2.01*
スポーツ	2.44 (.99) N = 128	2.27 (1.00) N = 128	1.91	2.54 (.97) N = 82	2.32 (.95) N = 82	2.05*	2.26 (1.00) N = 46	2.20 (1.09) N = 46	.45
料理	2.10 (.89) N = 129	2.11 (.84) N = 129	.09	2.07 (.89) N = 83	1.94 (.74) N = 83	1.33	2.15 (.89) N = 46	2.41 (.93) N = 46	1.86 †

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 3-36 親子の交流の頻度（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
親子の交流の頻度 (合計)	23.60 (4.27) N = 88	23.10 (3.84) N = 49	.68	23.07 (3.73) N = 83	24.33 (4.27) N = 46	1.74 †
旅行や遊び	2.99 (.85) N = 89	2.76 (.94) N = 50	1.47	3.05 (.82) N = 84	2.91 (.92) N = 46	.86
夕飯	3.47 (.68) N = 89	3.50 (.71) N = 50	.23	3.49 (.70) N = 84	3.50 (.66) N = 46	.09
映画	1.60 (.81) N = 89	1.41 (.79) N = 49	1.32	1.42 (.85) N = 84	1.59 (.91) N = 46	1.06
話	3.47 (.57) N = 89	3.70 (.46) N = 50	2.57*	3.45 (.59) N = 84	3.74 (.44) N = 46	3.13**
買い物	3.22 (.77) N = 89	3.40 (.76) N = 50	1.30	3.23 (.81) N = 84	3.59 (.54) N = 46	3.03**
スポーツ観戦	1.42 (.91) N = 88	1.12 (.59) N = 50	2.35*	1.18 (.56) N = 84	1.28 (.78) N = 46	.88
ゲームや歌	2.87 (.92) N = 89	2.80 (.95) N = 50	.40	2.98 (.84) N = 83	3.11 (.82) N = 46	.87
スポーツ	2.52 (.98) N = 88	2.22 (1.00) N = 50	1.73 †	2.32 (.95) N = 84	2.20 (1.09) N = 46	.69
料理	2.06 (.88) N = 89	2.12 (.87) N = 50	.41	1.93 (.74) N = 84	2.41 (.93) N = 46	3.04**

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

3.2.2.4. 回答者の属性

回答者の属性について、性別と年齢の度数分布を示した（図 3-18、図 3-19 参照）。

集計の結果、回答者の性別はどちらの調査においても女性が多く、2 回目調査では 132 名（94.3%）、3 回目調査では 122 名（87.1%）であった。なお、別の質問項目で子どもとの関係について尋ねたところ、性別を「女性」と回答した人は全員母親であり、「男性」と回答した人は全員父親であった。

回答者の年齢については、どちらの調査においても 30 歳代という回答が多く、2 回目調査では 95 名（67.9%）、3 回目調査では 87 名（62.1%）であった。

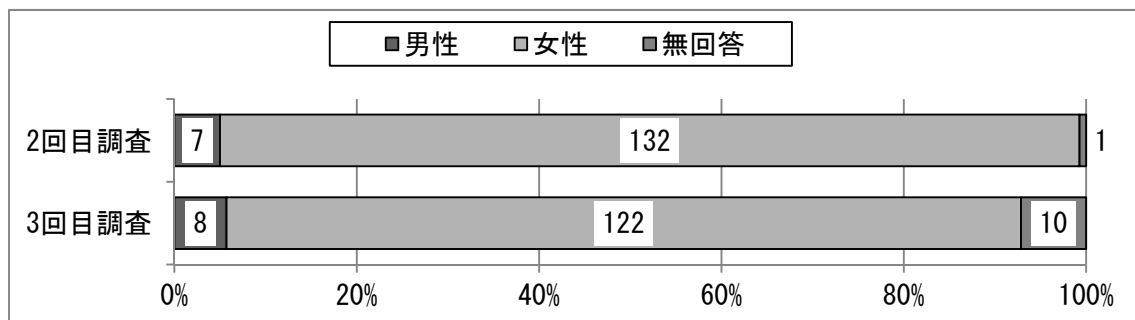


図 3-18 回答者の性別

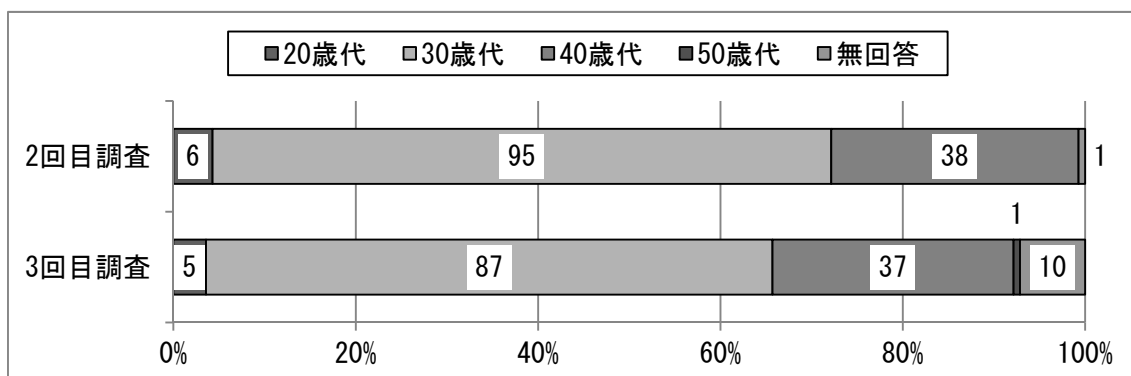


図 3-19 回答者の年齢

3.2.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-17 参照）。

その結果、全体において 2 回目調査より 3 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(134) = 4.31, p < .01$ ）、読字（ $t(134) = 6.34, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(134) = 4.81, p < .01$ ）の得点が高くなることが示された。また、男児においても読書のレディネス（合計）（ $t(85) = 3.68, p < .01$ ）、読字（ $t(85) = 5.17, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(85) = 5.48, p < .01$ ）の得点が高くなることが示された。さらに、女児においても読書のレディネス（合計）（ $t(48) = 2.27, p < .05$ ）、読字（ $t(48) = 4.04, p < .01$ ）の得点が高くなることが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-38 参照）。

その結果、2 回目調査においては、男児より女児のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(131.88) = 3.08, p < .01$ ）、読字（ $t(132.48) = 3.05, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(128.62) = 4.02, p < .01$ ）、物語理解（ $t(124.93) = 2.43, p < .05$ ）の得点が高いということが示された。3 回目調査においては、男児より女児のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(126.71) = 2.55, p < .05$ ）、読字（ $t(128.76) = 2.19, p < .05$ ）、物語理解（ $t(119.88) = 3.40, p < .01$ ）の得点が高くなるということが示された。

表 3-37 読書のレディネス得点（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値	2回目	3回目	t値
読書のレディネス(合計)	13.89 (3.80) N = 135	14.95 (2.98) N = 135	4.31**	13.26 (4.17) N = 86	14.50 (3.23) N = 86	3.68**	15.00 (2.75) N = 49	15.73 (2.30) N = 49	2.27*
読字	5.18 (1.14) N = 135	5.73 (.79) N = 135	6.34**	5.00 (1.30) N = 86	5.64 (.93) N = 86	5.17**	5.49 (.68) N = 49	5.88 (.39) N = 49	4.04**
絵と文字の結合	2.36 (.98) N = 135	2.73 (.66) N = 135	4.81**	2.14 (1.04) N = 86	2.71 (.70) N = 86	5.48**	2.73 (.73) N = 49	2.78 (.59) N = 49	.41
お話の構成	4.05 (2.17) N = 135	4.03 (2.13) N = 135	.12	3.93 (2.24) N = 86	3.85 (2.26) N = 86	.32	4.27 (2.04) N = 49	4.35 (1.96) N = 49	.32
物語理解	2.30 (.86) N = 135	2.44 (.72) N = 135	1.73 †	2.19 (.93) N = 86	2.30 (.75) N = 86	1.00	2.51 (.68) N = 49	2.69 (.59) N = 49	1.93 †

※読字は6点満点、絵と文字の結合は3点満点、お話の構成は6点満点、物語理解は3点満点

※読書のレディネス(合計)は18点満点

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 3-38 読書のレディネス得点（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差(t値)	男児	女児	性差(t値)
読書のレディネス(合計)	13.13(4.32) N = 87	15.00(2.75) N = 49	3.08**	14.53(3.21) N = 89	15.73(2.30) N = 49	2.55*
読字	4.95(1.36) N = 87	5.49(.68) N = 49	3.05**	5.63(.93) N = 89	5.88(.39) N = 49	2.19*
絵と文字の結合	2.11(1.06) N = 87	2.73(.73) N = 49	4.02**	2.72(.69) N = 89	2.78(.59) N = 49	.48
お話の構成	3.89(2.27) N = 87	4.27(2.04) N = 49	.97	3.88(2.19) N = 89	4.35(1.96) N = 49	1.25
物語理解	2.17(.93) N = 87	2.51(.68) N = 49	2.43*	2.30(.74) N = 89	2.69(.59) N = 49	3.40**

※読字は6点満点、絵と文字の結合は3点満点、お話の構成は6点満点、物語理解は3点満点

※読書のレディネス(合計)は18点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * p < .05 ** p < .01

3.2.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）

想像力得点（イメージ量、エピソード数、創造物数）について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-39 参照）。

その結果、全体において 2 回目調査より 3 回目調査のほうがエピソード数が増えることが示された ($t(121) = 2.08, p < .05$)。また、3 回目調査より 2 回目調査のほうが創造物数が増えることが示された ($t(121) = 2.95, p < .01$)。男児においては 3 回目調査より 2 回目調査のほうが創造物数が増えることが示された ($t(77) = 4.52, p < .01$)。女児においては 2 回目調査より 3 回目調査のほうがエピソード数が増えることが示された ($t(43) = 2.16, p < .05$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-40 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-39 想像力得点（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	2 回目	3 回目	t 値	2 回目	3 回目	t 値	2 回目	3 回目	t 値
イメージ量	3.60 (3.85) $N = 122$	4.32 (5.60) $N = 122$	1.34	3.74 (3.99) $N = 78$	3.76 (2.91) $N = 78$.03	3.34 (3.60) $N = 44$	5.32 (8.45) $N = 44$	1.70 †
エピソード数	1.91 (1.72) $N = 122$	2.39 (2.32) $N = 122$	2.08*	1.95 (1.63) $N = 78$	2.18 (1.84) $N = 78$.87	1.84 (1.89) $N = 44$	2.75 (2.97) $N = 44$	2.16*
創造物数	.77 (1.40) $N = 122$.30 (1.38) $N = 122$	2.95**	.88 (1.54) $N = 78$.14 (.45) $N = 78$	4.52**	.57 (1.11) $N = 44$.57 (2.21) $N = 44$.00

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-40 想像力得点（男女別の平均・標準偏差・性差）

	2 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
イメージ量	8.76 (3.96) $N = 82$	3.31 (3.57) $N = 45$.63	3.78 (3.01) $N = 83$	5.08 (8.16) $N = 48$	1.06
エピソード数	1.95 (1.63) $N = 82$	1.84 (1.87) $N = 45$.34	2.24 (1.97) $N = 83$	2.65 (2.88) $N = 48$.87
創造物数	.90 (1.58) $N = 82$.58 (1.10) $N = 45$	1.23	.13 (.44) $N = 83$.52 (2.12) $N = 48$	1.25

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

3.2.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係

3.2.5.1. 分析モデル

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係を検討するために、重回帰モデルを用いて分析を行った。なお、子どもに対する保護者の行動は読書と直接的な関係はないと考えられる親子の交流の頻度を除いた項目（読み聞かせ量、読み聞かせ方、自宅の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）を用い、合計値のあるものは合計値のみを用いた。

まず、2回目調査の保護者の読書好意度・読書量、回答者の性別、回答者の年齢、各子どもに対する保護者の行動を独立変数、3回目調査の各子どもに対する保護者の行動を従属変数として重回帰分析を行った（図 3-20 参照）。そして、時間的に前にある2回目調査の保護者の読書好意度・読書量から3回目調査の各子どもに対する保護者の行動へのパスが統計的に有意であれば、2回目調査の保護者の読書好意度・読書量が3回目調査の各子どもに対する保護者の行動に影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

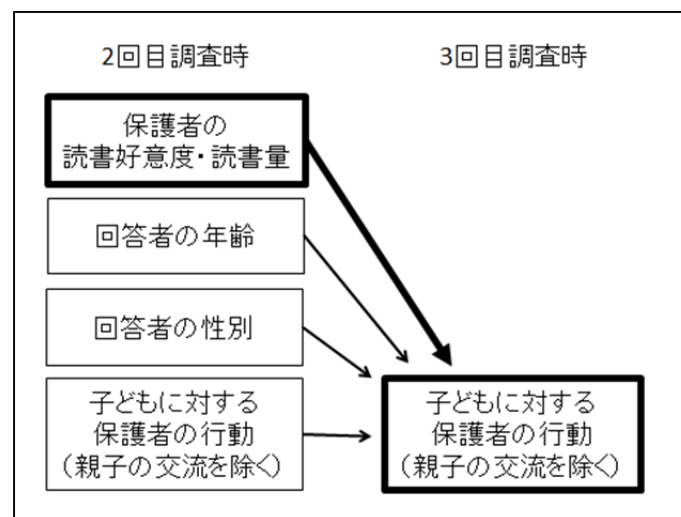


図 3-20 重回帰モデル

3.2.5.2. 結果

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。

その結果、保護者の読書好意度が高いほど図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高くなること（ $R^2 = .27$, $\beta = .17$, $p < .05$ ）、大人を対象とした本の蔵書量が多くなること（ $R^2 = .08$, $\beta = .20$, $p < .05$ ）が示された。また、保護者の読書量が多いほど子どもを対象とした本の蔵書量が多くなること（ $R^2 = .10$, $\beta = .20$, $p < .05$ ）が示された。

3.2.6. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

3.2.6.1. 分析モデル

(1)主効果 本分析では重回帰モデルを用いた。2 回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネスを独立変数、3 回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 3-21 参照）。そして、時間的に前にある 2 回目調査の幼児の家庭環境から 3 回目調査の幼児の読書のレディネスへのパスが統計的に有意であれば、2 回目調査の幼児の家庭環境が 3 回目調査の幼児の読書のレディネスに影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

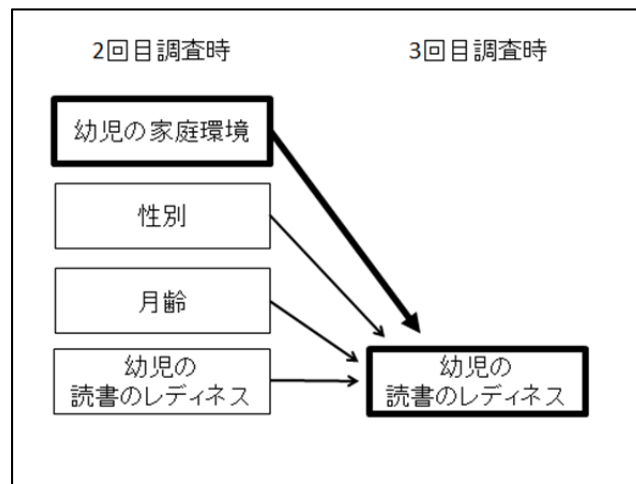


図 3-21 重回帰モデル

(2)交互作用 幼児の家庭環境の中でも絵本の読み聞かせは、子どもの読書能力と影響関係があると考えられる。また、絵本の読み聞かせが読書能力に及ぼす影響は、他の家庭環境によっても異なると考えられる。したがって、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数、絵本の種類別頻度・冊数の合計値）と調整要因と考えられる他の家庭環境（読み聞かせ方、子どもを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）との交互作用についても分析を行った。なお、調整要因の家庭環境は、合計値のあるものは合計値のみについて分析を行った。

まず、絵本の読み聞かせ量と他の家庭環境の交互作用項の検定を行った。2 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）、絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）の積（交互作用項）、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、3 回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 3-22 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、下位検定として以下の分析を行った。まず、交互作用項が有意であった 2 回目調査の家庭環境（調整要因）の数値に+1SD と-1SD を加えた変数を作成した。次に、2 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項を作成した。そして、2 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD)、2 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、3 回目調査の

各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行い、絵本の読み聞かせ量の主効果を検討した(図 3-23 参照)。なお、本研究では交互作用を検討する家庭環境(調整要因)は、読み聞かせ方(会話型、一人読み促進型)、子どものを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度(合計)を用いた。

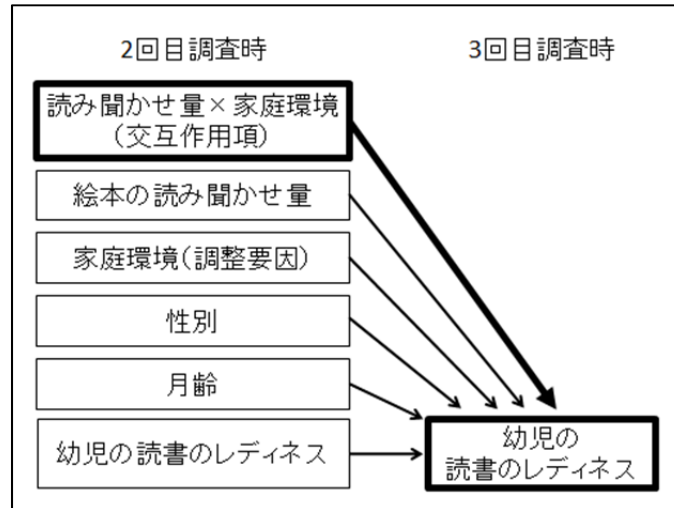


図 3-22 交互作用の分析モデル

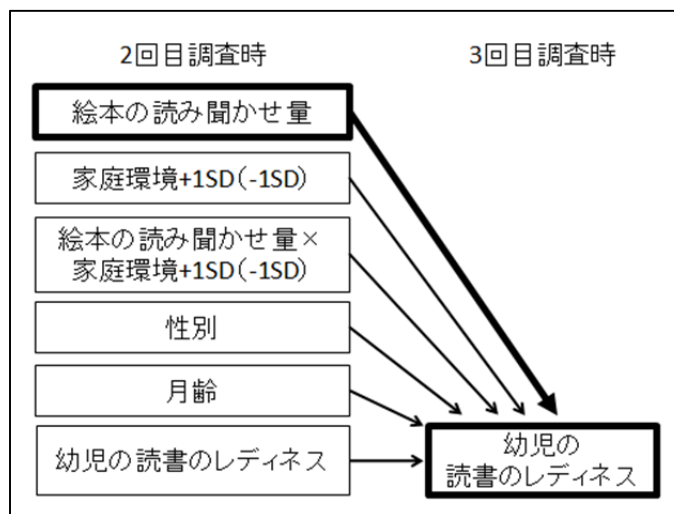


図 3-23 交互作用の下位検定の分析モデル

3.2.6.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、保護者の読書好意度・読書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.2.6.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係

3.2.6.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネスの影響関係

(1)主効果 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と各読書のレディネス得点に影響関係はみられなかった。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ量とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、絵と文字の結合においては、読み聞かせ頻度と会話型読み聞かせ（合計）の交互作用項（ $R^2 = .20$, $B = .05$, $p < .05$ ）、読み聞かせ冊数と会話型読み聞かせ（合計）の交互作用（ $R^2 = .20$, $B = .02$, $p < .05$ ）が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、会話型読み聞かせ（合計）でないと、読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなる傾向があること（ $R^2 = .20$, $B = .18$, $p < .10$ ）が示された。

3.2.6.3.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネスの影響関係

(1)主効果 絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各種類の絵本の読み聞かせ量を合計した、絵本の読み聞かせ頻度（合計）および冊数（合計）と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高まること（ $R^2 = .23$, $\beta = .20$, $p < .05$ ）が示された。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ頻度（合計）または冊数（合計）とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、絵と文字の結合においては、読み聞かせ冊数（合計）と会話型読み聞かせ（合計）の交互作用項（ $R^2 = .17$, $B = .01$, $p < .05$ ）が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、会話型読み聞かせ（合計）でないと、読み聞かせ冊数（合計）が多いほど絵と文字の結合が高くなること（ $R^2 = .17$, $B = .05$, $p < .05$ ）が示された。

3.2.6.3.3. 読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係

絵本の読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、「会話型読み聞かせ（合計）」「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」のそれぞれと読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほどお話の構成が高まること（ $R^2 = .26$, $\beta = .21$, $p < .05$ ）、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方で

あるほどお話の構成 ($R^2 = .27$, $\beta = .19$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .46$, $\beta = .16$, $p < .05$) が高まること、「読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .26$, $\beta = .20$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .45$, $\beta = .17$, $p < .05$) が高まることが示された。

3.2.6.3.4. 自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係

自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、自宅の蔵書量と各読書のレディネス得点に影響関係はみられなかった。

3.2.6.3.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係

図書館などへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各連れて行く頻度を合計した、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 (合計) と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。その結果、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.2.6.3.6. 親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係

親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各親子の交流の頻度を合計した、親子の交流の頻度 (合計) と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、親子の交流の頻度 (合計) が高いほどお話の構成が高まり ($R^2 = .25$, $\beta = .18$, $p < .05$)、物語理解が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.22$, $p < .01$)、一緒に旅行や遊びに行く頻度が高いほどお話の構成が高まること ($R^2 = .25$, $\beta = .17$, $p < .05$)、一緒に夕飯を食べる頻度が高いほど絵と文字の結合が高まること ($R^2 = .22$, $\beta = .16$, $p < .05$)、話をする頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .29$, $\beta = .27$, $p < .01$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .46$, $\beta = .17$, $p < .05$) が高まり、物語理解が低くなること ($R^2 = .17$, $\beta = -.16$, $p < .05$)、一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .25$, $\beta = -.32$, $p < .01$)、一緒にスポーツをする頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .18$, $\beta = -.18$, $p < .05$) が示された。

3.2.7. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

3.2.7.1. 分析モデル

(1)主効果 本分析では重回帰モデルを用いた。2 回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力を独立変数、3 回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図 3-24 参照）。そして、時間的に前にある 2 回目調査の幼児の家庭環境から 3 回目調査の幼児の想像力へのパスが統計的に有意であれば、2 回目調査の幼児の家庭環境が 3 回目調査の幼児の想像力に影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

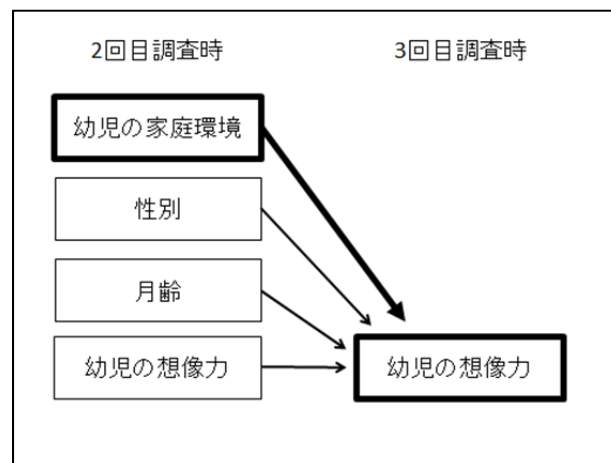


図 3-24 重回帰モデル

(2)交互作用 幼児の家庭環境の中でも絵本の読み聞かせは、子どもの読書能力と影響関係があると考えられる。また、絵本の読み聞かせが読書能力に及ぼす影響は、他の家庭環境によっても異なると考えられる。したがって、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数、絵本の種類別頻度・冊数の合計値）と調整要因と考えられる他の家庭環境（読み聞かせ方、子どもを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）との交互作用についても分析を行った。なお、調整要因の家庭環境は、合計値のあるものは合計値のみについて分析を行った。

まず、絵本の読み聞かせ量と他の家庭環境の交互作用項の検定を行った。2 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）、絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）の積（交互作用項）、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、3 回目調査の各想像力得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 3-25 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、下位検定として以下の分析を行った。まず、交互作用項が有意であった 2 回目調査の家庭環境（調整要因）の数値に+1SD と-1SD を加えた変数を作成した。次に、2 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項を作成した。そして、2 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD)、2 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、3 回目調査の各想像力得

点を従属変数とする重回帰分析を行い、絵本の読み聞かせ量の主効果を検討した（図 3-26 参照）。なお、本研究では交互作用を検討する家庭環境（調整要因）は、読み聞かせ方（会話型、一人読み促進型）、子どもの対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度（合計）を用いた。

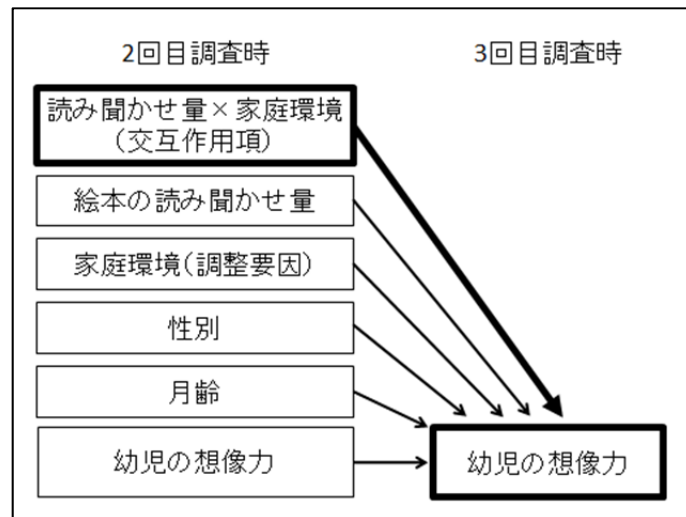


図 3-25 交互作用の分析モデル

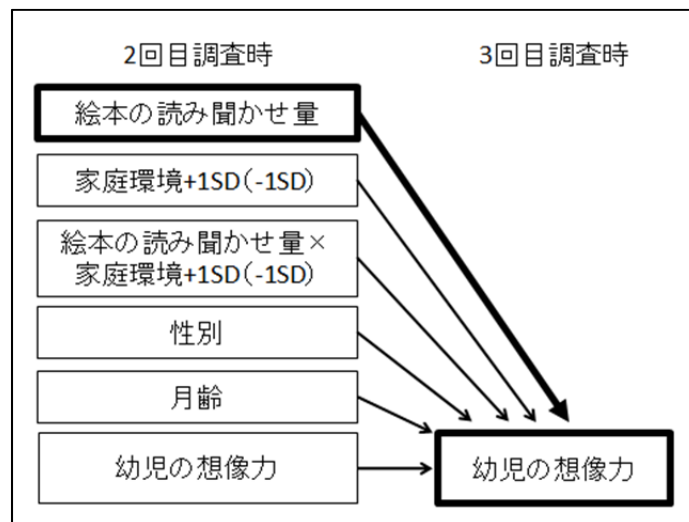


図 3-26 交互作用の下位検定の分析モデル

3.2.7.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、保護者の読書好意度・読書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.2.7.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係

3.2.7.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力の影響関係

(1)主効果 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、絵本の読み聞かせ量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ量とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれの交互作用項も有意ではなかった。

3.2.7.3.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力の影響関係

(1)主効果 絵本の種類別読み聞かせ量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各種類の絵本の読み聞かせ量を合計した、絵本の読み聞かせ頻度（合計）および冊数（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。

その結果、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .14$, $\beta = .27$, $p < .01$)、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .14$, $\beta = .25$, $p < .01$) が示された。

また、昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .11$, $\beta = .19$, $p < .05$)、ことばの絵本の読み聞かせ頻度が高いほどイメージ量 ($R^2 = .11$, $\beta = .18$, $p < .05$)、エピソード数 ($R^2 = .14$, $\beta = .28$, $p < .01$) が多くなること、ことばの絵本の読み聞かせ冊数が多いほどイメージ量 ($R^2 = .12$, $\beta = .20$, $p < .05$)、エピソード数 ($R^2 = .14$, $\beta = .34$, $p < .01$) が多くなること、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .11$, $\beta = .23$, $p < .05$)、知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .14$, $\beta = .28$, $p < .01$) が示された。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ頻度（合計）または冊数（合計）とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれの交互作用項も有意ではなかった。

3.2.7.3.3. 読み聞かせ方と想像力の影響関係

絵本の読み聞かせ方と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、「会話型読み聞かせ（合計）」「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」のそれぞれと想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、読み聞かせ方と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.2.7.3.4. 自宅の蔵書量と想像力の影響関係

自宅の蔵書量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、自宅の蔵書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.2.7.3.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と想像力の影響関係

図書館などへ連れて行く頻度と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各連れて行く頻度を合計した、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。

その結果、本屋へ連れて行く頻度が高いほどエピソード数が増えること（ $R^2 = .10$, $\beta = .19$, $p < .05$ ）が示された。

3.2.7.3.6. 親子の交流の頻度と想像力の影響関係

親子の交流の頻度と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各親子の交流の頻度を合計した、親子の交流の頻度（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、親子の交流の頻度と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.3. 1 回目調査および 3 回目調査の分析結果

3.3.1. 分析対象

本分析では、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 1・3 回目面接調査 1 の 3 つ全ての回答が得られた幼児、および、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 2・3 回目面接調査 2 の 3 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた(1 回目調査 12 名、3 回目調査 4 名)。したがって、本分析の分析対象は 70 名(男児 45 名、女児 25 名、1 回目調査時の平均月齢 61.10 カ月、3 回目調査時の平均月齢 75.00 カ月)とした。

3.3.2. 質問紙調査結果(幼児の家庭環境)

3.3.2.1. 幼児の属性

3.3.2.1.1. きょうだいの有無・きょうだいの中での幼児の位置

きょうだいの有無について、度数分布を示した(図 3-27 参照)。なお、この項目は 2 回目調査以降から加えたものであるため、3 回目調査の結果のみを示す。

集計の結果、3 回目調査で「一人っ子」と回答したのは 9 名(12.9%)、「兄弟姉妹がいる」と回答したのは 57 名(81.4%)であった。

また、きょうだいの中での幼児の位置について、度数分布を示した(図 3-28 参照)。集計の結果、1 回目調査で「長子」と回答したのは 32 名(45.7%)、「中間子」と回答したのは 11 名(15.7%)、「末子」と回答したのは 27 名(38.6%)であった。3 回目調査で「長子」と回答したのは 30 名(42.9%)、「中間子」と回答したのは 6 名(8.6%)、「末子」と回答したのは 30 名(42.9%)であった。

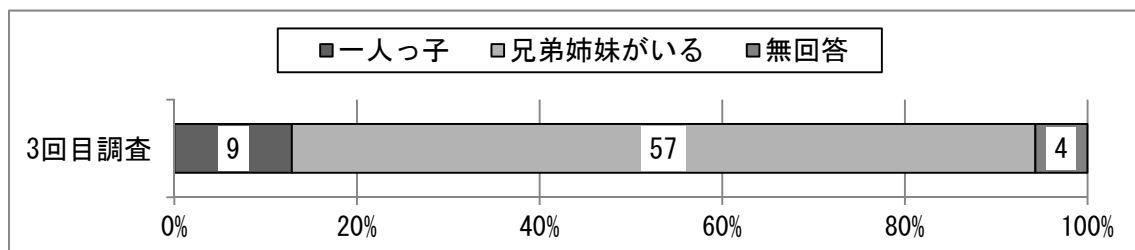


図 3-27 きょうだいの有無

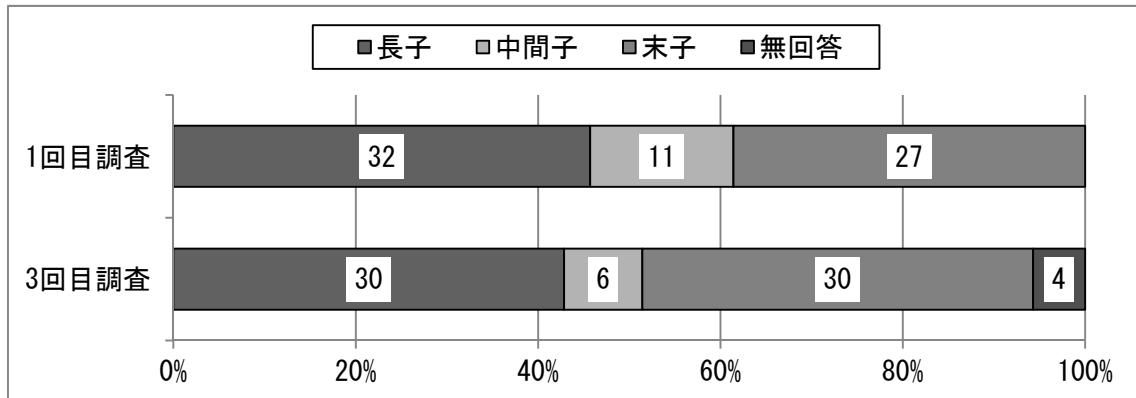


図 3-28 きょうだいの中での幼児の位置

3.3.2.1.2. 同居している人

幼児と同居している人について、度数分布を示した（図 3-29 参照）。集計の結果、どちらの調査においても母親と同居している幼児が最も多く、1 回目調査では 69 名（98.6%）、3 回目調査では 65 名（92.9%）であった。次いで多かったのは父親と同居している幼児であり、1 回目調査では 62 名（88.6%）、3 回目調査では 60 名（85.7%）であった。

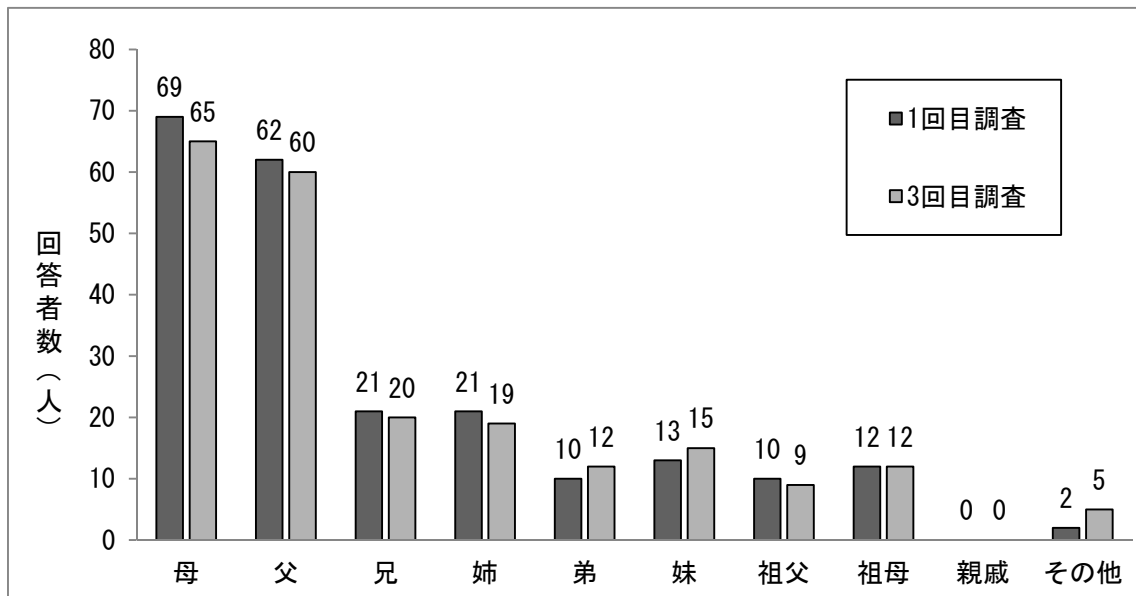


図 3-29 同居している人

3.3.2.2. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差について検討するために t 検定を行った (表 3-41 参照)。その結果、全体において 3 回目調査より 1 回目調査のほうが保護者の読書量が多いことが示された ($t(65) = 2.67, p < .05$)。また、男児においても、3 回目調査より 1 回目調査のほうが保護者の読書量が多いことが示された ($t(42) = 2.75, p < .05$)。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-42 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-41 保護者の読書好意度・読書量 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値
読書好意度	3.86 (1.16) $N = 66$	3.71 (1.20) $N = 66$	1.46	3.86 (1.15) $N = 43$	3.79 (1.21) $N = 43$.53	3.87 (1.22) $N = 23$	3.57 (1.20) $N = 23$	1.78 †
読書量	1.95 (.83) $N = 66$	1.74 (.71) $N = 66$	2.67*	2.02 (.83) $N = 43$	1.74 (.66) $N = 43$	2.75**	1.83 (.33) $N = 23$	1.74 (.81) $N = 23$.70

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-42 保護者の読書好意度・読書量 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
読書好意度	3.84 (1.17) $N = 45$	3.92 (1.19) $N = 25$.26	3.79 (1.21) $N = 43$	3.57 (1.20) $N = 23$.73
読書量	2.00 (.83) $N = 45$	1.80 (.82) $N = 25$.98	1.74 (.66) $N = 43$	1.74 (.81) $N = 23$.03

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差

3.3.2.3. 子どもに対する保護者の行動

3.3.2.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差について検討するために t 検定を行った（表 3-43 参照）。

その結果、全体において 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度が高く ($t(65) = 3.65, p < .01$)、読み聞かせ冊数も多いこと ($t(64) = 2.93, p < .01$) が示された。男児においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(42) = 2.23, p < .05$)。女児においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度が高く ($t(22) = 3.02, p < .01$)、読み聞かせ冊数も多いこと ($t(21) = 3.32, p < .01$) が示された。

また、性差について検討するために t 検定を行った（表 3-44 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-43 絵本の読み聞かせ量（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値
読み聞かせ 頻度	2.70 (.84) $N = 66$	2.26 (.83) $N = 66$	3.65**	2.67 (.81) $N = 43$	2.37 (.87) $N = 43$	2.23*	2.74 (.92) $N = 23$	2.04 (.71) $N = 23$	3.02**
読み聞かせ 冊数	3.45 (1.70) $N = 65$	2.86 (1.74) $N = 65$	2.93**	3.30 (1.58) $N = 43$	2.98 (1.73) $N = 43$	1.34	3.73 (1.91) $N = 22$	2.64 (1.79) $N = 22$	3.32**

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法

※3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法で尋ねたが、分析の際は 7 件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-44 絵本の読み聞かせ量（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
読み聞かせ 頻度	2.64 (.80) $N = 45$	2.76 (.93) $N = 25$.55	2.37 (.87) $N = 43$	2.04 (.71) $N = 23$	1.66
読み聞かせ 冊数	3.24 (1.57) $N = 45$	3.88 (1.94) $N = 25$	1.46	2.98 (1.73) $N = 43$	2.61 (1.75) $N = 23$.82

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法

※3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法で尋ねたが、分析の際は 7 件法に統一した

※括弧内は標準偏差

3.3.2.3.2. 絵本の読み聞かせをする人

直近1カ月の絵本の読み聞かせを行う人について、それぞれ回答者数を示した（図 3-30 参照）。

集計の結果、どちらの調査においても、最も読み聞かせを行う人は母親であるという回答が最も多く、1回目調査では57名（81.4%）、3回目調査では51名（72.9%）であった。

2番目に読み聞かせを行う人については、どちらの調査においても父親という回答が最も多く、1回目調査では27名（38.6%）、3回目調査では15名（21.4%）であった。

3番目に読み聞かせを行う人については、1回目調査では母、父、祖母、きょうだいという回答が最も多く、3名（4.3%）であった。3回目調査では父という回答が最も多く、5名（7.1%）であった。

また、最も読み聞かせを行う人、2番目に読み聞かせを行う人、3番目に読み聞かせを行う人の回答者数を合計したところ、最も回答者が多かったのは母親（1回目調査65名（92.9%）、3回目調査57名（81.4%））で、次いで多かったのは父親（1回目調査35名（50.0%）、3回目調査26名（37.1%））であった。

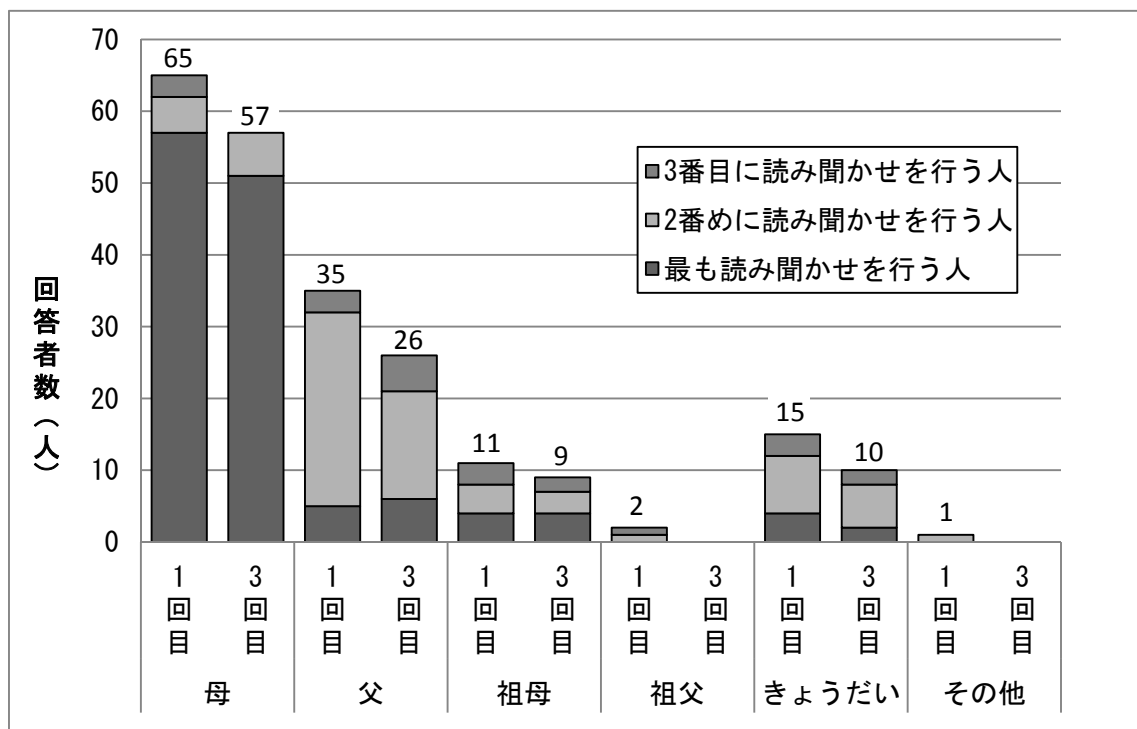


図 3-30 絵本の読み聞かせをする人

3.3.2.3.3. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-45 参照）。

その結果、全体において 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度（合計）（ $t(58) = 3.87, p < .01$ ）、創作絵本（ $t(62) = 4.21, p < .01$ ）、ことばの絵本（ $t(62) = 2.43, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いということが示された。男児においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度（合計）（ $t(39) = 3.18, p < .01$ ）、創作絵本（ $t(41) = 3.19, p < .01$ ）、ことばの絵本（ $t(41) = 2.04, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いということが示された。女児においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ頻度（合計）（ $t(18) = 2.16, p < .05$ ）、創作絵本（ $t(20) = 2.77, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いということが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-46 参照）。その結果、3 回目調査において女児より男児のほうが知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された（ $t(62.96) = 3.03, p < .01$ ）。

表 3-45 絵本の種類別読み聞かせ頻度（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	9.83 (2.14) $N = 59$	8.73 (2.24) $N = 59$	3.87**	10.10 (2.27) $N = 40$	9.03 (2.39) $N = 40$	3.18**	9.26 (1.73) $N = 19$	8.11 (1.79) $N = 19$	2.16*
創作絵本	2.32 (.84) $N = 63$	1.87 (.75) $N = 63$	4.21**	2.33 (.85) $N = 42$	1.98 (.84) $N = 42$	3.19**	2.29 (.85) $N = 21$	1.67 (.48) $N = 21$	2.77*
昔話絵本	1.76 (.69) $N = 62$	1.63 (.68) $N = 62$	1.38	1.75 (.63) $N = 40$	1.70 (.72) $N = 40$.47	1.77 (.81) $N = 22$	1.50 (.60) $N = 22$	1.55
ことばの絵本	1.41 (.64) $N = 63$	1.17 (.46) $N = 63$	2.43*	1.38 (.54) $N = 42$	1.17 (.44) $N = 42$	2.04*	1.48 (.81) $N = 21$	1.19 (.51) $N = 21$	1.37
知識・科学 絵本	1.63 (.77) $N = 63$	1.59 (.85) $N = 63$.57	1.79 (.75) $N = 42$	1.76 (.93) $N = 42$.20	1.33 (.73) $N = 21$	1.24 (.54) $N = 21$	1.45
わらべうた・ 詩の絵本	1.14 (.39) $N = 64$	1.08 (.32) $N = 64$.94	1.14 (.42) $N = 42$	1.07 (.34) $N = 42$.83	1.14 (.35) $N = 22$	1.09 (.29) $N = 22$.44
その他の絵本	1.59 (.71) $N = 63$	1.48 (.69) $N = 63$.88	1.62 (.70) $N = 42$	1.40 (.63) $N = 42$	1.60	1.52 (.75) $N = 21$	1.62 (.81) $N = 21$.36

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-46 絵本の種類別読み聞かせ頻度（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (<i>t</i> 値)	男児	女児	性差 (<i>t</i> 値)
読み聞かせ 頻度 (合計)	9.98 (2.22) <i>N</i> = 44	9.78 (2.49) <i>N</i> = 23	.33	9.02 (2.36) <i>N</i> = 41	8.00 (1.73)	1.76 †
創作絵本	2.27 (.86) <i>N</i> = 45	2.33 (.87) <i>N</i> = 24	.31	1.98 (.84) <i>N</i> = 42	1.68 (.48) <i>N</i> = 22	1.52
昔話絵本	1.77 (.64) <i>N</i> = 44	1.79 (.78) <i>N</i> = 24	.11	1.71 (.72) <i>N</i> = 41	1.48 (.59) <i>N</i> = 23	1.30
ことばの絵本	1.40 (.54) <i>N</i> = 45	1.50 (.78) <i>N</i> = 24	.63	1.17 (.44) <i>N</i> = 42	1.18 (.50) <i>N</i> = 22	.13
知識・科学 絵本	1.76 (.74) <i>N</i> = 45	1.39 (.72) <i>N</i> = 23	1.93 †	1.76 (.93) <i>N</i> = 42	1.22 (.52) <i>N</i> = 23	3.03**
わらべうた・ 詩の絵本	1.13 (.41) <i>N</i> = 45	1.17 (.38) <i>N</i> = 24	.33	1.07 (.34) <i>N</i> = 42	1.09 (.29) <i>N</i> = 23	.19
その他の絵本	1.64 (.68) <i>N</i> = 45	1.57 (.73) <i>N</i> = 24	.44	1.40 (.63) <i>N</i> = 42	1.57 (.79) <i>N</i> = 23	.90

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 ** *p* < .01

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために *t* 検定を行った（表 3-47 参照）。その結果、全体において 3 回目調査より 1 回目調査のほうが読み聞かせ冊数（合計）が多いことが示された ($t(56) = 2.14, p < .05$)。

また、性差を検討するために *t* 検定を行った（表 3-48 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-47 絵本の種類別読み聞かせ冊数（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値
読み聞かせ冊数（合計）	10.72 (3.66) N = 57	9.49 (4.12) N = 57	2.14*	10.49 (2.90) N = 39	10.64 (5.42) N = 39	.18	11.22 (5.00) N = 18	10.17 (4.36) N = 18	1.11
創作絵本	2.76 (1.59) N = 63	2.67 (1.83) N = 63	.49	2.68 (1.35) N = 41	2.76 (1.95) N = 41	.33	2.91 (2.00) N = 22	2.50 (1.63) N = 22	1.12
昔話絵本	1.85 (1.05) N = 62	1.92 (1.26) N = 62	.37	1.85 (.96) N = 41	1.98 (1.33) N = 41	.56	1.86 (1.24) N = 21	1.81 (1.12) N = 21	.16
ことばの絵本	1.46 (.93) N = 63	1.27 (.99) N = 63	1.11	1.36 (.58) N = 42	1.29 (1.11) N = 42	.37	1.67 (1.39) N = 21	1.24 (.70) N = 21	1.25
知識・科学絵本	1.71 (1.01) N = 62	1.68 (1.24) N = 62	.24	1.83 (.80) N = 41	1.85 (1.35) N = 41	.12	1.48 (1.33) N = 21	1.33 (.91) N = 21	1.37
わらべうた・詩の絵本	1.11 (.36) N = 63	1.19 (.97) N = 63	.60	1.12 (.40) N = 42	1.24 (1.17) N = 42	.62	1.10 (.30) N = 21	1.10 (.30) N = 21	.00
その他の絵本	1.70 (1.06) N = 63	1.65 (1.26) N = 63	.23	1.67 (.85) N = 42	1.45 (.94) N = 42	1.07	1.76 (1.41) N = 21	2.05 (1.69) N = 21	.59

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「7. 11冊以上」の7件法

※3回目調査では「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法で尋ねたが、分析の際は7件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 3-48 絵本の種類別読み聞かせ冊数（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差(t値)	男児	女児	性差(t値)
読み聞かせ冊数（合計）	10.39(2.75) N = 44	11.64(4.99) N = 22	1.10	9.63(4.41) N = 40	8.81(3.22) N = 21	.75
創作絵本	2.61(1.33) N = 44	3.08(2.02) N = 24	1.02	2.31(1.57) N = 42	2.09(1.20) N = 23	.59
昔話絵本	1.87(.94) N = 45	2.00(1.25) N = 24	.50	1.76(1.04) N = 41	1.55(.74) N = 22	.84
ことばの絵本	1.38(.58) N = 45	1.71(1.33) N = 24	1.16	1.26(.96) N = 42	1.18(.50) N = 22	.36
知識・科学絵本	1.80(.79) N = 45	1.61(1.38) N = 23	.73	1.68(1.08) N = 41	1.26(.69) N = 23	1.69 †
わらべうた・詩の絵本	1.11(.38) N = 45	1.17(.49) N = 23	.58	1.19(.97) N = 42	1.09(.29) N = 23	.50
その他の絵本	1.69(.82) N = 45	1.78(1.35) N = 23	.36	1.36(.73) N = 42	1.74(1.32) N = 23	1.51

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「7. 11冊以上」の7件法

※3回目調査では「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法で尋ねたが、分析の際は7件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ † $< .10$

3.3.2.3.4. 読み聞かせ方

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ方について、平均と標準偏差を求めた。また、秋田・無藤(1996)^[34]を参考に、4 項目を合計した「会話型読み聞かせ」(1 回目調査 $\alpha = .80$ 、3 回目調査 $\alpha = .81$)、5 項目を合計した「一人読み促進型読み聞かせ」(1 回目調査 $\alpha = .75$ 、3 回目調査 $\alpha = .73$) についても、平均と標準偏差を求めた。さらに、各回の差を検査するために t 検定を行った (表 3-49 参照)。

その結果、全体において 3 回目調査より 1 回目調査のほうが「会話型読み聞かせ (合計)」($t(58) = 2.85, p < .01$)、「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」読み聞かせ方($t(58) = 2.69, p < .01$)、「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方($t(58) = 2.48, p < .05$)、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」($t(58) = 2.71, p < .01$)、「読んでいる間や読んだ後に内容がわかるように、説明を加えながら読むようにした」($t(58) = 2.14, p < .05$)の読み聞かせ方であるということが示された。男児においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが「会話型読み聞かせ (合計)」であるということが示された($t(40) = 2.13, p < .05$)。女兒においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」($t(17) = 2.15, p < .05$)、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」($t(17) = 2.29, p < .05$)の読み聞かせであることが示された。

また、性差を検査するために t 検定を行った (表 3-50 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-49 読み聞かせ方（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値
会話型(合計)	14.08 (3.26) N = 59	12.71 (3.86) N = 59	2.85**	13.90 (3.17) N = 41	12.61 (1.06) N = 41	2.13*	14.50 (3.52) N = 18	12.94 (3.49) N = 18	2.00 †
会話をしながら	3.71 (.98) N = 59	3.31 (1.18) N = 59	2.69**	3.63 (.94) N = 41	3.27 (1.23) N = 41	1.89 †	3.89 (1.08) N = 18	3.39 (1.09) N = 18	2.15*
絵に説明を加えながら	3.61 (1.03) N = 59	3.15 (1.28) N = 59	2.48*	3.59 (1.02) N = 41	3.15 (1.33) N = 41	1.85 †	3.67 (1.09) N = 18	3.17 (1.20) N = 18	1.77 †
ものの名前を教えながら	3.39 (1.08) N = 59	2.95 (1.15) N = 59	2.71**	3.37 (1.11) N = 41	3.02 (1.21) N = 41	1.74 †	3.44 (1.04) N = 18	2.78 (1.00) N = 18	2.29* 17
そのまま読む (逆転項目)	3.37 (.95) N = 59	3.31 (1.22) N = 59	.45	3.32 (1.01) N = 41	3.17 (1.20) N = 41	.85	3.50 (.79) N = 18	3.61 (1.24) N = 18	.37
一人読み 促進型(合計)	15.86 (4.12) N = 57	15.42 (4.26) N = 57	.69	15.72 (4.47) N = 39	15.28 (4.25) N = 39	.57	16.17 (3.31) N = 18	15.72 (4.38) N = 18	.38
子どもが読めるところは 読ませながら	2.80 (1.26) N = 59	2.78 (1.29) N = 59	.09	2.78 (1.31) N = 40	2.83 (1.26) N = 40	.21	2.84 (1.17) N = 19	2.68 (1.38) N = 19	.43
字を 教えながら	2.48 (1.11) N = 58	2.41 (1.21) N = 58	.40	2.50 (1.20) N = 40	2.45 (1.22) N = 40	.24	2.44 (.92) N = 18	2.33 (1.24) N = 18	.36
読み方を 教えてあげた	3.20 (1.26) N = 60	3.10 (1.20) N = 60	.57	3.05 (1.34) N = 41	2.98 (1.19) N = 41	.31	3.53 (1.02) N = 19	3.37 (1.21) N = 19	.72
内容に説明を加えながら	3.47 (1.15) N = 59	3.10 (1.19) N = 59	2.14*	3.46 (1.21) N = 41	3.05 (1.24) N = 41	1.93 †	3.50 (1.04) N = 18	3.22 (1.06) N = 18	.93
自分で読んだ 時には褒める	3.92 (1.06) N = 60	3.98 (1.05) N = 60	.43	3.88 (1.14) N = 41	3.95 (1.09) N = 41	.39	4.00 (.88) N = 19	4.05 (.97) N = 19	.19

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 3-50 読み聞かせ方（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
会話型(合計)	13.93(3.05) N = 45	14.57(3.36) N = 23	.78	12.61(1.06) N = 41	13.00(3.34) N = 20	.37
会話をしながら	3.67(.93) N = 45	3.91(1.04) N = 23	.99	3.27(1.23) N = 41	3.40(1.05) N = 20	.41
絵に説明を加えながら	3.56(1.01) N = 45	3.65(1.03) N = 23	.37	3.15(1.33) N = 41	3.20(1.15) N = 20	.15
ものの名前を教えながら	3.38(1.09) N = 45	3.48(.99) N = 23	.37	3.02(1.21) N = 41	2.80(.95) N = 20	.72
そのまま読む(逆転項目)	3.33(1.00) N = 45	3.52(.79) N = 23	.78	3.17(1.20) N = 41	3.60(1.19) N = 20	1.31
一人読み促進型(合計)	15.81(4.44) N = 43	16.52(3.10) N = 23	.68	15.22(4.16) N = 41	15.50(4.22) N = 20	.25
子どもが読めるところは読ませながら	2.82(1.32) N = 44	2.88(1.08) N = 24	.18	2.80(1.25) N = 41	2.75(1.37) N = 20	.16
字を教えながら	2.52(1.21) N = 44	2.52(.90) N = 23	.00	2.44(1.21) N = 41	2.30(1.22) N = 20	.42
読み方を教えてあげた	3.09(1.33) N = 45	3.58(.93) N = 24	1.80+	2.98(1.19) N = 41	3.25(1.29) N = 20	.82
内容に説明を加えながら	3.42(1.78) N = 45	3.57(.95) N = 23	.51	3.05(1.24) N = 41	3.25(1.02) N = 20	.63
自分で読んだ時には褒める	3.91(1.13) N = 45	4.08(.83) N = 24	.66	3.95(1.09) N = 41	3.95(1.05) N = 20	.00

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ + < .10

3.3.2.3.5. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、子どもを対象にした本と大人を対象にした本のそれぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差について検討するために t 検定を行った（表 3-51 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-52 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-51 自宅の蔵書量（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	3回目	t 値	1回目	3回目	t 値	1回目	3回目	t 値
子どもを対象にした本	4.88 (1.48) $N = 66$	4.97 (1.38) $N = 66$.75	4.70 (1.44) $N = 43$	4.79 (1.44) $N = 43$.64	5.22 (1.54) $N = 23$	5.30 (1.22) $N = 23$.39
大人を対象にした本	4.58 (1.90) $N = 65$	4.57 (2.04) $N = 65$.12	4.69 (1.87) $N = 42$	4.69 (1.98) $N = 42$.00	4.39 (1.97) $N = 23$	4.35 (2.17) $N = 23$.20

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

表 3-52 自宅の蔵書量（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差(t 値)	男児	女児	性差(t 値)
子どもを対象にした本	4.64 (1.46) $N = 45$	5.32 (1.52) $N = 25$	1.83 †	4.79 (1.44) $N = 43$	5.30 (1.22) $N = 23$	1.45
大人を対象にした本	4.53 (1.90) $N = 45$	4.28 (1.95) $N = 25$.53	4.69 (1.98) $N = 43$	4.35 (2.17) $N = 23$.65

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

3.3.2.3.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館、本屋、本のイベントへ連れて行く頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-53 参照)。その結果、全体において 3 回目調査より 1 回目調査のほうが本のイベントへ行く頻度が高いということが示された ($t(65) = 2.18, p < .05$)。また、男児においても 3 回目調査より 1 回目調査のほうが本のイベントへ行く頻度が高いということが示された ($t(42) = 2.61, p < .05$)

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-54 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-53 図書館などへ連れて行く頻度 (平均・標準偏差・各回の比較)

	全体			男児			女児		
	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.02 (.25) $N = 66$	4.80 (.19) $N = 66$	1.51	5.05 (.22) $N = 43$	4.81 (.20) $N = 43$	1.30	4.96 (.33) $N = 23$	4.78 (.20) $N = 23$.75
図書館	1.77 (.84) $N = 66$	1.74 (.79) $N = 66$.34	1.79 (.80) $N = 43$	1.74 (.79) $N = 43$.40	1.74 (.92) $N = 23$	1.74 (.81) $N = 23$.00
本屋	2.11 (.68) $N = 66$	2.02 (.62) $N = 66$	1.06	2.07 (.59) $N = 43$	2.02 (.64) $N = 43$.42	2.17 (.83) $N = 23$	2.00 (.60) $N = 23$	1.28
本のイベント	1.14 (.35) $N = 66$	1.05 (.21) $N = 66$	2.18*	1.19 (.39) $N = 43$	1.05 (.21) $N = 43$	2.61*	1.04 (.21) $N = 23$	1.04 (.21) $N = 23$.00

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 3-54 図書館などへ連れて行く頻度 (男女別の平均・標準偏差・性差)

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.00 (.21) $N = 45$	4.88 (.33) $N = 25$.38	4.81 (.20) $N = 43$	4.78 (.20) $N = 23$.10
図書館	1.76 (.80) $N = 45$	1.72 (.89) $N = 25$.17	1.74 (.79) $N = 43$	1.74 (.81) $N = 23$.03
本屋	2.07 (.58) $N = 45$	2.08 (.86) $N = 25$.08	2.02 (.64) $N = 43$	2.00 (.60) $N = 23$.14
本のイベント	1.18 (.39) $N = 45$	1.08 (.28) $N = 25$	1.22	1.05 (.21) $N = 43$	1.04 (.21) $N = 23$.06

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差

3.3.2.3.7. 親子の交流の頻度

親子の交流の頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った (表 3-55 参照)。

その結果、全体において 1 回目調査より 3 回目調査のほうが親子の交流の頻度 (合計) が高いことが示された ($t(62) = 2.61, p < .05$)。女兒においても 1 回目調査より 3 回目調査のほうが親子の交流の頻度 (合計) ($t(21) = 2.99, p < .01$)、「一緒に旅行や遊びへ行く」頻度 ($t(21) = 2.11, p < .05$)、「一緒に買い物に行く」頻度 ($t(21) = 2.11, p < .05$)の頻度が高いことが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った (表 3-56 参照)。その結果、3 回目調査において男児より女兒のほうが「よく話をする」 ($t(60.40) = 2.15, p < .05$)、「一緒に買い物に行く」 ($t(59.00) = 2.44, p < .05$)の頻度が高いことが示された。

表 3-55 親子の交流の頻度（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値
親子の交流の 頻度（合計）	22.98 (3.47) N = 63	24.10 (3.61) N = 63	2.61*	23.10 (3.82) N = 41	23.66 (3.63) N = 41	1.09	22.77 (2.78) N = 22	24.91 (3.50) N = 22	2.99**
旅行や遊び	2.98 (.89) N = 63	3.14 (.82) N = 63	1.24	3.15 (.79) N = 41	3.17 (.80) N = 41	.15	2.68 (1.00) N = 22	3.09 (.87) N = 22	2.11*
夕飯	3.57 (.64) N = 63	3.68 (.53) N = 63	1.36	3.49 (.64) N = 41	3.63 (.58) N = 41	1.36	3.73 (.63) N = 22	3.77 (.43) N = 22	.37
映画	1.27 (.72) N = 63	1.49 (.93) N = 63	1.67 †	1.37 (.83) N = 41	1.46 (.90) N = 41	.60	1.09 (.43) N = 22	1.55 (1.01) N = 22	2.02 †
話	3.49 (.56) N = 63	3.59 (.59) N = 63	1.10	3.46 (.60) N = 41	3.49 (.64) N = 41	.23	3.55 (.51) N = 22	3.77 (.43) N = 22	1.56
買い物	3.21 (.70) N = 63	3.41 (.75) N = 63	1.86	3.20 (.68) N = 41	3.27 (.81) N = 41	.60	3.23 (.75) N = 22	3.68 (.57) N = 22	2.11*
スポーツ観戦	1.19 (.56) N = 63	1.13 (.49) N = 63	1.07	1.24 (.66) N = 41	1.17 (.59) N = 41	.90	1.09 (.29) N = 22	1.05 (.21) N = 22	.57
ゲームや歌	3.02 (.85) N = 63	3.17 (.81) N = 63	1.22	2.98 (.88) N = 41	3.15 (.82) N = 41	1.07	3.09 (.81) N = 22	3.23 (.81) N = 22	.59
スポーツ	2.24 (.91) N = 63	2.35 (.97) N = 63	.80	2.22 (.94) N = 41	2.34 (.94) N = 41	.70	2.27 (.88) N = 22	2.36 (1.05) N = 22	.39
料理	2.02 (.73) N = 63	2.13 (.91) N = 63	.87	2.00 (.78) N = 41	1.98 (.85) N = 41	.17	2.05 (.65) N = 22	2.41 (.96) N = 22	1.45

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 3-56 親子の交流の頻度（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
親子の交流の頻度 (合計)	23.28 (3.84) N = 43	22.96 (2.74) N = 24	.36	23.40 (3.77) N = 43	24.57 (3.80) N = 23	1.20
旅行や遊び	3.14 (.77) N = 43	2.75 (.99) N = 24	1.79 †	3.14 (.80) N = 43	3.04 (.88) N = 23	.45
夕飯	3.51 (.63) N = 43	3.67 (.70) N = 24	.93	3.60 (.58) N = 43	3.70 (.56) N = 23	.61
映画	1.37 (.82) N = 43	1.08 (.41) N = 24	1.93 †	1.44 (.88) N = 43	1.52 (.99) N = 23	.34
話	3.47 (.59) N = 43	3.58 (.50) N = 24	.83	3.44 (.67) N = 43	3.74 (.45) N = 23	2.15*
買い物	3.23 (.68) N = 43	3.29 (.75) N = 24	.33	3.23 (.81) N = 43	3.65 (.57) N = 23	2.44*
スポーツ観戦	1.23 (.65) N = 43	1.08 (.28) N = 24	1.30	1.16 (.57) N = 43	1.04 (.21) N = 23	.96
ゲームや歌	3.02 (.89) N = 43	3.17 (.82) N = 24	.65	3.09 (.84) N = 43	3.17 (.83) N = 23	.37
スポーツ	2.28 (.96) N = 43	2.25 (.85) N = 24	.12	2.33 (.92) N = 43	2.35 (1.03) N = 23	.09
料理	2.02 (.83) N = 43	2.08 (.65) N = 24	.31	1.95 (.84) N = 43	2.35 (.98) N = 23	1.71 †

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

3.3.2.4. 回答者の属性

回答者の属性について、性別と年齢の度数分布を示した（図 3-31、図 3-32 参照）。

集計の結果、回答者の性別はどちらの調査においても女性が多く、1 回目調査では 65 名（92.9%）、3 回目調査では 61 名（87.1%）であった。なお、別の質問項目で子どもとの関係について尋ねたところ、性別を「女性」と回答した人は全員母親であり、「男性」と回答した人は全員父親であった。

回答者の年齢については、どちらの調査においても 30 歳代という回答が多く、1 回目調査では 51 名（72.9%）、3 回目調査では 47 名（67.1%）であった。

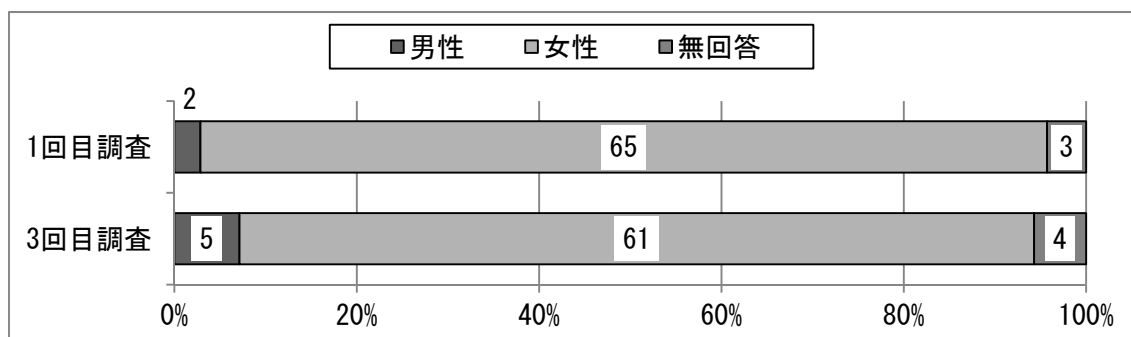


図 3-31 回答者の性別

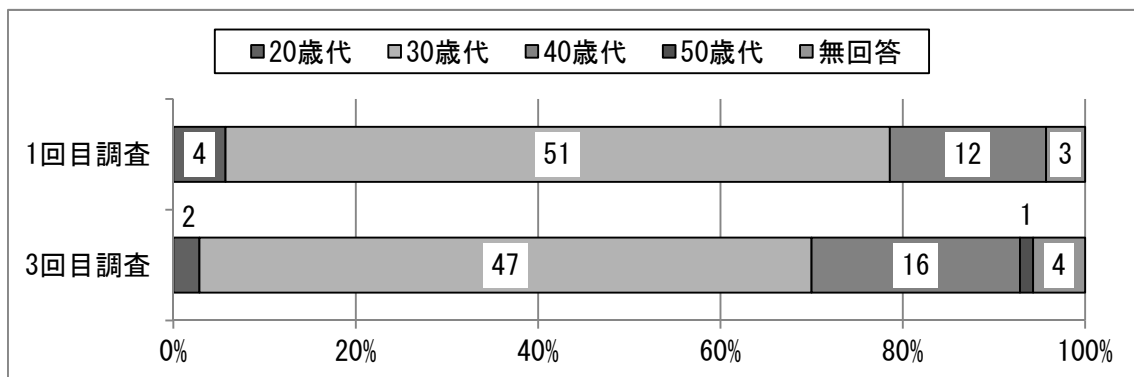


図 3-32 回答者の年齢

3.3.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-57 参照）。

その結果、全体において 1 回目調査より 3 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(68) = 14.53, p < .01$ ）、読字（ $t(68) = 5.88, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(68) = 8.48, p < .01$ ）、お話の構成（ $t(68) = 6.52, p < .01$ ）、物語理解（ $t(68) = 8.70, p < .01$ ）の得点が高いことが示された。男児においても 1 回目調査より 3 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(43) = 11.44, p < .01$ ）、読字（ $t(43) = 5.04, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(43) = 7.08, p < .01$ ）、お話の構成（ $t(43) = 5.04, p < .01$ ）、物語理解（ $t(43) = 5.95, p < .01$ ）の得点が高いことが示された。女兒においても 1 回目調査より 3 回目調査のほうが読書のレディネス（合計）（ $t(24) = 8.93, p < .01$ ）、読字（ $t(24) = 3.17, p < .01$ ）、絵と文字の結合（ $t(24) = 4.82, p < .01$ ）、お話の構成（ $t(24) = 4.09, p < .01$ ）、物語理解（ $t(24) = 7.19, p < .01$ ）の得点が高いことが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-58 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-57 読書のレディネス得点（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値	1回目	3回目	t値
読書のレディネス(合計)	10.17 (3.86) N = 69	15.20 (2.65) N = 69	14.53**	9.89 (4.22) N = 44	15.07 (2.81) N = 44	11.44**	10.68 (3.15) N = 25	15.44 (2.38) N = 25	8.93**
読字	4.74 (1.52) N = 69	5.80 (.47) N = 69	5.88**	4.55 (1.68) N = 44	5.80 (.46) N = 44	5.04**	5.08 (1.15) N = 25	5.80 (.50) N = 25	3.17**
絵と文字の結合	1.64 (1.28) N = 69	2.81 (.52) N = 69	8.48**	1.48 (1.36) N = 44	2.80 (.55) N = 44	7.08**	1.93 (1.12) N = 25	2.84 (.47) N = 25	4.82**
お話の構成	2.39 (2.20) N = 69	4.03 (2.05) N = 69	6.52**	2.41 (2.22) N = 44	3.93 (2.16) N = 44	5.04**	2.36 (2.20) N = 25	4.20 (1.87) N = 25	4.09**
物語理解	1.41 (.86) N = 69	2.57 (.65) N = 69	8.70**	1.45 (.93) N = 44	2.55 (.66) N = 44	5.95**	1.32 (.75) N = 25	2.60 (.65) N = 25	7.19**

※読字は6点満点、絵と文字の結合は3点満点、お話の構成は6点満点、物語理解は3点満点

※読書のレディネス(合計)は18点満点

※括弧内は標準偏差 ※ ** p < .01

表 3-58 読書のレディネス得点（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1回目調査			3回目調査		
	男児	女児	性差(t値)	男児	女児	性差(t値)
読書のレディネス(合計)	9.89(4.22) N = 44	10.68(3.15) N = 25	.82	15.07(2.78) N = 45	15.44(2.38) N = 25	.57
読字	4.55(1.68) N = 44	5.08(1.15) N = 25	1.56	5.80(.46) N = 45	5.80(.50) N = 25	.00
絵と文字の結合	1.48(1.36) N = 44	1.92(1.12) N = 25	1.46	2.80(.55) N = 45	2.84(.47) N = 25	.31
お話の構成	2.41(2.22) N = 44	2.36(2.20) N = 25	.09	3.93(2.14) N = 45	4.20(1.87) N = 25	.52
物語理解	1.45(.93) N = 44	1.32(.75) N = 25	.62	2.53(.66) N = 45	2.60(.65) N = 25	.41

※読字は6点満点、絵と文字の結合は3点満点、お話の構成は6点満点、物語理解は3点満点

※読書のレディネス(合計)は18点満点

※括弧内は標準偏差

3.3.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）

想像力得点（イメージ量、エピソード数、創造物数）について、それぞれ平均と標準偏差を求めた。また、各回の差を検討するために t 検定を行った（表 3-59 参照）。その結果、全体において 1 回目調査より 3 回目調査のほうがイメージ量($t(54) = 2.70, p < .01$)、エピソード数($t(54) = 4.00, p < .01$)の得点が高いということが示された。男児においても 1 回目調査より 3 回目調査のほうがイメージ量($t(31) = 3.62, p < .01$)、エピソード数($t(31) = 3.89, p < .01$)の得点が高いということが示された。

また、性差を検討するために t 検定を行った（表 3-60 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-59 想像力得点（平均・標準偏差・各回の比較）

	全体			男児			女児		
	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値	1 回目	3 回目	t 値
イメージ量	2.64 (4.17) $N = 55$	4.35 (3.94) $N = 55$	2.70**	2.00 (2.08) $N = 32$	3.94 (2.81) $N = 32$	3.62**	3.52 (5.94) $N = 23$	4.91 (5.14) $N = 23$	1.04
エピソード数	1.36 (2.08) $N = 55$	2.85 (2.36) $N = 55$	4.00**	1.03 (1.18) $N = 32$	2.66 (2.07) $N = 32$	3.89**	1.83 (2.87) $N = 23$	3.13 (2.74) $N = 23$	1.91 †
創造物数	.44 (1.36) $N = 55$.18 (.48) $N = 55$	1.55	.13 (.34) $N = 32$.16 (.45) $N = 32$.30	.87 (2.01) $N = 23$.22 (.52) $N = 23$	1.85 †

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 ** $p < .01$

表 3-60 想像力得点（男女別の平均・標準偏差・性差）

	1 回目調査			3 回目調査		
	男児	女児	性差 (t 値)	男児	女児	性差 (t 値)
イメージ量	1.94 (2.04) $N = 34$	3.42 (5.83) $N = 24$	1.37	4.00 (2.86) $N = 42$	5.08 (5.10) $N = 24$	1.11
エピソード数	1.00 (1.16) $N = 34$	1.79 (2.81) $N = 24$	1.48	2.55 (2.14) $N = 42$	3.17 (2.68) $N = 24$	1.03
創造物数	.12 (.33) $N = 34$.83 (1.97) $N = 24$	1.76 †	.14 (.42) $N = 42$.21 (.51) $N = 24$.57

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

3.3.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係

3.3.5.1. 分析モデル

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係を検討するために、重回帰モデルを用いて分析を行った。なお、子どもに対する保護者の行動は読書と直接的な関係はないと考えられる親子の交流の頻度を除いた項目（読み聞かせ量、読み聞かせ方、自宅の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）を用い、合計値のあるものは合計値のみを用いた。

まず、1回目調査の保護者の読書好意度・読書量、回答者の性別、回答者の年齢、各子どもに対する保護者の行動を独立変数、3回目調査の各子どもに対する保護者の行動を従属変数として重回帰分析を行った（図 3-33 参照）。そして、時間的に前にある1回目調査の保護者の読書好意度・読書量から3回目調査の各子どもに対する保護者の行動へのパスが統計的に有意であれば、1回目調査の保護者の読書好意度・読書量が3回目調査の各子どもに対する保護者の行動に影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

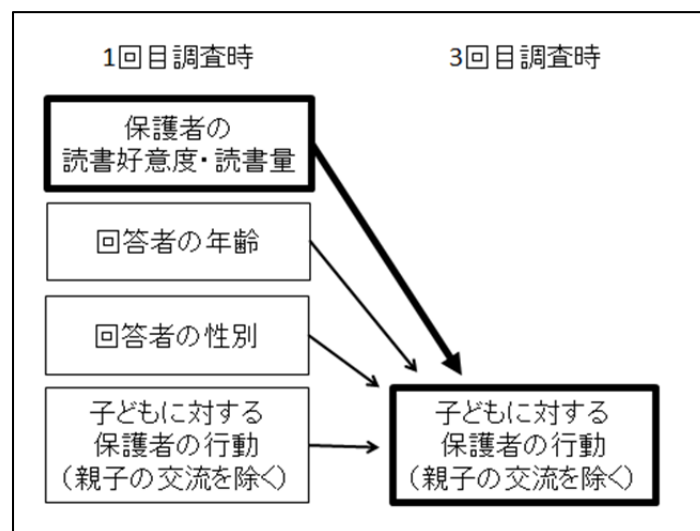


図 3-33 重回帰モデル

3.3.5.2. 結果

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

3.3.6. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

3.3.6.1. 分析モデル

(1)主効果 本分析では重回帰モデルを用いた。1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネスを独立変数、3回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った(図 3-34 参照)。そして、時間的に前にある1回目調査の幼児の家庭環境から3回目調査の幼児の読書のレディネスへのパスが統計的に有意であれば、1回目調査の幼児の家庭環境が3回目調査の幼児の読書のレディネスに影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

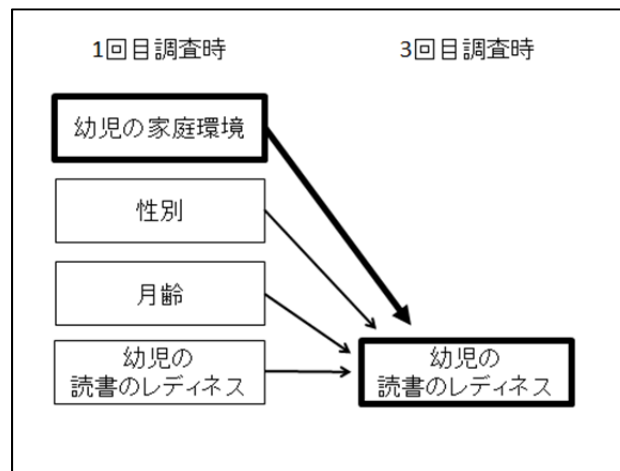


図 3-34 重回帰モデル

(2)交互作用 幼児の家庭環境の中でも絵本の読み聞かせは、子どもの読書能力と影響関係があると考えられる。また、絵本の読み聞かせが読書能力に及ぼす影響は、他の家庭環境によっても異なると考えられる。したがって、絵本の読み聞かせ量(頻度・冊数、絵本の種類別頻度・冊数の合計値)と調整要因と考えられる他の家庭環境(読み聞かせ方、子どもを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度)との交互作用についても分析を行った。なお、調整要因の家庭環境は、合計値のあるものは合計値のみについて分析を行った。

まず、絵本の読み聞かせ量と他の家庭環境の交互作用項の検定を行った。1回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境(調整要因)、絵本の読み聞かせ量と家庭環境(調整要因)の積(交互作用項)、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、3回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行った(図 3-35 参照)。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、下位検定として以下の分析を行った。まず、交互作用項が有意であった1回目調査の家庭環境(調整要因)の数値に+1SDと-1SDを加えた変数を作成した。次に、1回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境(調整要因)+1SD(-1SD)の交互作用項を作成した。そして、1回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境(調整要因)+1SD(-1SD)、1回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境(調整要因)+1SD(-1SD)の交互作用項、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、3回目調査の

各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行い、絵本の読み聞かせ量の主効果を検討した(図 3-36 参照)。なお、本研究では交互作用を検討する家庭環境(調整要因)は、読み聞かせ方(会話型、一人読み促進型)、子どもの対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度(合計)を用いた。

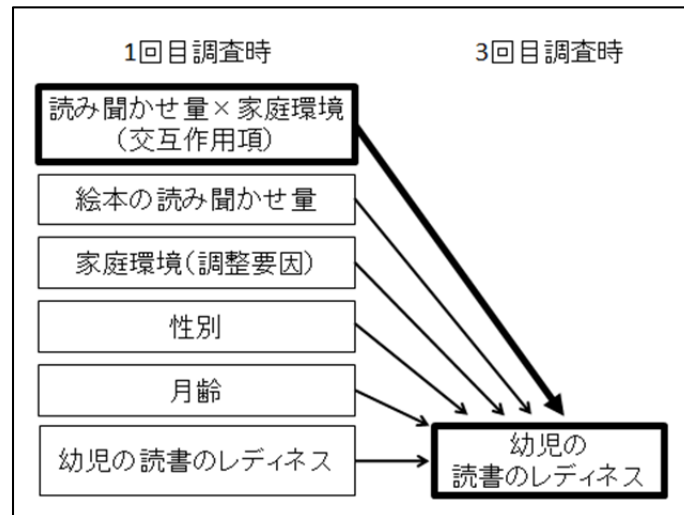


図 3-35 交互作用の分析モデル

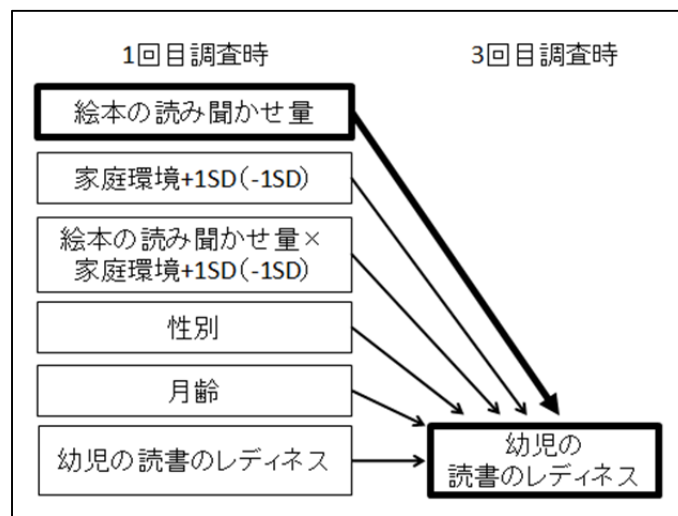


図 3-36 交互作用の下位検定の分析モデル

3.3.6.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、保護者の読書好意度・読書量と各読書のレディネス得点に影響関係はみられなかった。

3.3.6.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係

3.3.6.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネスの影響関係

(1)主効果 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と各読書のレディネス得点に影響関係はみられなかった。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ量とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、物語理解において、読み聞かせ冊数と子どもを対象とした本の蔵書量の交互作用 ($R^2 = .25$, $B = .08$, $p < .05$)、読み聞かせ頻度と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .21$, $B = .20$, $p < .05$) が有意であった。

また、読書のレディネス（合計）において、読み聞かせ頻度と子どもを対象とした本の蔵書量の交互作用項 ($R^2 = .43$, $B = .44$, $p < .05$)、読み聞かせ冊数と子どもを対象とした本の蔵書量の交互作用 ($R^2 = .43$, $B = .25$, $p < .05$) が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、子どもを対象とした本の蔵書量が多いと、読み聞かせ冊数が多いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .25$, $B = -.22$, $p < .05$) が示された。

また、図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いと、読み聞かせ頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .21$, $B = -.31$, $p < .05$) が示された。

3.3.6.3.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネスの影響関係

(1)主効果 絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各種類の絵本の読み聞かせ量を合計した、絵本の読み聞かせ頻度（合計）および冊数（合計）と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。その結果、絵本の種類別読み聞かせ量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ頻度（合計）または冊数（合計）とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれの交互作用項も有意ではなかった。

3.3.6.3.3. 読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係

絵本の読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、「会話型読み聞かせ」「一人読み促進型読み聞かせ」のそれぞれと読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、「子どもが自分でよんだときには読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど読字が低くなること ($R^2 = .17$, $\beta = -.27$, $p < .05$)、「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くな

ること ($R^2 = .12$, $\beta = -.25$, $p < .05$)、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .13$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .14$, $\beta = -.27$, $p < .05$) が示された。

3.3.6.3.4. 自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係

自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。

その結果、子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高まること ($R^2 = .17$, $\beta = .34$, $p < .01$)、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解 ($R^2 = .16$, $\beta = .31$, $p < .01$) および読書のレディネス (合計) ($R^2 = .44$, $\beta = .23$, $p < .05$) が高まることが示された。

3.3.6.3.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係

図書館などへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各連れて行く頻度を合計した、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 (合計) と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、図書館へ連れて行く頻度が高いほど物語理解 ($R^2 = .14$, $\beta = .28$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .44$, $\beta = .21$, $p < .05$) が高まること、本屋へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス (合計) が高まること ($R^2 = .45$, $\beta = .23$, $p < .05$)、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 (合計) が高いほど物語理解 ($R^2 = .14$, $\beta = .27$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .48$, $\beta = .30$, $p < .01$) が高まることが示された。

3.3.6.3.6. 親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係

親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各親子の交流の頻度を合計した、親子の交流の頻度 (合計) と読書のレディネスの影響関係についても分析を行った。

その結果、一緒に映画を見に行く頻度が高いほど読字 ($R^2 = .21$, $\beta = -.31$, $p < .05$)、物語理解 ($R^2 = .22$, $\beta = -.40$, $p < .01$) が低くなること、一緒に旅行や遊びに行く頻度が高いほど絵と文字の結合が高まることが示された ($R^2 = .18$, $\beta = .25$, $p < .05$)。

3.3.7. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

3.3.7.1. 分析モデル

(1)主効果 本分析では重回帰モデルを用いた。1 回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力を独立変数、3 回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図 3-37 参照）。そして、時間的に前にある 1 回目調査の幼児の家庭環境から 3 回目調査の幼児の想像力へのパスが統計的に有意であれば、1 回目調査の幼児の家庭環境が 3 回目調査の幼児の想像力に影響を及ぼしていることが推定される。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

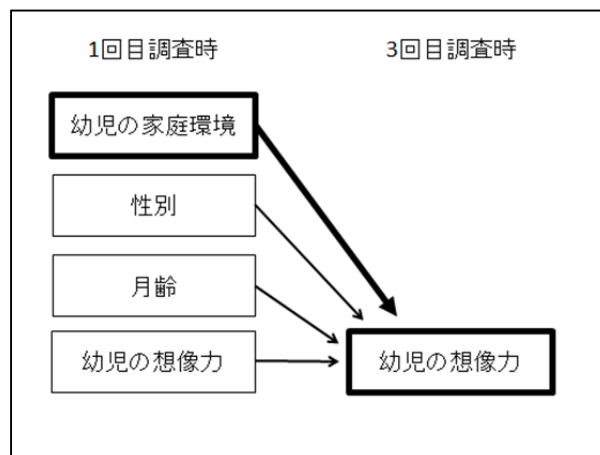


図 3-37 重回帰モデル

(2)交互作用 幼児の家庭環境の中でも絵本の読み聞かせは、子どもの読書能力と影響関係があると考えられる。また、絵本の読み聞かせが読書能力に及ぼす影響は、他の家庭環境によっても異なると考えられる。したがって、絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数、絵本の種類別頻度・冊数の合計値）と調整要因と考えられる他の家庭環境（読み聞かせ方、子どもを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度）との交互作用についても分析を行った。なお、調整要因の家庭環境は、合計値のあるものは合計値のみについて分析を行った。

まず、絵本の読み聞かせ量と他の家庭環境の交互作用項の検定を行った。1 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）、絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）の積（交互作用項）、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、3 回目調査の各想像力得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 3-38 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、下位検定として以下の分析を行った。まず、交互作用項が有意であった 1 回目調査の家庭環境（調整要因）の数値に+1SD と-1SD を加えた変数を作成した。次に、1 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項を作成した。そして、1 回目調査の絵本の読み聞かせ量、家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD)、1 回目調査の絵本の読み聞かせ量と家庭環境（調整要因）+1SD (-1SD) の交互作用項、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、3 回目調査の各想像力得

点を従属変数とする重回帰分析を行い、絵本の読み聞かせ量の主効果を検討した（図 3-39 参照）。なお、本研究では交互作用を検討する家庭環境（調整要因）は、読み聞かせ方（会話型、一人読み促進型）、子どものを対象とした本の蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度（合計）を用いた。

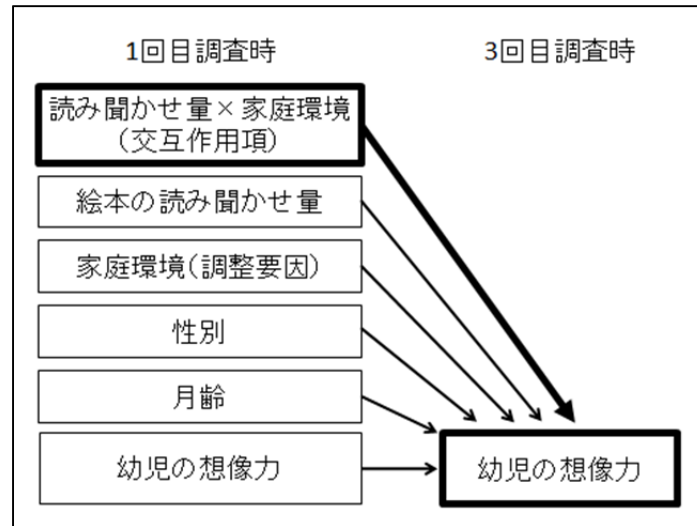


図 3-38 交互作用の分析モデル

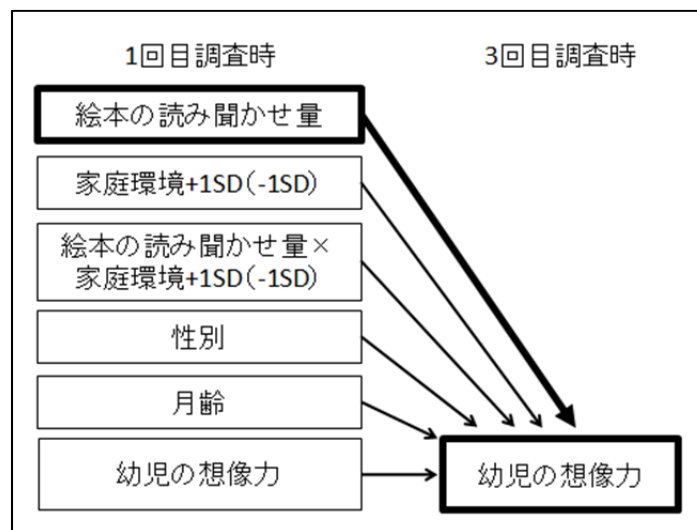


図 3-39 交互作用の下位検定の分析モデル

3.3.7.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、保護者の読書好意度・読書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.3.7.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係

3.3.7.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力の影響関係

(1)主効果 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。

その結果、絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が増えること ($R^2 = .25$, $\beta = .26$, $p < .05$)、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .14$, $\beta = .29$, $p < .05$) が示された。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ量とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれの交互作用項も有意ではなかった。

3.3.7.3.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力の影響関係

(1)主効果 絵本の種類別読み聞かせ量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各種類の絵本の読み聞かせ量を合計した、絵本の読み聞かせ頻度（合計）および冊数（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。

その結果、創作絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が増えること ($R^2 = .25$, $\beta = .26$, $p < .05$) が示された。

(2)交互作用 絵本の読み聞かせ頻度（合計）または冊数（合計）とその他の家庭環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、イメージ量において、読み聞かせ頻度（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .19$, $B = -.52$, $p < .05$) が有意であった。

エピソード数においては、読み聞かせ頻度（合計）と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の交互作用項 ($R^2 = .21$, $B = -.39$, $p < .05$) が有意であった。

その後、有意であった交互作用項について下位検定を行った。その結果、図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いと、読み聞かせ頻度（合計）が高いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .21$, $B = .57$, $p < .05$) が示された。

3.3.7.3.3. 読み聞かせ方と想像力の影響関係

絵本の読み聞かせ方と想像力の影響関係を検討するために重回帰分析を行った。また、「会話型読み聞かせ（合計）」「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」のそれぞれと想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、絵本の読み聞かせ方と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.3.7.3.4. 自宅の蔵書量と想像力の影響関係

自宅の蔵書量と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、自宅の蔵書量と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.3.7.3.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と想像力の影響関係

図書館などへ連れて行く頻度と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各連れて行く頻度を合計した、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.3.7.3.6. 親子の交流の頻度と想像力の影響関係

親子の交流の頻度と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。また、各親子の交流の頻度を合計した、親子の交流の頻度（合計）と想像力の影響関係についても分析を行った。その結果、親子の交流の頻度と各想像力得点に影響関係はみられなかった。

3.4. 1 回目調査・2 回目調査・3 回目調査の分析結果

3.4.1. 分析対象

本分析では、質問紙調査・面接調査 1・面接調査 2 のいずれにおいても、1 回目調査・2 回目調査・3 回目調査の 3 回全ての回答を得られていない幼児を除いた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（1 回目調査 16 名、2 回目調査 7 名、3 回目調査 6 名）。

したがって、本分析の分析対象は 110 名（男児 66 名、女児 44 名、1 回目調査時の平均月齢 61.12 カ月、2 回目調査時の平均月齢 67.89 カ月、3 回目調査時の平均月齢 74.92 カ月）とした。

3.4.2. 質問紙調査結果（幼児の家庭環境）

3.4.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-61 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-61 保護者の読書好意度・読書量の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
読書好意度	3.87(1.17) N = 71	3.99(1.02) N = 71	3.77(1.16) N = 71	2.36 †
読書量	1.96(.80) N = 71	1.92(.67) N = 71	1.77(.70) N = 71	2.54 †

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

3.4.2.2. 子どもに対する保護者の行動

3.4.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ頻度・冊数について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-62 参照）。その結果、読み聞かせ頻度($F(2, 138) = 6.41, p < .01$)、読み聞かせ冊数($F(2, 136) = 4.77, p < .05$)において有意差がみられた。

また、有意差のみられた項目において Bonferroni 法の多重比較による下位検定を行った。その結果、読み聞かせ頻度においては、1 回目調査と 3 回目調査の間で有意差がみられた($p < .01$)。

表 3-62 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
読み聞かせ頻度	2.66 (.81) N = 70	2.47 (.90) N = 70	2.27 (.78) N = 70	6.41**
読み聞かせ冊数	3.38 (1.58) N = 69	2.90 (1.49) N = 69	2.80 (1.60) N = 69	4.77*

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法

※2・3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法で尋ねたが、分析の際は 7 件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

3.4.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 カ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-63 参照）。その結果、読み聞かせ頻度（合計）（ $F(2, 118) = 6.93, p < .01$ ）、創作絵本の読み聞かせ頻度（ $F(2, 134) = 7.37, p < .05$ ）において有意差がみられた。

また、有意差のみられた項目において Bonferroni 法の多重比較による下位検定を行った。その結果、読み聞かせ頻度（合計）においては、1 回目調査と 2 回目調査の間（ $p < .05$ ）、1 回目調査と 3 回目調査の間（ $p < .01$ ）で有意差がみられた。創作絵本の読み聞かせ頻度においては、1 回目調査と 3 回目調査の間で有意差がみられた（ $p < .01$ ）。

表 3-63 絵本の種類別読み聞かせ頻度の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
読み聞かせ頻度（合計）	9.75 (2.11) N = 60	9.13 (2.30) N = 60	8.77 (2.09) N = 60	6.93**
創作絵本	2.31 (.76) N = 68	2.16 (.86) N = 68	1.91 (.69) N = 68	7.37**
昔話絵本	1.74 (.71) N = 66	1.64 (.69) N = 66	1.67 (.69) N = 66	.79
ことばの絵本	1.39 (.61) N = 66	1.33 (.51) N = 66	1.21 (.51) N = 66	2.44 †
知識・科学絵本	1.61 (.72) N = 67	1.58 (.70) N = 67	1.58 (.80) N = 67	.08
わらべうた・詩の絵本	1.12 (.37) N = 68	1.12 (.33) N = 68	1.07 (.32) N = 68	.53
その他の絵本	1.59 (.70) N = 66	1.42 (.68) N = 66	1.41 (.61) N = 66	1.96

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 ** p < .01

直近 1 カ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-64 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-64 絵本の種類別読み聞かせ冊数の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
読み聞かせ冊数(合計)	10.34 (2.92) N = 53	10.19 (3.41) N = 53	10.38 (4.79) N = 53	.06
創作絵本	2.71 (1.43) N = 65	2.88 (1.76) N = 65	2.66 (1.72) N = 65	.50
昔話絵本	1.86 (1.08) N = 66	1.85 (1.11) N = 66	1.94 (1.28) N = 66	.17
ことばの絵本	1.44 (.90) N = 66	1.44 (.81) N = 66	1.33 (1.04) N = 66	.36
知識・科学絵本	1.66 (.99) N = 65	1.75 (1.05) N = 65	1.60 (.93) N = 65	.87
わらべうた・詩の絵本	1.09 (.34) N = 67	1.10 (.31) N = 67	1.18 (.94) N = 67	.50
その他の絵本	1.62 (.80) N = 65	1.51 (.87) N = 65	1.58 (1.21) N = 65	.28

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「7. 11冊以上」の7件法

※2・3回目調査では「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法で尋ねたが、分析の際は7件法に統一した

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

3.4.2.2.3. 読み聞かせ方

直近1カ月の絵本の読み聞かせ方について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1回目調査から3回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った(表 3-65 参照)。その結果、「会話型読み聞かせ(合計)」($F(2, 120) = 4.22, p < .05$)、「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」読み聞かせ方($F(2, 120) = 3.17, p < .05$)、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」($F(2, 120) = 3.39, p < .05$)において有意差がみられた。

また、有意差のみられた項目において Bonferroni 法の多重比較による下位検定を行った。その結果、「会話型読み聞かせ(合計)」においては、1回目調査と3回目調査の間で有意差がみられた($p < .05$)。「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」読み聞かせ方においては、1回目調査と3回目調査の間で有意差がみられた($p < .05$)。「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方においては、1回目調査と3回目調査の間で有意差がみられた($p < .05$)。

表 3-65 読み聞かせ方の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
会話型(合計)	14.15(3.20) N = 61	13.20(3.11) N = 61	12.90(3.60) N = 61	4.22*
会話をしながら	3.75(.94) N = 61	3.64(1.03) N = 61	3.39(1.10) N = 61	3.17*
絵に説明を加えながら	3.61(1.07) N = 61	3.38(1.10) N = 61	3.25(1.18) N = 61	2.62 †
ものの名前を教えながら	3.41(1.06) N = 61	3.13(1.15) N = 61	3.02(1.04) N = 61	3.39*
そのまま読む(逆転項目)	3.38(.92) N = 61	3.05(1.19) N = 61	3.25(1.16) N = 61	2.14
一人読み促進型(合計)	15.84(3.93) N = 58	15.90(4.29) N = 58	15.72(4.03) N = 58	.05
子どもが読めるところは 読ませながら	2.78(1.20) N = 60	2.92(1.27) N = 60	2.83(1.29) N = 60	.24
字を教えながら	2.42(1.09) N = 60	2.28(1.25) N = 60	2.47(1.21) N = 60	.62
読み方を教えてあげた	3.26(1.21) N = 62	3.34(1.28) N = 62	3.18(1.24) N = 62	.42
内容に説明を加えながら	3.52(1.11) N = 61	3.33(1.09) N = 61	3.16(1.11) N = 61	2.54 †
自分で読んだ時には褒める	3.94(1.04) N = 62	4.00(.96) N = 62	4.06(.94) N = 62	.35

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

3.4.2.2.4. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った(表 3-66 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-66 自宅の蔵書量の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
子どもを対象にした本	4.80(1.47) N = 69	4.64(1.35) N = 69	4.86(1.44) N = 69	2.09
大人を対象にした本	4.59(1.83) N = 70	4.44(1.89) N = 70	4.59(2.03) N = 70	.79

※蔵書数は、「1. 0 冊」～「7. 100 冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

3.4.2.2.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 カ月の図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-67 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 3-67 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
図書館などへ連れて行く 頻度(合計)	4.99 (1.21) N = 71	5.00 (1.40) N = 71	4.86 (1.18) N = 71	.57
図書館	1.79 (.84) N = 71	1.76 (.87) N = 71	1.76 (.80) N = 71	.07
本屋	2.08 (.67) N = 71	2.11 (.69) N = 71	2.04 (.60) N = 71	.37
本のイベント	1.11 (.32) N = 71	1.13 (.38) N = 71	1.06 (.23) N = 71	1.63

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法
※括弧内は標準偏差

3.4.2.2.6. 親子の交流の頻度

直近1カ月の親子の交流の頻度について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1回目調査から3回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った(表 3-68 参照)。その結果、親子の交流の頻度(合計) ($F(2, 126) = 3.68, p < .05$)、「一緒に旅行や遊びへ行く」頻度($F(2, 130) = 4.39, p < .05$)、「一緒に買い物に行く」頻度($F(2, 130) = 4.15, p < .05$)において有意差がみられた。

また、有意差のみられた項目において Bonferroni 法の多重比較による下位検定を行った。その結果、親子の交流の頻度(合計)においては、1回目調査と3回目調査の間で有意差がみられた($p < .05$)。「一緒に旅行や遊びへ行く」頻度においては、2回目調査と3回目調査の間で有意差がみられた($p < .05$)。「一緒に買い物へ行く」頻度においては、1回目調査と3回目調査の間で有意差がみられた($p < .05$)。

表 3-68 親子の交流の頻度の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
親子の交流の頻度(合計)	22.97(3.60) N = 64	23.17(3.82) N = 66	24.09(3.62) N = 66	3.68*
旅行や遊び	3.05(.81) N = 66	2.80(.85) N = 66	3.14(.82) N = 66	4.39*
夕飯	3.50(.69) N = 66	3.50(.66) N = 66	3.65(.54) N = 66	2.49 †
映画	1.31(.79) N = 65	1.38(.70) N = 65	1.51(.94) N = 65	1.31
話	3.45(.56) N = 66	3.53(.50) N = 66	3.56(.59) N = 66	1.06
買い物	3.18(.70) N = 66	3.30(.72) N = 66	3.47(.71) N = 66	4.15*
スポーツ観戦	1.20(.57) N = 65	1.26(.71) N = 65	1.12(.48) N = 65	1.36
ゲームや歌	3.00(.84) N = 66	2.91(.96) N = 66	3.18(.76) N = 66	2.50 †
スポーツ	2.29(.90) N = 65	2.34(.99) N = 65	2.31(.99) N = 65	.07
料理	2.05(.71) N = 66	2.11(.86) N = 66	2.15(.88) N = 66	.41

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$

3.4.3. 面接調査 1 結果（幼児の読書のレディネス）

読書のレディネス得点について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-69 参照）。

その結果、読書のレディネス（合計）($F(2, 190) = 167.33, p < .01$)、読字($F(1.73, 164.55) = 35.37, p < .01$)、絵と文字の結合($F(1.81, 172.03) = 4.70, p < .01$)、お話の構成($F(2, 190) = 41.59, p < .01$)、物語理解($F(1.80, 170.70) = 77.30, p < .01$)において有意差がみられた。

また、有意差のみられた項目において Bonferroni 法の多重比較による下位検定を行った。その結果、読書のレディネス（合計）においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .01$)、2 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。読字においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .01$)、2 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。絵と文字の結合においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .01$)、2 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。お話の構成においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .01$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。物語理解においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .01$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。

表 3-69 読書のレディネス得点の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
読書のレディネス(合計)	10.07(3.71) N = 96	14.07(3.74) N = 96	15.13(2.78) N = 96	167.33**
読字	4.67(1.55) N = 96	5.21(1.10) N = 96	5.79(.46) N = 96	35.37**
絵と文字の結合	1.76(1.28) N = 96	2.41(.92) N = 96	2.78(.53) N = 96	46.70**
お話の構成	2.30(2.11) N = 96	4.02(2.24) N = 96	4.03(2.13) N = 96	41.59**
物語理解	1.38(.87) N = 96	2.44(.71) N = 96	2.52(.68) N = 96	77.30**

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス(合計)は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ ** $p < .01$

3.4.4. 面接調査 2 結果（幼児の想像力）

想像力得点について、それぞれの平均と標準偏差を求めた。また、1 回目調査から 3 回目調査の差を検討するために、被験者内の分散分析を行った（表 3-70 参照）。その結果、イメージ量($F(1.80, 133.47) = 5.63, p < .01$)、エピソード数($F(2, 148) = 12.69, p < .01$)において有意差がみられた。

また、有意差のみられた項目において Bonferroni 法の多重比較による下位検定を行った。その結果、イメージ量においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .05$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。エピソード数においては、1 回目調査と 2 回目調査($p < .01$)、1 回目調査と 3 回目調査($p < .01$)の間で有意差がみられた。

表 3-70 想像力得点の推移

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査	F 値
イメージ量	2.47 (3.95) N = 75	4.00 (3.76) N = 75	4.63 (6.55) N = 75	5.63**
エピソード数	1.23 (1.80) N = 75	2.16 (1.92) N = 75	2.73 (2.46) N = 75	12.69**
創造物数	.44 (1.29) N = 75	.76 (1.10) N = 75	.33 (1.57) N = 75	2.88 †

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ ** $p < .01$

3.5. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係の結果まとめ

保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係について、1回目調査と3回目調査の1年間の分析、1回目調査と2回目調査の半年間の分析、2回目調査と3回目調査の半年間の分析の3つの分析の結果をまとめた（表 3-71 参照）。

その結果、1回目調査と2回目調査、2回目調査と3回目調査の2つの半年間の分析で共通してみられたのは、保護者の読書好意度が高いほど大人を対象とした本の蔵書量が多くなるという影響関係であった。

表 3-71 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
保護者の読書好意度 →蔵書量（大人の本）		$R^2 = .70$ $\beta = .24^*$	$R^2 = .08$ $\beta = .20^*$
保護者の読書好意度 →図書館などへ連れて行く頻度（合計）			$R^2 = .27$ $\beta = .17^*$
保護者の読書量 →蔵書量（子どもの本）			$R^2 = .10$ $\beta = .20^*$

※ * $p < .05$

3.6. 家庭環境と幼児の読書能力の影響関係の結果まとめ

3.6.1. 家庭環境と読書のレディネスの影響関係

家庭環境と読書のレディネスの影響関係について、1回目調査と3回目調査の1年間の分析、1回目調査と2回目調査の半年間の分析、2回目調査と3回目調査の半年間の分析の3つの分析の結果をまとめた（表 3-72、表 3-73 参照）。

その結果、1年間の長期的な影響の分析（1回目調査と3回目調査）においては、子どもの本の蔵書量が多いほど物語理解が高まること、大人の本の蔵書量が多いほど読書のレディネス（合計）が高まること、大人の本の蔵書量が多いほど物語理解が高まること、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が高まること、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度が高いほど物語理解が高まること、図書館へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が高まること、図書館へ連れて行く頻度が高いほど物語理解が高まること、本屋へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が高まること、親子で旅行や遊びに行く頻度が高いほど絵と文字の結合が高まること示された。また、字を教えながら読む読み聞かせ方であるほど物語理解を低くすること、子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた読み聞かせ方であるほど読字を低くすること、絵に説明を加えながら読む読み聞かせ方であるほど物語理解を低くすること、ものの名前を教えながら読む読み聞かせ方であるほど物語理解を低くすること、親子で映画に行くことが読字および物語理解を低くすることが示された。

また、半年間の影響の分析においては、1回目調査と2回目調査、2回目調査と3回目調査の2つの分析を通じて安定した結果は見られなかった。半年間の影響の個別分析では、1回目調査と2回目調査の半年間の分析においては、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなり、2回目調査と3回目調査の半年間の分析では、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること示された。

さらに、1回目調査と2回目調査の半年間の分析では、親子で話をする頻度が高いほど物語理解が高くなり、2回目調査と3回目調査の半年間の分析では、親子で話をする頻度が高いほど物語理解が低くなること示された。

表 3-72 家庭環境と読書のレディネスの影響関係①

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
保護者の 読書好意度	保護者の読書好意度		$R^2 = .31$	
	→絵と文字の結合		$\beta = -.30^{**}$	
読書量	保護者の読書量		$R^2 = .35$	
	→絵と文字の結合		$\beta = -.36^{**}$	
絵本の種類別 読み聞かせ量	知識・科学絵本（頻度）		$R^2 = .10$	
	→物語理解		$\beta = .28^*$	
	わらべうた・詩の絵本（頻度）		$R^2 = .39$	
	→読書のレディネス（合計）		$\beta = -.21^*$	
	わらべうた・詩の絵本（頻度）		$R^2 = .31$	
	→お話の構成		$\beta = -.27^*$	
	その他の絵本（頻度）		$R^2 = .27$	$R^2 = .23$
	→絵と文字の結合		$\beta = -.22^*$	$\beta = .20^*$
読み聞かせ方	一人読み促進型読み聞かせ（合計）			$R^2 = .26$
	→お話の構成			$\beta = .21^*$
	一人読み促進型読み聞かせ（合計）		$R^2 = .09$	
	→物語理解		$\beta = -.27^*$	
	字を教えながら	$R^2 = .14$	$R^2 = .11$	
	→物語理解	$\beta = -.27^*$	$\beta = -.30^{**}$	
	読み方を教えてあげた	$R^2 = .17$		
	→読字	$\beta = -.27^*$		
	読み方を教えてあげた		$R^2 = .10$	
	→物語理解		$\beta = -.29^*$	
	一人で読んだら褒める		$R^2 = .10$	
	→物語理解		$\beta = -.28^*$	
	読めるところは読ませながら			$R^2 = .27$
	→お話の構成			$\beta = .19^*$
	読めるところは読ませながら			$R^2 = .46$
	→読書のレディネス（合計）			$\beta = .16^*$
	内容に説明を加えながら			$R^2 = .26$
	→お話の構成			$\beta = .20^*$
	内容に説明を加えながら			$R^2 = .45$
	→読書のレディネス（合計）			$\beta = .17^*$
絵に説明を加えながら	$R^2 = .12$			
→物語理解	$\beta = -.25^*$			
ものの名前を教えながら	$R^2 = .13$			
→物語理解	$\beta = -.26^*$			
自宅の蔵書量	蔵書量（子どもの本）	$R^2 = .17$		
	→物語理解	$\beta = .34^{**}$		
	蔵書量（大人の本）	$R^2 = .16$		
	→物語理解	$\beta = .31^{**}$		
蔵書量（大人の本）	$R^2 = .44$			
→読書のレディネス（合計）	$\beta = .23^*$			

※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 3-73 家庭環境ど読書のレディネスの影響関係②

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
図書館などへ 連れて行く 頻度	図書館・本屋・本のイベントへ 連れて行く頻度 (合計) →読書のレディネス (合計)	$R^2 = .48$ $\beta = .30^{**}$	$R^2 = .41$ $\beta = .24^*$	
	図書館・本屋・本のイベントへ 連れて行く頻度 (合計) →物語理解	$R^2 = .14$ $\beta = .27^*$		
	図書館へ連れて行く頻度 →読書のレディネス (合計)	$R^2 = .44$ $\beta = .21^*$	$R^2 = .43$ $\beta = .28^{**}$	
	図書館へ連れて行く頻度 →お話の構成		$R^2 = .29$ $\beta = .22^*$	
	図書館へ連れて行く頻度 →物語理解	$R^2 = .14$ $\beta = .28^*$		
	本屋へ連れて行く頻度 →読書のレディネス (合計)	$R^2 = .45$ $\beta = .23^*$		
	親子の交流	親子の交流 (合計) →お話の構成		
親子の交流 (合計) →物語理解				$R^2 = .19$ $\beta = -.22^{**}$
親子で買い物 →絵と文字の結合			$R^2 = .26$ $\beta = -.25^*$	
親子で旅行や遊び →絵と文字の結合		$R^2 = .18$ $\beta = .25^*$		
親子で旅行や遊び →お話の構成				$R^2 = .25$ $\beta = .17^*$
親子で旅行や遊び →物語理解			$R^2 = .11$ $\beta = .31^*$	
親子で話 →読書のレディネス (合計)				$R^2 = .46$ $\beta = .17^*$
親子で話 →お話の構成				$R^2 = .29$ $\beta = .27^{**}$
親子で話 →物語理解			$R^2 = .09$ $\beta = .25^*$	$R^2 = .17$ $\beta = -.16^*$
親子で夕飯 →絵と文字の結合				$R^2 = .22$ $\beta = .16^*$
親子でゲームや歌 →物語理解				$R^2 = .25$ $\beta = -.32^{**}$
親子でスポーツ →物語理解				$R^2 = .18$ $\beta = -.18^*$
親子で映画 →読字		$R^2 = .21$ $\beta = -.31^*$		
親子で映画 →物語理解		$R^2 = .22$ $\beta = -.40^{**}$		

※ * $p < .05$ ** $p < .01$

3.6.2. 家庭環境と想像力の影響関係

家庭環境と想像力の影響関係について、1回目調査と3回目調査の1年間の分析、1回目調査と2回目調査の半年間の分析、2回目調査と3回目調査の半年間の分析の3つの分析の結果をまとめた（表 3-74 参照）。

その結果、1年間の長期的な影響の分析（1回目調査と3回目調査）においては、絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなること、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること、創作絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなることが示された。

なお、半年間の影響の分析においては、1回目調査と2回目調査、2回目調査と3回目調査の2つの分析を通じて安定した結果は見られなかった。

表 3-74 家庭環境と想像力の影響関係

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
読み聞かせ量	絵本の読み聞かせ頻度	$R^2 = .25$		
	→創造物数	$\beta = .26^*$		
	絵本の読み聞かせ冊数	$R^2 = .14$		
	→エピソード数	$\beta = .29^*$		
絵本の種類別 読み聞かせ量	絵本の読み聞かせ頻度（合計）			$R^2 = .14$
	→エピソード数			$\beta = .27^{**}$
	絵本の読み聞かせ冊数（合計）			$R^2 = .14$
	→エピソード数			$\beta = .25^{**}$
	創作絵本の読み聞かせ頻度	$R^2 = .25$		
	→創造物数	$\beta = .26^*$		
	昔話絵本の読み聞かせ頻度			$R^2 = .11$
	→エピソード数			$\beta = .19^*$
	ことばの絵本の読み聞かせ頻度			$R^2 = .11$
	→イメージ量			$\beta = .18^*$
	ことばの絵本の読み聞かせ頻度			$R^2 = .14$
	→エピソード数			$\beta = .28^{**}$
	ことばの絵本の読み聞かせ冊数			$R^2 = .12$
	→イメージ量			$\beta = .20^*$
	ことばの絵本の読み聞かせ冊数			$R^2 = .14$
	→エピソード数			$\beta = .34^{**}$
	知識・科学絵本の読み聞かせ頻度			$R^2 = .11$
	→エピソード数			$\beta = .23^*$
	知識・科学絵本の読み聞かせ冊数			$R^2 = .14$
	→エピソード数			$\beta = .28^{**}$
図書館などへ 連れて行く頻度	本屋へ連れて行く頻度			$R^2 = .10$
	→エピソード数			$\beta = .19^*$
親子の交流	親子でゲームや歌を歌ったりする		$R^2 = .13$	
	→イメージ量		$\beta = -.34^*$	

※ * $p < .05$ ** $p < .01$

3.7. 絵本の読み聞かせ量と幼児の読書能力の影響関係への他の家庭環境の調整効果の結果 まとめ

3.7.1. 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果

絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果について、1回目調査と3回目調査の1年間の分析、1回目調査と2回目調査の半年間の分析、2回目調査と3回目調査の半年間の分析の3つの分析の結果をまとめた（表 3-75 参照）。

その結果、1年間の長期的な影響の分析（1回目調査と3回目調査）においては、子どもの本の蔵書量が多い群では、絵本の読み聞かせ冊数が多いほど物語理解が低くなること、図書館などへ連れて行く頻度が高い群では、読み聞かせ頻度が高いほど物語理解が低くなることが示された。

なお、半年間の影響の分析においては、1回目調査と2回目調査、2回目調査と3回目調査の2つの分析を通じて安定した結果は見られなかった。

表 3-75 読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
蔵書量（子どもの本） が多い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		$R^2 = .34$ $B = -.64^*$	
	絵本の読み聞かせ冊数 →物語理解	$R^2 = .25$ $B = -.22^*$		
図書館などへ連れて 行く頻度が高い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		$R^2 = .37$ $B = -.66^*$	
	絵本の読み聞かせ頻度 →物語理解	$R^2 = .21$ $B = -.31^*$		
図書館などへ連れて 行く頻度が低い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		$R^2 = .37$ $B = .44^*$	
会話型読み聞かせ ではない群	絵本の読み聞かせ頻度 →絵と文字の結合			$R^2 = .20$ $B = .18^+$
	絵本の読み聞かせ冊数（合計） →絵と文字の結合			$R^2 = .17$ $B = .05^*$

※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

3.7.2. 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果

について、1回目調査と3回目調査の1年間の分析、1回目調査と2回目調査の半年間の分析、2回目調査と3回目調査の半年間の分析の3つの分析の結果をまとめた(表 3-76参照)。

その結果、1年間の長期的な影響の分析(1回目調査と3回目調査)においては、図書館などへ連れて行く頻度が高い群では、絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなることが示された。

なお、半年間の影響の分析においては、1回目調査と2回目調査、2回目調査と3回目調査の2つの分析を通じて安定した結果は見られなかった。

表 3-76 読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
図書館などへ連れて 行く頻度が高い群	絵本の読み聞かせ冊数		$R^2 = .18$	
	→創造物数		$B = -.38*$	
	絵本の読み聞かせ頻度(合計)		$R^2 = .20$	
	→イメージ量		$B = -.80*$	
	絵本の読み聞かせ頻度(合計)		$R^2 = .19$	
	→創造物数		$B = -.23†$	
	絵本の読み聞かせ頻度(合計)	$R^2 = .21$		
	→エピソード数	$B = .57*$		
	絵本の読み聞かせ冊数(合計)		$R^2 = .23$	
	→イメージ量		$B = -.96**$	
絵本の読み聞かせ冊数(合計)		$R^2 = .21$		
→創造物数		$B = -.29**$		

※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

4. 施設環境をふまえた結果

4.1. 施設向け質問紙調査結果

4.1.1. 分析対象

施設向け質問紙調査では、質問紙調査、面接調査 1、面接調査 2 の調査対象とした 7 園のうち、6 園から回答を得られた。したがって本分析では、公立保育所 3 園、私立保育園 2 園、公立幼稚園 1 園の、計 6 園を分析対象とした。

なお、集計の際には各施設に番号をふることで匿名化をし、分析を行った。

4.1.2. 施設での絵本・紙芝居の蔵書量

4.1.2.1. 施設での絵本の蔵書量

施設の絵本の蔵書量について、それぞれの施設の回答を示した。また、蔵書量を幼児の人数で割った幼児一人あたりの絵本の冊数も示した（表 4-1 参照）。

その結果、施設全体における幼児一人あたりの絵本の冊数が最も多かったのは、3 の施設で 14.17 冊であった。また、年長クラスの部屋における幼児一人あたりの絵本の冊数が最も多かったのも 3 の施設で 23.27 冊であった。

表 4-1 施設での絵本の蔵書量

	1	2	3	4	5	6
施設全体の蔵書数	約 1200 冊	774 冊	850 冊	約 500 冊	2251 冊	800 冊
施設全体の蔵書数 ／施設の定員人数	約 5.71 冊	8.6 冊	14.17 冊	約 8.33 冊	8.04 冊	13.33 冊
年長クラスの蔵書数	蔵書あり 無回答	蔵書あり 127 冊	蔵書あり 256 冊	蔵書あり 50 冊	蔵書あり 103 冊	蔵書あり 150 冊
年長クラスの蔵書数 ／1クラスの人数	—	7.47 冊	23.27 冊	4.55 冊	3.55 冊	15 冊

4.1.2.2. 施設での紙芝居の蔵書量

施設の紙芝居の蔵書量について、それぞれの施設の回答を示した。また、蔵書量を幼児の人数で割った幼児一人あたりの紙芝居の巻数も示した（表 4-2 参照）。

その結果、半数以上の施設が年長クラスでは紙芝居を所蔵していないという結果になった。また、施設全体における幼児一人あたりの紙芝居の巻数が最も多かったのは、6の施設で6.67巻であった。さらに、年長クラスの部屋における幼児一人あたりの紙芝居の巻数が最も多かったのも6の施設で5巻であった。

表 4-2 施設での紙芝居の蔵書量

	1	2	3	4	5	6
施設全体の蔵書数	約 320 巻	204 巻	無回答	約 70 巻	297 巻	400 巻
施設全体の蔵書数 ／施設の定員人数	約 1.52 巻	2.27 巻	—	約 1.17 巻	1.06 巻	6.67 巻
年長クラスの蔵書数	蔵書なし	蔵書なし	無回答	蔵書なし	蔵書あり 120 巻	蔵書あり 50 巻
年長クラスの蔵書数 ／1クラスの人数	—	—	—	—	4.14 巻	5 巻

4.1.3. 施設でのおはなし会

施設でのおはなし会について、それぞれの施設の回答を示した（表 4-3 参照）。

その結果、おはなし会の頻度が最も高かったのは3の施設で、「毎日」という回答であった。おはなし会1回あたりの冊数が最も多く、時間が長かったのは6の施設で、6冊を40分行うという回答であった。おはなし会1回あたりの人数が最も多かったのは2の施設で、40人という回答であった。おはなし会を行っていた人については、「1. 保育士・幼稚園教諭」と「3. 保護者以外の読み聞かせ団体」という回答が同数であった。親子で参加できるおはなし会を行っていたのは、5と6の2つの施設のみであった。

表 4-3 施設でのおはなし会（頻度、1回あたりの冊数・時間・人数など）

	1	2	3	4	5	6
頻度	月1	週1	毎日	週5	月1	月1
1回あたりの冊数	1冊	3冊	1冊	1冊	5冊	6冊
1回あたりの時間	20分	30分	15～20分	10分	30分	40分
1回あたりの人数	27人	40人	11人	20人	30人	28人
行っていた人	3	1	1	1	3	3
親子で参加できる おはなし会の有無	なし	なし	なし	なし	年1	年2

※行っていた人は、「1. 保育士・幼稚園教諭」「2. 保護者」「3. 保護者以外の読み聞かせ団体」「4. その他」であった。

4.1.4. 施設での活動内容

4.1.4.1. 自由保育と一斉保育の割合

自由保育と一斉保育の割合について、それぞれの施設の回答を示した（表 4-4 参照）。

その結果、自由保育の割合のほうが高かった施設は 3 園、一斉保育の割合が高かった施設は 2 園、自由保育と一斉保育の割合が同じであった施設は 1 園であった。

表 4-4 自由保育と一斉保育の割合

	1	2	3	4	5	6
自由保育：一斉保育	6：4	6：4	6：4	3：7	2：8	5：5

4.1.4.2. 文字指導の程度

文字指導の程度について、それぞれの施設の回答を示した（表 4-5 参照）。

その結果、全ての施設が「遊びの中で必要に応じて教える」を選択した。また、「カルタなど文字に触れる機会を多くする」を選択したのは 5 園、「ドリル等を用いて教える」を選択した施設は 1 園であった。「その他」を選択したのは 1 園のみで、「フラッシュカード、プリント活動など毎日行っています（もじ・かず・ちえ・作文トレーニング・心のシリーズ。絵日記・文日記）」という回答であった。

表 4-5 文字指導の程度

	1	2	3	4	5	6
できるだけ教えない	×	×	×	×	×	×
遊びの中で必要に応じて教える	○	○	○	○	○	○
カルタ等文字に触れる機会を多くする	×	○	○	○	○	○
ドリル等を用いて教える	×	×	×	○	×	×
その他	×	×	×	×	○	×

※○は「あてはまる」、×は「あてはまらない」として示した

4.1.4.3. 絵本の貸出の有無

絵本の貸出の有無について、それぞれの施設の回答を示した（表 4-6 参照）。

その結果、貸出ありと回答したのは 3 園、貸出なしと回答したのは 3 園であった。

表 4-6 絵本の貸出の有無

	1	2	3	4	5	6
絵本の貸出の有無	なし	なし	あり	なし	あり	あり

4.1.4.4. 絵本や読み聞かせに関する保護者への情報提供

絵本や読み聞かせに関する保護者への情報提供について、それぞれの施設の回答を示した（表 4-7 参照）。

その結果、保護者への情報提供を行なっていると回答したのは4園であり、「絵本の紹介」については2園、「施設での読み聞かせ」については4園、「読み聞かせの方法」については3園、「その他」は1園であった。また、情報提供の方法は「1. おたより」という回答が最も多く、情報提供の頻度が最も高かったのは6の施設の「読み聞かせの方法」で週に5回であった。

表 4-7 絵本や読み聞かせに関する保護者への情報提供

	1	2	3	4	5	6
絵本の紹介	なし	なし	2:週1回 3:年1回	なし	なし	1:年6回 5:年2回
施設での読み聞かせ	なし	1:週1回	1	なし	1:月1回	1:月1回 4:年2回
読み聞かせの方法	なし	なし	2:月数回 3:年1回	なし	1:月1回	5:週5回
その他	なし	なし	図書の 貸出	なし	なし	なし

※表内の数字は情報提供の方法であり、「1. おたより」「2. 施設での掲示」「3. 保護者会」「4. インターネット」「5. その他」であった。

4.1.4.5. 各活動の頻度

各活動の頻度について、それぞれの施設の回答を示した。また、平均と標準偏差についても求めた（表 4-8 参照）。

その結果、活動の頻度平均値が最も高かったのは「読み聞かせ」であり、3.67であった。2番目に高かったのは「ごっこ遊び」「リズム表現・身体表現」であり、3であった。3番目に高かったのは「外遊び」「図画工作活動」「音楽活動」であり、3.17であった。

表 4-8 各活動の頻度

	1	2	3	4	5	6	平均(標準偏差)
外遊び	3	3	4	3	3	3	3.17(.37)
飼育・栽培	3	3	4	2	2	3	2.83(.69)
ごっこ遊び	3	3	3	3	3	3	3(0)
劇あそび	3	2	4	2	3	3	2.83(.69)
図画工作活動	3	3	4	3	3	3	3.17(.37)
読み聞かせ	4	3	4	3	4	4	3.67(.47)
リズム表現・身体表現	3	3	3	3	4	2	3(.58)
音楽活動	3	3	3	3	4	3	3.17(.37)
園外保育	3	2	2	3	2	3	2.5(.5)
文字の読み書き	1	3	3	3	4	2	2.67(.94)
たし算・ひき算	1	1	2	2	4	1	1.83(1.07)
英語	1	1	2	2	4	1	1.83(1.07)
詩・俳句の暗唱	1	1	1	1	4	1	1.5(1.12)

※頻度は「1. 全くしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

4.1.5. 回答者の属性

回答者の属性について、それぞれの施設の回答を示した（表 4-9 参照）。

その結果、回答者は全員女性で、5園は園長であった。3の施設については、園長が移動で昨年度の状況を知らなかったため、昨年度の年長クラスの担任が回答者であった。

表 4-9 回答者の属性

	1	2	3	4	5	6
性別	女性	女性	女性	女性	女性	女性
役職	園長	園長	旧5歳児 クラス担任	園長	園長	園長
勤務年数	4年目	8年目	2年 (今年移動)	7年目	9年目	3年目

4.1.6. 今後の分析について

以上の結果をもとに、6園を大きく2つのグループに分けて、施設環境による比較や、施設環境を統制した家庭環境と読書能力の影響関係の分析、家庭環境と施設環境の相互作用の分析を行う。したがって、文字を読むことに大きく影響を与えられとされる「文字指導の程度」において、遊びの中で指導を行っているにとどまっている施設1、2、3、6を施設A、ドリルやプリントなどでの指導を行っている施設4、5を施設Bとして、今後の分析を行う。

また、この2つのグループは自由保育と一斉保育の割合においても差がみられた。施設Aは自由保育の割合が多い、もしくは自由保育と一斉保育の割合が同じ施設であり、施設Bは一斉保育の割合が多い施設である。

4.2. 1 回目調査および 2 回目調査の分析結果

4.2.1. 分析対象

本分析では、施設向け質問紙調査の回答が得られた 6 園の中で、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 1・2 回目面接調査 1 の 3 つ全ての回答が得られた幼児、および、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 2・2 回目面接調査 2 の 3 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（1 回目調査 11 名、2 回目調査 5 名）。

したがって、本分析の分析対象は 70 名（男児 44 名、女児 26 名、1 回目調査時の平均月齢 61.03 カ月、2 回目調査時の平均月齢 67.74 カ月）とした。

4.2.2. 質問紙調査結果

4.2.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-10 参照）。その結果、1 回目調査において B の施設より A の施設のほうが保護者の読書量が多いことが示された ($t(68) = 2.48, p < .05$)。

表 4-10 保護者の読書好意度・読書量（施設環境による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読書好意度	4.05 (1.07) $N = 43$	3.70 (1.27) $N = 27$	1.22	4.10 (.96) $N = 40$	3.83 (1.13) $N = 24$	1.01
読書量	2.14 (.80) $N = 43$	1.67 (.73) $N = 27$	2.48*	1.98 (.73) $N = 40$	1.83 (.64) $N = 24$.79

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

4.2.2.2. 子どもに対する保護者の行動

4.2.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近1カ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-11 参照）。

その結果、1回目調査においてAの施設よりBの施設のほうが読み聞かせ冊数が多いことが示された($t(67) = 2.01, p < .05$)。2回目調査においてはAの施設よりBの施設のほうが読み聞かせ頻度が多いことが示された($t(61) = 2.13, p < .05$)。

表 4-11 絵本の読み聞かせ量（施設環境による比較）

	1回目調査			2回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読み聞かせ 頻度	2.60 (.76) $N = 43$	2.89 (.93) $N = 27$	1.39	2.28 (.97) $N = 39$	2.79 (.83) $N = 24$	2.13*
読み聞かせ 冊数	3.19 (1.68) $N = 43$	4.04 (1.76) $N = 26$	2.01*	3.31 (1.72) $N = 39$	4.04 (1.85) $N = 24$	1.60

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※読み聞かせ冊数は、1回目調査では「1. 0冊」～「7. 11冊以上」の7件法、2回目調査では「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

4.2.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度・冊数について、施設環境による比較を行うために *t* 検定を行った（表 4-12、表 4-13 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-12 絵本の種類別読み聞かせ頻度（施設環境による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	<i>t</i> 値	A	B	<i>t</i> 値
読み聞かせ 頻度（合計）	9.74 (2.03) <i>N</i> = 42	10.36 (2.72) <i>N</i> = 25	1.07	8.92 (2.54) <i>N</i> = 38	9.86 (2.03) <i>N</i> = 22	1.49
創作絵本	2.28 (.83) <i>N</i> = 43	2.52 (.87) <i>N</i> = 25	1.14	2.10 (.90) <i>N</i> = 40	2.21 (.88) <i>N</i> = 24	.47
昔話絵本	1.71 (.60) <i>N</i> = 42	1.85 (.83) <i>N</i> = 26	.76	1.51 (.64) <i>N</i> = 39	1.83 (.72) <i>N</i> = 23	1.78 †
ことばの絵本	1.42 (.59) <i>N</i> = 43	1.42 (.70) <i>N</i> = 26	.03	1.26 (.44) <i>N</i> = 39	1.50 (.66) <i>N</i> = 24	1.60
知識・科学 絵本	1.60 (.73) <i>N</i> = 43	1.65 (.80) <i>N</i> = 26	.26	1.58 (.71) <i>N</i> = 40	1.63 (.71) <i>N</i> = 24	.27
わらべうた・ 詩の絵本	1.09 (.37) <i>N</i> = 43	1.23 (.43) <i>N</i> = 26	1.36	1.13 (.34) <i>N</i> = 40	1.17 (.38) <i>N</i> = 24	.46
その他の絵本	1.63 (.69) <i>N</i> = 43	1.58 (.70) <i>N</i> = 26	.30	1.35 (.66) <i>N</i> = 40	1.57 (.73) <i>N</i> = 23	1.20

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 4-13 絵本の種類別読み聞かせ冊数（施設環境による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	<i>t</i> 値	A	B	<i>t</i> 値
読み聞かせ 冊数（合計）	10.17 (2.62) <i>N</i> = 42	12.04 (4.73) <i>N</i> = 24	1.79 †	10.00 (3.75) <i>N</i> = 37	11.05 (3.31) <i>N</i> = 19	1.03
創作絵本	2.74 (1.71) <i>N</i> = 42	3.04 (1.27) <i>N</i> = 25	.76	2.92 (1.99) <i>N</i> = 38	3.00 (1.90) <i>N</i> = 22	.15
昔話絵本	1.74 (.73) <i>N</i> = 43	2.15 (1.43) <i>N</i> = 26	1.36	1.64 (1.04) <i>N</i> = 39	2.13 (1.06) <i>N</i> = 23	1.78 †
ことばの絵本	1.42 (.63) <i>N</i> = 43	1.58 (1.27) <i>N</i> = 26	.69	1.28 (.61) <i>N</i> = 39	1.88 (1.36) <i>N</i> = 24	2.02 †
知識・科学 絵本	1.63 (.76) <i>N</i> = 43	1.85 (1.35) <i>N</i> = 26	.86	1.73 (1.06) <i>N</i> = 40	1.92 (1.06) <i>N</i> = 24	.70
わらべうた・ 詩の絵本	1.07 (.26) <i>N</i> = 43	1.24 (.60) <i>N</i> = 25	1.35	1.10 (.30) <i>N</i> = 40	1.17 (.38) <i>N</i> = 24	.77
その他の絵本	1.65 (.78) <i>N</i> = 43	1.81 (1.33) <i>N</i> = 26	.62	1.40 (.74) <i>N</i> = 40	1.77 (1.11) <i>N</i> = 22	1.41

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.2.2.2.3. 読み聞かせ方

直近1カ月の絵本の読み聞かせ方について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った(表 4-14 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-14 絵本の読み聞かせ方(施設環境による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
会話型(合計)	14.17(3.08) $N = 42$	13.69(3.79) $N = 26$.57	13.20(3.04) $N = 35$	12.38(2.99) $N = 24$	1.03
会話をしながら	3.74(.89) $N = 42$	3.62(1.10) $N = 26$.51	3.60(1.12) $N = 35$	3.50(.89) $N = 24$.37
絵に説明を加えながら	3.55(.99) $N = 42$	3.54(1.17) $N = 26$.03	3.43(1.12) $N = 35$	3.04(1.00) $N = 24$	1.36
ものの名前を教えながら	3.52(1.09) $N = 42$	3.15(1.05) $N = 26$	1.38	3.20(1.16) $N = 35$	2.92(1.14) $N = 24$.93
そのまま読む(逆転項目)	3.36(.96) $N = 42$	3.38(.90) $N = 26$.12	2.97(1.25) $N = 35$	2.92(1.06) $N = 24$.18
一人読み促進型(合計)	16.00(4.50) $N = 41$	15.24(3.05) $N = 25$.82	16.06(4.45) $N = 34$	15.39(4.13) $N = 23$.57
子どもが読めるところは読ませながら	2.74(1.21) $N = 42$	2.62(1.24) $N = 26$.40	2.88(1.30) $N = 35$	2.88(1.33) $N = 24$.02
字を教えながら	2.55(1.19) $N = 42$	2.28(.89) $N = 25$	1.04	2.26(1.22) $N = 35$	2.35(1.34) $N = 23$.27
読み方を教えてあげた	3.28(1.24) $N = 43$	3.08(1.16) $N = 26$.67	3.51(1.27) $N = 35$	3.17(1.27) $N = 24$	1.03
内容に説明を加えながら	3.38(1.10) $N = 42$	3.54(1.07) $N = 26$.58	3.46(1.09) $N = 35$	2.92(1.02) $N = 24$	1.92 †
自分で読んだ時には寝る	3.98(1.06) $N = 43$	3.88(1.07) $N = 26$.35	3.91(1.10) $N = 35$	3.92(.83) $N = 24$.01

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.2.2.2.4. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った(表 4-15 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-15 自宅の蔵書量(施設環境による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
子どもを対象にした本	4.58(1.61) $N = 43$	5.26(1.32) $N = 27$	1.84 †	4.36(1.46) $N = 39$	4.83(1.15) $N = 23$	1.31
大人を対象にした本	4.72(1.97) $N = 43$	4.19(1.67) $N = 27$	1.17	4.73(1.96) $N = 40$	4.00(1.82) $N = 24$	1.47

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.2.2.2.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館、本屋、本のイベントへ連れて行く頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-16 参照)。その結果、2 回目調査において B の施設より A の施設のほうが図書館などへ連れて行く頻度 (合計) ($t(62) = 2.23, p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度 ($t(60.75) = 3.00, p < .01$) が高いことが示された。

表 4-16 図書館などへ連れて行く頻度 (施設環境による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
図書館などへ連れて行く頻度 (合計)	5.21 (1.19) $N = 43$	4.70 (1.14) $N = 27$	1.76 †	5.38 (1.60) $N = 40$	4.58 (.88) $N = 24$	2.23*
図書館	1.95 (.90) $N = 43$	1.56 (.70) $N = 27$	1.96 †	2.03 (1.00) $N = 40$	1.46 (.51) $N = 24$	3.00**
本屋	2.14 (.60) $N = 43$	1.96 (.65) $N = 27$	1.16	2.18 (.75) $N = 40$	2.04 (.55) $N = 24$.82
本のイベント	1.12 (.32) $N = 43$	1.19 (.40) $N = 27$.79	1.18 (.45) $N = 40$	1.08 (.28) $N = 24$.90

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

4.2.2.2.6. 親子の交流の頻度

直近1カ月の親子の交流の頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-17 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-17 親子の交流の頻度（施設環境による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
親子の交流の 頻度（合計）	22.86(4.06) $N = 43$	22.83(2.46) $N = 24$.03	23.61(3.65) $N = 38$	22.65(4.14) $N = 23$.94
旅行や遊び	3.00(.90) $N = 43$	2.71(.86) $N = 24$	1.26	2.95(.86) $N = 39$	2.63(.77) $N = 24$	1.51
夕飯	3.51(.70) $N = 43$	3.42(.72) $N = 24$.53	3.59(.60) $N = 39$	3.29(.81) $N = 24$	1.57
映画	1.21(.56) $N = 43$	1.38(.92) $N = 24$.92	1.49(.82) $N = 39$	1.35(.57) $N = 23$.72
話	3.44(.55) $N = 43$	3.46(.59) $N = 24$.12	3.56(.50) $N = 39$	3.46(.51) $N = 24$.81
買い物	3.21(.74) $N = 43$	3.29(.62) $N = 24$.46	3.49(.72) $N = 39$	3.13(.68) $N = 24$	1.98 †
スポーツ観戦	1.16(.53) $N = 43$	1.33(.70) $N = 24$	1.04	1.24(.68) $N = 38$	1.42(.88) $N = 24$.91
ゲームや歌	2.93(.88) $N = 43$	3.04(.81) $N = 24$.51	2.90(1.02) $N = 39$	2.92(.93) $N = 24$.08
スポーツ	2.35(1.07) $N = 43$	2.13(.54) $N = 24$	1.14	2.34(.97) $N = 38$	2.29(1.00) $N = 24$.20
料理	2.05(.87) $N = 43$	2.08(.58) $N = 24$.19	2.08(.81) $N = 39$	2.04(.91) $N = 24$.16

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.2.3. 面接調査 1 結果

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-18 参照)。その結果、1 回目調査において A の施設より B の施設のほうが絵と文字の結合の得点が高いことが示された ($t(66) = 2.07, p < .05$)。

表 4-18 読書のレディネス得点 (施設環境による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読書のレディネス (合計)	9.74 (3.56) $N = 42$	10.04 (3.89) $N = 26$.33	13.47 (4.18) $N = 43$	14.04 (3.44) $N = 27$.60
読字	4.45 (1.66) $N = 42$	4.85 (1.54) $N = 26$.98	5.07 (1.18) $N = 43$	5.44 (.80) $N = 27$	1.45
絵と文字の結合	1.43 (1.27) $N = 42$	2.08 (1.23) $N = 26$	2.07*	2.19 (1.03) $N = 43$	2.48 (.94) $N = 27$	1.21
お話の構成	2.45 (2.21) $N = 42$	1.81 (2.02) $N = 26$	1.21	3.70 (2.51) $N = 43$	3.74 (2.26) $N = 27$.07
物語理解	1.40 (.91) $N = 42$	1.31 (.84) $N = 26$.44	2.51 (.70) $N = 43$	2.37 (.74) $N = 27$.08

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

4.2.4. 面接調査 2 結果

想像力得点 (イメージ量、エピソード数、創造物数) について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-19 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-19 想像力得点 (施設環境による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
イメージ量	2.44 (2.44) $N = 34$	2.63 (5.69) $N = 24$.17	4.43 (5.28) $N = 40$	4.00 (3.35) $N = 25$.36
エピソード数	1.38 (1.54) $N = 34$	1.17 (2.58) $N = 24$.40	1.98 (1.82) $N = 40$	2.28 (1.82) $N = 25$.66
創造物数	.32 (.81) $N = 34$.50 (1.84) $N = 24$.50	1.03 (1.75) $N = 40$.72 (.89) $N = 25$.93

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

4.2.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

4.2.5.1. 施設環境を統制した分析

4.2.5.1.1. 分析モデル

本分析では、文字指導の程度や保育形態の違いという施設環境を統制したうえでの幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、補足的に施設環境を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネス、施設環境（文字指導の程度など）を独立変数、2回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 4-1 参照）。

「3 全体の結果」では施設ごとに中心化を行うことで施設の全ての差を統制しているが、本分析では各施設における文字指導の程度と保育形態の違いのみを統制して分析を行うこととした。

なお、本分析では、全体の結果である「3.1 1回目調査および2回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

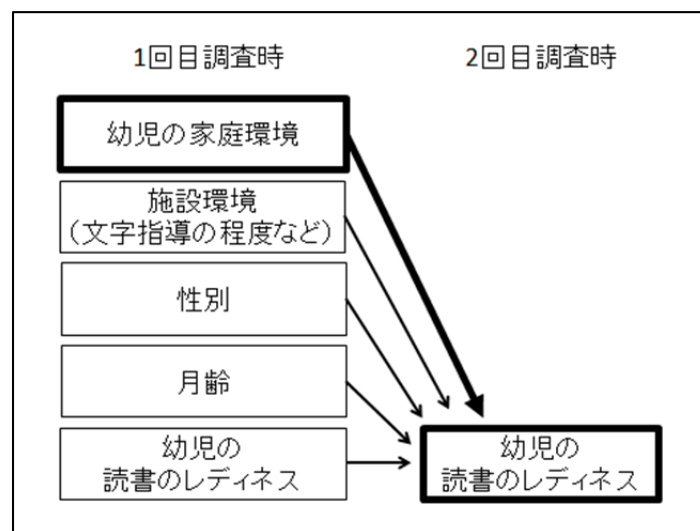


図 4-1 施設環境を統制した重回帰モデル

4.2.5.1.2. 全体の結果と共通する影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

(1) 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネス

保護者の読書好意度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .34$, $\beta = -.23$, $p < .05$)、保護者の読書量が多いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .43$, $\beta = -.40$, $p < .01$) が示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネス

知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほど物語理解が高まること ($R^2 = .14$, $\beta = .31$, $p < .05$)、わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほどお話の構成が低くなること ($R^2 = .33$, $\beta = -.24$, $p < .05$) が示された。

(3) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .12$, $\beta = -.30$, $p < .05$)、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .12$, $\beta = -.27$, $p < .05$) が示された。

(4) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館へ連れて行く頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .34$, $\beta = .26$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .53$, $\beta = .31$, $p < .01$) が高まること、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 (合計) が高いほど読書のレディネス (合計) が高まること ($R^2 = .51$, $\beta = .26$, $p < .01$) が示された。

(5) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

一緒に買い物に行く頻度が高いほど絵と文字の結合 ($R^2 = .39$, $\beta = -.35$, $p < .01$) が低くなること、低くなること、低くなることが示された。

4.2.5.1.3. 新しく見られた影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

(1) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館へ連れて行く頻度が高いほど、読字 ($R^2 = .40$, $\beta = .29$, $p < .01$)、絵と文字の結合 ($R^2 = .34$, $\beta = .22$, $p < .05$) が高まること、高まることが示された。

(2) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

一緒に買い物に行く頻度が高いほど読書のレディネス (合計) ($R^2 = .46$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、一緒に料理をする頻度が高いほど読書のレディネス (合計) ($R^2 = .44$, $\beta = -.20$, $p < .05$) が低くなること、低くなることが示された。

4.2.5.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析

4.2.5.2.1. 分析モデル

まず、施設環境を(A, B) = (0, 1)としたダミー変数を作成した。その後、1回目調査の家庭環境、施設環境（ダミー変数）、家庭環境と施設環境の積（交互作用項）、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、2回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 4-2 参照）。なお、家庭環境は全体で中心化した数値を用い、交互作用項を作成する際の変数も全体で中心化した数値を用いた。また、家庭環境は合計値のあるものは合計値のみを用いて分析を行った。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、回帰直線の傾きを検討することで交互作用の下位検定を行った。

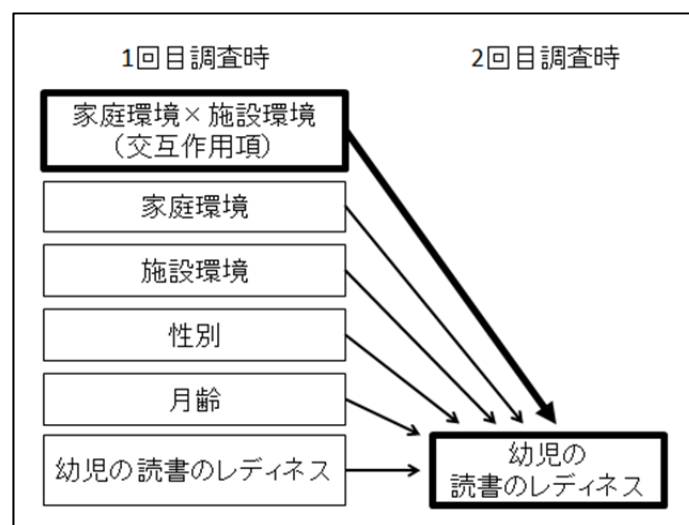


図 4-2 交互作用の分析モデル

4.2.5.2.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.2.5.2.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係

子どもに対する保護者の行動と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、読字において、大人を対象とした本の蔵書量と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .36$, $B = -.26$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、家庭での大人を対象とした本の蔵書量が多いほど読字の得点が高くなり、施設 B では、家庭での大人を対象とした本の蔵書量が多いほど読字の得点が低くなることが示された。

物語理解においては、絵本の読み聞かせ頻度（合計）と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .13$, $B = .18$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほど物語理解の得点が低くなり、施設 B では、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほど物語理解の得点が高くなることを示された。

また、物語理解において、絵本の読み聞かせ冊数(合計)と施設環境の交互作用項($R^2 = .12$, $B = .11$, $p < .05$)が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、絵本の読み聞かせ冊数(合計)が多いほど物語理解の得点が低くなり、施設 B では、絵本の読み聞かせ冊数(合計)が多いほど物語理解の得点が高くなることが示された。

4.2.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

4.2.6.1. 施設環境を統制した分析

4.2.6.1.1. 分析モデル

本分析では、文字指導の程度や保育形態の違いという施設環境を統制したうえでの幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、補足的に施設環境を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力、施設環境（文字指導の程度など）を独立変数、2回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図4-3参照）。

「3 全体の結果」では施設ごとに中心化を行うことで施設の全ての差を統制しているが、本分析では各施設における文字指導の程度と保育形態の違いのみを統制して分析を行うこととした。

なお、本分析では、全体の結果である「3.1 1回目調査および2回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と想像力の影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

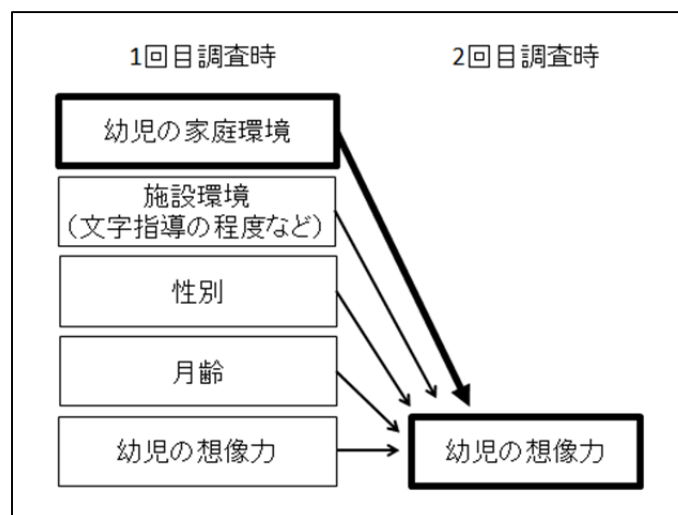


図 4-3 施設環境を統制した重回帰モデル

4.2.6.1.2. 全体の結果と共通する影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

(1) 親子の交流の頻度と想像力

「一緒にゲームや、歌を歌ったりする」関わりの頻度が多いほど、イメージ量が少なくなること ($R^2 = .17$, $\beta = -.35$, $p < .05$) が示された。

4.2.6.1.3. 新しく見られた影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。新しく見られた影響関係はみられなかった。

4.2.6.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析

4.2.6.2.1. 分析モデル

まず、施設環境を(A, B) = (0, 1)としたダミー変数を作成した。その後、1回目調査の家庭環境、施設環境（ダミー変数）、家庭環境と施設環境（ダミー変数）の積（交互作用項）、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、2回目調査の各想像力得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 4-4 参照）。家庭環境は全体で中心化した数値を用い、交互作用項を作成する際の変数も全体で中心化した数値を用いた。また、家庭環境は合計値のあるものは合計値のみを用いて分析を行った。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、回帰直線の傾きを検討することで交互作用の下位検定を行った。

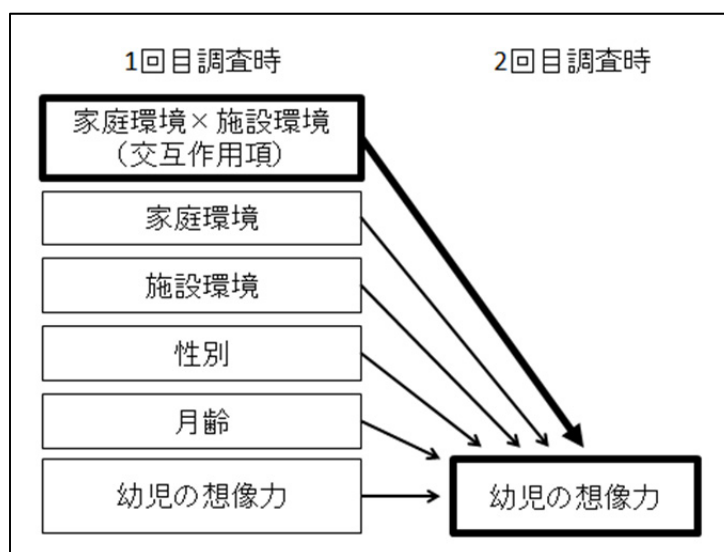


図 4-4 交互作用の分析モデル

4.2.6.2.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.2.6.2.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.3. 2 回目調査および 3 回目調査の分析結果

4.3.1. 分析対象

本分析では、施設向け質問紙調査の回答が得られた 6 園の中で、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、2 回目質問紙調査・2 回目面接調査 1・3 回目面接調査 1 の 3 つ全ての回答が得られた幼児、および、2 回目質問紙調査・2 回目面接調査 2・3 回目面接調査 2 の 3 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（2 回目調査 7 名、3 回目調査 4 名）。

したがって、本分析の分析対象は 88 名（男児 57 名、女児 31 名、2 回目調査時の平均月齢 67.56 カ月、3 回目調査時の平均月齢 74.68 カ月）とした。

4.3.2. 質問紙調査結果

4.3.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-20 参照）。その結果、3 回目調査において B の施設より A の施設のほうが保護者の読書好意度が高いことが示された ($t(61.82) = 2.40, p < .01$)。

表 4-20 保護者の読書好意度・読書量（施設環境による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読書好意度	4.18 (.82) $N = 44$	3.77 (1.14) $N = 44$	1.94 +	4.07 (.84) $N = 42$	3.47 (1.31) $N = 38$	2.40**
読書量	1.98 (.70) $N = 44$	1.86 (.67) $N = 44$.78	1.93 (.78) $N = 42$	1.71 (.57) $N = 38$	1.42

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ + $< .10$ ** $p < .01$

4.3.2.2. 子どもに対する保護者の行動

4.3.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-21 参照）。その結果、2 回目調査において A の施設より B の施設のほうが読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(85) = 2.19, p < .05$)。

表 4-21 絵本の読み聞かせ量（施設環境による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読み聞かせ 頻度	2.30 (.94) $N = 43$	2.70 (.77) $N = 44$	2.19*	2.24 (.76) $N = 42$	2.26 (.80) $N = 38$.14
読み聞かせ 冊数	3.33 (1.64) $N = 43$	3.98 (1.85) $N = 44$	1.74 +	3.67 (1.95) $N = 42$	3.32 (2.07) $N = 38$.78

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

4.3.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度と冊数について、施設環境による比較を行うために *t* 検定を行った（表 4-22、表 4-23 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-22 絵本の種類別読み聞かせ頻度（施設環境による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	<i>t</i> 値	A	B	<i>t</i> 値
読み聞かせ 頻度（合計）	9.19(2.47) <i>N</i> = 42	9.64(2.11) <i>N</i> = 39	.88	8.74(1.97) <i>N</i> = 39	8.89(2.31) <i>N</i> = 35	.29
創作絵本	2.16(.89) <i>N</i> = 44	2.16(.81) <i>N</i> = 44	.00	1.88(.56) <i>N</i> = 40	1.95(.85) <i>N</i> = 37	.44
昔話絵本	1.49(.63) <i>N</i> = 43	1.72(.63) <i>N</i> = 43	1.71 †	1.73(.72) <i>N</i> = 40	1.61(.64) <i>N</i> = 38	.78
ことばの絵本	1.33(.52) <i>N</i> = 43	1.45(.66) <i>N</i> = 44	1.01	1.20(.46) <i>N</i> = 41	1.33(.59) <i>N</i> = 36	1.14
知識・科学 絵本	1.61(.72) <i>N</i> = 44	1.58(.73) <i>N</i> = 43	.21	1.56(.74) <i>N</i> = 41	1.55(.76) <i>N</i> = 38	.05
わらべうた・ 詩の絵本	1.11(.32) <i>N</i> = 44	1.19(.39) <i>N</i> = 43	.94	1.07(.26) <i>N</i> = 41	1.13(.41) <i>N</i> = 38	.75
その他の絵本	1.48(.70) <i>N</i> = 44	1.44(.63) <i>N</i> = 41	.26	1.39(.59) <i>N</i> = 41	1.37(.59) <i>N</i> = 38	.17

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 4-23 絵本の種類別読み聞かせ冊数（施設環境による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	<i>t</i> 値	A	B	<i>t</i> 値
読み聞かせ 冊数（合計）	10.38(3.90) <i>N</i> = 40	11.08(4.02) <i>N</i> = 36	.78	10.05(3.55) <i>N</i> = 38	10.50(5.34) <i>N</i> = 36	.43
創作絵本	2.98(2.05) <i>N</i> = 42	3.00(1.89) <i>N</i> = 42	.06	2.63(1.48) <i>N</i> = 41	2.58(1.80) <i>N</i> = 38	.15
昔話絵本	1.65(1.07) <i>N</i> = 43	2.12(1.22) <i>N</i> = 43	1.88 †	1.95(1.10) <i>N</i> = 39	1.95(1.39) <i>N</i> = 38	.01
ことばの絵本	1.37(.73) <i>N</i> = 43	1.67(1.19) <i>N</i> = 43	1.42	1.24(.62) <i>N</i> = 41	1.56(1.40) <i>N</i> = 36	1.23
知識・科学 絵本	1.79(1.10) <i>N</i> = 43	1.82(.97) <i>N</i> = 44	.12	1.50(.72) <i>N</i> = 40	1.71(1.09) <i>N</i> = 38	1.01
わらべうた・ 詩の絵本	1.09(.29) <i>N</i> = 44	1.19(.45) <i>N</i> = 43	1.17	1.12(.51) <i>N</i> = 41	1.26(1.16) <i>N</i> = 38	.71
その他の絵本	1.55(.82) <i>N</i> = 44	1.60(.98) <i>N</i> = 40	.28	1.63(1.41) <i>N</i> = 41	1.39(.68) <i>N</i> = 38	.95

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.3.2.2.3. 読み聞かせ方

直近1カ月の絵本の読み聞かせ頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った(表 4-24 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-24 絵本の読み聞かせ方(施設環境による比較)

	2回目調査			3回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
会話型(合計)	13.36(3.31) $N = 39$	12.86(3.21) $N = 42$.69	13.26(3.54) $N = 39$	13.03(3.84) $N = 36$.27
会話をしながら	3.62(1.09) $N = 39$	3.45(.86) $N = 42$.75	3.41(1.07) $N = 39$	3.39(1.18) $N = 36$.08
絵に説明を加えながら	3.49(1.14) $N = 39$	3.31(.98) $N = 42$.75	3.36(1.16) $N = 39$	3.22(1.15) $N = 36$.51
ものの名前を教えながら	3.21(1.17) $N = 39$	3.12(1.09) $N = 42$.34	3.10(1.02) $N = 39$	3.06(1.22) $N = 36$.18
そのまま読む(逆転項目)	3.05(1.32) $N = 39$	2.98(1.09) $N = 42$.28	3.38(1.14) $N = 39$	3.36(1.07) $N = 36$.09
一人読み促進型(合計)	16.13(4.67) $N = 38$	16.28(4.13) $N = 40$.14	15.97(3.43) $N = 39$	15.83(4.43) $N = 36$.16
子どもが読めるところは読ませながら	2.89(1.33) $N = 39$	2.90(1.27) $N = 42$.04	2.79(1.15) $N = 39$	3.06(1.26) $N = 36$.94
字を教えながら	2.23(1.27) $N = 39$	2.60(1.26) $N = 40$	1.30	2.56(1.14) $N = 39$	2.47(1.21) $N = 36$.34
読み方を教えてあげた	3.56(1.31) $N = 39$	3.31(1.20) $N = 42$.91	3.18(1.12) $N = 39$	3.11(1.33) $N = 36$.24
内容に説明を加えながら	3.44(1.17) $N = 39$	3.19(1.07) $N = 42$.99	3.36(.96) $N = 39$	3.11(1.21) $N = 36$.99
自分で読んだ時には寝る	3.97(1.06) $N = 39$	4.12(.77) $N = 42$.71	4.08(.84) $N = 39$	4.08(1.00) $N = 36$.03

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差

4.3.2.2.4. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った(表 4-25 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-25 自宅の蔵書量(施設環境による比較)

	2回目調査			3回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
子どもを対象にした本	4.56(1.39) $N = 43$	4.74(1.33) $N = 43$.64	4.76(1.38) $N = 42$	4.74(1.47) $N = 38$.08
大人を対象にした本	4.68(1.87) $N = 44$	4.27(1.96) $N = 44$	1.00	4.78(2.04) $N = 41$	4.29(1.97) $N = 38$	1.09

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法

※括弧内は標準偏差

4.3.2.2.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館、本屋、本のイベントへ連れて行く頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-26 参照）。

その結果、2 回目調査において B の施設より A の施設のほうが図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いことが示された ($t(86) = 2.24, p < .05$)。3 回目調査では、B の施設より A の施設のほうが図書館などへ連れて行く頻度（合計） ($t(78) = 2.36, p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度 ($t(78) = 3.24, p < .01$) が高いことが示された。

表 4-26 図書館などへ連れて行く頻度（施設環境による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.27(1.52) $N = 44$	4.61(1.22) $N = 44$	2.24*	5.19(1.23) $N = 42$	4.55(1.18) $N = 38$	2.36*
図書館	1.91(.96) $N = 44$	1.59(.69) $N = 44$	1.78	2.00(.83) $N = 42$	1.45(.69) $N = 38$	3.24**
本屋	2.20(.70) $N = 44$	1.93(.63) $N = 44$	1.93 †	2.14(.65) $N = 42$	2.00(.66) $N = 38$.98
本のイベント	1.16(.43) $N = 44$	1.09(.29) $N = 44$.87	1.05(.22) $N = 42$	1.11(.31) $N = 38$.97

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

4.3.2.2.6. 親子の交流の頻度

直近1カ月の親子の交流の頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-27 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-27 親子の交流の頻度（施設環境による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
親子の交流の頻度（合計）	23.62(3.50) $N = 42$	23.19(4.80) $N = 43$.47	24.12(4.13) $N = 42$	24.51(4.07) $N = 37$.43
旅行や遊び	2.88(.85) $N = 43$	2.73(.87) $N = 44$.85	3.07(.84) $N = 42$	3.21(.81) $N = 38$.75
夕飯	3.60(.58) $N = 43$	3.32(.77) $N = 44$	1.95 †	3.71(.46) $N = 42$	3.47(.76) $N = 38$	1.69 †
映画	1.47(.80) $N = 43$	1.60(.79) $N = 43$.82	1.50(.97) $N = 42$	1.68(.99) $N = 38$.84
話	3.60(.50) $N = 43$	3.43(.55) $N = 44$	1.55	3.62(.54) $N = 42$	3.45(.65) $N = 38$	1.30
買い物	3.51(.70) $N = 43$	3.27(.69) $N = 44$	1.60	3.45(.71) $N = 42$	3.45(.80) $N = 38$.03
スポーツ観戦	1.19(.63) $N = 42$	1.45(.98) $N = 44$	1.50	1.14(.52) $N = 42$	1.26(.76) $N = 38$.83
ゲームや歌	2.91(1.00) $N = 43$	2.89(.99) $N = 44$.10	3.19(.80) $N = 42$	3.05(.85) $N = 38$.73
スポーツ	2.36(.96) $N = 42$	2.36(1.10) $N = 44$.03	2.24(1.06) $N = 42$	2.68(.93) $N = 38$	2.00 †
料理	2.12(.88) $N = 43$	2.05(.86) $N = 44$.38	2.19(.92) $N = 42$	2.13(.88) $N = 38$.29

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.3.3. 面接調査 1 結果

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-28 参照)。

その結果、2 回目調査において A の施設より B の施設のほうが絵と文字の結合の得点が高いことが示された ($t(80.24) = 2.01, p < .05$)。

表 4-28 読書のレディネス得点 (施設環境による比較)

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読書のレディネス (合計)	13.45 (4.13) $N = 44$	14.36 (3.29) $N = 44$	1.14	14.89 (2.74) $N = 44$	15.36 (2.74) $N = 44$.82
読字	5.02 (1.15) $N = 44$	5.25 (1.10) $N = 44$.95	5.80 (.46) $N = 44$	5.84 (.43) $N = 44$.48
絵と文字の結合	2.16 (1.08) $N = 44$	2.57 (.82) $N = 44$	2.01*	2.77 (.57) $N = 44$	2.89 (.39) $N = 44$	1.10
お話の構成	3.84 (2.38) $N = 44$	4.23 (2.09) $N = 44$.81	3.77 (2.13) $N = 44$	4.18 (2.16) $N = 44$.90
物語理解	2.43 (.82) $N = 44$	2.32 (.77) $N = 44$.67	2.55 (.70) $N = 44$	2.45 (.66) $N = 44$.63

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

4.3.4. 面接調査 2 結果

想像力得点 (イメージ量、エピソード数、創造物数) について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-29 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-29 想像力得点 (施設環境による比較)

	2 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
イメージ量	4.07 (4.03) $N = 41$	3.95 (2.98) $N = 40$.16	3.95 (3.63) $N = 42$	5.32 (8.13) $N = 41$.99
エピソード数	2.05 (1.86) $N = 41$	2.20 (1.59) $N = 40$.39	2.48 (2.08) $N = 42$	2.83 (2.81) $N = 41$.65
創造物数	1.02 (1.54) $N = 41$.65 (.83) $N = 40$	1.37	.12 (.33) $N = 42$.44 (2.06) $N = 41$.99

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

4.3.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

4.3.5.1. 施設環境を統制した分析

4.3.5.1.1. 分析モデル

本分析では、文字指導の程度や保育形態の違いという施設環境を統制したうえでの幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、補足的に施設環境を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、2回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネス、施設環境（文字指導の程度など）を独立変数、3回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 4-5 参照）。

「3 全体の結果」では施設ごとに中心化を行うことで施設の全ての差を統制しているが、本分析では各施設における文字指導の程度と保育形態の違いのみを統制して分析を行うこととした。

なお、本分析では、全体の結果である「3.2.2 回目調査および 3 回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

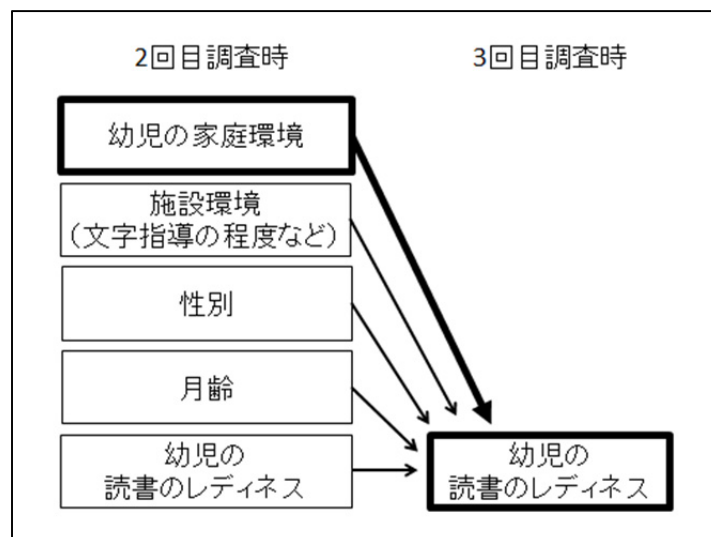


図 4-5 施設環境を統制した重回帰モデル

4.3.5.1.2. 全体の結果と共通する影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .40$, $\beta = .20$, $p < .05$) が示された。

(2) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

親子の交流の頻度（合計）が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .30$, $\beta = -.24$, $p < .05$)、一緒に旅行や遊びに行く頻度が高いほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .39$, $\beta = .21$, $p < .05$)、話をする頻度が高いほどお話の構成が高くなり ($R^2 = .38$, $\beta = .19$, $p < .05$)、物語理解が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.22$, $p < .05$)、一緒にゲームをしたり、

歌を歌ったりする頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .33$, $\beta = -.30$, $p < .01$) が示された。

4.3.5.1.3. 新しく見られた影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ (合計)」であるほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .26$, $\beta = -.22$, $p < .05$)、「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解 ($R^2 = .24$, $\beta = .22$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .51$, $\beta = .18$, $p < .05$) を高めること、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .25$, $\beta = -.22$, $p < .05$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .25$, $\beta = -.21$, $p < .05$)、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .26$, $\beta = -.23$, $p < .05$) が示された。

(2) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

一緒に買い物に行く頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.21$, $p < .05$)、一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする頻度が高いほど絵と文字の結合 ($R^2 = .21$, $\beta = -.26$, $p < .05$) が低くなることが示された。

4.3.5.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析

4.3.5.2.1. 分析モデル

まず、施設環境を(A, B) = (0, 1)としたダミー変数を作成した。その後、2回目調査の家庭環境、施設環境（ダミー変数）、家庭環境と施設環境（ダミー変数）の積（交互作用項）、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、3回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 4-6 参照）。家庭環境は全体で中心化した数値を用い、交互作用項を作成する際の変数も全体で中心化した数値を用いた。また、家庭環境は合計値のあるものは合計値のみを用いて分析を行った。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、回帰直線の傾きを検討することで交互作用の下位検定を行った。

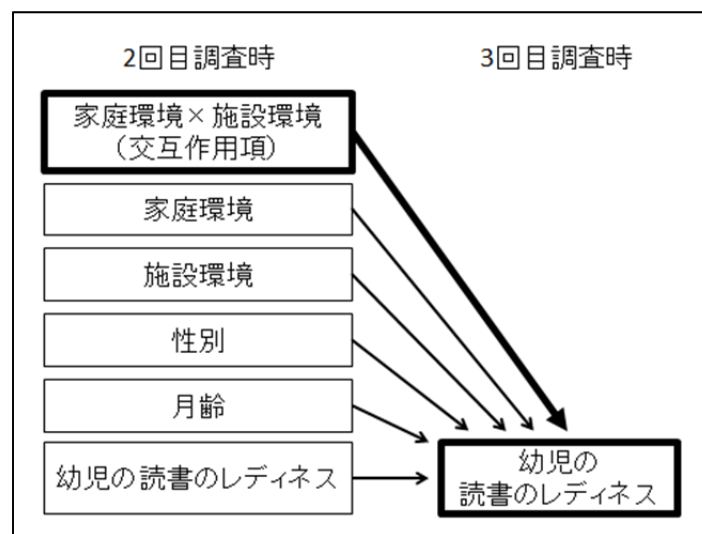


図 4-6 交互作用の分析モデル

4.3.5.2.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、物語理解において、保護者の読書好意度と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .25$, $B = -.33$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、保護者の読書好意度が高いほど物語理解の得点が高くなり、施設 B では、保護者の読書好意度が高いほど物語理解の得点が低くなることが示された。

また、読書のレディネス（合計）において、保護者の読書好意度と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .51$, $B = -1.07$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 B より施設 A のほうが、保護者の読書好意度が高いほど読書のレディネス（合計）の得点が高くなることが示された。

4.3.5.2.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係

子どもに対する保護者の行動と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、絵と文字の結合において、大人のを対象とした本の蔵書量と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .27$, $B = -.10$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 B より施設 A のほうが、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合の得点が高くなることが示された。

また、物語理解において、絵本の読み聞かせ冊数(合計)と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .29$, $B = -.21$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、絵本の読み聞かせ冊数(合計)が多いほど物語理解の得点が高くなり、施設 B では、絵本の読み聞かせ冊数(合計)が多いほど物語理解の得点が低くなることを示された。

4.3.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

4.3.6.1. 施設環境を統制した分析

4.3.6.1.1. 分析モデル

本分析では、文字指導の程度や保育形態の違いという施設環境を統制したうえでの幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、補足的に施設環境を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、2回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力、施設環境（文字指導の程度など）を独立変数、3回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図4-7参照）。

「3 全体の結果」では施設ごとに中心化を行うことで施設の全ての差を統制しているが、本分析では各施設における文字指導の程度と保育形態の違いのみを統制して分析を行うこととした。

なお、本分析では、全体の結果である「3.2.2 回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と想像力の影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

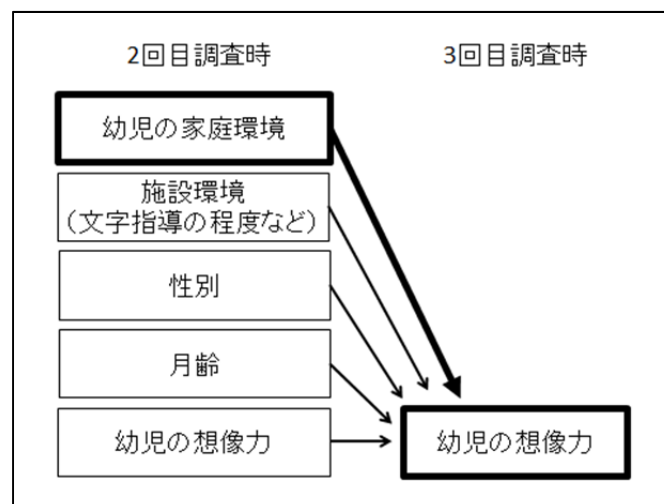


図 4-7 施設環境を統制した重回帰モデル

4.3.6.1.2. 全体の結果と共通する影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .19$, $\beta = .27$, $p < .05$)、ことばの絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .20$, $\beta = .30$, $p < .01$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本に関するイベントへ連れて行く頻度と想像力

本屋へ連れて行く頻度が高いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .24$, $\beta = .38$, $p < .01$) が示された。

4.3.6.1.3. 新しく見られた影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

昔話絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .18$, $\beta = .25$, $p < .05$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本に関するイベントへ連れて行く頻度と想像力

本屋へ連れて行く頻度が高いほどイメージ量が増えること ($R^2 = .23$, $\beta = .32$, $p < .01$) が示された。

4.3.6.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析

4.3.6.2.1. 分析モデル

まず、施設環境を(A, B) = (0, 1)としたダミー変数を作成した。その後、2回目調査の家庭環境、施設環境（ダミー変数）、家庭環境と施設環境（ダミー変数）の積（交互作用項）、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、3回目調査の各想像力得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 4-8 参照）。家庭環境は全体で中心化した数値を用い、交互作用項を作成する際の変数も全体で中心化した数値を用いた。また、家庭環境は合計値のあるものは合計値のみを用いて分析を行った。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、回帰直線の傾きを検討することで交互作用の下位検定を行った。

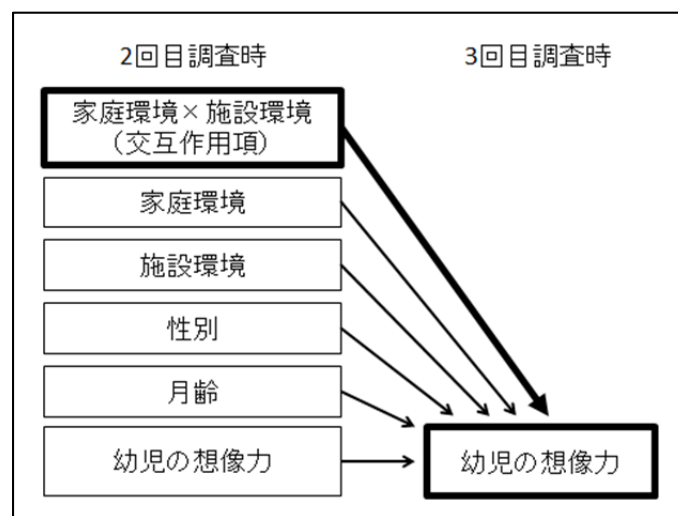


図 4-8 交互作用の分析モデル

4.3.6.2.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.3.6.2.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.4. 1 回目調査および 3 回目調査の分析結果

4.4.1. 分析対象

本分析では、施設向け質問紙調査の回答が得られた 6 園の中で、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 1・3 回目面接調査 1 の 3 つ全ての回答が得られた幼児、および、1 回目質問紙調査・1 回目面接調査 2・3 回目面接調査 2 の 3 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（1 回目調査 12 名、3 回目調査 4 名）。

したがって、本分析の分析対象は 70 名（男児 45 名、女児 25 名、1 回目調査時の平均月齢 61.10 カ月、3 回目調査時の平均月齢 75.00 カ月）とした。

4.4.2. 質問紙調査結果

4.4.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-30 参照）。その結果、1 回目調査において B の施設より A の施設のほうが保護者の読書量が多いことが示された ($t(68) = 2.46, p < .01$)。

表 4-30 保護者の読書好意度・読書量（施設環境による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読書好意度	4.02 (1.02) $N = 42$	3.64 (1.34) $N = 28$	1.28	3.95 (.93) $N = 40$	3.35 (1.47) $N = 26$	1.87 †
読書量	2.12 (.83) $N = 42$	1.64 (.73) $N = 28$	2.46*	1.88 (.79) $N = 40$	1.54 (.51) $N = 26$	1.93 †

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$

4.4.2.2. 子どもに対する保護者の行動

4.4.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 カ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-31 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-31 絵本の読み聞かせ量（施設環境による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読み聞かせ 頻度	2.57 (.77) $N = 42$	2.86 (.93) $N = 28$	1.40	2.25 (.84) $N = 40$	2.27 (.83) $N = 26$.09
読み聞かせ 冊数	3.14 (1.69) $N = 42$	3.96 (1.68) $N = 28$	1.97 †	3.60 (2.06) $N = 40$	3.08 (2.12) $N = 26$	1.00

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.4.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度と冊数について、施設環境による比較を行うために *t* 検定を行った（表 4-32、表 4-33 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-32 絵本の種類別読み聞かせ頻度（施設環境による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	<i>t</i> 値	A	B	<i>t</i> 値
読み聞かせ 頻度（合計）	9.71 (2.07) <i>N</i> = 41	10.23 (2.63) <i>N</i> = 26	.91	8.71 (2.08) <i>N</i> = 38	8.63 (2.45) <i>N</i> = 24	.15
創作絵本	2.24 (.82) <i>N</i> = 42	2.37 (.93) <i>N</i> = 27	.62	1.87 (.70) <i>N</i> = 39	1.88 (.83) <i>N</i> = 25	.04
昔話絵本	1.71 (.60) <i>N</i> = 41	1.89 (.80) <i>N</i> = 27	1.01	1.68 (.70) <i>N</i> = 38	1.54 (.65) <i>N</i> = 26	.84
ことばの絵本	1.45 (.59) <i>N</i> = 42	1.41 (.69) <i>N</i> = 27	.29	1.10 (.31) <i>N</i> = 39	1.28 (.61) <i>N</i> = 25	1.34
知識・科学 絵本	1.60 (.73) <i>N</i> = 42	1.69 (.79) <i>N</i> = 26	.52	1.56 (.85) <i>N</i> = 39	1.58 (.86) <i>N</i> = 26	.06
わらべうた・ 詩の絵本	1.10 (.37) <i>N</i> = 42	1.22 (.42) <i>N</i> = 27	1.28	1.08 (.27) <i>N</i> = 39	1.08 (.39) <i>N</i> = 26	.00
その他の絵本	1.62 (.70) <i>N</i> = 42	1.62 (.70) <i>N</i> = 26	.02	1.49 (.72) <i>N</i> = 39	1.42 (.64) <i>N</i> = 26	.37

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法
※括弧内は標準偏差

表 4-33 絵本の種類別読み聞かせ冊数（施設環境による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	<i>t</i> 値	A	B	<i>t</i> 値
読み聞かせ 冊数（合計）	10.10 (2.68) <i>N</i> = 41	11.96 (4.70) <i>N</i> = 25	1.81 †	10.22 (3.99) <i>N</i> = 36	10.48 (6.19) <i>N</i> = 25	.20
創作絵本	2.66 (1.71) <i>N</i> = 41	2.96 (1.45) <i>N</i> = 27	.76	2.69 (1.69) <i>N</i> = 39	2.69 (2.02) <i>N</i> = 26	.00
昔話絵本	1.74 (.73) <i>N</i> = 42	2.19 (1.39) <i>N</i> = 27	1.54	1.95 (1.05) <i>N</i> = 37	1.85 (1.52) <i>N</i> = 26	.31
ことばの絵本	1.45 (.63) <i>N</i> = 42	1.56 (1.25) <i>N</i> = 27	.45	1.10 (.31) <i>N</i> = 39	1.52 (1.50) <i>N</i> = 26	1.37
知識・科学 絵本	1.62 (.76) <i>N</i> = 42	1.92 (1.32) <i>N</i> = 26	1.20	1.63 (1.28) <i>N</i> = 38	1.69 (1.16) <i>N</i> = 25	.19
わらべうた・ 詩の絵本	1.07 (.26) <i>N</i> = 42	1.23 (.59) <i>N</i> = 26	1.31	1.13 (.52) <i>N</i> = 39	1.27 (1.37) <i>N</i> = 26	.58
その他の絵本	1.64 (.79) <i>N</i> = 42	1.85 (1.32) <i>N</i> = 26	.80	1.74 (1.48) <i>N</i> = 39	1.46 (.76) <i>N</i> = 26	.89

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法
※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.4.2.2.3. 読み聞かせ方

直近1カ月の絵本の読み聞かせ頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-34 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-34 絵本の読み聞かせ方（施設環境による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
会話型(合計)	14.39(2.88) $N = 41$	13.78(3.53) $N = 27$.78	13.08(3.89) $N = 36$	12.24(3.72) $N = 25$.85
会話をしながら	3.78(.88) $N = 41$	3.70(1.10) $N = 27$.32	3.36(1.10) $N = 36$	3.24(1.27) $N = 25$.40
絵に説明を加えながら	3.59(.95) $N = 41$	3.59(1.12) $N = 27$.03	3.25(1.25) $N = 36$	3.04(1.31) $N = 25$.63
ものの名前を教えながら	3.56(1.05) $N = 41$	3.19(1.04) $N = 27$	1.45	3.06(1.07) $N = 36$	2.80(1.23) $N = 25$.87
そのまま読む(逆転項目)	3.46(.93) $N = 41$	3.30(.95) $N = 27$.72	3.42(1.25) $N = 36$	3.16(1.14) $N = 25$.82
一人読み促進型(合計)	16.48(4.49) $N = 40$	15.42(3.13) $N = 26$	1.12	15.94(3.46) $N = 36$	14.40(4.90) $N = 25$	1.44
子どもが読めるところは読ませながら	2.88(1.23) $N = 41$	2.78(1.25) $N = 27$.33	2.89(1.19) $N = 36$	2.64(1.41) $N = 25$.74
字を教えながら	2.68(1.21) $N = 41$	2.27(.87) $N = 26$	1.62	2.58(1.13) $N = 36$	2.12(1.27) $N = 25$	1.50
読み方を教えてあげた	3.38(1.27) $N = 42$	3.07(1.14) $N = 27$	1.02	3.08(1.05) $N = 36$	3.04(1.46) $N = 25$.13
内容に説明を加えながら	3.39(1.12) $N = 41$	3.59(1.08) $N = 27$.74	3.28(1.06) $N = 36$	2.88(1.30) $N = 25$	1.31
自分で読んだ時には寝る	4.05(1.04) $N = 42$	3.85(1.03) $N = 27$.77	4.11(.82) $N = 36$	3.72(1.34) $N = 25$	1.30

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差

4.4.2.2.4. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った(表 4-35 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-35 自宅の蔵書量 (施設環境による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
子どもを対象にした本	4.62(1.59) $N = 42$	5.29(1.30) $N = 28$	1.84 †	4.80(1.47) $N = 40$	5.23(1.21) $N = 26$	1.24
大人を対象にした本	4.60(2.01) $N = 42$	4.21(1.75) $N = 28$.82	4.59(2.15) $N = 39$	4.54(1.90) $N = 26$.10

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

4.4.2.2.5. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館、本屋、本のイベントへ連れて行く頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-36 参照)。

その結果、2 回目調査において B の施設より A の施設のほうが図書館へ連れて行く頻度が高いことが示された($t(68) = 2.05, p < .05$)。3 回目調査では、B の施設より A の施設のほうが図書館などへ連れて行く頻度 (合計) ($t(64) = 2.38, p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度 ($t(64) = 2.78, p < .01$)が高いことが示された。

表 4-36 図書館などへ連れて行く頻度 (施設環境による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.17(1.23) $N = 42$	4.64(1.22) $N = 28$	1.75	5.08(1.29) $N = 40$	4.38(.90) $N = 26$	2.38*
図書館	1.90(.88) $N = 42$	1.50(.69) $N = 28$	2.05*	1.95(.85) $N = 40$	1.42(.58) $N = 26$	2.78**
本屋	2.14(.61) $N = 42$	1.96(.79) $N = 28$	1.07	2.10(.67) $N = 40$	1.88(.52) $N = 26$	1.39
本のイベント	1.12(.33) $N = 42$	1.18(.39) $N = 28$.69	1.03(.16) $N = 40$	1.08(.27) $N = 26$.98

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

4.4.2.2.6. 親子の交流の頻度

直近1カ月の親子の交流の頻度について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った（表 4-37 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-37 親子の交流の頻度（施設環境による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
親子の交流の頻度（合計）	23.12(3.97) $N = 42$	23.24(2.49) $N = 25$.15	23.88(4.08) $N = 40$	23.69(3.37) $N = 26$.19
旅行や遊び	3.07(.89) $N = 42$	2.88(.83) $N = 25$.87	3.03(.83) $N = 40$	3.23(.82) $N = 26$.99
夕飯	3.60(.63) $N = 42$	3.52(.71) $N = 25$.45	3.70(.46) $N = 40$	3.54(.71) $N = 26$	1.03
映画	1.21(.57) $N = 42$	1.36(.91) $N = 25$.81	1.48(.96) $N = 40$	1.46(.86) $N = 26$.06
話	3.48(.55) $N = 42$	3.56(.58) $N = 25$.59	3.65(.53) $N = 40$	3.38(.70) $N = 26$	1.65
買い物	3.24(.73) $N = 42$	3.28(.68) $N = 25$.23	3.38(.77) $N = 40$	3.38(.75) $N = 26$.05
スポーツ観戦	1.14(.52) $N = 42$	1.24(.60) $N = 25$.70	1.15(.53) $N = 40$	1.08(.39) $N = 26$.60
ゲームや歌	3.00(.88) $N = 42$	3.20(.82) $N = 25$.92	3.15(.83) $N = 40$	3.08(.85) $N = 26$.35
スポーツ	2.33(1.07) $N = 42$	2.16(.55) $N = 25$.87	2.18(.98) $N = 40$	2.58(.86) $N = 26$	1.70
料理	2.05(.88) $N = 42$	2.04(.54) $N = 25$.04	2.18(.90) $N = 40$	1.96(.92) $N = 26$.93

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差

4.4.3. 面接調査 1 結果

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-38 参照)。その結果、1 回目調査において A の施設より B の施設のほうが絵と文字の結合の得点が高いことが示された ($t(67) = 2.13, p < .05$)。

表 4-38 読書のレディネス得点 (施設環境による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
読書のレディネス (合計)	9.88 (3.69) $N = 42$	10.63 (4.13) $N = 27$.79	15.12 (2.67) $N = 42$	15.32 (2.61) $N = 28$.31
読字	4.60 (1.52) $N = 42$	4.96 (1.53) $N = 27$.98	5.76 (.48) $N = 42$	5.86 (.45) $N = 28$.83
絵と文字の結合	1.38 (1.27) $N = 42$	2.04 (1.22) $N = 27$	2.13*	2.76 (.58) $N = 42$	2.89 (.42) $N = 28$	1.10
お話の構成	2.48 (2.22) $N = 42$	2.26 (2.19) $N = 27$.40	4.00 (2.01) $N = 42$	4.07 (2.11) $N = 28$.14
物語理解	1.43 (.91) $N = 42$	1.37 (.79) $N = 27$.27	2.60 (.67) $N = 42$	2.50 (.64) $N = 28$.60

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

4.4.4. 面接調査 2 結果

想像力得点 (イメージ量、エピソード数、創造物数) について、施設環境による比較を行うために t 検定を行った (表 4-39 参照)。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 4-39 想像力得点 (施設環境による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	A	B	t 値	A	B	t 値
イメージ量	2.45 (2.43) $N = 33$	2.68 (5.63) $N = 25$.21	3.98 (3.77) $N = 40$	5.04 (3.90) $N = 26$	1.11
エピソード数	1.42 (1.54) $N = 33$	1.20 (2.57) $N = 25$.41	2.43 (2.06) $N = 40$	3.31 (2.70) $N = 26$	1.50
創造物数	.33 (.82) $N = 33$.52 (1.81) $N = 25$.53	.13 (.34) $N = 40$.23 (.59) $N = 26$.84

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

4.4.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

4.4.5.1. 施設環境を統制した分析

4.4.5.1.1. 分析モデル

本分析では、文字指導の程度や保育形態の違いという施設環境を統制したうえでの幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、補足的に施設環境を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネス、施設環境（文字指導の程度など）を独立変数、3回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 4-9 参照）。

「3 全体の結果」では施設ごとに中心化を行うことで施設の全ての差を統制しているが、本分析では各施設における文字指導の程度と保育形態の違いのみを統制して分析を行うこととした。

なお、本分析では、全体の結果である「3.3 1回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

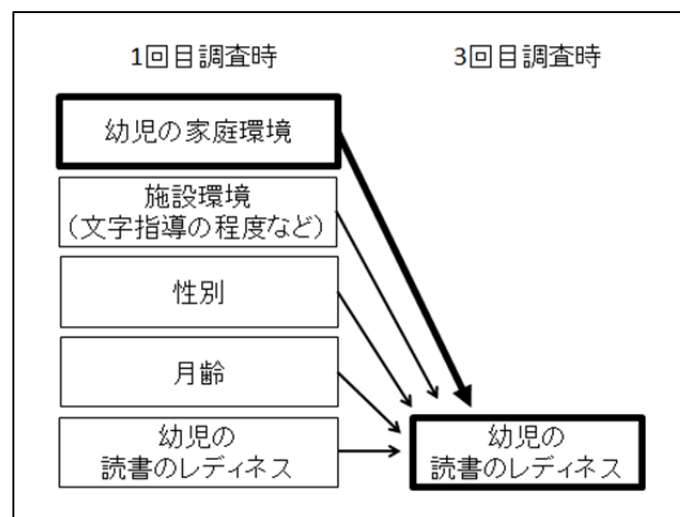


図 4-9 施設環境を統制した重回帰モデル

4.4.5.1.2. 全体の結果と共通する影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「子どもが自分でよんだときには読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど読字が低くなること ($R^2 = .16$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .15$, $\beta = -.32$, $p < .05$) が示された。

(2) 自宅の蔵書量と読書のレディネス

子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高まること ($R^2 = .21$, $\beta = .41$, $p < .01$)、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高まること ($R^2 = .18$, $\beta = .36$, $p < .01$) が示された。

(3) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館へ連れて行く頻度が高いほど物語理解 ($R^2 = .14$, $\beta = .31$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .51$, $\beta = .24$, $p < .05$) が高まること、本屋へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス (合計) が高まること ($R^2 = .49$, $\beta = .19$, $p < .05$)、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 (合計) が高いほど物語理解 ($R^2 = .14$, $\beta = .30$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .55$, $\beta = .30$, $p < .01$) が高まることが示された。

(4) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

一緒に映画を見に行く頻度が高いほど読字 ($R^2 = .22$, $\beta = -.31$, $p < .05$)、物語理解 ($R^2 = .22$, $\beta = -.41$, $p < .01$) が低くなることが示された。

4.4.5.1.3. 新しく見られた影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ (合計)」であるほどお話の構成が高まること ($R^2 = .31$, $\beta = .25$, $p < .05$)、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど読字が低くなること ($R^2 = .17$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成が高まること ($R^2 = .31$, $\beta = .22$, $p < .05$)、「子どもが自分でよんだときには読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほどお話の構成が高まること ($R^2 = .32$, $\beta = .23$, $p < .05$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館へ連れて行く頻度が高いほどお話の構成が高まること ($R^2 = .33$, $\beta = .23$, $p < .05$)、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度 (合計) が高いほどお話の構成が高まること ($R^2 = .33$, $\beta = .23$, $p < .05$) が示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

一緒に料理をする頻度が高いほど読字が低くなること ($R^2 = .20$, $\beta = -.25$, $p < .05$) が示された。

4.4.5.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析

4.4.5.2.1. 分析モデル

まず、施設環境を(A, B) = (0, 1)としたダミー変数を作成した。その後、1回目調査の家庭環境、施設環境（ダミー変数）、家庭環境と施設環境（ダミー変数）の積（交互作用項）、性別、月齢、各読書のレディネス得点を独立変数、3回目調査の各読書のレディネス得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 4-10 参照）。家庭環境は全体で中心化した数値を用い、交互作用項を作成する際の変数も全体で中心化した数値を用いた。また、家庭環境は合計値のあるものは合計値のみを用いて分析を行った。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、回帰直線の傾きを検討することで交互作用の下位検定を行った。

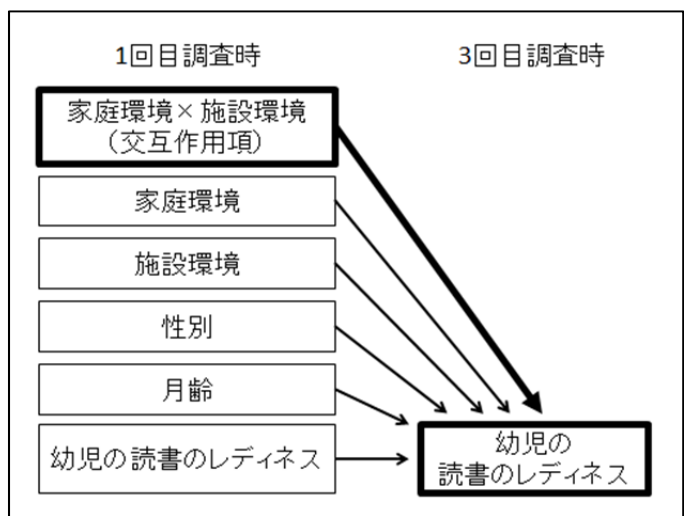


図 4-10 交互作用の分析モデル

4.4.5.2.2. 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.4.5.2.3. 子どもに対する保護者の行動と読書のレディネスの影響関係

子どもに対する保護者の行動と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。

その結果、絵と文字の結合において、大人を対象とした本の蔵書量と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .26$, $B = -.14$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合の得点が高くなり、施設 B では、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合の得点が低くなること示された。

お話の構成においては、読み聞かせ頻度（合計）と施設環境の交互作用項 ($R^2 = .30$, $B = -.42$, $p < .05$) が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほどお話の構成の得点が高くなり、施設 B では、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほどお話の構成の得点が低くなること示された。

また、お話の構成において、会話型読み聞かせ（合計）と施設環境の交互作用項（ $R^2 = .32$, $B = -.29$, $p < .05$ ）が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A では、会話型読み聞かせ方（合計）であるほどお話の構成の得点が高くなり、施設 B では、会話型読み聞かせ方（合計）であるほどお話の構成の得点が低くなることが示された。

物語理解においては、親子の交流の頻度（合計）と施設環境の交互作用項（ $R^2 = .16$, $B = -.16$, $p < .05$ ）が有意であった。下位検定を行った結果、施設 A より施設 B のほうが、親子の交流の頻度（合計）が高いほど物語理解の得点が低くなることが示された。

4.4.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

4.4.6.1. 施設環境を統制した分析

4.4.6.1.1. 分析モデル

本分析では、文字指導の程度や保育形態の違いという施設環境を統制したうえでの幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、補足的に施設環境を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力、施設環境（文字指導の程度など）を独立変数、3回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図4-11参照）。

「3 全体の結果」では施設ごとに中心化を行うことで施設の全ての差を統制しているが、本分析では各施設における文字指導の程度と保育形態の違いのみを統制して分析を行うこととした。

なお、本分析では、全体の結果である「3.3 1回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と想像力の影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

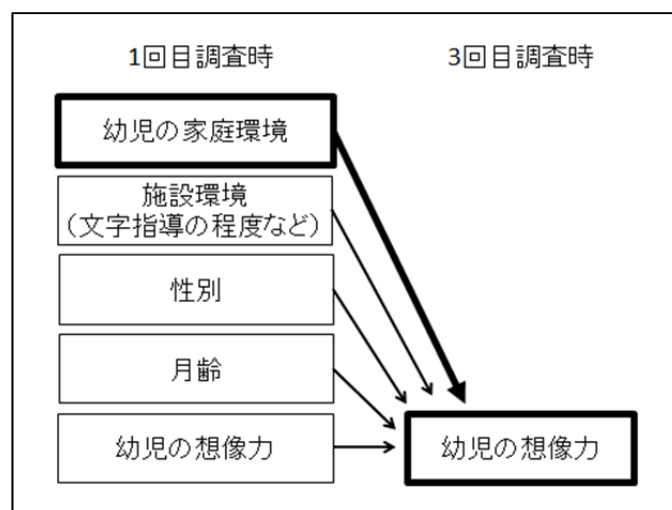


図 4-11 施設環境を統制した重回帰モデル

4.4.6.1.2. 全体の結果と共通する影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

(1) 読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなること ($R^2 = .28$, $\beta = .25$, $p < .05$) が示された。

4.4.6.1.3. 新しく見られた影響関係

施設環境を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。新しく見られた影響関係はみられなかった。

4.4.6.2. 家庭環境と施設環境の交互作用の分析

4.4.6.2.1. 分析モデル

まず、施設環境を(A, B) = (0, 1)としたダミー変数を作成した。その後、1回目調査の家庭環境、施設環境（ダミー変数）、家庭環境と施設環境（ダミー変数）の積（交互作用項）、性別、月齢、各想像力得点を独立変数、3回目調査の各想像力得点を従属変数とする重回帰分析を行った（図 4-12 参照）。家庭環境は全体で中心化した数値を用い、交互作用項を作成する際の変数も全体で中心化した数値を用いた。また、家庭環境は合計値のあるものは合計値のみを用いて分析を行った。

ここで、交互作用項が有意であった場合は、回帰直線の傾きを検討することで交互作用の下位検定を行った。

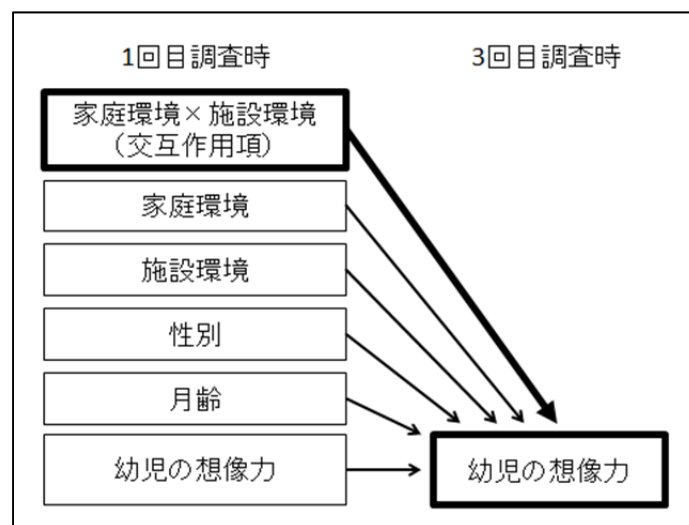


図 4-12 交互作用の分析モデル

4.4.6.2.2. 保護者の読書好意度・読書量と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.4.6.2.3. 子どもに対する保護者の行動と想像力の影響関係

保護者の読書好意度・読書量と施設環境との交互作用を検討するために、交互作用項を用いた重回帰分析を行った。その結果、いずれにおいても有意ではなかった。

4.5. 家庭環境と幼児の読書能力の影響関係への保育・教育施設環境による調整効果の結果 まとめ

家庭環境と幼児の読書能力の影響関係への保育・教育施設環境による調整効果について、1回目調査と3回目調査の1年間の分析、1回目調査と2回目調査の半年間の分析、2回目調査と3回目調査の半年間の分析の3つの分析の結果をまとめた（表 4-40 参照）。

その結果、1年間の長期的な影響の分析（1回目調査と3回目調査）において、施設 A の群では、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほどお話の構成が高まること、大人の本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合が高まること、会話型読み聞かせ（合計）であるほどお話の構成が高まることが示された。

また、施設 B の群では、大人の本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合が低くなること、絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほどお話の構成が低くなること、会話型読み聞かせ（合計）であるほどお話の構成が低くなること、親子の交流の頻度（合計）が高いほど物語理解が高まることが示された。

また、半年間の影響の分析においては、1回目調査と2回目調査、2回目調査と3回目調査の2つの分析を通じて安定した結果は見られなかった。半年間の影響の個別分析では、1回目調査と2回目調査の半年間の分析においては、施設 A の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が低くなること、施設 B の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が高くなることが示された。一方で、2回目調査および3回目調査の半年間の分析においては、施設 A の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が高くなること、施設 B の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が低くなることが示された。

表 4-40 家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)	
施設 A の群	蔵書量 (大人の本) →読字		+		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		-		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成	+			
	絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		-	+	
	保護者の読書好意度 →物語理解			+	
	保護者の読書好意度 →読書のレディネス (合計)			+	
	蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合	+		+	
	会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成	+			
	施設 B の群	蔵書量 (大人の本) →読字		-	
		絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		+	
		絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		+	-
保護者の読書好意度 →物語理解				-	
蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合		-			
絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成		-			
会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成		-			
親子の交流の頻度 (合計) →物語理解		+			

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

5. 習い事・家庭学習の経験をふまえた結果

5.1. 習い事・家庭学習の結果

5.1.1. 分析対象

本分析では、習い事・家庭学習の経験に関する質問項目のあった3回目調査に回答の得られた幼児を分析対象とした。したがって、本分析の分析対象は157名（男児99名、女児58名、平均月齢77.99カ月）とした。

5.1.2. 習い事・家庭学習の経験および始めた時期

習い事や家庭学習の経験および始めた時期について、それぞれの度数分布を示した（図5-1、図5-2参照）。

集計の結果、習い事や家庭学習の経験については、「定期的に教材が送られてくる通信教育」の経験があると回答した人が最も多く、69名（43.9%）であった。次いで多かったのは「市販されている教材」で、38名（24.2%）であった。一方で、経験があるという回答が最も少なかったのは「小学校受験目的の学習塾」で、3名（1.9%）であった。

また、習い事や家庭学習の経験があると回答した人に始めた時期について尋ねたところ、習字を始めた時期は、「2回目調査と3回目調査の間」と回答した人が最も多かった（5名（62.5%））。小学校受験目的の学習塾を始めた時期は、「1回目調査の前」、「1回目調査と2回目調査の間」が同数（1名（33.3%））であった。受験目的ではない学習塾を始めた時期は、「1回目調査の前」と回答した人が最も多かった（11名（42.3%））。定期的に教材が送られてくる通信教育を始めた時期は、「1回目調査の前」と回答した人が最も多かった（43名（62.3%））。市販されている教材を始めた時期は、「1回目調査の前」と回答した人が最も多かった（15名（39.5%））。

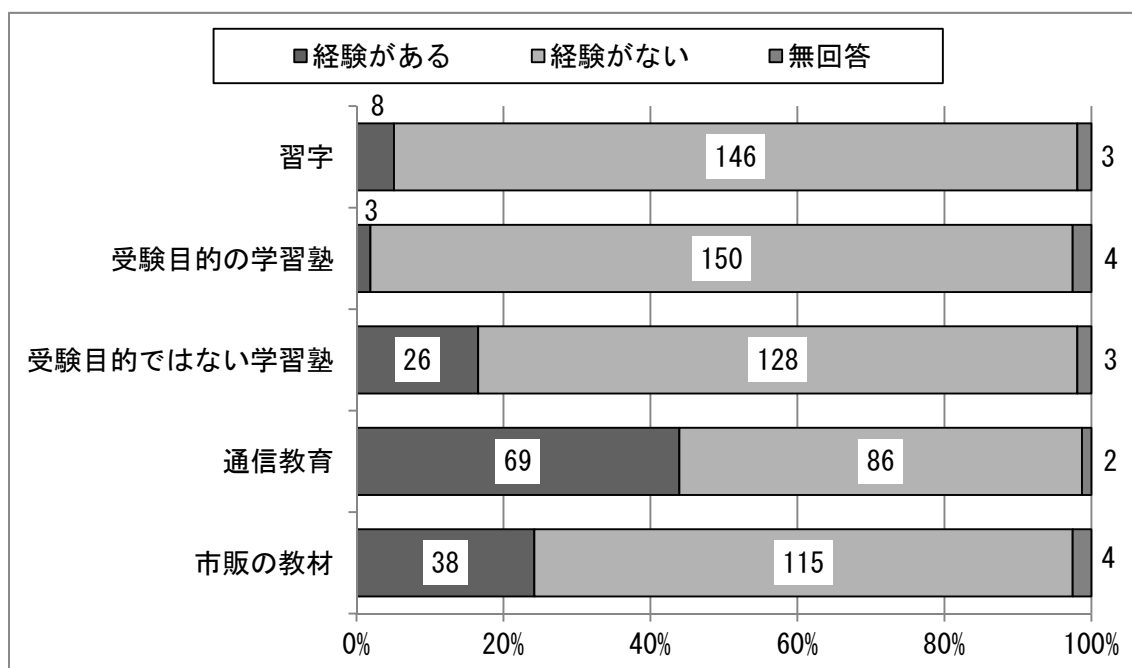


図 5-1 習い事や家庭学習の経験

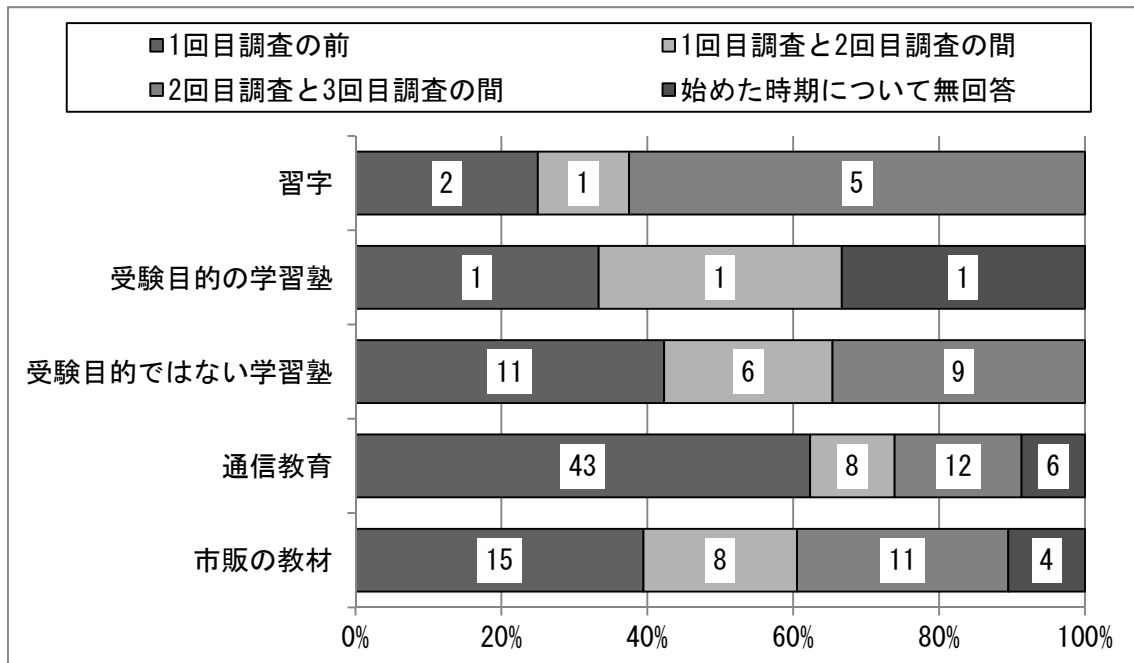


図 5-2 習い事や家庭学習を始めた時期

5.1.3. 今後の分析について

以上の結果をもとに、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較や、習い事・家庭学習の経験の有無を統制した家庭環境と読書能力の影響関係の分析を行う。しかし、「習字」「受験目的の学習塾」については経験がある幼児が少ないため、経験の有無によって比較することが難しいと考えられる。したがって、以下の分析では「受験目的ではない学習塾」「通信教育」「市販の教材」について検討を行うこととする。

5.2. 1 回目調査および 2 回目調査の分析結果

5.2.1. 分析対象

本分析では、3 回目調査の質問項目である習い事・家庭学習の経験の有無を統制して、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、1 回目質問紙調査、1 回目面接調査 1、2 回目面接調査 1、3 回目質問紙調査の 4 つ全ての回答が得られた幼児、および、1 回目質問紙調査、1 回目面接調査 2、2 回目面接調査 2、3 回目質問紙調査の 4 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（1 回目調査 9 名、2 回目調査 5 名）。

したがって、本分析の分析対象は 64 名（男児 41 名、女児 23 名、1 回目調査時の平均月齢 61.05 カ月、2 回目調査時の平均月齢 67.78 カ月）とした。

5.2.2. 質問紙調査結果

5.2.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-1、表 5-2、表 5-3 参照）。

その結果、1 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが保護者の読書好意度が高く ($t(59.00) = 7.59, p < .01$)、読書量も多いこと ($t(62) = 2.03, p < .05$) が示された。

2 回目調査においても、受験目的ではない塾の経験があるほうが保護者の読書好意度が高いことが示された ($t(53.00) = 7.85, p < .01$)。

表 5-1 保護者の読書好意度・読書量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	5.00 (.00) $N = 4$	3.87 (1.16) $N = 60$	7.59**	5.00 (.00) $N = 7$	3.89 (1.04) $N = 54$	7.85**
読書量	2.75 (.50) $N = 4$	1.92 (.81) $N = 60$	2.03*	2.29 (.49) $N = 7$	1.89 (.69) $N = 54$	1.47

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-2 保護者の読書好意度・読書量（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	4.23 (1.09) $N = 13$	3.90 (1.17) $N = 48$.93	4.29 (1.16) $N = 17$	4.00 (.89) $N = 41$	1.04
読書量	1.85 (.80) $N = 13$	2.00 (.85) $N = 48$.59	1.76 (.56) $N = 17$	2.00 (.74) $N = 41$	1.17

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差

表 5-3 保護者の読書好意度・読書量（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	4.60 (.89) $N = 5$	3.91 (1.16) $N = 56$	1.29	4.60 (.70) $N = 10$	3.92 (1.07) $N = 48$	1.93 †
読書量	2.00 (.00) $N = 5$	1.98 (.86) $N = 56$.16	2.20 (.42) $N = 10$	1.90 (.72) $N = 48$	1.28

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † $< .10$

5.2.2.2. 子どもに対する保護者の行動

5.2.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-4、表 5-5、表 5-6 参照）。

その結果、1 回目調査においては、受験目的でない塾の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(62) = 2.64, p < .05$)。

2 回目調査においては、受験目的でない塾の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高く ($t(58) = 3.06, p < .01$)、読み聞かせ冊数が多いこと ($t(58) = 2.31, p < .05$)、市販の教材の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高いこと ($t(20.79) = 3.00, p < .01$) が示された。

表 5-4 絵本の読み聞かせ量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	3.75 (.50) $N = 4$	2.65 (.82) $N = 60$	2.64*	3.43 (.54) $N = 7$	2.36 (.90) $N = 53$	3.06**
読み聞かせ 冊数	4.50 (2.08) $N = 4$	3.41 (1.68) $N = 59$	1.24	5.17 (1.84) $N = 6$	3.43 (1.74) $N = 54$	2.31*

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-5 絵本の読み聞かせ量（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	2.85 (.90) $N = 13$	2.73 (.84) $N = 48$.44	2.44 (.96) $N = 16$	2.54 (.93) $N = 41$.36
読み聞かせ 冊数	4.00 (1.87) $N = 13$	3.40 (1.69) $N = 48$	1.10	4.18 (1.98) $N = 17$	3.43 (1.77) $N = 40$	1.42

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差

表 5-6 絵本の読み聞かせ量（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	3.00 (1.00) $N = 5$	2.73 (.84) $N = 56$.67	3.10 (.57) $N = 10$	2.43 (.93) $N = 47$	3.00**
読み聞かせ 冊数	4.20 (2.59) $N = 5$	3.49 (1.64) $N = 55$.60	4.67 (1.66) $N = 9$	3.48 (1.80) $N = 48$	1.84 †

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † $< .10$ ** $p < .01$

5.2.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ頻度

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-7、表 5-8、表 5-9 参照）。

その結果、1 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが創作絵本の読み聞かせ頻度が高いこと ($t(61) = 2.08, p < .05$)、通信教育の経験があるほうがその他の絵本の読み聞かせ頻度が高いこと ($t(58) = 2.26, p < .05$)、市販の教材の経験があるほうが読み聞かせ頻度（合計） ($t(57) = 2.20, p < .05$)、知識・科学絵本 ($t(58) = 2.29, p < .05$) の読み聞かせ頻度が高いことが示された。

2 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが読み聞かせ頻度（合計） ($t(55) = 3.01, p < .01$)、創作絵本 ($t(59) = 2.84, p < .01$)、昔話絵本 ($t(57) = 2.96, p < .01$)、知識・科学絵本 ($t(59) = 3.01, p < .01$) の読み聞かせ頻度が高いことが示された。また、市販の教材の経験があるほうが読み聞かせ頻度（合計） ($t(52) = 2.79, p < .01$)、知識・科学絵本 ($t(15.00) = 2.83, p < .05$) の読み聞かせ頻度が高いことが示された。

表 5-7 絵本の種類別読み聞かせ頻度（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	10.67(2.08) $N = 3$	10.03(2.35) $N = 59$.46	11.57(1.90) $N = 7$	8.92(2.21) $N = 50$	3.01**
創作絵本	3.25(.50) $N = 4$	2.37(.83) $N = 59$	2.08*	3.00(1.00) $N = 7$	2.04(.82) $N = 54$	2.84**
昔話絵本	2.00(1.00) $N = 3$	1.78(.70) $N = 59$.53	2.29(.95) $N = 7$	1.54(.58) $N = 52$	2.96**
ことばの絵本	1.25(.50) $N = 4$	1.44(.65) $N = 59$.57	1.29(.49) $N = 7$	1.34(.52) $N = 53$.26
知識・科学 絵本	1.75(.96) $N = 4$	1.64(.76) $N = 59$.27	2.29(.76) $N = 7$	1.50(.64) $N = 54$	3.01**
わらべうた・ 詩の絵本	1.00(.00) $N = 4$	1.15(.41) $N = 59$.74	1.29(.49) $N = 7$	1.13(.34) $N = 54$	1.09
その他の絵本	1.25(.50) $N = 4$	1.64(.71) $N = 59$	1.08	1.43(.54) $N = 7$	1.42(.69) $N = 53$.05

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-8 絵本の種類別読み聞かせ頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	10.77(1.79) N = 13	9.89(2.47) N = 46	1.19	9.00(1.97) N = 16	9.39(2.48) N = 38	.57
創作絵本	2.62(.96) N = 13	2.40(.83) N = 47	.79	2.06(.75) N = 17	2.22(.96) N = 41	.68
昔話絵本	1.77(.83) N = 13	1.80(.69) N = 46	.16	1.53(.80) N = 17	1.67(.62) N = 39	.70
ことばの絵本	1.62(.96) N = 13	1.36(.53) N = 47	.92	1.35(.49) N = 17	1.33(.53) N = 40	.19
知識・科学 絵本	1.69(.63) N = 13	1.66(.82) N = 47	.13	1.71(.59) N = 17	1.56(.74) N = 41	.72
わらべうた・ 詩の絵本	1.08(.28) N = 13	1.08(.28) N = 47	.59	1.06(.24) N = 17	1.17(.38) N = 41	1.34
その他の絵本	2.00(.91) N = 13	1.51(.62) N = 47	2.26*	1.38(.50) N = 16	1.44(.74) N = 41	.32

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-9 絵本の種類別読み聞かせ頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	12.50(4.04) N = 4	9.91(2.14) N = 55	2.20*	11.10(2.38) N = 10	8.95(2.16) N = 44	2.79**
創作絵本	2.80(.84) N = 5	2.44(.83) N = 55	.93	2.60(.84) N = 10	2.08(.90) N = 48	1.68 †
昔話絵本	2.00(1.41) N = 4	1.78(.66) N = 55	.31	2.10(.99) N = 10	1.57(.54) N = 46	1.65
ことばの絵本	1.60(.55) N = 5	1.38(.62) N = 55	.76	1.30(.48) N = 10	1.32(.47) N = 47	.12
知識・科学 絵本	2.40(.89) N = 5	1.60(.74) N = 55	2.29*	2.10(.57) N = 10	1.52(.68) N = 48	2.83*
わらべうた・ 詩の絵本	1.40(.55) N = 5	1.13(.39) N = 55	1.46	1.30(.48) N = 10	1.13(.33) N = 48	1.09
その他の絵本	1.80(.45) N = 5	1.58(.71) N = 55	.67	1.70(1.06) N = 10	1.38(.57) N = 47	.92

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

5.2.2.2.3. 絵本の種類別読み聞かせ冊数

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-10、表 5-11、表 5-12 参照)。

その結果、市販の教材の経験があるほうが知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いことが示された ($t(56) = 2.24, p < .05$)。

表 5-10 絵本の種類別読み聞かせ冊数 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数 (合計)	10.67(3.51) $N = 3$	10.83(3.57) $N = 58$.08	11.67(3.67) $N = 6$	10.29(3.63) $N = 48$.87
創作絵本	3.33(1.16) $N = 3$	2.85(1.62) $N = 59$.51	4.00(2.53) $N = 6$	2.88(1.88) $N = 52$	1.33
昔話絵本	2.50(1.29) $N = 4$	1.85(1.03) $N = 59$	1.21	2.43(1.27) $N = 7$	1.75(1.03) $N = 52$	1.60
ことばの絵本	1.25(.50) $N = 4$	1.49(.95) $N = 59$.50	1.43(1.13) $N = 7$	1.49(.95) $N = 53$.16
知識・科学絵本	2.25(1.50) $N = 4$	1.68(.97) $N = 59$	1.10	2.43(1.51) $N = 7$	1.72(.98) $N = 54$	1.68 †
わらべうた・詩の絵本	1.00(.00) $N = 4$	1.12(.38) $N = 58$.63	1.14(.38) $N = 7$	1.13(.34) $N = 54$.10
その他の絵本	1.25(.50) $N = 4$	1.76(1.07) $N = 59$.94	1.71(1.11) $N = 7$	1.48(.83) $N = 52$.67

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 5-11 絵本の種類別読み聞かせ冊数 (通信教育の経験の有無による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数 (合計)	11.77(3.17) $N = 13$	10.47(3.55) $N = 45$	1.19	9.79(2.99) $N = 14$	10.62(3.81) $N = 37$.74
創作絵本	2.85(1.41) $N = 13$	2.89(1.70) $N = 46$.09	3.13(1.78) $N = 16$	2.97(2.08) $N = 39$.25
昔話絵本	2.00(1.29) $N = 13$	1.85(1.00) $N = 47$.45	1.65(1.06) $N = 17$	1.87(1.08) $N = 39$.72
ことばの絵本	1.92(1.71) $N = 13$	1.32(.52) $N = 47$	1.26	1.65(1.06) $N = 17$	1.40(.93) $N = 40$.88
知識・科学絵本	1.62(.65) $N = 13$	1.74(1.09) $N = 47$.41	2.00(1.00) $N = 17$	1.73(1.10) $N = 41$.87
わらべうた・詩の絵本	1.08(.28) $N = 13$	1.09(.29) $N = 46$.11	1.06(.24) $N = 17$	1.15(.36) $N = 41$.92
その他の絵本	2.31(1.65) $N = 13$	1.55(.78) $N = 47$	1.60	1.47(.83) $N = 15$	1.51(.87) $N = 41$.18

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差

表 5-12 絵本の種類別読み聞かせ冊数（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数（合計）	13.75 (8.18) N = 4	10.65 (3.09) N = 54	.75	11.67 (3.71) N = 9	10.24 (3.62) N = 42	1.07
創作絵本	3.25 (1.89) N = 4	2.89 (1.61) N = 55	.43	3.33 (2.06) N = 9	2.96 (1.99) N = 46	.52
昔話絵本	2.60 (2.30) N = 5	1.84 (.90) N = 55	.74	2.20 (1.23) N = 10	1.80 (1.05) N = 46	1.05
ことばの絵本	1.40 (.55) N = 5	1.45 (.96) N = 55	.13	1.50 (.97) N = 10	1.40 (.74) N = 47	.35
知識・科学絵本	3.40 (2.19) N = 5	1.58 (.71) N = 55	1.85	2.50 (1.18) N = 10	1.69 (1.01) N = 48	2.24*
わらべうた・詩の絵本	1.00 (.00) N = 5	1.13 (.39) N = 54	.74	1.20 (.42) N = 10	1.13 (.33) N = 48	.62
その他の絵本	2.20 (1.10) N = 5	1.67 (1.06) N = 55	1.07	1.90 (1.29) N = 10	1.46 (.75) N = 46	1.05

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、2 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * p < .05

5.2.2.2.4. 読み聞かせ方

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ方について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-13、表 5-14、表 5-15 参照)。

その結果、1 回目調査では、受験目的ではない塾の経験があるほうが「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であること ($t(57.00) = 3.78, p < .01$)、通信教育の経験があるほうが「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であること ($t(23.79) = 2.70, p < .05$) が示された。

また、2 回目調査では、通信教育の経験があるほうが「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方 ($t(52) = 2.03, p < .05$)、「ひとり読み促進型読み聞かせ (合計)」 ($t(50) = 2.16, p < .05$)、「読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように、説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方 ($t(52) = 2.80, p < .01$) であること、市販の教材の経験があるほうが「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」読み聞かせ方であること ($t(52) = 2.47, p < .05$) が示された。

表 5-13 読み聞かせ方 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	14.75 (2.22) $N = 4$	13.69 (3.43) $N = 58$.61	12.00 (2.16) $N = 7$	12.96 (3.16) $N = 50$.78
会話をしながら	4.00 (.82) $N = 4$	3.60 (.97) $N = 58$.80	3.86 (.69) $N = 7$	3.52 (1.07) $N = 50$.80
絵に説明を加えながら	4.00 (.00) $N = 4$	3.45 (1.11) $N = 58$	3.78**	2.71 (1.50) $N = 7$	3.34 (1.02) $N = 50$	1.43
ものの名前を教えながら	3.50 (1.29) $N = 4$	3.31 (1.10) $N = 58$.33	2.86 (1.57) $N = 7$	3.10 (1.11) $N = 50$.51
そのまま読む (逆転項目)	3.25 (.96) $N = 4$	3.33 (.91) $N = 58$.17	2.57 (1.40) $N = 7$	3.00 (1.16) $N = 50$.89
一人読み促進型(合計)	18.00 (2.00) $N = 3$	15.47 (4.17) $N = 57$	1.04	13.67 (3.72) $N = 6$	15.94 (4.38) $N = 49$	1.22
子どもが読めるところは読ませながら	3.00 (1.00) $N = 3$	2.69 (1.24) $N = 59$.42	2.67 (1.37) $N = 6$	2.88 (1.32) $N = 50$.37
字を教えながら	2.50 (1.00) $N = 4$	2.44 (1.10) $N = 57$.11	1.57 (.79) $N = 7$	2.33 (1.27) $N = 49$	2.17 †
読み方を教えてあげた	3.25 (1.71) $N = 4$	3.14 (1.21) $N = 59$.18	3.14 (1.77) $N = 7$	3.40 (1.23) $N = 50$.49
内容に説明を加えながら	3.00 (1.41) $N = 4$	3.47 (1.11) $N = 58$.80	2.86 (1.57) $N = 7$	3.28 (1.03) $N = 50$.95
自分で読んだ時には褒める	4.25 (.50) $N = 4$	3.86 (1.11) $N = 59$.69	3.57 (.98) $N = 7$	3.96 (1.01) $N = 50$.96

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 ** $p < .01$

表 5-14 読み聞かせ方（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	13.85(2.70) N = 13	14.00(3.40) N = 46	.15	11.56(2.73) N = 16	13.34(3.17) N = 38	1.96 †
会話をしながら	3.62(.96) N = 13	3.72(.94) N = 46	.35	3.31(1.08) N = 16	3.68(1.04) N = 38	1.19
絵に説明を加えながら	3.38(.87) N = 13	3.57(1.13) N = 46	.53	2.81(1.17) N = 16	3.47(1.06) N = 38	2.03*
ものの名前を教えながら	3.38(.96) N = 13	3.37(1.10) N = 46	.05	2.75(1.29) N = 16	3.18(1.11) N = 38	1.25
そのまま読む(逆転項目)	3.46(.78) N = 13	3.35(.92) N = 46	.40	2.69(1.01) N = 16	3.00(1.27) N = 38	.87
一人読み促進型(合計)	16.46(3.31) N = 13	15.43(4.36) N = 44	.79	13.94(4.28) N = 16	16.61(4.06) N = 36	2.16*
子どもが読めるところは読ませながら	2.69(1.18) N = 13	2.74(1.24) N = 46	.12	2.63(1.36) N = 16	3.00(1.31) N = 37	.95
字を教えながら	2.31(1.03) N = 13	2.51(1.12) N = 45	.59	1.81(1.17) N = 16	2.38(1.23) N = 37	1.56
読み方を教えてあげた	3.85(.99) N = 13	2.96(1.25) N = 47	2.70*	3.00(1.46) N = 16	3.55(1.18) N = 38	1.46
内容に説明を加えながら	3.46(.97) N = 13	3.41(1.20) N = 46	.13	2.63(1.03) N = 16	3.50(1.06) N = 38	2.80**
自分で読んだ時には褒める	4.15(.69) N = 13	3.85(1.14) N = 47	.91	3.88(.89) N = 16	4.00(1.04) N = 38	.42

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 5-15 読み聞かせ方（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	15.00(2.83) N = 5	13.72(3.34) N = 54	.83	13.90(3.73) N = 10	12.80(2.87) N = 44	1.04
会話をしながら	3.80(.45) N = 5	3.63(1.00) N = 54	.38	4.30(.68) N = 10	3.48(1.00) N = 44	2.47*
絵に説明を加えながら	4.20(.84) N = 5	3.46(1.09) N = 54	1.46	3.40(1.27) N = 10	3.32(1.03) N = 44	.22
ものの名前を教えながら	3.40(1.34) N = 5	3.33(1.05) N = 54	.13	3.30(1.42) N = 10	3.11(1.08) N = 44	.46
そのまま読む(逆転項目)	3.60(1.14) N = 5	3.30(.86) N = 54	.74	2.90(1.66) N = 10	2.89(1.06) N = 44	.03
一人読み促進型(合計)	17.67(4.04) N = 3	15.46(3.96) N = 54	.94	17.00(4.92) N = 9	15.49(3.97) N = 43	1.00
子どもが読めるところは読ませながら	3.25(.96) N = 4	2.67(1.20) N = 55	.94	2.78(1.20) N = 9	2.89(1.35) N = 44	.22
字を教えながら	2.50(1.29) N = 4	2.43(1.04) N = 54	.14	2.70(1.64) N = 10	2.07(1.08) N = 43	1.16
読み方を教えてあげた	2.60(1.34) N = 5	3.16(1.21) N = 55	.99	3.50(1.58) N = 10	3.36(1.22) N = 44	.30
内容に説明を加えながら	3.60(1.52) N = 5	3.41(1.11) N = 54	.36	3.50(1.58) N = 10	3.20(.95) N = 44	.57
自分で読んだ時には褒める	4.60(.55) N = 5	3.85(1.08) N = 55	1.52	4.30(.95) N = 10	3.86(.93) N = 44	1.34

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

5.2.2.2.5. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-16、表 5-17、表 5-18 参照）。

その結果、2 回目調査において、通信教育の経験があるほうが子どもを対象にした本の蔵書量が多いことが示された($t(55) = 2.18, p < .05$)。

表 5-16 自宅の蔵書量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	4.75 (2.06) $N = 4$	4.83 (1.49) $N = 60$.11	5.00 (1.53) $N = 7$	4.56 (1.32) $N = 52$.82
大人を対象にした本	5.25 (1.50) $N = 4$	4.63 (1.88) $N = 60$.64	5.43 (1.72) $N = 7$	4.43 (1.93) $N = 54$	1.31

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

表 5-17 自宅の蔵書量（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.46 (1.51) $N = 13$	4.71 (1.46) $N = 48$	1.64	5.24 (1.44) $N = 17$	4.43 (1.22) $N = 40$	2.18*
大人を対象にした本	5.38 (1.85) $N = 13$	4.48 (1.83) $N = 48$	1.58	5.06 (1.85) $N = 17$	4.39 (1.94) $N = 41$	1.21

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-18 自宅の蔵書量（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.20 (1.48) $N = 5$	4.86 (1.53) $N = 56$.48	4.80 (1.32) $N = 10$	4.61 (1.37) $N = 46$.40
大人を対象にした本	5.00 (1.87) $N = 5$	4.77 (1.83) $N = 56$.27	4.50 (2.12) $N = 10$	1.67 (1.89) $N = 48$.25

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法 ※括弧内は標準偏差

5.2.2.2.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-19、表 5-20、表 5-21 参照）。

その結果、2 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いこと ($t(59) = 2.09, p < .05$)、通信教育の経験がないほうが本のイベントへ連れて行く頻度が高いこと ($t(40.00) = 2.72, p < .05$) が示された。

表 5-19 図書館などへ連れて行く頻度（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.50(1.29) $N = 4$	5.03(1.21) $N = 60$.75	6.14(1.86) $N = 7$	4.96(1.35) $N = 54$	2.09* 59
図書館	2.50(1.29) $N = 4$	1.82(.81) $N = 60$	1.57	2.43(1.27) $N = 7$	1.76(.82) $N = 54$	1.36
本屋	2.00(.00) $N = 4$	2.08(.65) $N = 60$.26	2.43(.79) $N = 7$	2.07(.67) $N = 54$	1.30
本のイベント	1.00(.00) $N = 4$	1.13(.34) $N = 60$.77	1.29(.76) $N = 7$	1.13(.34) $N = 54$.54

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-20 図書館などへ連れて行く頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.15(.99) $N = 13$	5.02(1.28) $N = 48$.35	4.88(.99) $N = 17$	5.17(1.64) $N = 41$.67
図書館	2.00(.82) $N = 13$	1.81(.87) $N = 48$.70	1.76(.75) $N = 17$	1.85(.99) $N = 41$.33
本屋	2.00(.41) $N = 13$	2.10(.69) $N = 48$.52	2.12(.70) $N = 17$	2.12(.71) $N = 41$.02
本のイベント	1.15(.38) $N = 13$	1.10(.31) $N = 48$.49	1.00(.00) $N = 17$	1.20(.46) $N = 41$	2.72*

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-21 図書館などへ連れて行く頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.60(1.82) N = 5	5.02(1.17) N = 56	1.02	5.80(1.75) N = 10	5.00(1.38) N = 48	1.59
図書館	1.80(1.10) N = 5	1.86(.84) N = 56	.14	2.00(1.05) N = 10	1.83(.88) N = 48	.53
本屋	2.60(1.14) N = 5	2.04(.57) N = 56	1.09	2.50(.97) N = 10	2.04(.62) N = 48	1.43
本のイベント	1.20(.45) N = 5	1.13(.33) N = 56	.47	1.30(.68) N = 10	1.13(.33) N = 48	.80

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法

※括弧内は標準偏差

5.2.2.2.7. 親子の交流の頻度

直近 1 ヶ月の親子の交流の頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-22、表 5-23、表 5-24 参照)。

その結果、1 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが「よく話をする」頻度が高いこと ($t(57.00) = 7.93, p < .01$)、通信教育の経験があるほうが「一緒にスポーツ観戦に行く」頻度が高いこと ($t(46.00) = 2.69, p < .05$) が示された。

また、2 回目調査において、受験目的ではない塾の経験がないほうが「一緒にスポーツ観戦に行く」頻度が高いこと ($t(52.00) = 3.00, p < .01$)、通信教育の経験がないほうが「よく話をする」頻度が高いこと ($t(55) = 2.36, p < .05$)、市販の教材の経験があるほうが親子の交流の頻度 (合計) ($t(53) = 2.13, p < .05$)、「一緒にスポーツをする」頻度 ($t(54) = 2.07, p < .05$) が高いことが示された。

表 5-22 親子の交流の頻度 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の頻度 (合計)	22.25 (2.06) $N = 4$	22.66 (3.64) $N = 58$.22	23.40 (2.97) $N = 5$	23.15 (3.96) $N = 53$.14
旅行や遊び	3.00 (.82) $N = 4$	2.91 (.90) $N = 58$.19	2.86 (.90) $N = 7$	2.83 (.85) $N = 53$.08
夕飯	3.25 (.96) $N = 4$	3.50 (.68) $N = 58$.69	3.14 (.90) $N = 7$	3.51 (.67) $N = 53$	1.31
映画	1.00 (.00) $N = 4$	1.26 (.72) $N = 58$.72	1.17 (.41) $N = 6$	1.45 (.75) $N = 53$.92
話	4.00 (.00) $N = 4$	3.41 (.56) $N = 58$	7.93**	3.43 (.54) $N = 7$	3.51 (.51) $N = 53$.40
買い物	2.75 (.50) $N = 4$	3.22 (.70) $N = 58$	1.32	3.57 (.54) $N = 7$	3.30 (.75) $N = 53$.92
スポーツ観戦	1.00 (.00) $N = 4$	1.22 (.59) $N = 58$.75	1.00 (.00) $N = 6$	1.32 (.78) $N = 53$	3.00**
ゲームや歌	3.00 (.82) $N = 4$	2.90 (.85) $N = 58$.24	3.14 (.69) $N = 7$	2.87 (1.02) $N = 53$.69
スポーツ	2.25 (.50) $N = 4$	2.22 (.94) $N = 58$.05	2.67 (1.03) $N = 6$	2.28 (.95) $N = 53$.93
料理	2.00 (.00) $N = 4$	2.00 (.75) $N = 58$.00	2.00 (.58) $N = 7$	2.08 (.87) $N = 53$.22

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ ** $p < .01$

表 5-23 親子の交流の頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の頻度（合計）	23.17(3.27) N = 12	22.43(3.66) N = 47	.64	21.94(3.61) N = 16	23.62(3.92) N = 39	1.47
旅行や遊び	3.08(.79) N = 12	2.85(.91) N = 47	.81	2.82(.88) N = 17	2.83(.84) N = 40	.01
夕飯	3.67(.65) N = 12	3.45(.72) N = 47	.97	3.29(.77) N = 17	3.60(.63) N = 40	1.56
映画	1.25(.87) N = 12	1.17(.52) N = 47	.41	1.38(.81) N = 16	1.38(.67) N = 40	.00
話	3.42(.52) N = 12	3.51(.55) N = 47	.54	3.29(.47) N = 17	3.63(.49) N = 40	2.36*
買い物	3.00(.60) N = 12	3.23(.73) N = 47	1.15	3.12(.78) N = 17	3.43(.71) N = 40	1.45
スポーツ観戦	1.00(.00) N = 12	1.23(.60) N = 47	2.69*	1.06(.24) N = 17	1.31(.80) N = 39	1.77 †
ゲームや歌	3.08(.79) N = 12	2.85(.86) N = 47	.85	2.53(.94) N = 17	3.05(.99) N = 40	1.85 †
スポーツ	2.33(.89) N = 12	2.17(.92) N = 47	.55	2.35(.79) N = 17	2.28(1.00) N = 39	.26
料理	2.33(.49) N = 12	1.96(.75) N = 47	1.64	1.94(.75) N = 17	2.15(.87) N = 40	.87

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-24 親子の交流の頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の頻度（合計）	24.00(1.41) N = 4	22.40(3.66) N = 55	.87	25.75(4.65) N = 8	22.66(3.66) N = 47	2.13*
旅行や遊び	3.00(.00) N = 4	2.89(.92) N = 55	.88	3.00(.94) N = 10	2.81(.83) N = 47	.65
夕飯	3.25(.96) N = 4	3.49(.69) N = 55	.66	3.40(.84) N = 10	3.47(.69) N = 47	.27
映画	1.25(.50) N = 4	1.25(.73) N = 55	.01	1.22(.44) N = 9	1.45(.78) N = 47	.84
話	3.75(.50) N = 4	3.42(.57) N = 55	1.14	3.50(.53) N = 10	3.49(.51) N = 47	.06
買い物	3.50(.58) N = 4	3.15(.71) N = 55	.98	3.70(.48) N = 10	3.21(.75) N = 47	1.96 †
スポーツ観戦	1.00(.00) N = 4	1.24(.61) N = 55	.77	1.56(1.13) N = 9	1.21(.62) N = 47	.88
ゲームや歌	3.50(.58) N = 4	2.82(.84) N = 55	1.59	3.40(.70) N = 10	2.79(1.02) N = 47	1.81 †
スポーツ	2.50(.58) N = 4	2.15(.89) N = 55	.78	2.89(1.17) N = 9	2.19(.88) N = 47	2.07*
料理	2.25(.50) N = 4	2.00(.75) N = 55	.66	2.40(1.08) N = 10	2.04(.78) N = 47	1.23

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

5.2.3. 面接調査 1 結果

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-25、表 5-26、表 5-27 参照)。

その結果、1 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが読書のレディネス (合計) ($t(60) = 2.23, p < .05$)、読字 ($t(57) = 6.95, p < .01$)、絵と文字の結合 ($t(57.00) = 8.02, p < .01$) が高いことが示された。また、通信教育の経験があるほうが読書のレディネス (合計) ($t(57) = 2.64, p < .05$)、読字 ($t(53.97) = 2.97, p < .01$)、絵と文字の結合 ($t(25.85) = 3.04, p < .01$) が高いことが示された。

2 回目調査においては、通信教育の経験のあるほうが読書のレディネス (合計) ($t(43.30) = 2.20, p < .05$)、読字 ($t(59) = 2.17, p < .05$)、絵と文字の結合 ($t(51.14) = 2.56, p < .05$) が高いことが示された。

表 5-25 読書のレディネス得点 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス (合計)	13.75 (2.50) $N = 4$	9.72 (3.54) $N = 58$	2.23*	15.00 (3.34) $N = 8$	13.80 (3.82) $N = 56$.84
読字	6.00 (.00) $N = 4$	4.52 (1.63) $N = 58$	6.95**	5.75 (.46) $N = 8$	5.20 (1.09) $N = 56$	1.42
絵と文字の結合	3.00 (.00) $N = 4$	1.64 (1.29) $N = 58$	8.02**	2.75 (.71) $N = 8$	2.25 (1.00) $N = 56$	1.37
お話の構成	3.00 (2.45) $N = 4$	2.22 (2.15) $N = 58$.69	3.88 (2.64) $N = 8$	3.84 (2.36) $N = 56$.04
物語理解	1.75 (.50) $N = 4$	1.34 (.89) $N = 58$.90	2.63 (.52) $N = 8$	2.52 (.69) $N = 56$.42

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-26 読書のレディネス得点 (通信教育の経験の有無による比較)

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス (合計)	12.15 (2.67) $N = 13$	9.28 (3.58) $N = 46$	2.64*	15.24 (2.71) $N = 17$	13.27 (4.03) $N = 44$	2.20*
読字	5.31 (.63) $N = 13$	4.37 (1.78) $N = 46$	2.97**	5.71 (.59) $N = 17$	5.07 (1.15) $N = 44$	2.17*
絵と文字の結合	2.46 (.97) $N = 13$	1.46 (1.31) $N = 46$	3.04**	2.71 (.59) $N = 17$	2.16 (1.06) $N = 44$	2.56*
お話の構成	3.00 (2.42) $N = 13$	2.04 (2.03) $N = 46$	1.44	4.12 (2.09) $N = 17$	3.59 (2.49) $N = 44$.77
物語理解	1.38 (1.26) $N = 13$	1.41 (.75) $N = 46$.08	2.71 (.47) $N = 17$	2.45 (.73) $N = 44$	1.59

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-27 読書のレディネス得点（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス(合計)	9.00(6.36) N = 5	10.15(3.38) N = 54	.40	12.00(4.30) N = 10	14.39(3.56) N = 51	1.88 †
読字	3.60(2.51) N = 5	4.76(1.47) N = 54	1.02	5.10(1.20) N = 10	5.29(1.05) N = 51	.53
絵と文字の結合	2.20(1.30) N = 5	1.69(1.33) N = 54	.83	1.70(1.16) N = 10	2.45(.90) N = 51	2.30*
お話の構成	2.00(2.45) N = 5	2.31(2.21) N = 54	.30	2.90(2.38) N = 10	4.06(2.36) N = 51	1.42
物語理解	1.20(.84) N = 5	1.39(.88) N = 54	.48	2.30(.82) N = 10	2.59(.64) N = 51	1.25

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス(合計)は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

5.2.4. 面接調査 2 結果

想像力得点（イメージ量、エピソード数、創造物数）について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-28、表 5-29、表 5-30 参照）。

その結果、1 回目調査において、通信教育の経験がないほうが創造物数が多いことが示された($t(40.00) = 2.11, p < .05$)。

表 5-28 想像力得点（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	2.00(1.41) N = 4	2.70(4.33) N = 50	.32	4.86(3.02) N = 7	4.10(4.08) N = 52	.47
エピソード数	1.25(1.26) N = 4	1.36(2.14) N = 50	.10	2.71(1.98) N = 7	2.08(1.77) N = 52	.88
創造物数	.00(.00) N = 4	.46(1.42) N = 50	.64	1.00(1.00) N = 7	.85(1.24) N = 52	.31

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

表 5-29 想像力得点（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	1.45(2.07) N = 11	2.85(4.62) N = 41	.97	3.12(2.57) N = 17	4.38(4.19) N = 40	1.38
エピソード数	.73(.91) N = 11	1.51(2.31) N = 41	1.10	1.71(1.31) N = 17	2.18(1.75) N = 40	.99
創造物数	.00(.00) N = 11	.51(1.55) N = 41	2.11*	.47(.62) N = 17	.95(1.30) N = 40	1.45

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ * p < .05

表 5-30 想像力得点（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			2 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	7.20 (11.65) N = 5	2.21 (2.38) N = 48	.96	4.90 (3.84) N = 10	3.85 (3.97) N = 47	.76
エピソード数	4.00 (5.10) N = 5	1.08 (1.35) N = 48	1.27	2.50 (1.65) N = 10	2.00 (1.81) N = 47	.81
創造物数	1.80 (4.03) N = 5	.29 (.71) N = 48	.84	1.50 (1.65) N = 10	.74 (1.09) N = 47	1.81 †

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

5.2.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

5.2.5.1. 分析モデル

本分析では、習い事・家庭学習の経験の有無を統制したうえでの幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、補足的に習い事・家庭学習の経験の有無を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネス、習い事・家庭学習の経験の有無を独立変数、2回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 5-3 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

なお、本分析では、全体の結果である「3.11 回目調査および2回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

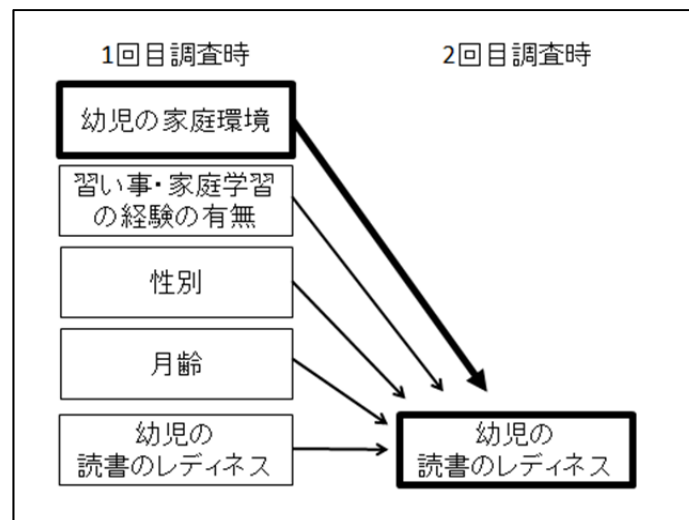


図 5-3 習い事・家庭学習の経験を統制した重回帰モデル

5.2.5.2. 全体の結果と共通する影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

5.2.5.2.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネス

保護者の読書好意度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .30$, $\beta = -.28$, $p < .05$)、保護者の読書量が多いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .34$, $\beta = -.35$, $p < .01$) が示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネス

わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .26$, $\beta = -.28$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .35$, $\beta = -.24$, $p < .05$) が低くなること、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.26$, p

<.05) が示された。

(3) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .16$, $\beta = -.37$, $p < .01$)、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.41$, $p < .01$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .13$, $\beta = -.35$, $p < .05$)、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .13$, $\beta = -.33$, $p < .05$) が示された。

(4) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いほど読書のレディネス（合計）が高くなること ($R^2 = .38$, $\beta = .28$, $p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .24$, $\beta = .25$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .39$, $\beta = .30$, $p < .01$) が高くなることが示された。

(5) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .12$, $\beta = .31$, $p < .05$)、「一緒に買い物に行く」頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.28$, $p < .05$) が示された。

5.2.5.2.2. 通信教育の経験の有無

(1) 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネス

保護者の読書好意度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .30$, $\beta = -.27$, $p < .05$)、保護者の読書量が多いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .32$, $\beta = -.31$, $p < .05$) が示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネス

わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .27$, $\beta = -.28$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .37$, $\beta = -.25$, $p < .05$) が低くなること、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .32$, $\beta = -.31$, $p < .05$) が示された。

(3) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .17$, $\beta = -.37$, $p < .01$)、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.40$, $p < .01$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.43$, $p < .01$)、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .14$, $\beta = -.32$, $p < .05$) が示された。

(4) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いほど読書のレディネス（合計）が高くなること ($R^2 = .39$, $\beta = .28$, $p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .26$, $\beta = .27$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .40$, $\beta = .29$, $p < .05$) が高くなることが示された。

(5) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .15$, $\beta = .34$, $p < .05$) が示された。

5.2.5.2.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネス

保護者の読書好意度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.29$, $p < .05$)、保護者の読書量が多いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .32$, $\beta = -.33$, $p < .01$) が示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と読書のレディネス

わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .25$, $\beta = -.30$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .36$, $\beta = -.26$, $p < .05$) が低くなること、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .28$, $\beta = -.27$, $p < .05$) が示された。

(3) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ (合計)」であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .17$, $\beta = -.40$, $p < .01$)、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .18$, $\beta = -.41$, $p < .01$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .14$, $\beta = -.36$, $p < .05$)、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .15$, $\beta = -.36$, $p < .05$) が示された。

(4) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館などへ連れて行く頻度 (合計) が高いほど読書のレディネス (合計) が高くなること ($R^2 = .39$, $\beta = .29$, $p < .05$)、図書館へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス (合計) ($R^2 = .39$, $\beta = .29$, $p < .05$) が高くなることが示された。

(5) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .12$, $\beta = .31$, $p < .05$)、「一緒に買い物に行く」頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.32$, $p < .05$) が示された。

5.2.5.3. 新しく見られた影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

5.2.5.3.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど読書のレディネス (合計) が低くなること ($R^2 = .33$, $\beta = -.26$, $p < .05$) が示された。

(2) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に夕飯を食べる」頻度が高いほど物語理解が高まること ($R^2 = .10$, $\beta = .28$, $p < .05$)、「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .10$, $\beta = .27$, $p < .05$) が示された。

5.2.5.3.2. 通信教育の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と読書のレディネス

読み聞かせ頻度 (合計) が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .30$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、ことばの絵本の読み聞かせ頻度が高いほど読字が低くなること ($R^2 = .24$, $\beta = -.26$, $p < .05$) が示された。

(2) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.25$, $p < .05$) が示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

親子の交流の頻度 (合計) が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.27$, $p < .05$)、「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .33$, $\beta = -.35$, $p < .01$)、「一緒に映画を見に行く」頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.28$, $p < .05$) が示された。

5.2.5.3.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と読書のレディネス

ことばの絵本の読み聞かせ頻度が高いほど読字が低くなること ($R^2 = .25$, $\beta = -.27$, $p < .05$) が示された。

(2) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど読字が低くなること ($R^2 = .25$, $\beta = -.26$, $p < .05$) が示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなること ($R^2 = .27$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、「一緒に夕飯を食べる」頻度が高いほど物語理解が高まること ($R^2 = .12$, $\beta = .30$, $p < .05$)、「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .12$, $\beta = .30$, $p < .05$) が示された。

5.2.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

5.2.6.1. 分析モデル

本分析では、習い事・家庭学習の経験の有無を統制したうえでの幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、補足的に習い事・家庭学習の経験の有無を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力、習い事・家庭学習の経験の有無を独立変数、2回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図5-4 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

なお、本分析では、全体の結果である「3.1 1回目調査および2回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と想像力の影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

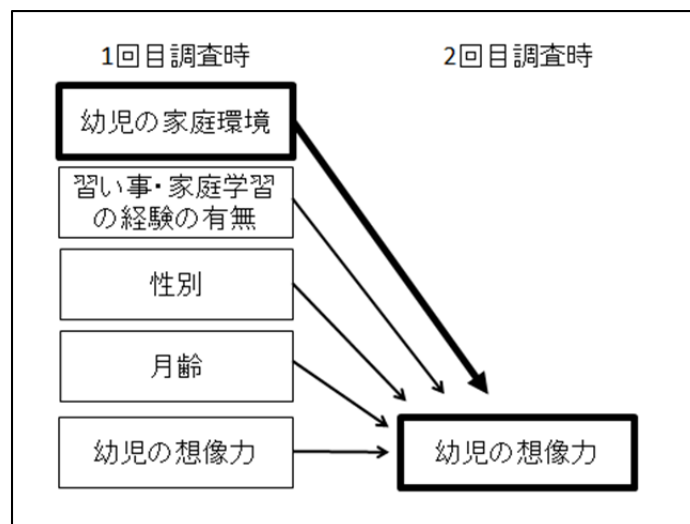


図 5-4 習い事・家庭学習の経験を統制した重回帰モデル

5.2.6.2. 全体の結果と共通する影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

5.2.6.2.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いほどイメージ量が少なくなること ($R^2 = .14$, $\beta = -.32$, $p < .05$) が示された。

5.2.6.2.2. 通信教育の経験の有無

幼児の家庭環境と想像力の影響関係はみられなかった。

5.2.6.2.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いほどイメージ量が少なくなる
こと ($R^2 = .17$, $\beta = -.33$, $p < .05$) が示された。

5.2.6.3. 新しく見られた影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討す
るために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係はなかった。

5.3. 2 回目調査および 3 回目調査の分析結果

5.3.1. 分析対象

本分析では、3 回目調査の質問項目である習い事・家庭学習の経験の有無を統制して、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、2 回目質問紙調査、2 回目面接調査 1、3 回目面接調査 1、3 回目質問紙調査の 4 つ全ての回答が得られた幼児、および、2 回目質問紙調査、2 回目面接調査 2、3 回目面接調査 2、3 回目質問紙調査の 4 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（2 回目調査 12 名、3 回目調査 9 名）。

したがって、本分析の分析対象は 128 名（男児 82 名、女児 46 名、2 回目調査時の平均月齢 67.94 カ月、3 回目調査時の平均月齢 74.79 カ月）とした。

5.3.2. 質問紙調査結果

5.3.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-31、表 5-32、表 5-33 参照）。

その結果、2 回目調査において、市販の教材の経験があるほうが保護者の読書好意度が高く ($t(123) = 2.20, p < .05$)、保護者の読書量が多いこと ($t(123) = 2.07, p < .05$) が示された。

3 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが保護者の読書量が高いこと ($t(126) = 2.85, p < .05$)、通信教育の経験があるほうが保護者の読書量が多いこと ($t(122.02) = 2.50, p < .05$) が示された。

表 5-31 保護者の読書好意度・読書量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	4.33 (.99) $N = 12$	3.97 (1.05) $N = 116$	1.17	4.24 (1.00) $N = 21$	3.82 (1.16) $N = 107$	1.54
読書量	2.25 (.75) $N = 12$	1.94 (.66) $N = 116$	1.52	2.24 (.70) $N = 21$	1.78 (.68) $N = 107$	2.85** 126

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ ** $p < .01$

表 5-32 保護者の読書好意度・読書量（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	4.07 (1.03) $N = 43$	4.01 (1.01) $N = 82$.30	3.96 (1.24) $N = 56$	3.86 (1.05) $N = 69$.54
読書量	2.02 (.64) $N = 43$	1.94 (.71) $N = 82$.65	2.02 (.65) $N = 56$	1.71 (.73) $N = 69$	2.50*

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-33 保護者の読書好意度・読書量（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	4.50 (.71) N = 18	3.93 (1.07) N = 107	2.20*	4.14 (1.01) N = 28	3.84 (1.16) N = 97	1.27
読書量	2.28 (.46) N = 18	1.93 (.70) N = 107	2.07*	2.04 (.69) N = 28	1.80 (.70) N = 97	1.54

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

5.3.2.2. 子どもに対する保護者の行動

5.3.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-34、表 5-35、表 5-36 参照）。

その結果、2 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高いこと ($t(15.21) = 2.85, p < .05$)、市販の教材の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高いこと ($t(32.16) = 2.28, p < .05$) が示された。

3 回目調査においては、通信教育の経験があるほうが読み聞かせ冊数が多いことが示された ($t(123) = 2.24, p < .05$)。

表 5-34 絵本の読み聞かせ量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	3.08 (.67) N = 12	2.49 (.87) N = 115	2.85*	2.52 (.87) N = 21	2.29 (.79) N = 107	1.22
読み聞かせ 冊数	4.55 (1.81) N = 11	3.74 (1.86) N = 116	1.37	4.05 (2.11) N = 21	3.39 (1.92) N = 107	1.41

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の7件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-35 絵本の読み聞かせ量（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	2.64 (.82) N = 42	2.51 (.89) N = 82	.79	2.50 (.79) N = 56	2.22 (.80) N = 69	1.98 †
読み聞かせ 冊数	4.26 (1.81) N = 43	3.62 (1.88) N = 81	1.82 †	3.93 (2.05) N = 56	3.16 (1.79) N = 69	2.24*

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の7件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ † $< .10$ * $p < .05$

表 5-36 絵本の読み聞かせ量（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	2.89 (.58) N = 18	2.52 (.89) N = 106	2.28*	2.29 (.85) N = 28	2.35 (.80) N = 97	.37
読み聞かせ 冊数	4.65 (1.73) N = 17	3.72 (1.86) N = 107	1.93 †	3.96 (2.19) N = 28	3.34 (1.87) N = 97	1.50

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の7件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

5.3.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ頻度

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-37、表 5-38、表 5-39 参照）。

その結果、2 回目調査においては、受験目的ではない宿の経験があるほうが読み聞かせ頻度（合計）（ $t(121) = 2.73, p < .01$ ）、創作絵本（ $t(126) = 2.15, p < .05$ ）、昔話絵本（ $t(124) = 2.79, p < .01$ ）、知識・科学絵本（ $t(126) = 2.01, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いことが示された。また、通信教育の経験があるほうがことばの絵本（ $t(122) = 2.06, p < .05$ ）、知識・科学絵本（ $t(123) = 2.00, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いことが示された。

3 回目調査では、通信教育の経験があるほうが読み聞かせ頻度（合計）（ $t(112) = 2.02, p < .05$ ）、創作絵本（ $t(116) = 2.03, p < .05$ ）の読み聞かせ頻度が高いことが示された。

表 5-37 絵本の種類別読み聞かせ頻度（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	11.42 (2.50) N = 12	9.47 (2.34) N = 111	2.73**	9.32 (2.38) N = 19	8.68 (1.95) N = 98	1.25
創作絵本	2.75 (.87) N = 12	2.21 (.83) N = 116	2.15*	1.95 (.71) N = 19	1.89 (.69) N = 102	.32
昔話絵本	2.08 (.90) N = 12	1.56 (.58) N = 114	2.79**	1.90 (.94) N = 21	1.50 (.57) N = 105	1.92 †
ことばの絵本	1.58 (.67) N = 12	1.41 (.61) N = 115	.94	1.43 (.68) N = 21	1.24 (.47) N = 104	1.22
知識・科学 絵本	2.17 (.84) N = 12	1.67 (.81) N = 116	2.01*	1.71 (.78) N = 21	1.65 (.78) N = 106	.34
わらべうた・ 詩の絵本	1.42 (.67) N = 12	1.14 (.35) N = 115	1.42	1.14 (.48) N = 21	1.06 (.23) N = 105	.80
その他の絵本	1.42 (.52) N = 12	1.46 (.68) N = 114	.24	1.43 (.68) N = 21	1.36 (.54) N = 105	.50

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05 ** p < .01

表 5-38 絵本の種類別読み聞かせ頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	10.10(2.50) N = 42	9.46(2.35) N = 78	1.38	9.24(2.05) N = 50	8.47(2.01) N = 64	2.02*
創作絵本	2.28(.73) N = 43	2.27(.90) N = 82	.07	2.06(.73) N = 52	1.80(.64) N = 66	2.03*
昔話絵本	1.67(.72) N = 43	1.58(.59) N = 80	.83	1.68(.74) N = 56	1.48(.59) N = 67	1.68 †
ことばの絵本	1.58(.66) N = 43	1.35(.57) N = 81	2.06*	1.33(.58) N = 55	1.22(.46) N = 67	1.08
知識・科学 絵本	1.93(.94) N = 43	1.62(.75) N = 82	2.00*	1.82(.77) N = 56	1.56(.78) N = 68	1.88 †
わらべうた・ 詩の絵本	1.19(.45) N = 43	1.15(.36) N = 81	.51	1.09(.35) N = 55	1.04(.21) N = 68	.93
その他の絵本	1.45(.63) N = 42	1.47(.69) N = 81	.13	1.35(.55) N = 55	1.38(.57) N = 68	.36

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-39 絵本の種類別読み聞かせ頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	10.44(2.33) N = 18	9.59(2.41) N = 102	1.40	9.08(2.33) N = 26	8.71(1.96) N = 89	.81
創作絵本	2.50(.71) N = 18	2.23(.86) N = 107	1.24	2.08(.69) N = 26	1.86(.69) N = 92	1.43
昔話絵本	1.89(.90) N = 18	1.58(.57) N = 105	1.40	1.71(.76) N = 28	1.53(.63) N = 95	1.32
ことばの絵本	1.33(.49) N = 18	1.43(.62) N = 106	.78	1.32(.61) N = 28	1.26(.49) N = 95	.52
知識・科学 絵本	1.83(.62) N = 18	1.72(.86) N = 107	.54	1.75(.70) N = 28	1.65(.81) N = 96	.62
わらべうた・ 詩の絵本	1.33(.49) N = 18	1.14(.38) N = 106	1.60	1.11(.42) N = 28	1.05(.22) N = 95	.91
その他の絵本	1.56(.86) N = 18	1.46(.64) N = 105	.58	1.32(.55) N = 28	1.39(.57) N = 95	.56

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差

5.3.2.2.3. 絵本の種類別読み聞かせ冊数

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-40、表 5-41、表 5-42 参照）。

その結果、2 回目調査においては、通信教育の経験があるほうがことばの絵本($t(70.34) = 2.20, p < .05$)、知識・科学絵本($t(121) = 2.40, p < .05$)の読み聞かせ冊数が多いことが示された。

3 回目調査においては、通信教育の経験があるほうが読み聞かせ冊数（合計）が多くなることが示された($t(114) = 2.00, p < .05$)。

表 5-40 絵本の種類別読み聞かせ冊数（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数（合計）	11.00(3.13) $N = 10$	11.18(4.11) $N = 107$.17	11.55(6.45) $N = 20$	9.89(3.39) $N = 99$	1.67 †
創作絵本	3.82(2.18) $N = 11$	3.14(1.99) $N = 114$	1.07	2.52(1.66) $N = 21$	2.64(1.59) $N = 105$.30
昔話絵本	2.00(1.18) $N = 111$	1.89(1.23) $N = 114$.29	2.57(2.06) $N = 21$	1.67(.96) $N = 104$	1.95 †
ことばの絵本	1.58(1.00) $N = 12$	1.56(.98) $N = 115$.09	1.81(1.78) $N = 21$	1.25(.57) $N = 104$	1.43
知識・科学絵本	2.33(1.37) $N = 12$	1.82(1.08) $N = 114$	1.49	1.75(1.12) $N = 20$	1.72(.92) $N = 106$.14
わらべうた・詩の絵本	1.25(.45) $N = 12$	1.15(.40) $N = 115$.83	1.38(1.53) $N = 21$	1.08(.36) $N = 105$.91
その他の絵本	1.50(.91) $N = 12$	1.62(.99) $N = 113$.40	1.43(.68) $N = 21$	1.51(1.07) $N = 105$.35

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 5-41 絵本の種類別読み聞かせ冊数（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数（合計）	11.64(4.06) N = 39	10.91(4.01) N = 75	.92	11.00(4.74) N = 53	9.49(3.36) N = 63	2.00*
創作絵本	3.36(1.83) N = 42	3.14(2.12) N = 80	.67	2.84(1.71) N = 56	2.49(1.49) N = 67	1.20
昔話絵本	1.95(1.34) N = 42	1.85(1.17) N = 80	.44	2.05(1.53) N = 56	1.65(.95) N = 66	1.77 †
ことばの絵本	1.84(1.11) N = 43	1.41(.88) N = 81	2.20*	1.49(1.22) N = 55	1.22(.55) N = 67	1.51
知識・科学絵本	2.21(1.23) N = 43	1.71(1.02) N = 80	2.40*	1.89(.97) N = 56	1.61(.94) N = 67	1.63
わらべうた・詩の絵本	1.16(.43) N = 43	1.15(.39) N = 81	.19	1.18(.96) N = 55	1.04(.21) N = 68	1.04
その他の絵本	1.61(1.02) N = 41	1.60(.97) N = 81	.03	1.45(.77) N = 55	1.49(1.06) N = 68	.18

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-42 絵本の種類別読み聞かせ冊数（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数（合計）	11.41(3.57) N = 17	11.16(4.13) N = 97	.23	11.50(6.29) N = 26	9.73(3.15) N = 91	1.39
創作絵本	3.41(2.06) N = 17	3.18(2.02) N = 105	.44	3.04(1.86) N = 28	2.47(1.49) N = 95	1.66
昔話絵本	2.11(1.28) N = 18	1.88(1.23) N = 104	.72	2.15(1.59) N = 27	1.74(1.14) N = 95	1.51
ことばの絵本	1.44(.86) N = 18	1.55(.92) N = 106	.44	1.54(1.43) N = 28	1.29(.70) N = 95	.86
知識・科学絵本	2.11(1.08) N = 18	1.86(1.13) N = 105	.89	1.96(1.13) N = 27	1.67(.90) N = 96	1.43
わらべうた・詩の絵本	1.33(.59) N = 18	1.13(.37) N = 106	1.39	1.29(1.33) N = 28	1.05(.22) N = 95	.93
その他の絵本	1.56(1.04) N = 18	1.63(.99) N = 104	.31	1.39(.69) N = 28	1.49(1.00) N = 95	.51

※読み聞かせ冊数は、「1. 0冊」～「8. 11冊以上」の8件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

5.3.2.2.4. 読み聞かせ方

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ方について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-43、表 5-44、表 5-45 参照)。

その結果、2 回目調査においては、市販の教材の経験があるほうが「子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした」読み聞かせ方であることが示された ($t(27.32) = 2.31, p < .05$)。

3 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方 ($t(117) = 2.36, p < .05$)、「字を教えながら読んだ」の読み聞かせ方 ($t(117) = 2.40, p < .05$) であることが示された。

表 5-43 読み聞かせ方 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	13.55(2.12) $N = 11$	13.39(3.10) $N = 108$.16	14.45(3.71) $N = 20$	13.14(3.37) $N = 99$	1.56
会話をしながら	3.82(.75) $N = 11$	3.56(.98) $N = 108$.86	3.85(.93) $N = 20$	3.35(1.12) $N = 99$	1.86 †
絵に説明を加えながら	3.64(1.29) $N = 11$	3.48(.98) $N = 108$.48	3.60(1.27) $N = 20$	3.35(1.14) $N = 99$.87
ものの名前を教えながら	3.36(1.12) $N = 11$	3.14(.99) $N = 108$.71	3.60(1.00) $N = 20$	2.99(1.06) $N = 99$	2.36*
そのまま読む(逆転項目)	2.73(1.10) $N = 11$	3.21(1.12) $N = 108$	1.37	3.40(1.27) $N = 20$	3.44(1.05) $N = 99$.17
一人読み促進型(合計)	16.30(3.83) $N = 10$	15.93(4.13) $N = 107$.28	17.10(3.23) $N = 20$	15.39(3.83) $N = 99$	1.86 †
子どもが読めるところは読ませながら	2.70(1.16) $N = 10$	2.90(1.25) $N = 108$.48	3.15(1.09) $N = 20$	2.82(1.27) $N = 99$	1.09
字を教えながら	2.36(1.29) $N = 11$	2.35(1.20) $N = 107$.05	2.95(1.15) $N = 20$	2.26(1.17) $N = 99$	2.40*
読み方を教えてあげた	3.64(1.36) $N = 11$	3.34(1.25) $N = 108$.74	3.05(1.15) $N = 20$	3.15(1.21) $N = 99$.35
内容に説明を加えながら	3.36(1.29) $N = 11$	3.31(1.06) $N = 108$.14	3.60(1.05) $N = 20$	3.14(1.11) $N = 99$	1.71 †
自分で読んだ時には褒める	4.09(.94) $N = 11$	3.98(.98) $N = 108$.36	4.35(.88) $N = 20$	4.02(.90) $N = 99$	1.50

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$

表 5-44 読み聞かせ方（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	13.20(3.10) N = 41	13.52(3.03) N = 75	.55	13.38(3.40) N = 53	13.49(3.51) N = 63	.18
会話をしながら	3.51(.95) N = 41	3.63(.98) N = 75	.61	3.62(1.02) N = 53	3.33(1.14) N = 63	1.43
絵に説明を加えながら	3.49(1.10) N = 41	3.52(.98) N = 75	.16	3.32(1.17) N = 53	3.52(1.12) N = 63	.95
ものの名前を教えながら	3.07(.93) N = 41	3.20(1.04) N = 75	.65	3.08(1.07) N = 53	3.16(1.07) N = 63	.42
そのまま読む(逆転項目)	3.12(1.14) N = 41	3.17(1.13) N = 75	.23	3.36(1.09) N = 53	3.48(1.09) N = 63	.58
一人読み促進型(合計)	16.02(4.36) N = 41	16.00(3.89) N = 73	.03	15.74(3.95) N = 53	15.83(3.60) N = 63	.13
子どもが読めるところは読ませながら	3.00(1.26) N = 41	2.84(1.23) N = 74	.67	2.89(1.22) N = 53	2.87(1.28) N = 63	.06
字を教えながら	2.24(1.30) N = 41	2.39(1.45) N = 74	.63	2.30(1.15) N = 53	2.48(1.23) N = 63	.78
読み方を教えてあげた	3.34(1.39) N = 41	3.40(1.17) N = 75	.24	3.21(1.17) N = 53	3.13(1.21) N = 63	.36
内容に説明を加えながら	3.27(1.10) N = 41	3.36(1.07) N = 75	.44	3.17(1.11) N = 53	3.33(1.06) N = 63	.81
自分で読んだ時には褒める	4.17(.95) N = 41	3.93(.96) N = 75	1.28	4.17(.94) N = 53	4.02(.89) N = 63	.91

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差

表 5-45 読み聞かせ方（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	13.29(3.14) N = 17	13.53(2.98) N = 99	.29	12.67(3.74) N = 27	13.56(3.40) N = 89	1.17
会話をしながら	4.00(.71) N = 17	3.55(.96) N = 99	2.31*	3.44(1.12) N = 27	3.43(1.12) N = 89	.07
絵に説明を加えながら	3.29(1.05) N = 17	3.58(.97) N = 99	1.09	3.04(1.32) N = 27	3.52(1.11) N = 89	1.88 †
ものの名前を教えながら	3.29(1.11) N = 17	3.18(.96) N = 99	.44	3.04(1.16) N = 27	3.09(1.06) N = 89	.22
そのまま読む(逆転項目)	2.71(1.36) N = 17	3.22(1.07) N = 99	1.77	3.15(1.29) N = 27	3.53(1.02) N = 89	1.40
一人読み促進型(合計)	17.13(4.18) N = 16	15.81(3.95) N = 98	1.23	15.48(4.12) N = 27	15.66(3.71) N = 89	.22
子どもが読めるところは読ませながら	3.13(1.26) N = 16	2.85(1.23) N = 99	.83	2.93(1.11) N = 27	2.83(1.30) N = 89	.34
字を教えながら	2.82(1.38) N = 17	2.24(1.14) N = 98	1.87	2.33(1.11) N = 27	2.35(1.22) N = 89	.06
読み方を教えてあげた	3.35(1.54) N = 17	3.38(1.20) N = 99	.08	3.00(1.24) N = 27	3.17(1.20) N = 89	.64
内容に説明を加えながら	3.47(1.28) N = 17	3.31(1.03) N = 99	.56	3.00(1.21) N = 27	3.28(1.09) N = 89	1.15
自分で読んだ時には褒める	4.24(.90) N = 17	3.97(.94) N = 99	1.09	4.22(1.01) N = 27	4.03(.87) N = 89	.95

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

5.3.2.2.5. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-46、表 5-47、表 5-48 参照）。

その結果、2 回目調査において、通信教育の経験のあるほうが子どもを対象とした本の蔵書量($t(122) = 3.81, p < .01$)、大人を対象とした本の蔵書量($t(99.43) = 2.19, p < .05$)が多いことが示された。

3 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが大人を対象とした本の蔵書量が多いこと($t(34.08) = 2.12, p < .05$)、通信教育の経験があるほうが子どもを対象とした本の蔵書量($t(123) = 2.41, p < .05$)、大人を対象とした本の蔵書量($t(122.68) = 2.44, p < .05$)が多いことが示された。

表 5-46 自宅の蔵書量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.42(1.56) $N = 12$	4.91(1.37) $N = 114$	1.20	5.10(1.51) $N = 21$	4.87(1.40) $N = 107$.67
大人を対象にした本	5.83(1.47) $N = 12$	4.78(1.88) $N = 116$	1.89†	5.52(1.54) $N = 21$	4.71(1.95) $N = 106$	2.12*

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$

表 5-47 自宅の蔵書量（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.60(1.09) $N = 43$	4.67(1.41) $N = 81$	3.81**	5.25(1.24) $N = 56$	4.65(1.48) $N = 69$	2.41*
大人を対象にした本	5.37(1.62) $N = 43$	4.66(1.93) $N = 82$	2.19*	5.29(1.58) $N = 56$	4.49(2.06) $N = 69$	2.44*

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-48 自宅の蔵書量（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.00(1.14) $N = 18$	4.98(1.43) $N = 105$.05	5.00(1.44) $N = 28$	4.87(1.43) $N = 97$.44
大人を対象にした本	5.06(1.83) $N = 18$	4.91(1.86) $N = 107$.31	5.18(1.89) $N = 28$	4.80(1.89) $N = 97$.93

※蔵書数は、「1. 0冊」～「7. 100冊以上」の7件法

※括弧内は標準偏差

5.3.2.2.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-49、表 5-50、表 5-51 参照）。

その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 5-49 図書館などへ連れて行く頻度（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.50(2.20) $N = 12$	4.84(1.33) $N = 116$	1.03	4.90(1.51) $N = 21$	4.79(1.27) $N = 107$.38
図書館	2.00(1.21) $N = 12$	1.67(.80) $N = 116$.92	1.62(.87) $N = 21$	1.68(.80) $N = 107$.33
本屋	2.25(.97) $N = 12$	2.03(.61) $N = 116$.79	2.14(.85) $N = 21$	2.04(.61) $N = 107$.67
本のイベント	1.25(.62) $N = 12$	1.14(.35) $N = 116$.62	1.14(.36) $N = 21$	1.07(.25) $N = 107$.95

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差

表 5-50 図書館などへ連れて行く頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	4.72(1.22) $N = 43$	4.98(1.55) $N = 82$.94	4.91(1.43) $N = 56$	4.72(1.22) $N = 69$.78
図書館	1.58(.66) $N = 43$	1.76(.94) $N = 82$	1.21	1.64(.82) $N = 56$	1.71(.81) $N = 69$.46
本屋	2.07(.63) $N = 43$	2.04(.68) $N = 82$.27	2.16(.71) $N = 56$	1.96(.61) $N = 69$	1.74 †
本のイベント	1.07(.26) $N = 43$	1.18(.42) $N = 82$	1.86 †	1.11(.31) $N = 56$	1.06(.24) $N = 69$.98

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 5-51 図書館などへ連れて行く頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.39(1.61) N = 18	4.83(1.40) N = 107	1.52	4.93(1.46) N = 28	4.77(1.28) N = 97	.55
図書館	1.78(.88) N = 18	1.70(.85) N = 107	.35	1.64(.87) N = 28	1.69(.80) N = 97	.28
本屋	2.28(.83) N = 18	2.01(.62) N = 107	1.32	2.11(.74) N = 28	2.03(.64) N = 97	.54
本のイベント	1.33(.59) N = 18	1.12(.33) N = 107	1.48	1.18(.39) N = 28	1.05(.22) N = 97	1.65

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の4件法

※括弧内は標準偏差

5.3.2.2.7. 親子の交流の頻度

直近 1 ヶ月の親子の交流の頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-52、表 5-53、表 5-54 参照)。

その結果、2 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いことが示された ($t(125) = 2.28, p < .05$)。また、通信教育の経験があるほうが「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いことが示された ($t(122) = 1.99, p < .05$)。

3 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが親子の交流の頻度 (合計) ($t(124) = 2.46, p < .05$)、「よく話をする」頻度 ($t(41.81) = 3.66, p < .01$) が高いことが示された。

表 5-52 親子の交流の頻度 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の頻度 (合計)	24.50 (3.78) $N = 10$	23.38 (4.05) $N = 115$.84	25.48 (4.47) $N = 21$	23.21 (3.72) $N = 105$	2.46*
旅行や遊び	3.00 (.85) $N = 12$	2.92 (.88) $N = 115$.29	3.33 (.80) $N = 21$	2.94 (.85) $N = 106$	1.94 †
夕飯	3.33 (.89) $N = 12$	3.52 (.67) $N = 115$.72	3.67 (.66) $N = 21$	3.47 (.69) $N = 106$	1.19
映画	1.64 (1.03) $N = 11$	1.50 (.77) $N = 115$.53	1.57 (.98) $N = 21$	1.45 (.86) $N = 106$.56
話	3.58 (.52) $N = 12$	3.55 (.53) $N = 115$.22	3.86 (.36) $N = 21$	3.51 (.56) $N = 106$	3.66**
買い物	3.58 (.67) $N = 12$	3.23 (.79) $N = 115$	1.48	3.43 (.81) $N = 21$	3.35 (.73) $N = 106$.45
スポーツ観戦	1.09 (.30) $N = 11$	1.32 (.83) $N = 115$	1.93 †	1.38 (.92) $N = 21$	1.19 (.59) $N = 106$.92
ゲームや歌	3.42 (.67) $N = 12$	2.79 (.92) $N = 115$	2.28*	3.33 (.86) $N = 21$	2.97 (.83) $N = 105$	1.82 †
スポーツ	2.64 (1.03) $N = 11$	2.41 (.98) $N = 115$.73	2.62 (1.02) $N = 21$	2.23 (.99) $N = 106$	1.65
料理	1.83 (.58) $N = 12$	2.13 (.91) $N = 115$	1.10	2.29 (.85) $N = 21$	2.07 (.84) $N = 106$	1.09

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-53 親子の交流の頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の 頻度（合計）	23.48(4.10) N = 42	23.45(4.03) N = 80	.03	23.59(3.92) N = 54	23.55(3.94) N = 69	.06
旅行や遊び	3.14(.86) N = 43	2.81(.87) N = 81	1.99*	3.11(.79) N = 55	2.94(.89) N = 69	1.09
夕飯	3.47(.74) N = 43	3.56(.65) N = 81	.70	3.38(.73) N = 55	3.61(.65) N = 69	1.80 †
映画	1.62(.88) N = 42	1.43(.72) N = 81	1.26	1.55(.86) N = 55	1.39(.86) N = 69	.99
話	3.58(.50) N = 43	3.56(.55) N = 81	.26	3.62(.53) N = 55	3.54(.53) N = 69	.86
買い物	3.21(.77) N = 43	3.30(.80) N = 81	.58	3.36(.73) N = 55	3.36(.75) N = 69	.01
スポーツ観戦	1.19(.63) N = 43	1.33(.85) N = 80	.94	1.24(.69) N = 55	1.20(.63) N = 69	.28
ゲームや歌	2.72(.91) N = 43	2.91(.93) N = 81	1.11	2.91(.81) N = 54	3.13(.86) N = 69	1.47
スポーツ	2.47(.94) N = 43	2.40(1.00) N = 81	.35	2.31(.96) N = 55	2.22(1.01) N = 69	.51
料理	2.00(.76) N = 43	2.17(.95) N = 81	1.11	2.05(.71) N = 55	2.16(.93) N = 69	.71

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-54 親子の交流の頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の 頻度（合計）	23.31(5.55) N = 16	23.47(3.82) N = 106	.15	23.54(4.01) N = 28	23.57(3.96) N = 96	.04
旅行や遊び	2.78(.94) N = 18	2.96(.86) N = 106	.83	3.07(.81) N = 28	2.98(.86) N = 96	.51
夕飯	3.33(.84) N = 18	3.53(.67) N = 106	1.11	3.50(.74) N = 28	3.50(.68) N = 96	.00
映画	1.41(.62) N = 17	1.53(.82) N = 106	.56	1.29(.66) N = 28	1.50(.91) N = 96	1.38
話	3.39(.50) N = 18	3.58(.53) N = 106	1.38	3.61(.57) N = 28	3.55(.54) N = 96	.47
買い物	3.22(.88) N = 18	3.25(.77) N = 106	.16	3.36(.73) N = 28	3.35(.75) N = 96	.02
スポーツ観戦	1.47(1.07) N = 17	1.26(.75) N = 106	.77	1.21(.69) N = 28	1.22(.65) N = 96	.03
ゲームや歌	3.11(.76) N = 18	2.80(.94) N = 106	1.32	3.18(.82) N = 96	3.01(.84) N = 96	.93
スポーツ	2.35(1.27) N = 17	2.43(.94) N = 106	.25	2.21(1.00) N = 96	2.32(1.01) N = 96	.50
料理	2.11(1.08) N = 18	2.12(.86) N = 106	.05	2.11(.69) N = 96	2.09(.90) N = 96	.07

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

5.3.3. 面接調査 1 結果

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-55、表 5-56、表 5-57 参照)。

その結果、2 回目調査において通信教育の経験があるほうが読書のレディネス (合計) ($t(113.8) = 2.60, p < .05$)、読字 ($t(119) = 2.37, p < .05$)、絵と文字の結合 ($t(118.2) = 3.23, p < .01$) の得点が高くなるということが示された。また、市販の教材の経験のあるほうが絵と文字の結合 ($t(119) = 2.01, p < .05$)、お話の構成 ($t(119) = 1.99, p < .05$) の得点が高くなるということが示された。

表 5-55 読書のレディネス得点 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス (合計)	14.00 (5.08) $N = 12$	13.81 (3.73) $N = 112$.16	15.00 (3.58) $N = 21$	15.05 (2.85) $N = 105$.07
読字	5.25 (1.49) $N = 12$	5.13 (1.17) $N = 112$.32	5.62 (1.32) $N = 21$	5.74 (.68) $N = 105$.63
絵と文字の結合	2.42 (1.08) $N = 12$	2.31 (1.00) $N = 112$.34	2.76 (.77) $N = 21$	2.71 (.66) $N = 105$.29
お話の構成	4.17 (2.29) $N = 12$	4.04 (2.14) $N = 112$.20	4.14 (2.15) $N = 21$	4.07 (2.12) $N = 105$.15
物語理解	2.17 (1.03) $N = 12$	2.33 (.83) $N = 112$.63	2.48 (.68) $N = 21$	2.50 (.68) $N = 105$.18

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差

表 5-56 読書のレディネス得点 (通信教育の経験の有無による比較)

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス (合計)	14.85 (2.69) $N = 41$	13.20 (4.27) $N = 80$	2.60*	15.51 (2.57) $N = 55$	14.60 (3.27) $N = 68$	1.72 †
読字	5.49 (.68) $N = 41$	4.95 (1.37) $N = 80$	2.37*	5.76 (.79) $N = 55$	5.68 (.85) $N = 68$.58
絵と文字の結合	2.66 (.62) $N = 41$	2.15 (1.12) $N = 80$	3.23**	2.78 (.63) $N = 55$	2.66 (.73) $N = 68$.97
お話の構成	4.32 (1.90) $N = 41$	3.84 (2.26) $N = 80$	1.16	4.33 (1.98) $N = 55$	3.85 (2.24) $N = 68$	1.23
物語理解	2.39 (.73) $N = 41$	2.26 (.91) $N = 80$.78	2.60 (.66) $N = 55$	2.41 (.70) $N = 68$	1.53

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-57 読書のレディネス得点（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス(合計)	12.29(3.57) N = 17	14.11(3.86) N = 104	1.81 +	14.79(2.54) N = 28	15.08(3.13) N = 95	.46
読字	5.18(1.02) N = 17	5.13(1.24) N = 104	.13	5.86(.36) N = 28	5.67(.92) N = 95	1.59
絵と文字の結合	1.88(1.11) N = 17	2.40(.97) N = 104	2.01*	2.86(.45) N = 28	2.67(.74) N = 95	1.62
お話の構成	3.12(2.29) N = 17	4.22(2.10) N = 104	1.99*	3.50(2.27) N = 28	4.23(2.08) N = 95	1.61
物語理解	2.12(.86) N = 17	2.35(.86) N = 104	1.02	2.50(.64) N = 28	2.51(.70) N = 95	.04

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス(合計)は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ + < .10 * p < .05

5.3.4. 面接調査 2 結果

想像力得点（イメージ量、エピソード数、創造物数）について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-58、表 5-59、表 5-60 参照）。

その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 5-58 想像力得点（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	5.60(4.03) N = 10	3.50(3.87) N = 106	1.64	4.16(3.15) N = 19	4.29(6.02) N = 100	.09
エピソード数	2.70(1.70) N = 10	1.87(1.73) N = 106	1.46	2.37(1.67) N = 19	2.40(2.47) N = 100	.05
創造物数	1.30(1.89) N = 10	.77(1.44) N = 106	1.08	.16(.50) N = 19	.32(1.51) N = 100	.46

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

表 5-59 想像力得点（通信教育の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	3.30(3.28) N = 40	3.73(4.10) N = 74	.57	4.66(7.46) N = 50	3.96(3.93) N = 67	.66
エピソード数	1.68(1.39) N = 40	1.99(1.78) N = 74	.96	2.46(2.48) N = 50	2.33(2.29) N = 67	.30
創造物数	.73(1.15) N = 40	.82(1.61) N = 74	.35	.48(2.08) N = 50	.16(.48) N = 67	1.05

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

表 5-60 想像力得点（市販の教材の経験の有無による比較）

	2 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	<i>t</i> 値	経験あり	経験なし	<i>t</i> 値
イメージ量	4.50 (3.63) <i>N</i> = 16	3.45 (3.92) <i>N</i> = 98	1.00	3.96 (4.01) <i>N</i> = 23	4.22 (5.91) <i>N</i> = 94	.21
エピソード数	2.50 (1.55) <i>N</i> = 16	1.81 (1.74) <i>N</i> = 98	1.50	3.35 (2.39) <i>N</i> = 23	2.33 (2.21) <i>N</i> = 94	.04
創造物数	1.25 (1.48) <i>N</i> = 16	.76 (1.49) <i>N</i> = 98	1.24	.48 (1.50) <i>N</i> = 23	.23 (1.39) <i>N</i> = 94	.75

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

5.3.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

5.3.5.1. 分析モデル

本分析では、習い事・家庭学習の経験の有無を統制したうえでの幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、補足的に習い事・家庭学習の経験の有無を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、2回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネス、習い事・家庭学習の経験の有無を独立変数、3回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 5-5 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

なお、本分析では、全体の結果である「3.2.2 回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

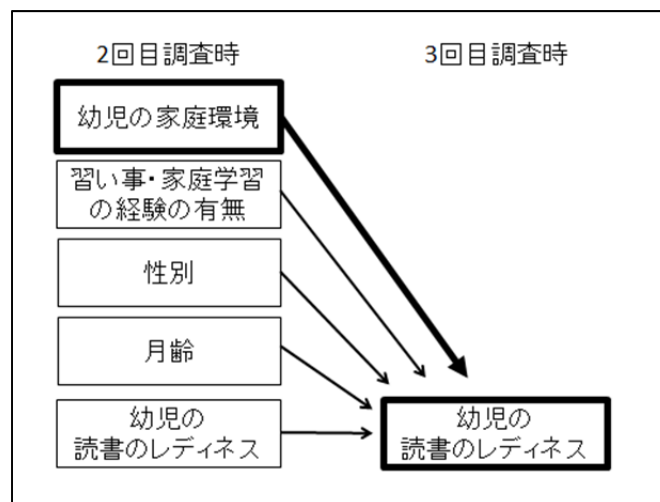


図 5-5 習い事・家庭学習の経験を統制した重回帰モデル

5.3.5.2. 全体の結果と共通する影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

5.3.5.2.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネス

その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .23$, $\beta = .20$, $p < .05$) が示された。

(2) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .25$, $\beta = .20$, $p < .05$)、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .25$, $\beta = .20$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .46$, $\beta = .17$, $p < .05$) が高くなること、「読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように説

明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .23$, $\beta = .19$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .45$, $\beta = .16$, $p < .05$) が高くなることが示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

親子の交流の頻度 (合計) が高いほどお話の構成 ($R^2 = .25$, $\beta = .17$, $p < .05$) が高くなり、物語理解 ($R^2 = .22$, $\beta = -.25$, $p < .01$) が低くなること、「一緒に旅行や遊びに行く」頻度が高いほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .26$, $\beta = .18$, $p < .05$)、「一緒に夕飯を食べる」頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .22$, $\beta = .18$, $p < .05$)、「よく話をする」頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .30$, $\beta = .28$, $p < .01$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .46$, $\beta = .16$, $p < .05$) が高くなり、物語理解 ($R^2 = .19$, $\beta = -.20$, $p < .05$) が低くなること、「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .29$, $\beta = -.38$, $p < .01$)、「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .20$, $\beta = -.21$, $p < .05$) が示された。

5.3.5.2.2. 通信教育の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と読書のレディネス

その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .23$, $\beta = .21$, $p < .05$) が示された。

(2) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ (合計)」であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .26$, $\beta = .20$, $p < .05$)、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .26$, $\beta = .20$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .45$, $\beta = .18$, $p < .05$) が高くなること、「読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .24$, $\beta = .19$, $p < .05$)、読書のレディネス (合計) ($R^2 = .44$, $\beta = .17$, $p < .05$) が高くなることが示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

親子の交流の頻度 (合計) が高いほど物語理解 ($R^2 = .22$, $\beta = -.24$, $p < .01$) が低くなること、「一緒に夕飯を食べる」頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .23$, $\beta = .20$, $p < .05$)、「よく話をする」頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .30$, $\beta = .26$, $p < .01$)、読書のレディネス ($R^2 = .45$, $\beta = .15$, $p < .05$) が高くなり、物語理解 ($R^2 = .20$, $\beta = -.20$, $p < .05$) が低くなること、「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .30$, $\beta = -.38$, $p < .01$)、「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .20$, $\beta = -.21$, $p < .05$) が示された。

5.3.5.2.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と読書のレディネス

その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .24$, $\beta = .20$, $p < .05$) が示された。

(2) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .28$, $\beta = .25$, $p < .01$)、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .27$, $\beta = .23$, $p < .01$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .48$, $\beta = .19$, $p < .01$)が高くなること、「読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .25$, $\beta = .22$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .47$, $\beta = .19$, $p < .05$)が高くなることが示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

親子の交流の頻度（合計）が高いほど物語理解 ($R^2 = .22$, $\beta = -.26$, $p < .01$)が低くなること、「一緒に夕飯を食べる」頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .24$, $\beta = .19$, $p < .05$)、「よく話をする」頻度が高いほどお話の構成 ($R^2 = .30$, $\beta = .26$, $p < .01$)、読書のレディネス ($R^2 = .47$, $\beta = .16$, $p < .05$)が高くなり、物語理解 ($R^2 = .19$, $\beta = -.18$, $p < .05$)が低くなること、「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .32$, $\beta = -.41$, $p < .01$)、「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど物語理解が低くなること ($R^2 = .20$, $\beta = -.22$, $p < .05$)が示された。

5.3.5.3. 新しく見られた影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

5.3.5.3.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネス

昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .23$, $\beta = .21$, $p < .05$)が示された。

5.3.5.3.2. 通信教育の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と読書のレディネス

昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .22$, $\beta = .17$, $p < .05$)が示された。

5.3.5.3.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「会話型読み聞かせ（合計）」であるほど読書のレディネス（合計）が高くなること ($R^2 = .46$, $\beta = .16$, $p < .05$)、「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほど読書のレディネス（合計）が高くなること ($R^2 = .47$, $\beta = .17$, $p < .05$)、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .24$, $\beta = .17$, $p < .05$)、読書のレディネス（合計） ($R^2 = .46$, $\beta = .15$, $p < .05$)が高くなること、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時には褒めるようにした」読み聞かせ方であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .25$, $\beta = .21$, $p < .05$)が示された。

5.3.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

5.3.6.1. 分析モデル

本分析では、習い事・家庭学習の経験の有無を統制したうえでの幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、補足的に習い事・家庭学習の経験の有無を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、2回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力、習い事・家庭学習の経験の有無を独立変数、3回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図5-6 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

なお、本分析では、全体の結果である「3.2.2 回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と想像力の影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

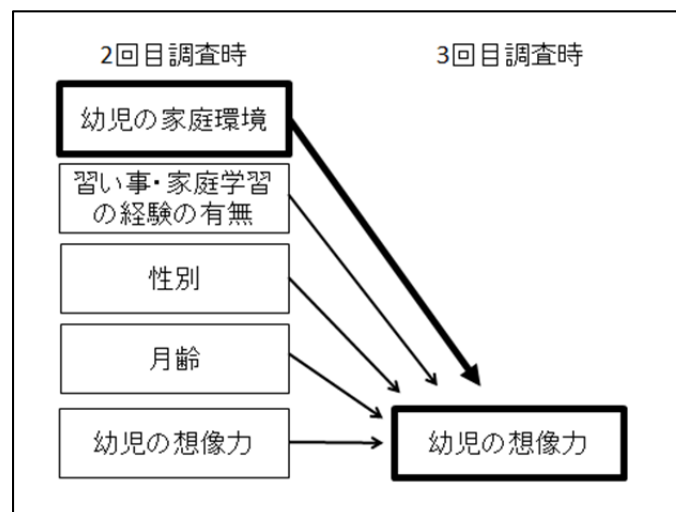


図 5-6 習い事・家庭学習の経験を統制した重回帰モデル

5.3.6.2. 全体の結果と共通する影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

5.3.6.2.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

読み聞かせ頻度（合計）が高いほどエピソード数が増えること（ $R^2 = .18$, $\beta = .32$, $p < .01$ ）、読み聞かせ冊数（合計）が多いほどエピソード数が増えること（ $R^2 = .17$, $\beta = .28$, $p < .01$ ）、ことばの絵本の読み聞かせ頻度が高いほどイメージ量（ $R^2 = .13$, $\beta = .19$, $p < .05$ ）、エピソード数（ $R^2 = .16$, $\beta = .28$, $p < .01$ ）が増えること、ことばの絵本の読み聞かせ冊数が多いほどイメージ量（ $R^2 = .14$, $\beta = .20$, $p < .05$ ）、エピソード数（ $R^2 = .19$, $\beta = .33$, $p < .01$ ）が増えること、昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が増えること（ $R^2 = .14$, $\beta = .22$, $p < .05$ ）、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほど

エピソード数が多くなること ($R^2 = .15$, $\beta = .25$, $p < .05$)、知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .18$, $\beta = .30$, $p < .01$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本のイベントへ行く頻度と想像力

本屋へ連れて行く頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .13$, $\beta = .20$, $p < .05$) が示された。

5.3.6.2.2. 通信教育の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と想像力

読み聞かせ頻度 (合計) が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .19$, $\beta = .26$, $p < .01$)、読み聞かせ冊数 (合計) が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .18$, $\beta = .25$, $p < .05$)、ことばの絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数 ($R^2 = .18$, $\beta = .23$, $p < .05$) が多くなること、ことばの絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数 ($R^2 = .20$, $\beta = .29$, $p < .01$) が多くなること、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .17$, $\beta = .21$, $p < .05$)、知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .19$, $\beta = .26$, $p < .01$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本のイベントへ行く頻度と想像力

本屋へ連れて行く頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .16$, $\beta = .19$, $p < .05$) が示された。

5.3.6.2.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量 (頻度・冊数) と想像力

読み聞かせ頻度 (合計) が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .17$, $\beta = .33$, $p < .01$)、読み聞かせ冊数 (合計) が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .14$, $\beta = .27$, $p < .01$)、ことばの絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数 ($R^2 = .10$, $\beta = .20$, $p < .01$) が多くなること、ことばの絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数 ($R^2 = .12$, $\beta = .23$, $p < .05$) が多くなること、昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .13$, $\beta = .26$, $p < .01$)、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .13$, $\beta = .27$, $p < .01$)、知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .15$, $\beta = .31$, $p < .01$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本のイベントへ行く頻度と想像力

本屋へ連れて行く頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .11$, $\beta = .21$, $p < .05$) が示された。

5.3.6.3. 新しく見られた影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

5.3.6.3.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

幼児の家庭環境と想像力の影響関係はみられなかった。

5.3.6.3.2. 通信教育の経験の有無

幼児の家庭環境と想像力の影響関係はみられなかった。

5.3.6.3.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

昔話絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .12$, $\beta = .22$, $p < .05$) が示された。

5.4. 1 回目調査および 3 回目調査の分析結果

5.4.1. 分析対象

本分析では、3 回目調査の質問項目である習い事・家庭学習の経験の有無を統制して、家庭環境と読書のレディネス、家庭環境と想像力の影響関係の重回帰分析を行うため、1 回目質問紙調査、1 回目面接調査 1、3 回目面接調査 1、3 回目質問紙調査の 4 つ全ての回答が得られた幼児、および、1 回目質問紙調査、1 回目面接調査 2、3 回目面接調査 2、3 回目質問紙調査の 4 つ全ての回答が得られた幼児を分析対象とした。なお、面接調査 2 において、調査材料の絵本を読んだことがあると回答した幼児は分析から除いた（1 回目調査 10 名、3 回目調査 4 名）。

したがって、本分析の分析対象は 64 名（男児 42 名、女児 22 名、1 回目調査時の平均月齢 61.08 カ月、3 回目調査時の平均月齢 75.03 カ月）とした。

5.4.2. 質問紙調査結果

5.4.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-61、表 5-62、表 5-63 参照）。

その結果、1 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが保護者の読書好意度が高いこと ($t(59.00) = 7.90, p < .01$)、保護者の読書量が多いこと ($t(62) = 2.05, p < .05$) が示された。

表 5-61 保護者の読書好意度・読書量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	5.00 (.00) $N = 4$	3.80 (1.18) $N = 60$	7.90**	4.29 (1.14) $N = 14$	3.60 (1.18) $N = 50$	1.94 †
読書量	2.75 (.50) $N = 4$	1.90 (.82) $N = 60$	2.05*	1.93 (.73) $N = 14$	1.72 (.70) $N = 50$.98

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-62 保護者の読書好意度・読書量（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	3.92 (1.38) $N = 13$	3.90 (1.13) $N = 48$.07	4.05 (1.40) $N = 20$	3.63 (1.07) $N = 41$	1.29
読書量	1.85 (.80) $N = 13$	1.98 (.86) $N = 48$.50	1.95 (.69) $N = 20$	1.66 (.73) $N = 41$	1.49

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の 5 件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差

表 5-63 保護者の読書好意度・読書量（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書好意度	3.71 (1.70) N = 7	3.93 (1.11) N = 54	.44	4.00 (1.19) N = 18	3.67 (1.19) N = 43	.98
読書量	1.71 (.49) N = 7	2.00 (.87) N = 54	.85	1.83 (.79) N = 18	1.74 (.69) N = 43	.44

※読書好意度は、「1. 好きではない」～「5. 好き」の5件法

※読書量は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※（ ）内は標準偏差

5.4.2.2. 子どもに対する保護者の行動

5.4.2.2.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ頻度と冊数について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-64、表 5-65、表 5-66 参照）。

その結果、1 回目調査において、受験目的でない塾の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(62) = 2.70, p < .01$)。

表 5-64 絵本の読み聞かせ量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	3.75 (.50) $N = 4$	2.62 (.83) $N = 60$	2.70**	2.50 (1.02) $N = 14$	2.20 (.78) $N = 50$	1.18
読み聞かせ 冊数	4.50 (2.08) $N = 4$	3.32 (1.66) $N = 59$	1.36	4.00 (2.25) $N = 14$	3.26 (2.06) $N = 50$	1.17

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ ** $p < .01$

表 5-65 絵本の読み聞かせ量（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	2.69 (.86) $N = 13$	2.73 (.87) $N = 48$.79	2.55 (.83) $N = 20$	2.17 (.83) $N = 41$	1.67
読み聞かせ 冊数	3.69 (1.84) $N = 13$	3.38 (1.69) $N = 47$	1.82 †	3.85 (2.06) $N = 20$	3.22 (2.08) $N = 41$	1.12

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † $< .10$

表 5-66 絵本の読み聞かせ量（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度	2.71 (.95) $N = 7$	2.72 (.86) $N = 54$.02	2.33 (1.03) $N = 18$	2.26 (.79) $N = 43$.32
読み聞かせ 冊数	3.71 (2.29) $N = 7$	3.43 (1.64) $N = 54$.41	3.72 (2.22) $N = 18$	3.23 (2.06) $N = 43$.83

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差

5.4.2.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ頻度

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-67、表 5-68、表 5-69 参照)。

その結果、1 回目調査において、受験目的でない塾の経験があるほうが創作絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(61) = 2.22, p < .05$)。また、通信教育の経験があるほうがその他の絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(57) = 2.29, p < .05$)。

3 回目調査においては、通信教育の経験があるほうが昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された ($t(57) = 2.24, p < .01$)。

表 5-67 絵本の種類別読み聞かせ頻度 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度 (合計)	10.67 (2.08) $N = 3$	9.95 (2.35) $N = 58$.52	9.46 (2.88) $N = 14$	8.45 (2.01) $N = 47$	1.46
創作絵本	3.25 (.50) $N = 4$	2.29 (.85) $N = 59$	2.22*	2.00 (.82) $N = 14$	1.84 (.75) $N = 49$.69
昔話絵本	2.00 (1.00) $N = 3$	1.78 (.70) $N = 59$.53	1.93 (.92) $N = 14$	1.52 (.58) $N = 48$	2.01 †
ことばの絵本	1.25 (.50) $N = 4$	1.44 (.65) $N = 59$.57	1.36 (.75) $N = 14$	1.13 (.33) $N = 48$	1.13
知識・科学 絵本	1.75 (.96) $N = 4$	1.64 (.77) $N = 58$.28	1.71 (.83) $N = 14$	1.55 (.87) $N = 49$.63
わらべうた・ 詩の絵本	1.00 (.00) $N = 4$	1.15 (.41) $N = 59$.74	1.14 (.53) $N = 14$	1.06 (.24) $N = 49$.82
その他の絵本	1.25 (.50) $N = 4$	1.64 (.72) $N = 58$	1.06	1.64 (.93) $N = 14$	1.39 (.57) $N = 49$.98

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$

表 5-68 絵本の種類別読み聞かせ頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	10.46(1.71) N = 13	9.87(2.51) N = 45	.80	9.37(2.43) N = 19	8.37(2.17) N = 38	1.57
創作絵本	2.46(1.05) N = 13	2.34(.84) N = 47	.44	2.16(.83) N = 19	1.78(.70) N = 40	1.85 †
昔話絵本	1.69(.75) N = 13	1.83(.71) N = 46	.59	1.90(.79) N = 20	1.49(.60) N = 39	2.24*
ことばの絵本	1.54(.97) N = 13	1.38(.53) N = 47	.56	1.30(.66) N = 20	1.10(.31) N = 39	1.27
知識・科学 絵本	1.69(.63) N = 13	1.65(.82) N = 46	.16	1.70(.73) N = 20	1.58(.93) N = 40	.52
わらべうた・ 詩の絵本	1.08(.28) N = 13	1.15(.42) N = 47	.59	1.10(.45) N = 20	1.05(.22) N = 40	.58
その他の絵本	2.00(.91) N = 13	1.50(.62) N = 46	2.29*	1.45(.61) N = 20	1.43(.71) N = 40	.13

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-69 絵本の種類別読み聞かせ頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ 頻度（合計）	11.17(3.76) N = 6	9.87(2.15) N = 52	1.29	9.18(2.65) N = 17	8.46(2.10) N = 41	1.09
創作絵本	2.43(.98) N = 7	2.38(.86) N = 53	.15	2.06(.75) N = 17	1.81(.77) N = 42	1.13
昔話絵本	2.00(1.10) N = 6	1.77(.67) N = 52	.73	1.83(.86) N = 18	1.54(.60) N = 41	1.53
ことばの絵本	1.43(.54) N = 7	1.40(.63) N = 53	.13	1.28(.67) N = 18	1.14(.35) N = 42	.81
知識・科学 絵本	2.14(.90) N = 7	1.60(.75) N = 52	1.78 †	1.67(.77) N = 18	1.57(.91) N = 42	.39
わらべうた・ 詩の絵本	1.29(.49) N = 7	1.13(.39) N = 53	.94	1.11(.47) N = 18	1.05(.22) N = 42	.72
その他の絵本	1.71(.49) N = 7	1.58(.72) N = 52	.49	1.50(.62) N = 18	1.43(.70) N = 42	.37

※読み聞かせ頻度は、「1. まったく読まない」～「4. とてもよく読む」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

5.4.2.2.3. 絵本の種類別読み聞かせ冊数

直近 1 ヶ月の絵本の種類別読み聞かせ冊数について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-70、表 5-71、表 5-72 参照)。

その結果、3 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが昔話絵本の読み聞かせ冊数が多いことが示された ($t(59) = 2.06, p < .05$)。

表 5-70 絵本の種類別読み聞かせ冊数 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数 (合計)	10.67(3.51) $N = 3$	10.70(3.61) $N = 57$.02	12.31(7.86) $N = 13$	9.80(3.85) $N = 46$	1.11
創作絵本	3.33(1.16) $N = 3$	2.71(1.63) $N = 59$.65	2.79(1.89) $N = 14$	2.67(1.84) $N = 49$.20
昔話絵本	2.50(1.29) $N = 4$	1.85(1.03) $N = 59$	1.21	2.50(1.87) $N = 14$	1.72(.99) $N = 47$	2.06*
ことばの絵本	1.25(.50) $N = 4$	1.49(.95) $N = 59$.50	1.79(1.97) $N = 14$	1.13(.33) $N = 48$	1.25
知識・科学絵本	2.25(1.50) $N = 4$	1.69(.98) $N = 58$	1.07	1.85(1.28) $N = 13$	1.63(1.24) $N = 49$.55
わらべうた・詩の絵本	1.00(.00) $N = 4$	1.12(.38) $N = 58$.63	1.50(1.87) $N = 14$	1.10(.47) $N = 49$.79
その他の絵本	1.25(.50) $N = 4$	1.76(1.08) $N = 58$.93	1.71(.99) $N = 14$	1.59(1.32) $N = 49$.32

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1.0 冊」～「7.11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1.0 冊」～「8.11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

表 5-71 絵本の種類別読み聞かせ冊数 (通信教育の経験の有無による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数 (合計)	11.38(3.18) $N = 13$	10.41(3.61) $N = 44$.88	11.80(6.45) $N = 20$	9.61(4.11) $N = 36$	1.55
創作絵本	2.62(1.45) $N = 13$	2.78(1.71) $N = 46$.32	3.15(2.06) $N = 20$	2.58(1.74) $N = 40$	1.14
昔話絵本	1.85(1.14) $N = 13$	1.89(1.05) $N = 47$.14	2.30(1.63) $N = 20$	1.74(1.06) $N = 38$	1.59
ことばの絵本	1.85(1.73) $N = 13$	1.34(.52) $N = 47$	1.04	1.60(1.67) $N = 20$	1.10(.31) $N = 39$	1.32
知識・科学絵本	1.69(.63) $N = 13$	1.74(1.10) $N = 46$.15	1.85(1.04) $N = 20$	1.64(1.37) $N = 39$.60
わらべうた・詩の絵本	1.08(.28) $N = 13$	1.09(.29) $N = 46$.11	1.35(1.57) $N = 20$	1.05(.22) $N = 40$.85
その他の絵本	2.31(1.65) $N = 13$	1.54(.78) $N = 46$	1.62	1.55(.76) $N = 20$	1.58(1.30) $N = 40$.08

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1.0 冊」～「7.11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1.0 冊」～「8.11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差

表 5-72 絵本の種類別読み聞かせ冊数（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読み聞かせ冊数（合計）	12.00(6.90) N = 6	10.59(3.14) N = 51	.50	11.81(7.23) N = 16	9.66(3.93) N = 41	1.45
創作絵本	2.67(1.75) N = 6	2.79(1.63) N = 53	.18	2.89(1.75) N = 18	2.57(1.89) N = 42	.61
昔話絵本	2.43(1.90) N = 7	1.83(.91) N = 53	.82	2.29(1.76) N = 17	1.76(1.02) N = 41	1.46
ことばの絵本	1.29(.49) N = 7	1.47(.97) N = 53	.50	1.61(1.75) N = 18	1.14(.35) N = 42	1.12
知識・科学絵本	2.86(2.04) N = 7	1.60(.72) N = 52	1.63	1.76(1.15) N = 17	1.67(1.32) N = 42	.27
わらべうた・詩の絵本	1.00(.00) N = 7	1.13(.40) N = 52	.89	1.39(1.65) N = 18	1.05(.22) N = 42	.87
その他の絵本	2.00(1.00) N = 7	1.67(1.08) N = 52	.76	1.61(.78) N = 18	1.55(1.27) N = 42	.20

※読み聞かせ冊数は、1 回目調査では「1. 0 冊」～「7. 11 冊以上」の 7 件法、3 回目調査では「1. 0 冊」～「8. 11 冊以上」の 8 件法

※括弧内は標準偏差

5.4.2.2.4. 読み聞かせ方

直近 1 ヶ月の絵本の読み聞かせ方について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-73、表 5-74、表 5-75 参照)。

その結果、1 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であることが示された ($t(57.00) = 3.40, p < .01$)。また、通信教育の経験があるほうが「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であることが示された ($t(23.24) = 2.56, p < .05$)。さらに、市販の教材の経験があるほうが「子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ」読み聞かせ方であることが示された ($t(57) = 2.14, p < .05$)。

表 5-73 読み聞かせ方 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査		t 値	3 回目調査		t 値
	経験あり	経験なし		経験あり	経験なし	
会話型(合計)	14.75(2.22) $N = 4$	13.95(3.30) $N = 58$.48	13.50(4.30) $N = 12$	12.47(3.76) $N = 47$.82
会話をしながら	4.00(.82) $N = 4$	3.69(1.00) $N = 58$.61	3.83(.84) $N = 12$	3.15(1.22) $N = 47$	1.84 †
絵に説明を加えながら	4.00(.00) $N = 4$	3.52(1.08) $N = 58$	3.40**	3.25(1.49) $N = 12$	3.13(1.24) $N = 47$.29
ものの名前を教えながら	3.50(1.29) $N = 4$	3.36(1.09) $N = 58$.24	3.25(1.22) $N = 12$	2.83(1.11) $N = 47$	1.15
そのまま読む(逆転項目)	3.25(.96) $N = 4$	3.38(.93) $N = 58$.27	3.17(1.59) $N = 12$	3.36(1.13) $N = 47$.49
一人読み促進型(合計)	18.00(2.00) $N = 3$	15.82(4.19) $N = 57$.89	16.17(3.79) $N = 12$	14.94(4.25) $N = 47$.91
子どもが読めるところは読ませながら	3.00(1.00) $N = 3$	2.83(1.28) $N = 59$.23	3.25(1.06) $N = 12$	2.64(1.33) $N = 47$	1.48
字を教えながら	2.50(1.00) $N = 4$	2.49(1.14) $N = 57$.02	2.58(1.24) $N = 12$	2.32(1.22) $N = 47$.67
読み方を教えてあげた	3.25(1.71) $N = 4$	3.22(1.25) $N = 59$.05	2.67(1.23) $N = 12$	3.11(1.20) $N = 47$	1.13
内容に説明を加えながら	3.00(1.41) $N = 4$	3.48(1.13) $N = 58$.82	3.42(1.17) $N = 12$	3.00(1.18) $N = 47$	1.10
自分で読んだ時には褒める	4.25(.50) $N = 4$	3.92(1.09) $N = 59$.61	4.25(.97) $N = 12$	3.87(1.12) $N = 47$	1.07

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 ** $p < .01$

表 5-74 読み聞かせ方（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	14. 23 (2. 62) N = 13	14. 22 (3. 22) N = 46	. 01	12. 47 (4. 07) N = 19	12. 97 (3. 88) N = 37	. 45
会話を しながら	3. 77 (1. 01) N = 13	3. 78 (. 94) N = 46	. 05	3. 37 (1. 12) N = 19	3. 32 (1. 20) N = 37	. 13
絵に説明を 加えながら	3. 62 (. 87) N = 13	3. 59 (1. 09) N = 46	. 09	3. 11 (1. 33) N = 19	3. 27 (1. 26) N = 37	. 46
ものの名前を 教えながら	3. 54 (1. 05) N = 13	3. 39 (1. 06) N = 46	. 44	3. 11 (1. 20) N = 19	2. 89 (1. 10) N = 37	. 67
そのまま読む (逆転項目)	3. 31 (1. 03) N = 13	3. 46 (. 89) N = 46	. 52	2. 89 (1. 20) N = 19	3. 49 (1. 22) N = 37	1. 73 †
一人読み 促進型(合計)	16. 69 (3. 38) N = 13	15. 82 (4. 37) N = 44	. 66	14. 63 (4. 11) N = 19	15. 76 (4. 17) N = 37	. 96
子どもが読め るところは 読ませながら	2. 92 (1. 32) N = 13	2. 85 (1. 25) N = 46	. 19	2. 42 (1. 22) N = 19	2. 95 (1. 31) N = 37	1. 45
字を 教えながら	2. 15 (1. 07) N = 13	2. 62 (1. 13) N = 45	1. 33	2. 16 (1. 17) N = 19	2. 54 (1. 24) N = 37	1. 12
読み方を 教えてあげた	3. 92 (1. 04) N = 13	3. 04 (1. 29) N = 47	2. 56*	3. 11 (1. 10) N = 19	3. 05 (1. 27) N = 37	. 15
内容に説明を 加えながら	3. 54 (1. 05) N = 13	3. 41 (1. 20) N = 46	. 34	3. 00 (1. 20) N = 19	3. 24 (1. 12) N = 37	. 75
自分で読んだ 時には褒める	4. 15 (. 69) N = 13	3. 91 (1. 12) N = 47	. 73	3. 95 (1. 27) N = 19	3. 97 (1. 04) N = 37	. 08

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-75 読み聞かせ方（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
会話型(合計)	14.71 (2.63) N = 7	14.00 (3.24) N = 52	.56	12.81 (4.32) N = 16	12.55 (3.84) N = 40	.22
会話をしながら	4.00 (.58) N = 7	3.69 (1.02) N = 52	1.18	3.56 (1.15) N = 16	3.15 (1.21) N = 40	1.17
絵に説明を加えながら	4.00 (1.16) N = 7	3.54 (1.04) N = 52	1.09	3.06 (1.53) N = 16	3.20 (1.24) N = 40	.35
ものの名前を教えながら	3.43 (1.40) N = 7	3.38 (1.01) N = 52	.10	3.13 (1.36) N = 16	2.78 (1.05) N = 40	1.03
そのまま読む(逆転項目)	3.29 (1.38) N = 7	3.38 (.84) N = 52	.19	3.06 (1.53) N = 16	3.43 (1.13) N = 40	.86
一人読み促進型(合計)	18.60 (3.21) N = 7	15.67 (3.97) N = 52	1.60	15.81 (4.23) N = 16	14.73 (4.18) N = 40	.88
子どもが読めるところは読ませながら	3.83 (1.17) N = 7	2.74 (1.20) N = 53	2.14*	2.88 (1.31) N = 16	2.65 (1.31) N = 40	.58
字を教えながら	2.50 (1.38) N = 7	2.48 (1.06) N = 52	.04	2.63 (1.26) N = 16	2.18 (1.17) N = 40	1.27
読み方を教えてあげた	3.29 (1.60) N = 7	3.19 (1.23) N = 53	.19	2.88 (1.20) N = 16	3.05 (1.26) N = 40	.48
内容に説明を加えながら	3.57 (1.51) N = 7	3.42 (1.11) N = 52	.32	3.25 (1.39) N = 16	3.00 (1.13) N = 40	.70
自分で読んだ時には褒める	4.43 (.79) N = 7	3.91 (1.06) N = 53	1.26	4.19 (1.17) N = 16	3.85 (1.08) N = 40	1.04

※読み聞かせ方は「1. まったくそうではない」～「5. とてもそうだ」の5件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$

5.4.2.2.5. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-76、表 5-77、表 5-78 参照）。

その結果、3 回目調査において、通信教育の経験があるほうが子どもを対象とした本の蔵書量($t(59) = 2.54, p < .05$)、大人を対象とした本の蔵書量($t(51.46) = 3.31, p < .01$)が多いことが示された。

表 5-76 自宅の蔵書量（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	4.75 (2.06) $N = 4$	4.90 (1.48) $N = 60$.19	5.36 (1.22) $N = 14$	4.92 (1.41) $N = 50$	1.05
大人を対象にした本	5.25 (1.50) $N = 4$	4.57 (1.92) $N = 60$.70	5.21 (2.05) $N = 14$	4.45 (2.03) $N = 49$	1.24

※蔵書数は、「1. 0 冊」～「7. 100 冊以上」の 7 件法

※括弧内は標準偏差

表 5-77 自宅の蔵書量（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.46 (1.51) $N = 13$	4.79 (1.46) $N = 48$	1.46	5.65 (1.14) $N = 20$	4.76 (1.36) $N = 42$	2.54*
大人を対象にした本	5.31 (1.89) $N = 13$	4.42 (1.88) $N = 48$	1.52	5.65 (1.46) $N = 20$	4.12 (2.09) $N = 42$	3.31**

※蔵書数は、「1. 0 冊」～「7. 100 冊以上」の 7 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-78 自宅の蔵書量（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
子どもを対象にした本	5.00 (1.53) $N = 7$	4.94 (1.52) $N = 54$.09	5.06 (1.66) $N = 18$	4.98 (1.28) $N = 43$.20
大人を対象にした本	4.43 (1.90) $N = 7$	4.76 (1.87) $N = 54$.44	4.67 (2.25) $N = 18$	4.72 (1.94) $N = 43$.10

※蔵書数は、「1. 0 冊」～「7. 100 冊以上」の 7 件法

※括弧内は標準偏差

5.4.2.2.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

直近 1 ヶ月の図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-79、表 5-80、表 5-81 参照）。その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 5-79 図書館などへ連れて行く頻度（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.50(1.29) $N = 4$	4.98(1.26) $N = 60$.80	5.14(1.61) $N = 14$	4.70(1.06) $N = 50$	1.23
図書館	2.50(1.29) $N = 4$	1.75(.80) $N = 60$	1.76	1.79(.98) $N = 14$	1.74(.75) $N = 50$.19
本屋	2.00(.00) $N = 4$	2.10(.71) $N = 60$.28	2.21(.80) $N = 14$	1.96(.57) $N = 50$	1.34
本のイベント	1.00(.00) $N = 4$	1.13(.34) $N = 60$.77	1.14(.36) $N = 14$	1.00(.00) $N = 50$	1.47

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法
※括弧内は標準偏差

表 5-80 図書館などへ連れて行く頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.00(1.15) $N = 13$	5.00(1.31) $N = 48$.00	5.10(1.37) $N = 20$	4.66(1.11) $N = 41$	1.35
図書館	1.92(.86) $N = 13$	1.75(.84) $N = 48$.66	1.80(.77) $N = 20$	1.76(.83) $N = 41$.20
本屋	1.92(.49) $N = 13$	2.15(.74) $N = 48$	1.02	2.20(.77) $N = 20$	1.90(.54) $N = 41$	1.76 †
本のイベント	1.15(.38) $N = 13$	1.10(.31) $N = 48$.49	1.10(.31) $N = 20$	1.00(.00) $N = 41$	1.45

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法
※括弧内は標準偏差 ※ † < .10

表 5-81 図書館などへ連れて行く頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
図書館などへ連れて行く頻度(合計)	5.14(1.77) $N = 7$	5.00(1.21) $N = 54$.28	5.06(1.51) $N = 18$	4.70(1.06) $N = 43$	1.06
図書館	1.71(.95) $N = 7$	1.80(.83) $N = 54$.24	1.78(.94) $N = 18$	1.77(.75) $N = 43$.05
本屋	2.29(1.11) $N = 7$	2.07(.64) $N = 54$.49	2.17(.79) $N = 18$	1.93(.55) $N = 43$	1.34
本のイベント	1.14(.38) $N = 7$	1.13(.34) $N = 54$.10	1.11(.32) $N = 18$	1.00(.00) $N = 43$	1.46

※連れて行く頻度は、「1. まったく行かない」～「4. とてもよく行く」の 4 件法
※括弧内は標準偏差

5.4.2.2.7. 親子の交流の頻度

直近 1 ヶ月の親子の交流の頻度について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-82、表 5-83、表 5-84 参照)。

その結果、1 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが「よく話をする」頻度が高いことが示された ($t(57.00) = 7.16, p < .01$)。また、通信教育の経験がないほうが「一緒にスポーツ観戦に行く」頻度が高いことが示された ($t(46.00) = 2.48, p < .05$)。さらに、市販の教材の経験があるほうが「一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする」頻度が高いことが示された ($t(57) = 2.20, p < .05$)。

3 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが親子の交流の頻度 (合計) が高いこと ($t(62) = 2.14, p < .05$)、「よく話をする」頻度が高いこと ($t(36.03) = 2.90, p < .01$) が示された。

表 5-82 親子の交流の頻度 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり <i>N</i> = 4	経験なし <i>N</i> = 58	<i>t</i> 値	経験あり <i>N</i> = 14	経験なし <i>N</i> = 50	<i>t</i> 値
親子の交流の 頻度 (合計)	22.25 (2.06)	22.97 (3.54)	.40	25.71 (3.83)	23.38 (3.55)	2.14*
旅行や遊び	3.00 (.82)	2.98 (.91)	.04	3.36 (.75)	3.04 (.83)	1.29
夕飯	3.25 (.96)	3.59 (.62)	1.01	3.71 (.61)	3.64 (.56)	.43
映画	1.00 (.00)	1.26 (.72)	.72	1.57 (1.09)	1.44 (.88)	.47
話	4.00 (.00)	3.47 (.57)	7.16**	3.86 (.36)	3.48 (.61)	2.90**
買い物	2.75 (.50)	3.24 (.71)	1.36	3.57 (.76)	3.34 (.75)	1.02
スポーツ観戦	1.00 (.00)	1.21 (.59)	.70	1.29 (.83)	1.08 (.34)	.91
ゲームや歌	3.00 (.82)	3.00 (.86)	.00	3.29 (.83)	3.10 (.84)	.73
スポーツ	2.25 (.50)	2.22 (.94)	.05	2.71 (.83)	2.24 (.98)	1.65
料理	2.00 (.00)	2.00 (.75)	.00	2.36 (.84)	2.02 (.92)	1.24

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の 4 件法

※括弧内は標準偏差 ※ * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-83 親子の交流の頻度（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の頻度（合計）	23.67(3.20) N = 12	22.68(3.56) N = 47	.87	24.50(4.29) N = 20	23.56(3.34) N = 41	.94
旅行や遊び	3.17(.84) N = 12	2.91(.91) N = 47	.87	3.40(.75) N = 20	3.00(.81) N = 41	1.86 †
夕飯	3.75(.62) N = 12	3.53(.65) N = 47	1.04	3.55(.69) N = 20	3.73(.50) N = 41	1.06
映画	1.25(.87) N = 12	1.17(.52) N = 47	.41	1.70(1.03) N = 20	1.32(.79) N = 41	1.61
話	3.50(.52) N = 12	3.55(.54) N = 47	.31	3.65(.59) N = 20	3.54(.55) N = 41	.74
買い物	3.08(.67) N = 12	3.23(.73) N = 47	.65	3.50(.61) N = 20	3.34(.79) N = 41	.79
スポーツ観戦	1.00(.00) N = 12	1.21(.59) N = 47	2.48*	1.20(.70) N = 20	1.07(.35) N = 41	.96
ゲームや歌	3.25(.75) N = 12	2.94(.87) N = 47	1.14	3.00(.80) N = 20	3.22(.85) N = 41	.97
スポーツ	2.33(.89) N = 12	2.17(.92) N = 47	.55	2.50(.89) N = 20	2.17(.95) N = 41	1.30
料理	2.33(.49) N = 12	1.96(.75) N = 47	1.64	2.00(.86) N = 20	2.17(.92) N = 41	.70

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

表 5-84 親子の交流の頻度（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
親子の交流の頻度（合計）	24.50(1.38) N = 6	22.62(3.60) N = 53	1.26	24.28(3.43) N = 18	23.67(3.91) N = 43	.57
旅行や遊び	3.33(.52) N = 6	2.92(.92) N = 53	1.07	3.22(.81) N = 18	3.05(.82) N = 43	.77
夕飯	3.33(.82) N = 6	3.58(.63) N = 53	.90	3.50(.62) N = 18	3.72(.55) N = 43	1.38
映画	1.17(.41) N = 6	1.26(.74) N = 53	.32	1.33(.77) N = 18	1.47(.94) N = 43	.53
話	3.83(.41) N = 6	3.45(.57) N = 53	2.06 †	3.27(.58) N = 18	3.49(.59) N = 43	1.42
買い物	3.67(.52) N = 6	3.13(.71) N = 53	1.79 †	3.39(.78) N = 18	3.37(.76) N = 43	.08
スポーツ観戦	1.00(.00) N = 6	1.23(.61) N = 53	.90	1.17(.71) N = 18	1.09(.37) N = 43	.54
ゲームや歌	3.67(.52) N = 6	2.89(.85) N = 53	2.20*	3.28(.83) N = 18	3.14(.83) N = 43	.59
スポーツ	2.17(.75) N = 6	2.17(.89) N = 53	.01	2.44(.92) N = 18	2.33(.99) N = 43	.44
料理	2.33(.52) N = 6	1.98(.75) N = 53	1.12	2.22(.73) N = 18	2.02(.99) N = 43	.77

※「1. まったくしなかった」～「4. とてもよくした」の4件法

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * p < .05

5.4.3. 面接調査 1 結果

幼児の読書のレディネスの合計得点と各下位テスト得点について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った (表 5-85、表 5-86、表 5-87 参照)。

その結果、1 回目調査において、受験目的ではない塾の経験があるほうが読字 ($t(58.00) = 6.66, p < .01$)、絵と文字の結合 ($t(58.00) = 8.12, p < .01$) の得点が高くなることが示された。また、通信教育の経験があるほうが読書のレディネス (合計) ($t(58) = 2.87, p < .01$)、読字 ($t(57.03) = 3.29, p < .01$)、絵と文字の結合 ($t(25.66) = 3.08, p < .01$) の得点が高くなることが示された。

3 回目調査においては、受験目的ではない塾の経験があるほうが絵と文字の経験の得点が高くなることが示された ($t(49.00) = 2.67, p < .05$)。また、通信教育の経験があるほうが絵と文字の結合の得点が高くなることが示された ($t(40.00) = 2.71, p < .05$)。

表 5-85 読書のレディネス得点 (受験目的ではない塾の経験の有無による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス (合計)	13.75 (2.50) $N = 4$	10.10 (3.78) $N = 59$	1.89 †	16.21 (1.67) $N = 14$	15.18 (2.78) $N = 50$	1.74 †
読字	6.00 (.00) $N = 4$	4.68 (1.53) $N = 59$	6.66**	5.86 (.36) $N = 14$	5.78 (.51) $N = 50$.53
絵と文字の結合	3.00 (.00) $N = 4$	1.63 (1.30) $N = 59$	8.12**	3.00 (.00) $N = 14$	2.78 (.58) $N = 50$	2.67*
お話の構成	3.00 (2.45) $N = 4$	2.41 (2.23) $N = 59$.51	4.71 (1.82) $N = 14$	4.04 (2.07) $N = 50$	1.10
物語理解	1.75 (.50) $N = 4$	1.39 (.87) $N = 59$.81	2.64 (.50) $N = 14$	2.58 (.67) $N = 50$.33

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-86 読書のレディネス得点 (通信教育の経験の有無による比較)

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス (合計)	12.85 (2.70) $N = 13$	9.57 (3.84) $N = 47$	2.87**	15.85 (2.32) $N = 20$	15.12 (2.80) $N = 41$	1.00
読字	5.46 (.52) $N = 13$	4.53 (1.67) $N = 47$	3.29**	5.80 (.52) $N = 20$	5.78 (.48) $N = 41$.15
絵と文字の結合	2.46 (.97) $N = 13$	1.45 (1.32) $N = 47$	3.08**	3.00 (.00) $N = 20$	2.73 (.63) $N = 41$	2.71*
お話の構成	3.46 (2.37) $N = 13$	2.15 (2.11) $N = 47$	1.94 †	4.30 (2.13) $N = 20$	4.10 (2.05) $N = 41$.36
物語理解	1.46 (1.20) $N = 13$	1.45 (.75) $N = 47$.04	2.75 (.55) $N = 20$	2.51 (.68) $N = 41$	1.47

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス (合計) は 18 点満点

※括弧内は標準偏差 ※ † < .10 * $p < .05$ ** $p < .01$

表 5-87 読書のレディネス得点（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
読書のレディネス(合計)	11.00(6.22) N = 7	10.34(3.51) N = 53	.42	14.78(2.71) N = 18	15.63(2.63) N = 43	1.14
読字	4.29(2.36) N = 7	4.89(1.33) N = 53	.66	5.78(.43) N = 18	5.79(.51) N = 43	.09
絵と文字の結合	2.29(1.11) N = 7	1.64(1.35) N = 53	1.40	2.83(.51) N = 18	3.61(2.23) N = 43	.13
お話の構成	3.14(2.80) N = 7	2.38(2.22) N = 53	.83	3.61(2.23) N = 18	4.40(1.97) N = 43	1.37
物語理解	1.29(.76) N = 7	1.43(.87) N = 53	.43	2.56(.62) N = 18	2.63(.66) N = 43	.40

※読字は 6 点満点、絵と文字の結合は 3 点満点、お話の構成は 6 点満点、物語理解は 3 点満点

※読書のレディネス(合計)は 18 点満点

※括弧内は標準偏差

5.4.4. 面接調査 2 結果

想像力得点（イメージ量、エピソード数、創造物数）について、各習い事・家庭学習の経験の有無による比較を行うために t 検定を行った（表 5-88、表 5-89、表 5-90 参照）。

その結果、いずれにおいても有意差はみられなかった。

表 5-88 想像力得点（受験目的ではない塾の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	2.00(1.41) N = 4	2.74(4.35) N = 50	.34	4.38(3.02) N = 13	4.36(4.22) N = 47	.02
エピソード数	1.25(1.26) N = 4	1.40(2.15) N = 50	.14	2.85(1.63) N = 13	2.66(2.57) N = 47	.25
創造物数	.00(.00) N = 4	.48(1.42) N = 50	.67	.23(.60) N = 13	.15(.42) N = 47	.57

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

表 5-89 想像力得点（通信教育の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	1.82(2.48) N = 11	2.80(4.62) N = 41	.68	3.63(2.43) N = 19	4.69(4.60) N = 39	1.15
エピソード数	.91(1.14) N = 11	1.51(2.31) N = 41	.83	2.32(1.70) N = 19	2.87(2.67) N = 39	.83
創造物数	.09(.30) N = 11	.51(1.55) N = 41	.89	.16(.50) N = 19	.18(.50) N = 39	.17

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

表 5-90 想像力得点（市販の教材の経験の有無による比較）

	1 回目調査			3 回目調査		
	経験あり	経験なし	t 値	経験あり	経験なし	t 値
イメージ量	7.00 (10.43) N = 6	2.17 (2.39) N = 47	1.13	3.18 (2.88) N = 17	4.59 (3.90) N = 41	1.34
エピソード数	3.83 (4.58) N = 6	1.09 (1.37) N = 47	1.46	2.00 (1.77) N = 17	2.83 (2.26) N = 41	1.35
創造物数	1.67 (3.62) N = 6	.30 (.72) N = 47	.93	.24 (.56) N = 17	.10 (.37) N = 41	.93

※想像力得点は幼児のつくるお話によって得点が決まるので、満点は決まっていない

※括弧内は標準偏差

5.4.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

5.4.5.1. 分析モデル

本分析では、習い事・家庭学習の経験の有無を統制したうえでの幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、補足的に習い事・家庭学習の経験の有無を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の読書のレディネス、習い事・家庭学習の経験の有無を独立変数、3回目調査の幼児の読書のレディネスを従属変数として重回帰分析を行った（図 5-7 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

なお、本分析では、全体の結果である「3.3 1回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

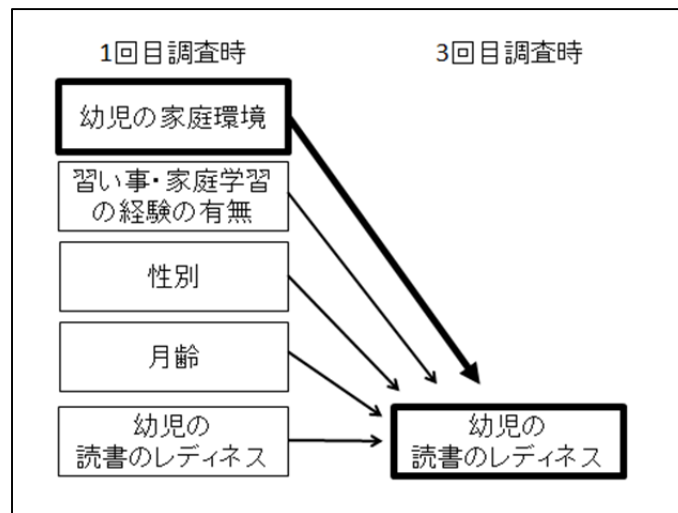


図 5-7 習い事・家庭学習の経験を統制した重回帰モデル

5.4.5.2. 全体の結果と共通する影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

5.4.5.2.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .16$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど読字が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.26$, $p < .05$) が示された。

(2) 自宅の蔵書量と読書のレディネス

子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .19$, $\beta = .30$, $p < .05$)、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .16$, β

= .25, $p < .05$) が示された。

(3) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館などへ連れて行く頻度(合計)が高いほど物語理解 ($R^2 = .17$, $\beta = .27$, $p < .05$)、読書のレディネス(合計) ($R^2 = .48$, $\beta = .27$, $p < .01$) が高くなること、図書館へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス(合計)が高くなること ($R^2 = .45$, $\beta = .20$, $p < .05$) が示された。

(4) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に映画に行く」頻度が高いほど読字 ($R^2 = .24$, $\beta = -.34$, $p < .01$)、物語理解 ($R^2 = .19$, $\beta = -.33$, $p < .05$) が低くなることが示された。

5.4.5.2.2. 通信教育の経験の有無

(1) 自宅の蔵書量と読書のレディネス

子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .18$, $\beta = .30$, $p < .05$) が示された。

(2) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館などへ連れて行く頻度(合計)が高いほど物語理解 ($R^2 = .20$, $\beta = .30$, $p < .05$)、読書のレディネス(合計) ($R^2 = .48$, $\beta = .28$, $p < .01$) が高くなること、図書館へ連れて行く頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .17$, $\beta = .26$, $p < .05$) が示された。

(3) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に映画に行く」頻度が高いほど読字 ($R^2 = .30$, $\beta = -.44$, $p < .01$)、物語理解 ($R^2 = .20$, $\beta = -.33$, $p < .05$) が低くなることが示された。

5.4.5.2.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .20$, $\beta = -.28$, $p < .05$)、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど物語理解が低くなること ($R^2 = .19$, $\beta = -.26$, $p < .05$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど読字が低くなること ($R^2 = .23$, $\beta = -.30$, $p < .05$) が示された。

(2) 自宅の蔵書量と読書のレディネス

子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .22$, $\beta = .30$, $p < .05$)、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .22$, $\beta = .30$, $p < .05$) が示された。

(3) 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネス

図書館などへ連れて行く頻度(合計)が高いほど物語理解 ($R^2 = .20$, $\beta = .26$, $p < .05$)、読書のレディネス(合計) ($R^2 = .49$, $\beta = .27$, $p < .01$) が高くなること、図書館へ連れて行く頻度が高いほど物語理解が高くなること ($R^2 = .19$, $\beta = .25$, $p < .05$)、本屋へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス(合計)が高くなること ($R^2 = .46$, $\beta = .22$, $p < .05$) が示された。

(4) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒に映画に行く」頻度が高いほど読字 ($R^2 = .27$, $\beta = -.33$, $p < .01$)、物語理解 ($R^2 = .22$, $\beta = -.34$, $p < .05$) が低くなることが示された。

5.4.5.3. 新しく見られた影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

5.4.5.3.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ (合計)」であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .29$, $\beta = .29$, $p < .05$)、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほどお話の構成 ($R^2 = .30$, $\beta = .27$, $p < .05$) が高くなること、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .28$, $\beta = .24$, $p < .05$) が示された。

(2) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど読書のレディネス (合計) が高くなること ($R^2 = .46$, $\beta = .22$, $p < .05$) が示された。

5.4.5.3.2. 通信教育の経験の有無

(1) 読み聞かせ方と読書のレディネス

「一人読み促進型読み聞かせ (合計)」であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .29$, $\beta = .30$, $p < .05$)、「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方であるほどお話の構成が高くなること ($R^2 = .29$, $\beta = .25$, $p < .05$) が示された。

(2) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

「一緒にスポーツをする」頻度が高いほど読書のレディネス (合計) が高くなること ($R^2 = .46$, $\beta = .22$, $p < .05$) が示された。

5.4.5.3.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 親子の交流の頻度と読書のレディネス

親子の交流の頻度 (合計) が高いほど絵と文字の結合が高くなること ($R^2 = .23$, $\beta = .26$, $p < .05$) が示された。

5.4.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

5.4.6.1. 分析モデル

本分析では、習い事・家庭学習の経験の有無を統制したうえでの幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、補足的に習い事・家庭学習の経験の有無を統制変数とした重回帰分析を行った。

まず、1回目調査の幼児の家庭環境、性別、月齢、幼児の想像力、習い事・家庭学習の経験の有無を独立変数、3回目調査の幼児の想像力を従属変数として重回帰分析を行った（図5-8 参照）。なお、保育園・幼稚園による差を考慮して、保育園・幼稚園ごとに中心化した数値を用いた。

なお、本分析では、全体の結果である「3.3 1回目調査および3回目調査の分析結果」の幼児の家庭環境と想像力の影響関係があった項目についてのみ分析を行う。

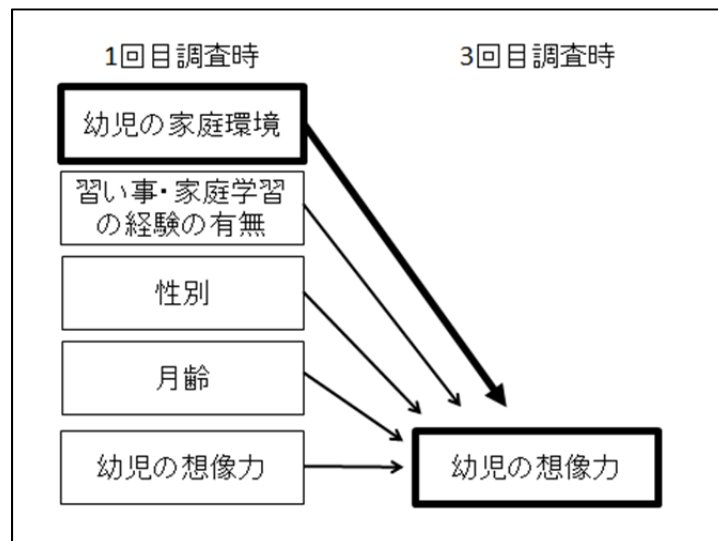


図 5-8 習い事・家庭学習の経験を統制した重回帰モデル

5.4.6.2. 全体の結果と共通する影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、全体の結果と共通する影響関係は以下のとおりである。

5.4.6.2.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が増えること ($R^2 = .36, \beta = .42, p < .01$)、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が増えること ($R^2 = .18, \beta = .34, p < .05$) が示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

創作絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が増えること ($R^2 = .30, \beta = .31, p < .05$) が示された。

5.4.6.2.2. 通信教育の経験の有無

(1) 読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなること ($R^2 = .33$, $\beta = .29$, $p < .05$)、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .16$, $\beta = .31$, $p < .05$) が示された。

5.4.6.2.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなること ($R^2 = .38$, $\beta = .36$, $p < .01$)、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .31$, $\beta = .44$, $p < .01$) が示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

創作絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなること ($R^2 = .32$, $\beta = .28$, $p < .05$) が示された。

5.4.6.3. 新しく見られた影響関係

習い事・家庭学習の経験の有無を統制して幼児の家庭環境と想像力の影響関係を検討するために、重回帰分析を行った。その結果、新しく見られた影響関係は以下のとおりである。

5.4.6.3.1. 受験目的ではない塾の経験の有無

(1) 読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度が高いほどイメージ量が多くなること ($R^2 = .20$, $\beta = .32$, $p < .05$)、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどイメージ量が多くなること ($R^2 = .20$, $\beta = .30$, $p < .05$) が示された。

5.4.6.3.2. 通信教育の経験の有無

(1) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

その他の絵本の読み聞かせ冊数が創造物数が多くなること ($R^2 = .31$, $\beta = .30$, $p < .05$)

5.4.6.3.3. 市販の教材の経験の有無

(1) 読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度が高いほどイメージ量 ($R^2 = .30$, $\beta = .33$, $p < .05$)、エピソード数 ($R^2 = .21$, $\beta = .29$, $p < .05$) が多くなること、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどイメージ量 ($R^2 = .33$, $\beta = .38$, $p < .01$) が多くなることが示された。

(2) 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）と想像力

絵本の読み聞かせ頻度（合計）が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .22$, $\beta = .31$, $p < .05$)、昔話絵本の読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .26$, $\beta = .36$, $p < .05$)、昔話絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること ($R^2 = .22$, $\beta = .34$, $p < .05$) が示された。

6. 考察

6.1. 幼児の家庭環境

6.1.1. 幼児の属性

6.1.1.1. きょうだいの有無・きょうだいの中での幼児の位置

きょうだいの有無については、いずれの調査においても「兄弟姉妹がいる」という回答が多く、「一人っ子」という回答は20%未満であった。一方で、首都圏の保護者を対象としたベネッセ教育総合研究所(2011)^[39]の「第4回幼児の生活アンケート」でも兄弟姉妹がいるという回答のほうが多いが、「1人っ子」という回答は32.6%で、本研究より多かった。本研究では首都圏外の保護者を調査対象としたため、一人っ子の割合が少なかったと考えられる。

また、きょうだいの中での幼児の位置については、いずれの調査においても「長子」という回答が最も多かったが割合は50%以下であった。一方で、首都圏の保護者を対象としたベネッセ教育総合研究所(2011)^[39]の「第4回幼児の生活アンケート」でも出生順位が「1番目」という回答が最も多かったが、割合は60.3%と多かった。これは、本研究のほうが一子っ子の割合が少なかったため、長子の割合も少なくなったと考えられる。

6.1.1.2. 同居している人

同居している人について、いずれの調査においても父親と同居している人の割合は95%未満であった。一方で、首都圏の保護者を対象としたベネッセ教育総合研究所(2011)^[39]の「第4回幼児の生活アンケート」では父親と同居しているという回答は95.4%であった。本研究では首都圏外の保護者を調査対象としたため、父親と同居していると回答した割合が少なかったと考えられる。

6.1.2. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書量は、3回目調査より2回目調査のほう保護者の読書量が多いことが示された。また、3回目調査より1回目調査のほう保護者の読書量が多いことが示された。これは3回目調査を行った時期が12月中旬から1月であり、年末年始の忙しい時期と重なったため、保護者の読書量が減ったのではないかと考えられる。

施設環境について条件間で比較した結果では、1回目調査において施設B（ドリル等で文字指導を行い、一斉保育の割合が高い施設）より施設A（遊びの中で文字指導を行い、自由保育の割合が高い施設）のほう保護者の読書量が多いことが示された。これは、施設Bがいずれも保育園であるため働いている母親が多く、施設Aの保護者のほうが読書の時間がとれるためではないかと考えられる。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、習い事・家庭学習の経験があるほうが保護者の読書量が多く、読書好意度が高くなるということが多く示された。これは、教育に熱心な保護者に読書が好きな人が多いのではないかと考えられる。

6.1.3. 子どもに対する保護者の行動

6.1.3.1. 絵本の読み聞かせ量（頻度・冊数）

絵本の読み聞かせについて、1回目調査、2回目調査、3回目調査と回を重ねるごとに頻度は低くなり、冊数は少なくなることが示された。ベネッセ教育総合研究所(2008)^[38]の「第3回子育て生活基本調査（幼児版）」においても、「絵本や本の読み聞かせをする」週あたりの平均日数は3.6日、3.1日、2.7日と段階的に減少しており、その理由として「成長とともに母親にしてもらわなければならないからであろう」と述べている。本研究でもこの結果が支持されており、年齢が上がるにつれて家庭での読み聞かせ頻度・冊数は減少し、子どもが1人で読むことが多くなってくると考えられる。

また、男児より女児のほうが早い時期に読み聞かせ頻度・冊数が減少していることが示された。したがって、女児のほうが早く1人読みを始めていることが示唆される。

施設環境について条件間で比較した結果では、施設A（遊びの中で文字指導を行い、自由保育の割合が高い施設）より施設B（ドリル等で文字指導を行い、一斉保育の割合が高い施設）のほうが読み聞かせ頻度が高く、読み聞かせ冊数が多くなるという結果がいくつかの分析でみられた。施設Bはいずれも保育園であり、幼児が施設に滞在する時間は幼稚園よりも長いと考えられる。したがって、家庭での読み聞かせ量も減るのではないかと考えられる。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、習い事・家庭学習の経験があるほうが読み聞かせ頻度が高く、読み聞かせ冊数が多くなるという結果がいくつかの分析でみられた。これは、教育に熱心な家庭のほうが読み聞かせ頻度が高くなり、読み聞かせ冊数も多くなるためではないかと考えられる。

6.1.3.2. 絵本の読み聞かせをする人

絵本の読み聞かせをする人は、いずれの調査においても母親が最も多いという結果になった。ベネッセ教育総合研究所(2011)^[39]の「第4回幼児の生活アンケート」における絵本を一緒に使う人の結果を見ると、母親の割合が一貫して高くなっている。したがって、本研究でもこの結果が支持されたといえる。

6.1.3.3. 絵本の種類別読み聞かせ量（頻度・冊数）

絵本の種類別読み聞かせ頻度において、いずれの分析においても年齢が上がるにつれて創作絵本の読み聞かせ頻度が低くなることが示された。いくつかの分析では、年齢が上がるにつれて創作絵本の読み聞かせ冊数が少なくなることが示された。これは、絵本の中で最も読み聞かせ頻度が高いものが創作絵本であり、年齢が上がるにつれて絵本の読み聞かせ頻度が低くなるとともに、創作絵本の読み聞かせ頻度も低くなることが示唆される。

また、年齢が上がるにつれてことばの絵本の読み聞かせ頻度が低くなるということがいくつかの分析で示された。ベネッセ教育総合研究所(2013)^[50]の「第1回幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書」において、「かな文字を読める」の項目は学年が上がるにつれて大幅に伸びており、年長児の95.0%が「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答したことが示されている。本研究においても、3回目調査の読書レディネステストの読字と絵と文字の結合の平均点は、いずれの分析においても満点の9割を超えている。したがって、年齢

が上がるにつれて幼児の読み能力が高まるため、ことばの絵本の読み聞かせ頻度も低くなると考えられる。

さらに、多くの分析において、女兒より男児のほうが知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いことが示された。いくつかの分析では、女兒より男児のほうが知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多いことが示された。小学 5 年生から高校 3 年生を対象として実施された小倉(2005)^[51]の「科学への学習意欲に関する実態調査」によると、科学への学習意欲に関して「男子の方が女子よりも肯定的に回答する傾向のある項目が数多く見られる」という。つまり、科学に対する興味関心の性差は就学前から始まっていることが示唆される。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、習い事・家庭学習の経験があるほうが知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高くなるという結果が多くの分析でみられた。また、いくつかの分析において習い事・家庭学習の経験があるほうが知識・科学絵本の読み聞かせ冊数が多くなるという結果が示された。したがって、教育に熱心な家庭において知識・科学絵本の読み聞かせ量が多くなると考えられる。

6.1.3.4. 読み聞かせ方

読み聞かせ方については、年齢が上がるにつれて「会話型読み聞かせ」ではなくなるという結果が示された。秋田・無藤(1996)^[34]によると、年少児において年中・年長児よりも読み聞かせの意義の中で「本を通して、親子のふれあいをするため」という項目を選択する母親が多いことが示された。一方で、幼児期後期から小学校低学年にかけて、本を読むことについてはしだいに自立していく(秋田, 1998)^[52]。つまり、幼児期前期には親子のふれあいを楽しむために絵本の読み聞かせを行っているが、幼児期後期になると幼児が自分で絵本を楽しむことができるようになるため会話が減少すると考えられる。なお、齋藤・内田(2013)^[53]による親子 30 組の読み聞かせ場面を観察した研究においても、子どもの年齢が高くなると親は言語的関わりを控えることが示されている。また、秋田・無藤(1996)^[34]による横断調査においても、年齢が上がるにつれて「会話型」読み聞かせの平均評定値は減少することが示されている。したがって、長期的な縦断調査である本研究でも同様の結果が示されたことで、より強固な結果となったと考えられる。

また、1 回目調査および 2 回目調査の分析において、男児より女兒のほうが「子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ」読み聞かせ方や「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるという結果が示された。この 2 つの読み聞かせ方は秋田・無藤(1996)^[34]において「一人読み促進型読み聞かせ」にいる。上述したように、女兒のほうが早くに 1 人読みを始めることが示唆されているため、早い時期において女兒のほうが「一人読み促進型読み聞かせ」に含まれている読み聞かせ方をされているのではないかと考えられる。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、多くの項目において習い事・家庭学習の経験のあるほうが平均値が高いことが示された。したがって、習い事・家庭学習を幼児にさせている保護者は読み聞かせについても何らかの工夫しながら読むようにしていることが示唆される。

6.1.3.5. 自宅の蔵書量

子どもを対象とした本の蔵書量は、全体の結果において全体の平均値はいずれも4から5の間であった。自宅の蔵書量の得点は4点が「21～30冊」、5点が「31～50冊」であった。年少児から年長児までの保護者332名を対象とした秋田・無藤(1996)^[34]の調査では、全体の傾向として「絵本を20冊から50冊程度所有」していることが明らかになっている。したがって、子どもを対象とした本の蔵書量は10年以上経過しても変化がないことが示唆される。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、通信教育の経験があるほうが子どもを対象とした本の蔵書量、大人を対象とした本の蔵書量が多くなるという結果が多くみられた。また、受験目的ではない塾の経験があるほうが大人を対象とした本の蔵書量が多くなるという結果もみられた。これは、子どもの教育に熱心な保護者が、多くの本を購入するためではないかと考えられる。また、通信教育や塾は継続的に支払いを行う必要があるため、子どもを塾に通わせたり、通信教育をさせたりできる家庭は、金銭的に本をたくさん買うことができるためではないかと考えられる。

6.1.3.6. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

3回目調査より1回目調査のほうが本のイベントへ連れて行く頻度が高いことが示された。3回目調査は12月末から1月の年末年始を含んだ時期に行った調査であったため、保護者がそのようなイベントへ連れて行く時間があまりなかったのではないかと考えられる。

施設環境について条件間で比較した結果では、施設B（ドリル等で文字指導を行い、一斉保育の割合が高い施設）より施設A（遊びの中で文字指導を行い、自由保育の割合が高い施設）のほうが図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高いことが多く示された。施設Bはいずれも保育園であるため、幼児が施設に滞在する時間は幼稚園より長い。したがって、施設Bを利用している家庭では図書館などへ連れて行く頻度が低くなるのではないかと考えられる。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、1回目調査および2回目調査の分析において、2回目調査で受験目的ではない塾の経験があるほうが、図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高くなることが示された。これは、教育に熱心な家庭のほうが本に関するところへ連れて行く頻度が高くなるのではないかと考えられる。また、1回目調査および2回目調査の分析において、2回目調査で通信教育の経験がないほうが、本のイベントへ連れて行く頻度が高いことが示された。通信教育は、家庭にいながらにして塾のように継続的に続けることのできる教材である。したがって、塾へ通わせる時間はないが、教育を受けさせたい家庭が使用することが多いと考えられることから、通信教育の経験のないほうが、本のイベントのように時間を割かなくてはならない場所へ連れて行く頻度が高くなると思われる。

6.1.3.7. 親子の交流の頻度

親子の交流の頻度について、2回目調査より3回目調査のほうが一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたりする頻度が高くなること、1回目調査より3回目調査のほうが親子の交流の頻度（合計）が高くなることが示された。これは、3回目調査を年末年始の休暇の後に調査を

行った施設が多かったため、平日よりも休暇中のほうが親子の交流の頻度が高くなったためではないかと考えられる。

また、男児より女児のほうが一緒に話をする頻度が高くなることが多く示された。若井(1979)^[54]によると、「幼児期にあっては男の子は女の子に比べて発達が全般的におそいが、特に言語面で相対的なおくれが目立つ」という。したがって、その言語面での遅れが家族内での話をする頻度にも関係しているのではないかと考えられる。

男児より女児のほうが、一緒に買い物へ行く頻度および一緒に料理をする頻度が高いことが多く示された。池山・田之浦(1994)^[55]によると、男児より女児のほうが家事行動をしたがるということが示されている。したがって、家事である買い物と料理は、女児がやりたがっているために頻度が高くなっていると考えられる。

女児より男児のほうが一緒にスポーツ観戦に行く頻度が高いという結果が多く示された。また、一緒に旅行や遊びに行く頻度が高いという結果も示された。岩崎・朴(2012)^[56]において、「男児が運動的な遊びを好む傾向がある」可能性が示唆されていることから、男児のほうがこのような外に出ていく親子の交流の頻度が高くなることが示唆される。

6.1.4. 回答者の属性

回答者の属性は、母親が圧倒的に多く、年齢は30歳代が最も多いということが示された。幼児に関する調査である「第3回子育て生活基本調査(幼児版)」(ベネッセ教育総合研究所, 2008)^[38]や「第4回幼児の生活アンケート」(ベネッセ教育総合研究所, 2011)^[39]においても回答者の属性は母親が最も多く、年齢も30歳代が最も多いことが示されている。したがって、多くの調査と一致する結果であることから、本研究のサンプルは一般的であることが確認できた。

6.2. 幼児の読書のレディネス

読書のレディネス得点（合計）、および各下位テスト（読字、絵と文字の結合、お話の構成、物語理解）の得点は、年齢が上がるにつれて高くなることが示された。特に、読字と絵と文字の結合の平均点は、3回目調査において満点の9割を超えていた。3回目調査は5歳後半～6歳の幼児を調査対象としており、この時期にはほとんどの子どもがひらがなを読めることが多くの調査において明らかになっている（国立国語研究所, 1972^[41]; 島村・三神, 1994^[57]; ベネッセ総合研究所, 2013^[50]）。読字と絵と文字の結合は、単に文字を読むことに対する準備性である「読みのレディネス」を測定するテストであったため、このような結果が示されたと考えられる。一方で、お話の構成と物語理解の平均点は、3回目調査においても満点の9割には達しておらず、今後得点が伸びていくと考えられる。お話の構成と物語理解は読書のレディネスを測定するテストである。したがって、読みのレディネスによって読むことの学習が進み、それに伴って読書のレディネスが固まってくる（阪本, 1977）^[12]ことが実証的に示された。

また、1回目調査および2回目調査の分析において、1回目・2回目調査ともに男児より女児のほうが絵と文字の結合の得点が高くなることが示された。また、2回目調査および3回目調査の分析において、2回目・3回目調査ともに男児より女児のほうが読書のレディネス（合計）、読字、物語理解の得点が高くなること、また、2回目調査において男児より女児のほうが絵と文字の結合の得点が高くなることが示された。つまり、読みのレディネスを測定するテストである読字と絵と文字の結合において、女児の得点が高いことが示されているため、読みのレディネスの発達は男児より女児のほうが早いことが示唆される。なお、3歳児クラスから5歳児クラスの幼児を対象に行われた島村・三神(1994)^[57]の調査においても、男児より女児のほうが平均読字数は高くなることが示されている。したがって、その後に発達する読書のレディネスの発達も男児より女児のほうが早くなっていると考えられる。また、ここで絵と文字の結合において女児のほうが得点が高くなる結果が多く示されている理由として、森田(2008)^[20]において、女児のほうが男児より「お絵かき」の頻度が高くなることが示されている。したがって、お絵かきをする中で絵を理解する力が育っているのではないかと考えられる。

施設環境について条件間で比較した結果では、1回目調査と2回目調査の一部において、施設A（遊びの中で文字指導を行い、自由保育の割合が高い施設）より施設B（ドリル等で文字指導を行い、一斉保育の割合が高い施設）のほうが絵と文字の結合の得点が高くなるという結果が示された。Aは遊びの中でのみ文字指導を行っている施設で、Bはドリルやプリントを用いて文字指導を行っている施設である。したがって、Bのように施設においてのドリルやプリントを用いた文字指導で発達するのは読みのレディネスの一部のみであり、しかもその差は年齢が上がるにつれてなくなってしまうと考えられる。

習い事・家庭学習の経験の有無について条件間で比較した結果では、受験目的ではない塾または通信教育の経験のあるほうが、読書のレディネス（合計）、読字、絵と文字の結合の得点が高くなるという結果が多くの分析において示された。これは、Sénéchal & LeFever(2002)^[26]が明らかにした「親による読み書き教育が初期の読み書き能力を促進する」という結果を支持するものであると考えられる。親が直接教育するだけでなく、許育の機会を用意することでも読みのレディネスは向上することが示唆される。ここで、市販の

教材の経験の有無においては有意差が示されなかった理由として、市販の教材は単発で行うこともできるが、受験目的の塾や通信教育は継続的に行うことが多いのではないかと考えられる。しかし、お話の構成や物語理解という読書のレディネスを測定するテストの得点に差はみられなかったことから、これらの能力は習い事や家庭学習では発達しにくいものであると考えられる。

6.3. 幼児の想像力

イメージ量とエピソード数は、年齢が上がるにつれて多くなることが示された。特に、1回目調査と2回目調査の間でイメージ量とエピソード数が増えることも示された。内田(1994)^[15]によると、「ことばと想像力は相互に依存する関係にある」という。また、堂野(1994)^[16]の調査では、5歳児のほうが4歳児に比べて明らかに語彙力の発達が進んでいることが明らかになっている。したがって、語彙力の発達とともにイメージ量、エピソード数が増えていることが示唆される。

一方で、創造物数については2回目調査と3回目調査の間で少なくなることを示された。朝比奈(2009)^[9]によると、ある程度まで経験を積み、知識の量が増えてくると、かえって想像力は低下してしまったりもするという。したがって、創造物数においては幼児後半で減少したと考えられる。また、イメージ量とエピソード数は多くなっていることから、幼児期後半になると新しいものの登場させるのではなく、話の流れを考える方へより想像力を使って作話を行うようになると考えられる。

また、施設環境についての比較や、習い事・家庭学習の経験の有無についての比較においては、ほとんど有意な結果が得られなかった。したがって、これらの要因は想像力にはほとんど関係しない可能性が示唆された。

6.4. 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係

本研究では、「保護者の読書好意度・読書量が子どもに対する保護者の行動（蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ量）に及ぼす影響を検討する」ことを目的1として分析を行った。

その結果、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間の2つの分析で、次のような共通した影響がみられた（表 6-1 参照）。

1回目調査および2回目調査の半年間、2回目調査および3回目調査の半年間の2つの分析において、保護者の読書好意度が高いほど大人を対象とした本の蔵書量が多くなることが示された。

また、2回目調査および3回目調査の半年間の1つの分析においては、保護者の読書好意度が高いほど図書館などへ連れて行く頻度（合計）が高くなること、保護者の読書量が多いほど子どもを対象とした本の蔵書量が多くなることが示された。

秋田(1992)^[24]では、親の好意度が「図書館や本屋へ連れて行く頻度」「自宅の蔵書量」「小さい頃の読み聞かせ」に影響していることが明らかになっている。これは、安藤(1996)^[25]の調査においても同様の結果が示されている。しかし、本研究では子どもに直接関係あるものとしては、保護者の読書好意度と図書館などへ連れて行く頻度（合計）の影響関係、保護者の読書量と子どもを対象とした本の蔵書量の影響関係の2点のみであった。ここで読み聞かせ量との影響関係がみられなかった理由としては、読み聞かせに関しては保護者の読み聞かせに対する意識や、外部機関からの家庭への情報提供などの他の様々な要因が関係してくるのではないかと考えられる。したがって、今後はこの点についても考慮していく必要がある。

また、秋田(1992)^[24]では小中学生に対して「あなたのお父（母）さんは読書が好きだと思いますか」「あなたのお父（母）さんは本をよく読んでいますか」と尋ねることによって、保護者の読書好意度・読書量を測定している。その結果、子どもが推定する保護者の読書好意度・読書量のみを測定していた。安藤(1996)^[25]では、保護者に直接たずねるかたちで調査が行われているが、小学6年生の保護者を対象としているため、読み聞かせ量については記憶をたどっての回答となっている。一方で、本研究では幼児の保護者に直接尋ねたため、より直接的な結果が得られたと考えられる。

さらに、1回目調査および3回目調査の分析においては有意な結果が得られなかったことから、保護者の読書好意度・読書量は子どもに対する保護者の行動の一部に短期的に影響することが示唆される。

表 6-1 保護者の読書好意度・読書量と子どもに対する保護者の行動の影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
保護者の読書好意度 →蔵書量（大人の本）		+	+
保護者の読書好意度 →図書館などへ連れて行く頻度（合計）			+
保護者の読書量 →蔵書量（子どもの本）			+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5. 幼児の家庭環境と読書のレディネスの影響関係

本研究では、「家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響を検討する」ことを目的 2 として分析を行った。以下に、読書のレディネスを高める要因（6.5.1）、低める要因（6.5.2）、高める場合と低める場合のある要因（6.5.3）を述べる。

6.5.1. 読書のレディネスを高める要因

6.5.1.1. 絵本の種類別読み聞かせ量

絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間の分析のどちらか1つにおいてのみ影響がみられた（表 6-2 参照）。絵本の種類別読み聞かせ量の影響の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。なお、2つの半年間の分析でそれぞれ結果が異なるものについては後述する「6.5.3 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因」で述べることとする。

半年間の影響の個別分析では、1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほど物語理解が高まることが示された。秋田(1998)^[58]によると、既存知識は文章を理解していく上で重要な役割を果たしているという。また、河西・高桑(2012)^[59]によると、知識・科学絵本は「鮮明な写真や詳細な図絵でその世界のひろがりを感じてくれる」という。したがって、知識・科学絵本の読み聞かせ頻度が高いほど様々な知識を得ることができるため、読書のレディネスの中でも物語理解が高まると考えられる。

表 6-2 絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
知識・科学絵本（頻度） →物語理解		+	
わらべうた・詩の絵本（頻度） →読書のレディネス（合計）		-	
わらべうた・詩の絵本（頻度） →お話の構成		-	
その他の絵本（頻度） →絵と文字の結合		-	+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.1.2. 絵本の読み聞かせ方

絵本の読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間の分析のどちらか1つにおいてのみ影響がみられた（表 6-3 参照）。絵本のよみかせ方の影響の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。

半年間の影響の個別分析では、2回目調査および3回目調査の半年間の分析において、「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほどお話の構成が高まることが示された。また、その下位項目である「子どもが読めるところは読ませながら読んだ」読み聞かせ方、「読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方であるほど、読書のレディネス（合計）、お話の構成が高まることが示された。2回目調査時の対象は5歳後半～6歳の幼児であり、島村・三神(1994)^[57]では、5歳後半で9割のひらがなが読めるようになっていることが明らかにされている。したがって、一人読み促進型の読み聞かせを行うことで幼児が自ら読書を楽しむようになり、読書のレディネスを高めることが示唆される。

表 6-3 絵本の読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
一人読み促進型読み聞かせ（合計） →お話の構成			+
一人読み促進型読み聞かせ（合計） →物語理解		-	
字を教えながら →物語理解	-	-	
読み方を教えてあげた →読字	-		
読み方を教えてあげた →物語理解		-	
一人で読んだら褒める →物語理解		-	
読めるところは読ませながら →お話の構成			+
読めるところは読ませながら →読書のレディネス（合計）			+
内容に説明を加えながら →お話の構成			+
内容に説明を加えながら →読書のレディネス（合計）			+
絵に説明を加えながら →物語理解	-		
ものの名前を教えながら →物語理解	-		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.1.3. 自宅の蔵書量

自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析においてのみ影響がみられた（表 6-4 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高まること、大人を対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解、読書のレディネス（合計）が高まること示された。子どもを対象とした本の蔵書量が多いほど物語理解が高まるという結果は、施設環境や習い事・家庭学習の経験の有無の影響を取り除いても示された。したがって、1回目調査および2回目調査の半年間の分析、2回目調査および3回目調査の半年間の分析においては有意な結果が得られなかったことから、自宅の蔵書量は長期的に読書のレディネスによい影響を与える家庭環境であることが示唆された。

表 6-4 自宅の蔵書量と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
蔵書量（子どもの本） →物語理解	+		
蔵書量（大人の本） →物語理解	+		
蔵書量（大人の本） →読書のレディネス（合計）	+		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.1.4. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

図書館などへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表6-5参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）が高いほど読書のレディネス（合計）、物語理解が高くなること、図書館へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）、物語理解が高くなること、本屋へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が高くなることが示された。つまり、早い時期に本に関連する場所に幼児を連れて行くことで本や文字と親しむ機会が増え、長期的に読書のレディネスにより影響を与えることが示唆される。

なお、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計）が高いほど読書のレディネス（合計）が高くなること、書館へ連れて行く頻度が高いほど読書のレディネス（合計）が高くなることは、1回目調査および2回目調査の半年間の分析でも見られたが、2回目調査および3回目調査の半年間の分析では見られなかったため、半年間では安定した結果は得られなかった。

なお、施設環境や習い事・家庭学習の経験の有無の影響を取り除いても、図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係は示された。

表 6-5 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計） →読書のレディネス（合計）	+	+	
図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度（合計） →物語理解	+		
図書館へ連れて行く頻度 →読書のレディネス（合計）	+	+	
図書館へ連れて行く頻度 →お話の構成		+	
図書館へ連れて行く頻度 →物語理解	+		
本屋へ連れて行く頻度 →読書のレディネス（合計）	+		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.1.5. 親子の交流の頻度

親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-6 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。2つの半年間の分析でそれぞれ結果が異なるものについては後述する「6.5.3 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因」で述べることとする。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析では、一緒に旅行や遊びに行く頻度が高いほど絵と文字の結合が高まることが示された。一緒に旅行や遊びに行くということは、普段の日常生活では経験できないことをする機会が多くあると考えられる。本の内容を理解するためには豊かな経験が必要であるため（佐藤・安岡, 1997）^[30]、一緒に旅行や遊びに行くことは読書のレディネスの下位項目の発達により影響をあたえるものであることが示唆された。

表 6-6 親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
親子の交流（合計）→お話の構成			+
親子の交流（合計）→物語理解			-
親子で買い物 →絵と文字の結合		-	
親子で旅行や遊び →絵と文字の結合	+		
親子で旅行や遊び →お話の構成			+
親子で旅行や遊び →物語理解		+	
親子で話 →読書のレディネス（合計）			+
親子で話 →お話の構成			+
親子で話 →物語理解		+	-
親子で夕飯 →絵と文字の結合			+
親子でゲームや歌 →物語理解			-
親子でスポーツ →物語理解			-
親子で映画 →読字	-		
親子で映画 →物語理解	-		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.2. 読書のレディネスを低める要因

6.5.2.1. 保護者の読書好意度・読書量

保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間のどちらか1つの分析においてのみ影響がみられた（表 6-7 参照）。保護者の読書好意度・読書量の影響の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。

半年間の影響の個別分析では、1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、保護者の読書好意度が高いほど絵と文字の結合が低くなること、保護者の読書量が多いほど絵と文字の結合が低くなることが示された。施設環境や習い事・家庭学習の影響を取り除いても、この結果は示された。小学3年、5年、中学2年を対象にした秋田(1992)²⁴⁾の研究では、親が読書好きであることは子どもの読書量や読書好意度に間接的な影響を与えていることを明らかにしている。しかし、子どもの読書能力への影響は明らかになっておらず、幼児を対象とした本研究では読書のレディネスの下位能力を低くするという結果が示された。したがって、幼児期は保護者が本を読む姿を見せることよりも、保護者が実際に子どもと関わったり、子どもが実際に読書に親しんだりすることが望ましいのではないかと考えられる。

表 6-7 保護者の読書好意度・読書量と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
保護者の読書好意度 →絵と文字の結合		—	
保護者の読書量 →絵と文字の結合		—	

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.2.2. 絵本の種類別読み聞かせ量

絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間のどちらか1つの分析においてのみ影響がみられた（表 6-8 参照）。絵本の種類別読み聞かせ量の影響の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。2つの半年間の分析でそれぞれ結果が異なるものについては後述する「6.5.3 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因」で述べることとする。

半年間の影響の個別分析では、1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、わらべうた・詩の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど読書のレディネス（合計）、お話の構成が低くなることが示された。中でも、お話の構成への影響は、施設環境や習い事・家庭学習の経験の有無の影響を取り除いても示された。三神(2003)^[60]によると、お話の構成は「事物の因果関係を理解して、順序よくならべて、1つのまとまりのあるものを構成すること」であり、「文字を使用しての理解よりも、生活体験をもっと多くして、具体的に物事を考えることをまずすべき」と述べている。しかし、わらべうたは体を動かしたり、手を触れ合ったりして歌われてきたもの（張替, 2009）^[37]であり、詩は言葉の響きを楽しむもの（河西・高桑, 2012）^[59]である。つまり、わらべうた・詩の絵本を読み聞かせることでは事物の因果関係を理解することはできず、幼児期後半においてわらべうた・詩の絵本を多く読み聞かせている場合に関しては、むしろ悪い影響を与えるのではないかと考えられる。しかし、わらべうたが乳幼児サービスで注目されているように（鈴木, 2012）^[61]、乳幼児の早い段階ではよい影響を与えるものであると考えられるため、この点に関しては今後検討が必要となってくることが示唆される。

表 6-8 絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
知識・科学絵本（頻度） →物語理解		+	
わらべうた・詩の絵本（頻度） →読書のレディネス（合計）		-	
わらべうた・詩の絵本（頻度） →お話の構成		-	
その他の絵本（頻度） →絵と文字の結合		-	+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.2.3. 絵本の読み聞かせ方

親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-9 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方、「書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした」読み聞かせ方、「本に出てくるものの名前を教えながら読んだ」読み聞かせ方であるほど、物語理解が低くなることが示された。この読み聞かせ方は、読み聞かせを途中で止めて行うものであるため、物語が途中で中断されるために物語の理解に影響を与えるのではないかと考えられる。なお、「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方、であるほど物語理解が低くなることは1回目調査および2回目調査の半年間の分析でも見られたが、2回目調査および3回目調査の半年間の分析では見られなかったため、半年間では安定した結果は得られなかった。

また、1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方であるほど読字が低くなることが示された。島村・三神(1994)¹⁵⁷⁾は、ひらがなを9割読めるようになるのは5歳10カ月であることを明らかにしている。本調査の1回目調査時は4歳後半～5歳前半の幼児を対象としており、この時期ではまだひらがなを9割も読めないと考えられる。したがって、文字を十分に読めない時期から物語を読むことと文字を読むことを同時に行うと、読みのレディネスが低くなると考えられる。

さらに、1回目調査および2回目調査の半年間の分析においては、「一人読み促進型読み聞かせ（合計）」であるほど物語理解が低くなることが示された。また、その下位項目である「字を教えながら読んだ」読み聞かせ方、「子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた」読み聞かせ方、「子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりしたときには褒めるようにした」読み聞かせ方であるほど、物語理解が低くなることも示された。このことから、文字を十分に読めない時期から一人読み促進型の読み聞かせを行うと、読みのレディネスだけではなく読書のレディネスである物語理解も低くなると考えられる。

表 6-9 絵本の読み聞かせ方と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
一人読み促進型読み聞かせ (合計) →お話の構成			+
一人読み促進型読み聞かせ (合計) →物語理解		-	
字を教えながら →物語理解	-	-	
読み方を教えてあげた →読字	-		
読み方を教えてあげた →物語理解		-	
一人で読んだら褒める →物語理解		-	
読めるところは読ませながら →お話の構成			+
読めるところは読ませながら →読書のレディネス (合計)			+
内容に説明を加えながら →お話の構成			+
内容に説明を加えながら →読書のレディネス (合計)			+
絵に説明を加えながら →物語理解	-		
ものの名前を教えながら →物語理解	-		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.2.4. 親子の交流の頻度

親子の交流と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-10 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。また、2つの半年間の分析でそれぞれ結果が異なるものについては後述する「6.5.3 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因」で述べることとする。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析では、一緒に映画を見に行く頻度が高いほど読字や物語理解が低くなることが示された。また、半年間の分析においても、いくつかの負の影響関係が示された。上述したように、子どもが親との交流の中で様々な経験をすることは、読書のレディネスを促進することが示唆された一方で、このように読書のレディネスに負の影響を与える交流もいくつかみられた。したがって、親子の交流の頻度が多ければ多いほどよいということはなく、どのような関わり方であるのかや、他の関わり方とのバランスなどが重要となってくることが示唆される。この点についてはさらに検討が必要であると考えられる。

表 6-10 親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
親子の交流（合計）→お話の構成			+
親子の交流（合計）→物語理解			-
親子で買い物 →絵と文字の結合		-	
親子で旅行や遊び →絵と文字の結合	+		
親子で旅行や遊び →お話の構成			+
親子で旅行や遊び →物語理解		+	
親子で話 →読書のレディネス（合計）			+
親子で話 →お話の構成			+
親子で話 →物語理解		+	-
親子で夕飯 →絵と文字の結合			+
親子でゲームや歌 →物語理解			-
親子でスポーツ →物語理解			-
親子で映画 →読字	-		
親子で映画 →物語理解	-		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.3. 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因

6.5.3.1. 絵本の種類別読み聞かせ量

絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、2つの半年間の影響関係でそれぞれ異なった結果が得られた（表 6-11 参照）。

1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が低くなることが示された。本研究では、その他の絵本を「しかけ絵本、文字なし絵本、写真絵本、ハイパー絵本など」としている。これらの絵本は、幼児期前半では絵や写真を見たりしかけで遊んだりして楽しむ部分が多くなる。したがって、このような絵本の読み聞かせ頻度が高いと描かれているものとことばとを結びつけることを抑制するのではないかと考えられる。

一方で、2回目調査および3回目調査の半年間の分析においては、その他の絵本の読み聞かせ頻度が高いほど絵と文字の結合が高いことが示された。上述したように、これらの絵本は、幼いうちは絵や写真を見たりしかけで遊んだりして楽しむ部分が多くなるが、年齢が上がるにつれて物語の内容やそこに登場する事物にも興味を持つようになるのではないかと考えられる。したがって、幼児期後半において、その他の絵本の読み聞かせ頻度と絵と文字の結合の正の影響がみられたと考えられる。

表 6-11 絵本の種類別読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
知識・科学絵本（頻度） →物語理解		+	
わらべうた・詩の絵本（頻度） →読書のレディネス（合計）		-	
わらべうた・詩の絵本（頻度） →お話の構成		-	
その他の絵本（頻度） →絵と文字の結合		-	+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.5.3.2. 親子の交流の頻度

親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、2つの半年間の影響関係でそれぞれ異なった結果が得られた（表 6-12 参照）。

1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、親子で話をする頻度が高いほど物語理解が高くなることが示された。一方で、2回目調査および3回目調査の半年間の分析においては、親子で話をする頻度が高いほど物語理解が低くなることが示された。幼児期前半においては親とさまざまな話をする中で得られる知識が多くなるため、物語理解が高まったと考えられる。しかし、幼児期後半になると、親と話をする時間が長いよりも幼児が実際に経験する時間が長いほうが、よりさまざまな知識が得られるのではないかと考えられる。この点については、今後より詳細に検討していく必要性が示唆される。

表 6-12 親子の交流の頻度と読書のレディネスの影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
親子の交流（合計）→お話の構成			+
親子の交流（合計）→物語理解			-
親子で買い物 →絵と文字の結合		-	
親子で旅行や遊び →絵と文字の結合	+		
親子で旅行や遊び →お話の構成			+
親子で旅行や遊び →物語理解		+	
親子で話 →読書のレディネス（合計）			+
親子で話 →お話の構成			+
親子で話 →物語理解		+	-
親子で夕飯 →絵と文字の結合			+
親子でゲームや歌 →物語理解			-
親子でスポーツ →物語理解			-
親子で映画 →読字	-		
親子で映画 →物語理解	-		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.6. 幼児の家庭環境と想像力の影響関係

本研究では、「家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響を検討する」ことを目的 2 として分析を行った。以下に、想像力を高める要因（6.6.1）、低める要因（6.6.2）を述べる。

6.6.1. 想像力を高める要因

6.6.1.1. 絵本の読み聞かせ量

絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-13 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなること、絵本の読み聞かせ冊数が多いほどエピソード数が多くなること示された。中でも、絵本の読み聞かせ頻度と創造物数の影響関係については、施設環境や習い事・家庭学習の経験の有無の影響を取り除いても示された。赤星(2009)^[61]によると、「お話を聞く、本を読んでもらう、など耳から入る肉声の言葉に接することから言葉の力が育まれ、事物を認識し、イメージが広がる」といわれている。したがって、絵本の読み聞かせによって想像力が育まれることが示唆された。また、読書は実際には体験し得ないことを知ったりする疑似体験ができると言われている（鈴木, 2012）^[6]ため、保護者にたくさん読み聞かせをしてもらうことにより疑似体験の機会を多く得ることができる。その結果、経験を素材とする（ヴィゴツキー, 1979）^[62]想像力が高まるのではないかと考えられる。なお、1回目調査および2回目調査の半年間の分析、2回目調査および3回目調査の半年間の分析では影響関係がみられなかったことから、絵本の読み聞かせは長期的に想像力に影響を与えると考えられる。

表 6-13 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
絵本の読み聞かせ頻度 →創造物数	+		
絵本の読み聞かせ冊数 →エピソード数	+		

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.6.1.2. 絵本の種類別読み聞かせ量

絵本の種類別読み聞かせ量と想像力の影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-14 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析においては、創作絵本の読み聞かせ頻度が高いほど創造物数が多くなることが示された。創作絵本を読み聞かせることによって、日常ではあまり目にするできないものや、ファンタジー要素の強いものなどに触れる機会が増えると考えられる。したがって、幼児の創造物数が増えたと考えられる。

表 6-14 絵本の種類別読み聞かせ量と想像力の影響関係

	1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
絵本の読み聞かせ頻度（合計） →エピソード数			+
絵本の読み聞かせ冊数（合計） →エピソード数			+
創作絵本の読み聞かせ頻度 →創造物数	+		
昔話絵本の読み聞かせ頻度 →エピソード数			+
ことばの絵本の読み聞かせ頻度 →イメージ量			+
ことばの絵本の読み聞かせ頻度 →エピソード数			+
ことばの絵本の読み聞かせ冊数 →イメージ量			+
ことばの絵本の読み聞かせ冊数 →エピソード数			+
知識・科学絵本の読み聞かせ頻度 →エピソード数			+
知識・科学絵本の読み聞かせ冊数 →エピソード数			+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.6.1.3. 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度

図書館などへ連れて行く頻度と想像力の影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間のどちらか1つの分析においてのみ影響がみられた（表 6-15 参照）。図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度の影響の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。

半年間の影響の個別分析では、2回目調査および3回目調査の半年間の分析において、本屋へ連れて行く頻度が高いほどエピソード数が増えることが示された。この結果は、施設環境や習い事・家庭学習の経験の有無の影響を取り除いても示された。したがって、図書館や本のイベントへ行くよりも本屋へ行くほうが幼児の想像力を高めるとことが示された。

表 6-15 図書館・本屋・本のイベントへ連れて行く頻度と想像力の影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
本屋へ連れて行く頻度 →エピソード数			+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.6.2. 想像力を低める要因

6.6.2.1. 親子の交流の頻度

親子の交流と想像力の影響関係は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間のどちらか1つの分析においてのみ影響がみられた（表 6-16 参照）。親子の交流の頻度の影響の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。

半年間の影響の個別分析では、1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、一緒にゲームや歌を歌ったりする頻度が高いほどイメージ量が少なくなることが示された。ヴィゴツキー(1979)^[62]によると、想像力は人間のもつ過去の経験の豊富さと多様さに直接左右されており、人間の経験が豊かであるほど想像力も豊かになるという。一方で、幼い頃から長時間にわたって映像メディアに接した結果、集中力や想像力の減退が見られたという意見もあり（赤星, 2009）^[10]、本研究でも幼児の想像力に負の影響を与える経験もあることが示唆された。

表 6-16 親子の交流の頻度と想像力の影響関係

	1年間の分析 (1～3回目)	半年間の分析 (1～2回目)	半年間の分析 (2～3回目)
親子でゲームや歌を歌ったりする →イメージ量		-	

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.7. 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果

本研究では、「家庭環境（絵本の読み聞かせ量）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への他の家庭環境（図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ方など）による調整効果を検討する」ことを目的3として分析を行った。以下に、読書のレディネスを高める要因（6.7.1）、低める要因（6.7.2）を述べる。

6.7.1. 読書のレディネスを高める要因

絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間のどちらか1つの分析においてのみ影響がみられた（表6-17参照）。絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。

半年間の影響の個別分析では、1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、図書館などへ連れて行く頻度が低い群では、読み聞かせ冊数が多いほどお話の構成が高まることが示された。図書館などへ連れて行く頻度が低い中で、読み聞かせ量が多いということは、家庭にある同じ絵本を繰り返して読み聞かせを行っていることが考えられる。高木(1975)^[63]によると、読み聞かせの回数が増すにしたがって、物語を楽しむ積極的反応が増加したり、読み聞かせ後の記憶内容はまとまりのあるものになったりしてくるという。したがって、幼児期前半には同じ本を繰り返して読むことが読書のレディネスを高める可能性が示唆される。

2回目調査および3回目調査の半年間の分析において、会話型読み聞かせ方でない群では、読み聞かせ量が多いほど絵と文字の結合が高まることが示された。上述したように、この時期は一人読み促進型の読み聞かせ方で読書のレディネスが高まる時期であるため、会話をあまりせずに幼児が一人で読むことを促すような読み聞かせ方のほうが読書のレディネスが高まることが示唆される。

表 6-17 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
蔵書量(子どもの本)が多い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		-	
	絵本の読み聞かせ冊数 →物語理解	-		
図書館などへ連れて行く頻度が高い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		-	
	絵本の読み聞かせ頻度 →物語理解	-		
図書館などへ連れて行く頻度が低い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		+	
会話型読み聞かせではない群	絵本の読み聞かせ頻度 →絵と文字の結合			+
	絵本の読み聞かせ冊数(合計) →絵と文字の結合			+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.7.2. 読書のレディネスを低める要因

絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-18 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析においては、自宅の子どもの本の蔵書量が多い群では、読み聞かせ冊数が多いほど物語理解が低くなること、図書館などへ連れて行く頻度が高い群では、読み聞かせ頻度が高いほど物語理解が低くなることが示された。図書館などへ連れて行く頻度が高い、自宅の蔵書量が多いということは、様々な種類の絵本に触れる機会があると考えられる。そして、読み聞かせ量が多いということは、様々な種類の絵本の読み聞かせを家庭で行っていることが考えられる。このような状況で、読書のレディネスが低くなるということは、上述したように、様々な絵本の読み聞かせを行うよりも同じ本を繰り返して読み聞かせることのほうが読書のレディネスを高める可能性が示唆される。したがって、長期的には様々な絵本を読み聞かせることには注意が必要である可能性が示唆される。

表 6-18 絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係への他の家庭環境の調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
蔵書量（子どもの本） が多い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		—	
	絵本の読み聞かせ冊数 →物語理解	—		
図書館などへ連れて 行く頻度が高い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		—	
	絵本の読み聞かせ頻度 →物語理解	—		
図書館などへ連れて 行く頻度が低い群	絵本の読み聞かせ冊数 →お話の構成		+	
会話型読み聞かせ ではない群	絵本の読み聞かせ頻度 →絵と文字の結合			+
	絵本の読み聞かせ冊数（合計） →絵と文字の結合			+

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.8. 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果

本研究では、「家庭環境（絵本の読み聞かせ量）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への他の家庭環境（図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ方など）による調整効果を検討する」ことを目的3として分析を行った。以下に、想像力を高める要因（6.8.1）、低める要因（6.8.2）を述べる。

6.8.1. 想像力を高める要因

絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表6-19参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析においては、図書館などへ連れて行く頻度が高い群では、読み聞かせ頻度が高いほどエピソード数が増えることが示された。上述したように、図書館や本屋などへ行くということは、様々な絵本に触れる機会が多くなることが考えられる。したがって、様々な絵本を読み聞かせてもらうことは長期的に想像力により影響を及ぼすと考えられる。

表 6-19 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
図書館などへ連れて行く頻度が高い群	絵本の読み聞かせ冊数 →創造物数		—	
	絵本の読み聞かせ頻度（合計） →イメージ量		—	
	絵本の読み聞かせ頻度（合計） →創造物数		—	
	絵本の読み聞かせ頻度（合計） →エピソード数	+		
	絵本の読み聞かせ冊数（合計） →イメージ量		—	
	絵本の読み聞かせ冊数（合計） →創造物数		—	

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.8.2. 想像力を低める要因

絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、半年間のどちらか1つの分析においてのみ影響がみられた（表 6-20 参照）。絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果の分析では、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかったため、安定した結果とは言えないと考えられる。

半年間の影響の個別分析では、1回目調査および2回目調査の半年間の分析において、図書館などへ連れて行く頻度が高い群では、読み聞かせ量が多いほどイメージ量、創造物数が少なくなることが示された。つまり、絵本の読み聞かせ量と読書のレディネスの影響関係と同じことが示されたことになる。したがって、今回の調査では想像力に対しても、幼児期の早い段階では様々な種類の絵本を読み聞かせるよりも同じ本を繰り返して読み聞かせるほうがよい可能性が示唆される。

表 6-20 絵本の読み聞かせ量と想像力の影響関係への他の家庭環境の調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)
図書館などへ連れて行く頻度が高い群	絵本の読み聞かせ冊数 →創造物数		—	
	絵本の読み聞かせ頻度（合計） →イメージ量		—	
	絵本の読み聞かせ頻度（合計） →創造物数		—	
	絵本の読み聞かせ頻度（合計） →エピソード数	+		
	絵本の読み聞かせ冊数（合計） →イメージ量		—	
	絵本の読み聞かせ冊数（合計） →創造物数		—	

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.9. 家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果

本研究では、「家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への保育・教育施設の調整効果を検討すること」を目的4として分析を行った。以下に、読書のレディネスを高める要因（6.9.1）、低める要因（6.9.2）、高める場合と低める場合のある要因（6.9.3）を述べる。

6.9.1. 読書のレディネスを高める要因

家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表6-21参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。また、2つの半年間の分析でそれぞれ結果が異なるものについては後述する「6.9.3 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因」で述べることにする。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、施設Aの群で大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合が高くなることが示された。施設Aはドリルやプリントなどを用いた文字指導を行っていないため、自宅の蔵書量が絵と文字の結合に与える影響が顕著に示されたと考えられる。なお、この影響関係は、2回目調査および3回目調査の半年間の分析でも見られたが、1回目調査および2回目調査の半年間の分析では見られなかったため、半年間では安定した結果は得られなかった。

また、1回目調査および3回目調査の1年間の分析においては、施設Bの群で、親子の交流の頻度が高いほど物語理解が高くなることが示された。施設Bはどちらも保育園であるため、施設における滞在時間が長くなる。したがって、親子の交流の時間は短くなるため、親子の交流の頻度が物語理解に与える影響が施設Bにおいて顕著に示されたと考えられる。

さらに、1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、施設Aの群で、会話型の読み聞かせ方がお話の構成を高めることが示された。施設Aは施設Bよりも自由保育の割合が多いため、自由遊びの中で会話をする機会が多いことが考えられる。したがって、家庭における絵本の読み聞かせの中でも親子の会話が多くなるため、それが施設Bよりもお話の構成に良い影響を与えていることが示唆される。

また、1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、施設Aで家庭での絵本の読み聞かせ頻度が多いほどお話の構成が高まることが示された。本研究において、年長後半になると読みのレディネスの平均点は満点の9割を超えており、ほとんどの幼児が読みのレディネスが形成されていると考えられる。したがって、その点に関して差は出ないことが示唆される。ここで、考慮すべき点は、読みのレディネスの後に形成される読書のレディネスに対する保育形態の違いであると考えられる。施設Bは一斉保育の割合が多く、自由保育、つまり幼児が自由に遊ぶ時間が少なくなっている。豊かな遊び体験は読書能力の発達にとって大切である（朝比奈, 2009）⁹⁾といわれているため、自由保育の多い施設Aのほうが読みのレディネスが形成された後の読書のレディネスの発達を促すと考えられる。

表 6-21 家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)	
施設 A の群	蔵書量 (大人の本) →読字		+		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		-		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成	+			
	絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		-	+	
	保護者の読書好意度 →物語理解			+	
	保護者の読書好意度 →読書のレディネス (合計)			+	
	蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合	+		+	
	会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成	+			
	施設 B の群	蔵書量 (大人の本) →読字		-	
		絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		+	
		絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		+	-
保護者の読書好意度 →物語理解				-	
蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合		-			
絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成		-			
会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成		-			
親子の交流の頻度 (合計) →物語理解		+			

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.9.2. 読書のレディネスを低める要因

家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、1年間の分析において影響がみられた（表 6-22 参照）。なお、半年間の2つの分析で共通した影響はみられなかった。また、2つの半年間の分析でそれぞれ結果が異なるものについては後述する「6.9.3 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因」で述べることとする。

1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、施設 B で家庭での絵本の読み聞かせ頻度が多いほどお話の構成が低くなることが示された。つまり、上述したように、長期的に影響関係をみると、施設 A のほうが、家庭での読み聞かせによって読書のレディネスが高まるだけでなく、施設 B では家庭での読みきかせによって読書のレディネスが低くなることが示唆された。これは、施設 B においてドリルやプリントで文字の指導を行うことで読みのレディネスは高まるが、家庭での読みきかせ場面においても文字に意識がいき、物語の内容を楽しむということができなくなるのではないかと考えられる。

また、1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、施設 B の群で大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合が低くなることが示された。つまり、施設 A のほうが大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合が高くなるだけでなく、施設 B の群では大人を対象とした本の蔵書量が多いほど絵と文字の結合を低めることが示唆された。

さらに、1回目調査および3回目調査の1年間の分析において、施設 B の群で、会話型の読み聞かせ方がお話の構成を低めることが示された。つまり、施設 A のほうが会話型の読み聞かせ方がお話の構成が高くなるだけでなく、施設 B の群では会話型の読み聞かせ方がお話の構成を低めることが示唆された。

表 6-22 家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)	
施設 A の群	蔵書量 (大人の本) →読字		+		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		-		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成	+			
	絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		-	+	
	保護者の読書好意度 →物語理解			+	
	保護者の読書好意度 →読書のレディネス (合計)			+	
	蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合	+		+	
	会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成	+			
	施設 B の群	蔵書量 (大人の本) →読字		-	
		絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		+	
		絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		+	-
保護者の読書好意度 →物語理解				-	
蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合		-			
絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成		-			
会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成		-			
親子の交流の頻度 (合計) →物語理解		+			

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.9.3. 読書のレディネスを高める場合と低める場合のある要因

家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果は、3つの分析（1回目調査および2回目調査の分析（半年間）、2回目調査および3回目調査の分析（半年間）、1回目調査および3回目調査の分析（1年間））のうち、2つの半年間の影響関係でそれぞれ異なった結果が得られた（表 6-23 参照）。

1回目調査および2回目調査の半年間の分析においては、施設 A の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が低くなること、施設 B の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が高くなることが示された。施設 B はドリルやプリントで文字指導を行っているため、読みのレディネスのほうが早くに高まる。阪本(1977)^[12]によると、読みのレディネスによって読むことの学習が進み、それに伴って読書のレディネスが固まってくると考えられている。したがって、幼児期前半では施設における文字指導によって読みのレディネスが高まり、それが土台になって、家庭での読み聞かせによって読書のレディネスの中でも物語理解が高まると考えられる。

一方で、2回目調査および3回目調査の半年間の分析においては、施設 A の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が高くなること、施設 B の群では、絵本の読み聞かせ冊数（合計）が多いほど物語理解が低くなることが示された。上述したように、幼児期後半では読みのレディネスは形成されているため、自由保育が多い施設 A のほうが読みのレディネスが形成された後の読書のレディネスの発達を促すと考えられる。

表 6-23 家庭環境と読書のレディネスの影響関係への保育・教育施設環境による調整効果

		1年間の分析 (1~3回目)	半年間の分析 (1~2回目)	半年間の分析 (2~3回目)	
施設 A の群	蔵書量 (大人の本) →読字		+		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		-		
	絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成	+			
	絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		-	+	
	保護者の読書好意度 →物語理解			+	
	保護者の読書好意度 →読書のレディネス (合計)			+	
	蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合	+		+	
	会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成	+			
	施設 B の群	蔵書量 (大人の本) →読字		-	
		絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →物語理解		+	
		絵本の読み聞かせ冊数 (合計) →物語理解		+	-
保護者の読書好意度 →物語理解				-	
蔵書量 (大人の本) →絵と文字の結合		-			
絵本の読み聞かせ頻度 (合計) →お話の構成		-			
会話型読み聞かせ (合計) →お話の構成		-			
親子の交流の頻度 (合計) →物語理解		+			

※+は正の影響関係、-は負の影響関係、空欄は影響関係なし

6.10. 家庭環境と想像力の影響関係への保育・教育施設環境による調整効果

本研究では、「家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への保育・教育施設の調整効果を検討する」ことを目的4として分析を行った。

その結果、家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）と施設環境（文字指導の程度、自由保育と一斉保育の割合）の交互作用を検討したところ、いずれにおいても有意な結果が得られなかった。自由保育の内容はほとんどが圧倒的に自由遊びの時間である（天野, 2000）^[64]ことから、自由遊びの中で幼児が自由な発想で遊ぶことは想像力を促進することも考えられるが、本研究ではそのような結果は得られなかった。本研究では、自由保育と一斉保育の割合だけでなく、文字指導の程度に重点をおいて施設環境を分け、分析を行った。そのため、想像力に関しては有意な保育・教育施設の調整効果が示されなかったと考えられる。したがって、今後は他の基準においてグループ分けを行い、保育・教育施設の調整効果について検討していくことが望まれる。

6.11. 今後の課題

今後の課題としては、次の2点が挙げられる。

第1に、読書のレディネスは7歳で高原状態に達する（福沢, 1981）^[11]とされているが、本研究では6歳児までの調査であった。また、想像力についても5歳前後頃から現実をある程度離れて思考することが始まってくる（堂野, 1994）^[16]とされているため、6歳以降においても継続して発達していくことが予測される。本研究においても、読字と絵と文字の結合の平均点は、3回目調査において満点の9割を超えていたことから、年長後半で読みのレディネスは高原状態に達していると言える。したがって、お話の構成や物語理解から構成される読書のレディネスと想像力について、小学生を対象として調査を行っていく必要があると考えられる。

第2に、1回目調査における保護者への質問紙調査の回収率が65.9%と低かったため、分析対象となりえなかったものが多くいた。また、2回目以降は新たな施設に依頼したり、質問紙の回収率を上げる工夫を行った結果、2回目調査および3回目調査の影響関係の分析対象は増やすことができたが、1回目調査の回収率が低かったために、1回目調査および2回目調査、1回目調査および3回目調査の分析対象は少ないままであった。したがって、今後はより多い分析対象で長期的に調査を行うことによって、本研究の結果の一般化を行うことが望まれる。

7. 結論

本研究では、読書を楽しむ能力に関連する概念である読書のレディネスと想像力の発達が著しいとされる5歳前後頃の幼児を対象として、以下の4点を目的とした。

第1の目的は、保護者の読書好意度・読書量が子どもに対する保護者の行動（蔵書量、図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ量）に及ぼす影響を検討することであった。第2の目的は、家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響を検討することであった。第3の目的は、家庭環境（絵本の読み聞かせ量）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への他の家庭環境（図書館などへ連れて行く頻度、読み聞かせ方など）による調整効果を検討することであった。第4の目的は、家庭環境（保護者の読書好意度・読書量、子どもに対する保護者の行動）が幼児の読書のレディネス・想像力に及ぼす影響への保育・教育施設の調整効果を検討することであった。

調査は、年中～年長児に対する読書のレディネスと想像力の面接調査、保護者に対する家庭環境についての質問紙調査を、約半年ずつの期間をあけた3時点のパネル調査として行った。また、保育園・幼稚園に対して施設環境についての質問紙調査も行った。その後、それぞれの影響関係を検討するために2時点のデータ（1時点目と2時点目、2時点目と3時点目、1時点目と3時点目）に対する重回帰分析を行ったところ、3つの分析に共通した結果は見られなかったが、主な結果として以下の5点が示唆された。

第1に、保護者の読書好意度・読書量が多いほど、自宅の蔵書量が多くなるという影響や、幼児を図書館などへ連れて行く頻度が高くなるという影響を及ぼしていることが示された。

第2に、読書のレディネスを高める要因となりうるものとしては、図書館・本屋・本のイベントなどへ連れて行くこと、自宅の蔵書量、親子で旅行や遊びに行くことなどがあることが示された。一方で、読書のレディネスを低める要因となりうるものとしては、字を教えながら読むなどの物語を中断する必要がある読み聞かせ方などがあることが示された。

第3に、想像力を高める要因となりうるものとしては、絵本の読み聞かせ頻度・冊数、本屋へ連れて行く頻度などがあることが示された。想像力を低める要因となりうるものとしては、一緒にゲームなどをすることが示された。

第4に、1年間の影響関係においては、図書館などへ連れて行く頻度が高い群のほうが、家庭での絵本の読み聞かせが想像力により影響を与えることなどが示された。

第5に、幼児期前半では文字指導が熱心で一斉保育が多い施設のほうが、家庭での絵本の読み聞かせが読書のレディネスにより影響を与えるが、幼児期後半では自由保育の多い施設のほうが、家庭での絵本の読み聞かせが読書のレディネスにより影響を与えることが示された。想像力については、保育・教育施設環境の調整効果はみられなかった。

今後は、より多くの幼児を対象とした調査による結果の一般化を行うことと、小学生を対象に調査を行うことで、家庭環境と読書のレディネス・想像力の影響関係を検討していくことが望まれる。

謝辞

本論文をまとめるにあたり、丁寧で暖かいご指導、ご鞭撻をいただきました筑波大学図書館情報メディア系准教授 鈴木佳苗先生に厚く御礼を申し上げます。鈴木佳苗先生には、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類に在学中より3年以上もの間、卒業論文、大学院入試、学会発表など、始終ご助言を賜りました。心より感謝申し上げます。

また、筑波大学図書館情報メディア系講師 大庭一郎先生には、研究に関することはもちろん、進路や就職などの様々な部分についても多くのご指導・ご助言を賜りました。厚く御礼を申し上げます。

保育所・保育園・幼稚園7園の先生方、園児、保護者の方々には、ご多忙の中、1年以上にわたる3回の面接調査・質問紙調査にご協力いただきました。心から感謝申し上げます。また、各施設の先生方には、その後の施設向け質問紙調査にもご協力いただきましたことを重ねて感謝申し上げます。

さらに、本調査が滞りなく実施できたのは、1回目から3回目までの面接調査において調査協力者としてご協力いただいたり、移動のために車を出していただいたりしました17名の方々のおかげです。朝早くから長時間の調査であったにも関わらず、ご協力いただけましたことを心から感謝申し上げます。また、想像力の評定協力として、6名の方々にご協力いただきました。手間のかかる作業であるにも関わらず、快く引き受けていただきましたことに心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、同じ研究室の坪井優美さん、野崎裕司さん、八巻龍さん、畔田暁子さんには、私生活から研究内容に関わることまで、多方面に渡ってご協力・ご助言をいただきました。また、同じ研究科や学類の先生や先輩、同期、後輩、大学時代の友人達、同好会の先輩、同期、後輩、そして家族など、たくさんの方々に支えられて本論文を書き上げることができました。私と関わっていただいたすべての皆さまに深く感謝を申し上げます。

参考文献

- [1] 文部科学省. “子どもの読書活動の推進に関する法律”. 文部科学省. http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm, (2014-01-15).
- [2] 文部科学省. “「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について”. 文部科学省. http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/003.pdf, (2014-01-15).
- [3] 岩崎れい. “2 章 児童サービスの意義と歴史”. 児童サービス論. 植松貞夫, 鈴木佳苗編. 樹村房, 2012, p.12-28.
- [4] 文部科学省. “第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画”. 文部科学省. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/05/_icsFiles/afieldfile/2013/05/17/1335078_01.pdf, (2013-07-23).
- [5] 朝比奈大作. “1 読書活動の意義と目的”. 読書と豊かな人間性. 朝比奈大作, 米谷茂則編. 3 訂版, 放送大学教育振興会, 2009, p.11-22.
- [6] 鈴木佳苗. “1 章 読書の意義”. 児童サービス論. 植松貞夫, 鈴木佳苗編. 樹村房, 2012, p.1-11.
- [7] メディケア生命保険株式会社. “子どもの絵本と教育に関する調査”. メディケア生命保険株式会社. <http://www.medicarelife.com/news/pdf/N256/file1.pdf>, (2014-01-06).
- [8] 阪本一郎. “Ⅲ 読者の研究”. 読書指導通論: 児童青少年の読書活動. 図書館教育研究会編. 学芸図書, 1978, p.45-66.
- [9] 朝比奈大作. “2 読書能力の発達”. 読書と豊かな人間性. 朝比奈大作, 米谷茂則編. 3 訂版, 放送大学教育振興会, 2009, p.23-34.
- [10] 赤星隆子. “第 1 章 児童図書館 第 3 節 図書館利用者としての子ども”. 児童図書館サービス論. 赤星隆子, 荒井督子編著. 新訂版, 理論社, 2009, p.30-40.
- [11] 福沢周亮. “5 子どもの発達と読書指導 読みのレディネス”. 新読書指導事典. 阪本一郎ほか編. 第一法規出版, 1981, p.117-119.
- [12] 阪本一郎. 私の読書学遍歴. 学芸図書, 1977, 350p.
- [13] 阪本一郎. 読書レディネス診断テストの手引き: 幼稚園・小学校 1 年生用: 標準読書テスト A 号. 牧書店, 1953, 65p.
- [14] 村野亜子, 鈴木佳苗. 読書レディネステストの開発. 日本読書学会第 56 回研究大会発表資料集. 2012, (56), p.90-97.
- [15] 内田伸子. 想像力: 創造の泉をさぐる. 講談社, 1994, 261p.
- [16] 堂野恵子. 個性化・社会化の視点からみた幼児後期の言語機能の発達: 語彙力、情報伝達力、言語的想像力の 3 側面からの検討. 安田女子大学紀要. 1994, (22), p.83-92.
- [17] 佐渡真紀子, 岩男寿美子. TV アニメーションが幼児の想像性に及ぼす影響: 悪影響の遁減に向けての実証的提案. 慶応義塾大学新聞研究所年報. 1991, (37), p.37-54.
- [18] 中澤潤, 中道圭人, 大澤紀代子, 針谷洋美. 絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響. 千葉大学教育学部研究紀要. 2005, 53, p.193-202.
- [19] 中澤潤, 杉本直子, 衣笠恵子, 入江綾子. 絵本の読み聞かせのグループサイズが幼児の物語理解・イメージ形成に及ぼす影響. 千葉大学教育学部研究紀要. 2005, 53, p.203-210.
- [20] 森田寛子. 絵本の接触が幼児の想像力に及ぼす影響. 平成 19 年度本学卒業論文. 2008, 54p.
- [21] 内田伸子. 発達心理学: ことばの獲得と教育. 岩波書店, 1999, 262p.
- [22] Hart, Sara A.; Petrill, Stephen A. “The Genetics and Environments of Reading: A Behavioral Genetic Perspective”. Handbook of Behavior genetics. Yong-Kyu Kim ed. Springer, 2009, p.113-123.
- [23] Sénéchal, M. “A Model of the Concurrent and Longitudinal Relations between Home Literacy and Child Outcomes”. Handbook of Early Literacy Research, volume 3. Neuman, Susan B.; Dickinson, David K. eds. The Guilford Press, 2011, p.175-188.
- [24] 秋田喜代美. 小中学生の読書行動に家庭環境が及ぼす影響. 発達心理学研究. 1992,

- 3(2), p.90-99.
- [25] 安藤寿康. 子どもの読書行動に家庭環境が及ぼす影響に関する行動遺伝学的検討. 発達心理学研究. 1996, 7(2), p.170-179.
- [26] Sénéchal, M.; LeFevre, J. Parental involvement in the development of children's reading skills: A 5-year longitudinal study. *Child Development*. 2002, 73(2), p.445-460.
- [27] Sénéchal, M. Testing the home literacy model: Parent involvement in kindergarten is differentially related to grade 4 reading comprehension, fluency, spelling, and reading for pleasure. *Journal for the Scientific Study*. 2006, 10(1), p.59-87.
- [28] 岡田明. "IV. 読書力の発達 2. 読書力の発達の条件". 現代の読書心理学. 阪本一郎編著. 金子書房, 1971, p.87-91.
- [29] 三神廣子. 幼稚園・保育所における「文字」援助への提言. 一宮女子短期大学研究報告. 1998, (37), p.217-226.
- [30] 佐藤良吉, 安岡龍太. 読書レディネスに関する研究: 報告(28)読書レディネスの発達. 田園調布学園大学紀要. 1997, (29), p.159-189.
- [31] 住田正樹, 山瀬範子, 片桐真弓. 保護者の保育ニーズに関する研究: 選択される幼児教育・保育. 放送大学研究年報. 2012, (30), p.25-30.
- [32] 秋田喜代美, 佐川早季子. 保育の質に関する縦断研究の展望. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 2011, 51, p.217-234.
- [33] 足立にれか, 坂元章ほか. メディア使用が情報活用能力に及ぼす影響: 中学生と高校生に対するパネル調査. 日本教育工学会. 1999, (23), p.99-104.
- [34] 秋田喜代美, 無藤隆. 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討. 教育心理学研究. 1996, 44(1), p.109-120.
- [35] 藤野淳子, 北浦かほる. 親子のコミュニケーションからみた家族室の役割に関する研究: 小学生と高校生における子どもの成長による分析. 日本建築学会計画系論文集. 2006, (602), p.1-6.
- [36] 金沢みどり. 児童サービス論. 学文社, 2006, 165p., (図書館情報学シリーズ, 7).
- [37] 張替恵子. "第2章児童図書館の資料 第4節各種資料の特色と評価". 児童図書館サービス論. 赤星隆子, 荒井督子編著. 新訂版, 理論社, 2009, p.91-156.
- [38] ベネッセ教育総合研究所. 第3回子育て生活基本調査. 幼児版, ベネッセコーポレーション, 2008, 192p.
- [39] ベネッセ教育総合研究所. 第4回幼児の生活アンケート. ベネッセコーポレーション, 2011, 168p.
- [40] つくば市. "子どもを預ける". つくば市子育て支援情報システム. <http://www.tsukuba-kosodate.jp/nursery/>, (2011-06-17).
- [41] 国立国語研究所. 幼児の読み書き能力. 東京書籍, 1972, 527p.
- [42] 大西誠一郎, 塚原美代子. 読書レディネスに関する研究(1): テスト作成の試み. 愛知学院大学文学部紀要. 1971, no.1, p.97-107.
- [43] 児玉省, 品川不二郎, 茂木茂八. WISC-R 知能検査法: 日本標準版. 1982年修正版. 日本文化科学社, 1982, 221p.
- [44] Nurss, Joanne R.; McGauvran, Mary E. Metropolitan Readiness Tests, Sixth Edition (MRT6): Directions for Administering. Pearson, 1995, 48p.
- [45] シャーロット・ヴォーク, 小島希里. ねこのジンジャー. 偕成社. 1997, 33p.
- [46] ノラック, カール, デュポワ, クロード K. だきしめてほしくて. 河野万里子訳. ほるぷ出版. 2000, 28p.
- [47] グスティ. ハエくん. 木坂涼訳. フレーベル館. 2007, 33p.
- [48] 山本和美. 幼稚園教育内容・方法等に関する調査研究(I). 平安女学院短期大学紀要. 15, 1984, p.57-73.
- [49] 浜野隆, 内田伸子, 李基淑, 周念麗, Dinh, Hong Thai.; Batdelger, Jamsrandorj. 幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的要因の影響: 保護者調査・保育者調査: 日韓中越

- 蒙5カ国比較. リサーチ調査プロジェクト班, 2012, 92p., (お茶大・ベネッセ共同研究報告書, 3).
- [50] ベネッセ教育総合研究所. 第1回幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書. ベネッセコーポレーション, 2013, 112p.
- [51] 小倉康. 科学への学習意欲に関する実態調査. 国立教育政策研究所, 2005, 223p.
- [52] 秋田喜代美. “第9章 読書行動の発達”. 言語発達心理学: 読む書く話すの発達. 内田伸子編著. 放送大学教育振興会, 1998, p.123-134.
- [53] 齋藤有, 内田伸子. 幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響: 「共有型」と「強制型」の横断的比較. 発達心理学研究. 2013, 24(2), p.150-159.
- [54] 若井邦夫. “Ⅲ二ー四歳児の発達の特徴 3 認知機能と言語の発達”. 幼年期: 発達段階と教育 1. 大田堯ほか編. 岩波書店, 1979, p.125-143.
- [55] 池山和子, 田之浦京子. 幼児期のお手伝い: 家事行動への興味と親の対応についての調査から. 鹿児島大学教育学部研究紀要: 人文・社会科学編. 1994, (45), p.45-54.
- [56] 岩崎洋子, 朴淳香. 幼児期の運動と園での生活・遊び技能の関連 2: 性差と年齢差の視点から. 日本女子大学紀要: 家政学部. 2010, (57), p.11-15.
- [57] 島村直己, 三神廣子. 幼児のひらがなの習得: 国立国語研究所の1967年の調査との比較を通して. 教育心理学研究. 1994, 42(1), p.70-76.
- [58] 秋田喜代美. “第6章 文章の理解過程”. 言語発達心理学: 読む書く話すの発達. 内田伸子編著. 放送大学教育振興会, 1998, p.85-95.
- [59] 河西由美子, 高桑弥須子. “5章 児童資料の種類と特性”. 児童サービス論. 植松貞夫, 鈴木佳苗編著. 樹村房, 2012, p.70-92.
- [60] 三神廣子. 本が好きな子に育つために: 文字の習得と読書への準備. 2003, 191p.
- [61] 鈴木佳苗. “6章 乳幼児サービス”. 児童サービス論. 植松貞夫, 鈴木佳苗編著. 樹村房, 2012, p.93-110.
- [62] ヴィゴツキー. 子どもの想像力と創造. 福井研介訳. 新読書社, 1972, 184p.
- [63] 高木和子, 小林幸子, 田代康子, 沢田瑞也. 絵本の読みきかせに関する研究(1): くり返し読みきかせによる分析. 読書科学. 1975, 18(4), p.105-113.
- [64] 天野珠子. 保育形態と幼稚園の生活. 駒沢女子短期大学研究紀要. 2000, (33), p.1-8.

付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）

A. はじめに

4～5歳のお子様についてお尋ねします。

(A-1) お子様の性別について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 男 2. 女

(A-2) 現在のお子様の月齢について（数字をカッコ内にご記入ください）

（ ）歳 （ ）ヵ月

(A-3) きょうだいの中のお子様の位置について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 長子 2. 中間子 3. 末子 4. 一人っ子

(A-4) 現在、お子様と同居されている人について（あてはまる数字すべてに○をつけてください）

1. 母 2. 父 3. 兄 4. 姉 5. 弟 6. 妹
7. 祖父 8. 祖母 9. 親戚 10. その他（ ）

B. 家庭の読書環境について

(B-1) 現在の自宅の蔵書量についてお尋ねします。

[B-1a] 自宅に子どもを対象とした本（雑誌を除く）が何冊ありますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～10冊 3. 11～20冊 4. 21～30冊
5. 31～50冊 6. 51～99冊 7. 100冊以上

[B-1b] 自宅に大人を対象とした本（雑誌を除く）が何冊ありますか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～10冊 3. 11～20冊 4. 21～30冊
5. 31～50冊 6. 51～99冊 7. 100冊以上

(B-2) ご記入者の読書についてお尋ねします。

[B-2a] ご記入者は読書に対してどのように感じていますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 好きではない 2. あまり好きではない 3. どちらでもない
4. やや好き 5. 好き

[B-2b] 最近1ヵ月でご記入者はどのくらい読書をしていますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とてもよく読む

付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）

(B-3) お子様を図書館・本屋へ連れて行く頻度についてお尋ねします。

[B-3a] 最近1カ月でお子様を図書館・図書室へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく行かない 2. たまに行く 3. よく行く 4. とてもよく行く

[B-3b] 最近1カ月でお子様を本屋へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく行かない 2. たまに行く 3. よく行く 4. とてもよく行く

[B-3c] 最近1カ月でお子様を本に関するイベント（おはなし会など）へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく行かない 2. たまに行く 3. よく行く 4. とてもよく行く

C. 読み聞かせについて

(C-1) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による4~5歳のお子様への読み聞かせ量についてお尋ねします。

[C-1a] 最近1ヶ月において、どのくらいの頻度でお子様に絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.7の「F. 家族との関わりについて」へ進んでください。

[C-1b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1~2冊 3. 3~4冊 4. 5~6冊
5. 7~8冊 6. 9~10冊 7. 11冊以上

(C-2) 最近1ヶ月において、誰が読み聞かせを行う場合が多かったですか。最も多い人に○、次に多い人に×、次に多い人に△をつけてください。

1. 母 2. 父 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい
6. 親戚 7. その他（ ）

付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）

D. 種類別の読み聞かせ状況について

(D-1) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による4～5歳のお子様への創作絵本^(注1)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注1: 子どもを対象として、文を作家が、絵を画家が、あるいは双方含めて、絵本の作者が創作描画したもの。

[D-1a] 最近1ヶ月において、どのくらい創作絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.3(D-2)へ進んで下さい。

[D-1b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に創作絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～2冊 3. 3～4冊 4. 5～6冊
5. 7～8冊 6. 9～10冊 7. 11冊以上

[D-1c] 最近1ヶ月において、よく読んだ創作絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

(D-2) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による4～5歳のお子様への昔話絵本の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[D-2a] 最近1ヶ月において、どのくらい昔話絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.4(D-3)へ進んで下さい。

[D-2b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に昔話絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～2冊 3. 3～4冊 4. 5～6冊
5. 7～8冊 6. 9～10冊 7. 11冊以上

[D-2c] 最近1ヶ月において、よく読んだ昔話絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）

(D-3) 最近1ヶ月においての、ご家庭でのご記入者による4～5歳のお子様へのことばの絵本^(注2)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注2: ことばや文字を子どもにわかりやすく教えるために、至る所に「ことば」に対応する「絵」が描かれているもの。

[D-3a] 最近1ヶ月において、どのくらいことばの絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.4(D-4)へ進んで下さい。

[D-3b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にことばの絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～2冊 3. 3～4冊 4. 5～6冊
5. 7～8冊 6. 9～10冊 7. 11冊以上

[D-3c] 最近1ヶ月において、よく読んだことばの絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

(D-4) 最近1ヶ月においての、ご家庭でのご記入者による4～5歳のお子様への知識・科学絵本^(注3)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注3: 文と絵、図、写真が一体となって、科学的な知識を体系的に理解しやすく伝えようとする絵本。

[D-4a] 最近1ヶ月において、どのくらい知識・科学絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.5(D-5)へ進んで下さい。

[D-4b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に知識・科学絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～2冊 3. 3～4冊 4. 5～6冊
5. 7～8冊 6. 9～10冊 7. 11冊以上

[D-4c] 最近1ヶ月において、よく読んだ知識・科学絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）

(D-5) 最近1ヶ月においての、ご家庭でのご記入者による4～5歳のお子様へのわらべうた・詩の絵本の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[D-5a] 最近1ヶ月において、どのくらいわらべうた・詩の絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.5(D-6)へ進んで下さい。

[D-5b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にわらべうた・詩の絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～2冊 3. 3～4冊 4. 5～6冊
5. 7～8冊 6. 9～10冊 7. 11冊以上

[D-5c] 最近1ヶ月において、よく読んだわらべうた・詩の絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

(D-6) 最近1ヶ月においての、ご家庭でのご記入者による4～5歳のお子様へのその他の絵本（しかけ絵本^(注4)、文字なし絵本^(注5)、写真絵本^(注6)、ハイパー絵本^(注7)など）の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注4：本という形態は維持しながらも、様々な趣向を凝らした仕掛けのある絵本。

注5：文字が書かれておらず、絵だけでストーリーやテーマが展開していく絵本。

注6：絵やイラストを使わずに、写真と文で構成された絵本。

注7：CD-ROM 絵本やインターネット公開絵本など、文字、音声、画像などを総合的に提示する手段で表現した絵本。

[D-6a] 最近1ヶ月において、どのくらいその他の絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.6の「E. 読み聞かせ方について」へ進んで下さい。

[D-6b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にその他の絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～2冊 3. 3～4冊 4. 5～6冊
5. 7～8冊 6. 9～10冊 7. 11冊以上

付録1 保護者向け質問紙（1回目調査）

[D-6c] 最近1ヶ月において、よく読んだその他の絵本を1冊ご記入ください。

題名（	）
著者（	）
出版社（	）

E. 絵本の読み聞かせ方について

最近1カ月における、絵本の読み聞かせ方についてお尋ねします。質問ごとに、ご自身の読み聞かせ方に最も近いと思われる数字に1つ○をつけて下さい。

質問番号	読み聞かせ方	まったくそうではない	そうではない	どちらともいえない	そうだ	とてもそうだ
E-1	子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-2	書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-3	本に出てくる物の名前を教えながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-4	あまり話しかけたりせず、書かれている文章をそのまま読むようにした。	1	2	3	4	5
E-5	子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-6	字を教えながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-7	子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた。	1	2	3	4	5
E-8	読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように、説明を加えながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-9	子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時にはほめるようにした。	1	2	3	4	5

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

A. はじめに

5～6歳のお子様についてお尋ねします。

(A-1) お子様の性別について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 男 2. 女

(A-2) 現在のお子様の月齢について（数字をカッコ内にご記入ください）

- （ ）歳 （ ）ヵ月

(A-3) お子様のきょうだいの有無について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 一人っ子 2. 兄弟姉妹がいる

(A-3) きょうだいの中のお子様の位置について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 長子 2. 中間子 3. 末子

(A-4) 現在、お子様と同居されている人について（あてはまる数字すべてに○をつけてください）

1. 母 2. 父 3. 兄 4. 姉 5. 弟 6. 妹
7. 祖父 8. 祖母 9. 親戚 10. その他（ ）

B. 家庭の読書環境について

(B-1) 現在の自宅の蔵書量についてお尋ねします。

[B-1a] 自宅に子どもを対象とした本（雑誌を除く）が何冊ありますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～10冊 3. 11～20冊 4. 21～30冊
5. 31～50冊 6. 51～99冊 7. 100冊以上

[B-1b] 自宅に大人を対象とした本（雑誌を除く）が何冊ありますか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～10冊 3. 11～20冊 4. 21～30冊
5. 31～50冊 6. 51～99冊 7. 100冊以上

(B-2) ご記入者の読書についてお尋ねします。

[B-2a] ご記入者は読書に対してどのように感じていますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 好きではない 2. あまり好きではない 3. どちらでもない
4. やや好き 5. 好き

[B-2b] 最近1ヵ月でご記入者はどのくらい読書をしていますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とてもよく読む

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

(B-3) お子様を図書館・本屋へ連れて行く頻度についてお尋ねします。

[B-3a] 最近1カ月でお子様を図書館・図書室へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく行かない 2. たまに行く 3. よく行く 4. とてもよく行く

[B-3b] 最近1カ月でお子様を本屋へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく行かない 2. たまに行く 3. よく行く 4. とてもよく行く

[B-3c] 最近1カ月でお子様を本に関するイベント（おはなし会など）へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく行かない 2. たまに行く 3. よく行く 4. とてもよく行く

C. 読み聞かせについて

(C-1) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への読み聞かせ量についてお尋ねします。

[C-1a] 最近1ヶ月において、どのくらいの頻度でお子様に絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.7の「F. 家族との関わりについて」へ進んでください。

[C-1b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

(C-2) 最近1ヶ月において、誰が読み聞かせを行う場合が多かったですか。最も多い人に○、次に多い人に×、次に多い人に△をつけてください。

1. 母 2. 父 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい
6. 親戚 7. その他（ ）

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

D. 種類別の読み聞かせ状況について

(D-1) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への創作絵本^(注)
1) の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[注1]: 子どもを対象として、文を作家が、絵を画家が、あるいは双方含めて、絵本の作者が創作描画したもの。

[D-1a] 最近1ヶ月において、どのくらい創作絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ
○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.3(D-2)へ進んで下さい。

[D-1b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に創作絵本を読みましたか。
あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-1c] 最近1ヶ月において、よく読んだ創作絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

(D-2) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への昔話絵本の
読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[D-2a] 最近1ヶ月において、どのくらい昔話絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ
○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.4(D-3)へ進んで下さい。

[D-2b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に昔話絵本を読みましたか。
あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-2c] 最近1ヶ月において、よく読んだ昔話絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

[D-3] 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様へのことばの絵本^(注2)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注2: ことばや文字を子どもにわかりやすく教えるために、至る所に「ことば」に対応する「絵」が描かれているもの。

[D-3a] 最近1ヶ月において、どのくらいことばの絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.4(D-4)へ進んで下さい。

[D-3b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にことばの絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-3c] 最近1ヶ月において、よく読んだことばの絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

[D-4] 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への知識・科学絵本^(注3)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注3: 文と絵、図、写真が一体となって、科学的な知識を体系的に理解しやすく伝えようとする絵本。

[D-4a] 最近1ヶ月において、どのくらい知識・科学絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.5(D-5)へ進んで下さい。

[D-4b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に知識・科学絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-4c] 最近1ヶ月において、よく読んだ知識・科学絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

(D-5) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様へのわらべうた・詩の絵本の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[D-5a] 最近1ヶ月において、どのくらいわらべうた・詩の絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む
- ※1を選択した場合は、p.5(D-6)へ進んで下さい。

[D-5b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にわらべうた・詩の絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| 1. 0冊 | 2. 1冊 | 3. 2冊 | 4. 3～4冊 |
| 5. 5～6冊 | 6. 7～8冊 | 7. 9～10冊 | 8. 11冊以上 |

[D-5c] 最近1ヶ月において、よく読んだわらべうた・詩の絵本を1冊ご記入ください。

題名（	）
著者（	）
出版社（	）

(D-6) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様へのその他の絵本（しかけ絵本^(注4)、文字なし絵本^(注5)、写真絵本^(注6)、ハイパー絵本^(注7)など）の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注4：本という形態は維持しながらも、様々な趣向を凝らした仕掛けのある絵本。

注5：文字が書かれておらず、絵だけでストーリーやテーマが展開していく絵本。

注6：絵やイラストを使わずに、写真と文で構成された絵本。

注7：CD-ROM 絵本やインターネット公開絵本など、文字、音声、画像などを総合的に提示する手段で表現した絵本。

[D-6a] 最近1ヶ月において、どのくらいその他の絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む
- ※1を選択した場合は、p.6の「E. 読み聞かせ方について」へ進んで下さい。

[D-6b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にその他の絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| 1. 0冊 | 2. 1冊 | 3. 2冊 | 4. 3～4冊 |
| 5. 5～6冊 | 6. 7～8冊 | 7. 9～10冊 | 8. 11冊以上 |

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

[D-6c] 最近1ヶ月において、よく読んだその他の絵本を1冊ご記入ください。

題名（	）
著者（	）
出版社（	）

E. 絵本の読み聞かせ方について

最近1カ月に於ける、絵本の読み聞かせ方についてお尋ねします。質問ごとに、ご自身の読み聞かせ方に最も近いと思われる数字に1つ○をつけて下さい。

質問番号	読み聞かせ方	まったくそうではない	そうではない	どちらともいえない	そうだ	とてもそうだ
E-1	子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-2	書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-3	本に出てくる物の名前を教えながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-4	あまり話しかけたりせず、書かれている文章をそのまま読むようにした。	1	2	3	4	5
E-5	子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-6	字を教えながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-7	子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた。	1	2	3	4	5
E-8	読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように、説明を加えながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-9	子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時にはほめるようにした。	1	2	3	4	5

付録2 保護者向け質問紙（2回目調査）

F. 家族との関わりについて

最近1カ月における、お子様と家族との関わりの頻度についてお尋ねします。質問ごとに、ご家族の関わりの頻度に最も近いと思われる数字に1つ〇をつけて下さい。

質問番号	お子様と家族との関わり	まったくしなかった	たまにした	よくした	とてもよくした
F-1	家族と一緒に旅行や遊びに行きましたか。	1	2	3	4
F-2	家族と一緒に夕飯を食べましたか。	1	2	3	4
F-3	お子様と一緒に映画を見に行きましたか。	1	2	3	4
F-4	お子様とよく話をしましたか。	1	2	3	4
F-5	お子様と一緒に買物に行きましたか。	1	2	3	4
F-6	お子様と一緒にスポーツ観戦に行きましたか。	1	2	3	4
F-7	お子様と一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりしましたか。	1	2	3	4
F-8	お子様と一緒にスポーツをしたりしましたか。	1	2	3	4
F-9	お子様と一緒に料理をしたりしましたか。	1	2	3	4

G. 最後に

最後に、記入者ご自身のことについてお尋ねします。

(G-1) 性別について（当てはまる数字1つに〇をつけてください）

1. 男	2. 女
------	------

(G-2) 年齢について（当てはまる数字1つに〇をつけてください）

1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60歳代以上
---------	---------	---------	---------	---------	-----------

(G-3) お子様とのご関係について（当てはまる数字1つに〇をつけてください）

1. 母親	2. 父親	3. 祖母	4. 祖父	5. その他（	）
-------	-------	-------	-------	---------	---

(G-4) 前回（11月）調査と同じ記入者の方ですか。（当てはまる数字1つに〇をつけてください）

1. 同じ記入者	2. 違う記入者	3. 前回のアンケートに回答していない
----------	----------	---------------------

以上で質問は終わりです。
もう一度、記入漏れがないかご確認ください。
調査にご協力いただき、どうもありがとうございました。

付録3 保護者向け質問紙（3回目調査）

A. はじめに

5～6歳のお子様についてお尋ねします。

(A-1) お子様の性別について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 男 2. 女

(A-2) 現在のお子様の月齢について（数字をカッコ内にご記入ください）

（ ）歳 （ ）ヵ月

(A-3) お子様のきょうだいの有無について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 一人っ子 2. 兄弟姉妹がいる

(A-3) きょうだいの中のお子様の位置について（あてはまる数字1つに○をつけてください）

1. 長子 2. 中間子 3. 末子

(A-4) 現在、お子様と同居されている人について（あてはまる数字すべてに○をつけてください）

1. 母 2. 父 3. 兄 4. 姉 5. 弟 6. 妹
7. 祖父 8. 祖母 9. 親戚 10. その他（ ）

(A-5) お子様の習い事や家庭学習についてお尋ねします。以下の習い事や家庭学習を始めた時期について、「やったことあるか」のあてはまる数字1つに○をつけてください。「1. ある」に○をした方は、「始めた時期」のあてはまる数字1つに○をつけて、具体的な日にちを記入してください。

習い事・家庭学習	やったこと があるか	始めた時期	始めた日にち (具体的に)
習字	1. ある → 2. ない	1. 2011年11月○日より前に始めた 2. 2011年11月○日～2012年6月○日の間に始めた 3. 2012年6月○日～2012年12月○日の間に始めた	（ ）年 （ ）月（ ）日
小学校受験目的の 学習塾	1. ある → 2. ない	1. 2011年11月○日より前に始めた 2. 2011年11月○日～2012年6月○日の間に始めた 3. 2012年6月○日～2012年12月○日の間に始めた	（ ）年 （ ）月（ ）日
受験目的ではない 学習塾	1. ある → 2. ない	1. 2011年11月○日より前に始めた 2. 2011年11月○日～2012年6月○日の間に始めた 3. 2012年6月○日～2012年12月○日の間に始めた	（ ）年 （ ）月（ ）日
定期的に教材が送ら れてくる通信教育	1. ある → 2. ない	1. 2011年11月○日より前に始めた 2. 2011年11月○日～2012年6月○日の間に始めた 3. 2012年6月○日～2012年12月○日の間に始めた	（ ）年 （ ）月（ ）日
市販されている教材 具体的に ()	1. ある → 2. ない	1. 2011年11月○日より前に始めた 2. 2011年11月○日～2012年6月○日の間に始めた 3. 2012年6月○日～2012年12月○日の間に始めた	（ ）年 （ ）月（ ）日

日にちがわからなければ
月までで問題ありません

B. 家庭の読書環境について

(B-1) 現在の自宅の蔵書量についてお尋ねします。

[B-1a] 自宅に子どもを対象とした本（雑誌を除く）が何冊ありますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1～10冊 3. 11～20冊 4. 21～30冊
5. 31～50冊 6. 51～99冊 7. 100冊以上

次のページに続きます

付録3 保護者向け質問紙（3回目調査）

[B-1b] 自宅に大人を対象とした本（雑誌を除く）が何冊ありますか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 0冊 | 2. 1~10冊 | 3. 11~20冊 | 4. 21~30冊 |
| 5. 31~50冊 | 6. 51~99冊 | 7. 100冊以上 | |

(B-2) ご記入者の読書についてお尋ねします。

[B-2a] ご記入者は読書に対してどのように感じていますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1. 好きではない | 2. あまり好きではない | 3. どちらでもない |
| 4. やや好き | 5. 好き | |

[B-2b] 最近1カ月でご記入者はどのくらい読書をしていますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|----------|---------|------------|
| 1. まったく読まない | 2. たまに読む | 3. よく読む | 4. とてもよく読む |
|-------------|----------|---------|------------|

(B-3) お子様を図書館・本屋へ連れて行く頻度についてお尋ねします。

[B-3a] 最近1カ月でお子様を図書館・図書室へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|----------|---------|------------|
| 1. まったく行かない | 2. たまに行く | 3. よく行く | 4. とてもよく行く |
|-------------|----------|---------|------------|

[B-3b] 最近1カ月でお子様を本屋へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|----------|---------|------------|
| 1. まったく行かない | 2. たまに行く | 3. よく行く | 4. とてもよく行く |
|-------------|----------|---------|------------|

[B-3c] 最近1カ月でお子様を本に関するイベント（おはなし会など）へ連れて行くことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|----------|---------|------------|
| 1. まったく行かない | 2. たまに行く | 3. よく行く | 4. とてもよく行く |
|-------------|----------|---------|------------|

C. 読み聞かせについて

(C-1) 最近1カ月において、ご家庭でのご記入者による5~6歳のお子様への読み聞かせ量についてお尋ねします。

[C-1a] 最近1カ月において、どのくらいの頻度でお子様に絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|----------|---------|------------|
| 1. まったく読まない | 2. たまに読む | 3. よく読む | 4. とてもよく読む |
|-------------|----------|---------|------------|

※1を選択した場合は、p.7の「F. 家族との関わりについて」へ進んでください。

[C-1b] 最近1カ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| 1. 0冊 | 2. 1冊 | 3. 2冊 | 4. 3~4冊 |
| 5. 5~6冊 | 6. 7~8冊 | 7. 9~10冊 | 8. 11冊以上 |

(C-2) 最近1カ月において、誰が読み聞かせを行う場合が多かったですか。最も多い人に○、次に多い人に×、次に多い人に△をつけてください。

- | | | | | |
|-------|---------|-------|-------|----------|
| 1. 母 | 2. 父 | 3. 祖母 | 4. 祖父 | 5. きょうだい |
| 6. 親戚 | 7. その他（ | | | ） |

裏面に続きます

付録3 保護者向け質問紙（3回目調査）

D. 種類別の読み聞かせ状況について

(D-1) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への創作絵本^(注1)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注1: 子どもを対象として、文を作家が、絵を画家が、あるいは双方含めて、絵本の作者が創作描画したもの。

[D-1a] 最近1ヶ月において、どのくらい創作絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.3(D-2)へ進んで下さい。

[D-1b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に創作絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-1c] 最近1ヶ月において、よく読んだ創作絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

(D-2) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への昔話絵本の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[D-2a] 最近1ヶ月において、どのくらい昔話絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.4(D-3)へ進んで下さい。

[D-2b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に昔話絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-2c] 最近1ヶ月において、よく読んだ昔話絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

次のページに続きます

付録3 保護者向け質問紙（3回目調査）

(D-3) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様へのことばの絵本^(注2)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注2: ことばや文字を子どもにわかりやすく教えるために、至る所に「ことば」に対応する「絵」が描かれているもの。

[D-3a] 最近1ヶ月において、どのくらいことばの絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.4(D-4)へ進んで下さい。

[D-3b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にことばの絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-3c] 最近1ヶ月において、よく読んだことばの絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

(D-4) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様への知識・科学絵本^(注3)の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注3: 文と絵、図、写真が一体となって、科学的な知識を体系的に理解しやすく伝えようとする絵本。

[D-4a] 最近1ヶ月において、どのくらい知識・科学絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.5(D-5)へ進んで下さい。

[D-4b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様に知識・科学絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-4c] 最近1ヶ月において、よく読んだ知識・科学絵本を1冊ご記入ください。

題名 ()
著者 ()
出版社 ()

裏面に続きます

付録3 保護者向け質問紙（3回目調査）

(D-5) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様へのわらべうた・詩の絵本の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

[D-5a] 最近1ヶ月において、どのくらいわらべうた・詩の絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.5(D-6)へ進んで下さい。

[D-5b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にわらべうた・詩の絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-5c] 最近1ヶ月において、よく読んだわらべうた・詩の絵本を1冊ご記入ください。

題名（	）
著者（	）
出版社（	）

(D-6) 最近1ヶ月において、ご家庭でのご記入者による5～6歳のお子様へのその他の絵本（しかけ絵本^{注4}、文字なし絵本^{注5}、写真絵本^{注6}、ハイパー絵本^{注7}など）の読み聞かせ状況についてお尋ねします。

注4：本という形態は維持しながらも、様々な趣向を凝らした仕掛けのある絵本。

注5：文字が書かれておらず、絵だけでストーリーやテーマが展開していく絵本。

注6：絵やイラストを使わずに、写真と文で構成された絵本。

注7：CD-ROM 絵本やインターネット公開絵本など、文字、音声、画像などを総合的に提示する手段で表現した絵本。

[D-6a] 最近1ヶ月において、どのくらいその他の絵本を読みましたか。あてはまる数字に1つ○をつけてください。

1. まったく読まない 2. たまに読む 3. よく読む 4. とても良く読む

※1を選択した場合は、p.6の「E. 読み聞かせ方について」へ進んで下さい。

[D-6b] 最近1ヶ月において、1週間に平均何冊くらいお子様にその他の絵本を読みましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3～4冊
5. 5～6冊 6. 7～8冊 7. 9～10冊 8. 11冊以上

[D-6c] 最近1ヶ月において、よく読んだその他の絵本を1冊ご記入ください。

題名（	）
著者（	）
出版社（	）

次のページに続きます

E. 絵本の読み聞かせ方について

最近1カ月における、絵本の読み聞かせ方についてお尋ねします。質問ごとに、ご自身の読み聞かせ方に最も近いと思われる数字に1つ○をつけて下さい。

質問番号	読み聞かせ方	まったくそうではない	そうではない	どちらともいえない	そうだ	とてもそうだ
E-1	子どもと絵本を通して会話をしながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-2	書かれている内容がわかるように絵などに説明を加えながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-3	本に出てくる物の名前を教えながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-4	あまり話しかけたりせず、書かれている文章をそのまま読むようにした。	1	2	3	4	5
E-5	子どもが読めるところは、子どもに読ませながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-6	字を教えながら読んだ。	1	2	3	4	5
E-7	子どもが自分で読んだ時には読み方を教えてあげた。	1	2	3	4	5
E-8	読んでいる間や読んだ後に書かれている内容がわかるように、説明を加えながら読むようにした。	1	2	3	4	5
E-9	子どもが一人で本を見たり、自分で読んだりした時にはほめるようにした。	1	2	3	4	5

裏面に続きます

1

あ た こ 式 か

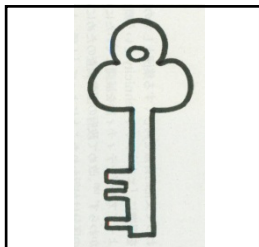
2

ち ら る へ く

3

へ ぺ ぽ も き

4



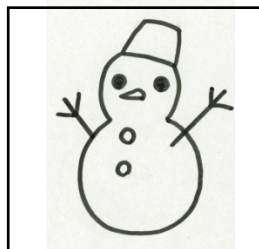
たぎ	かぎ
かき	やぎ

5



ぴあめ	ひおま
びめの	ぴあの

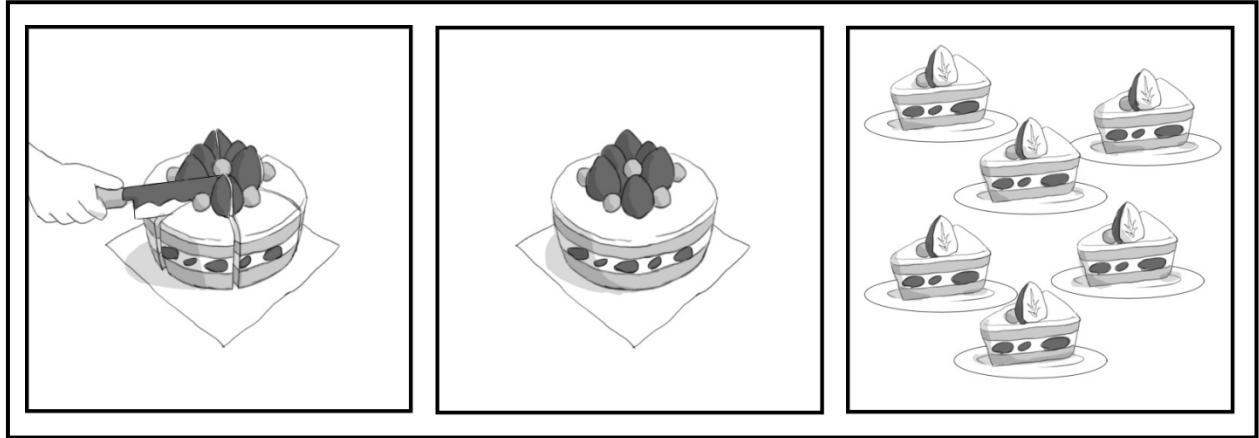
6



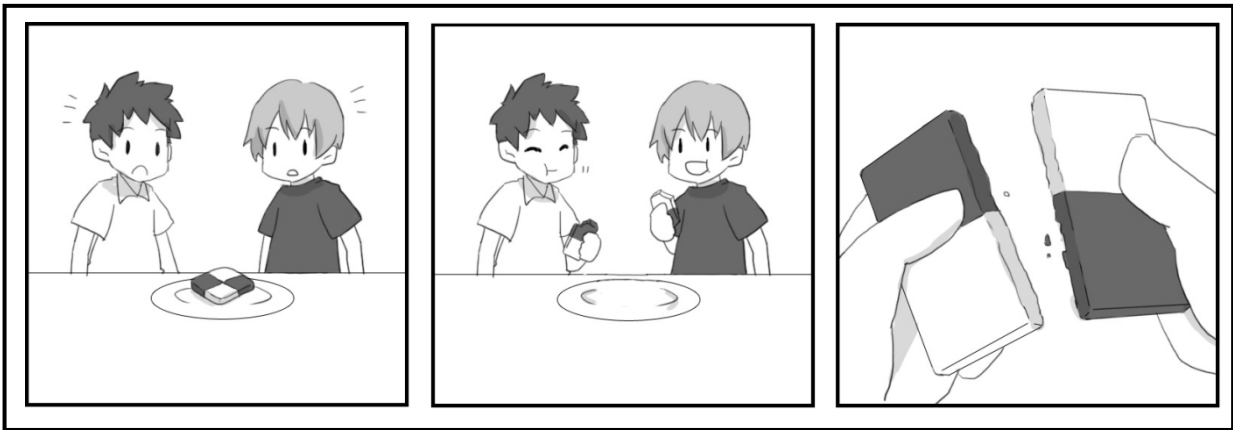
ゆきたろよ	みきばるよ
みきだらま	ゆきだるま

付録4 読書のレディネス調査用紙（1回目調査）

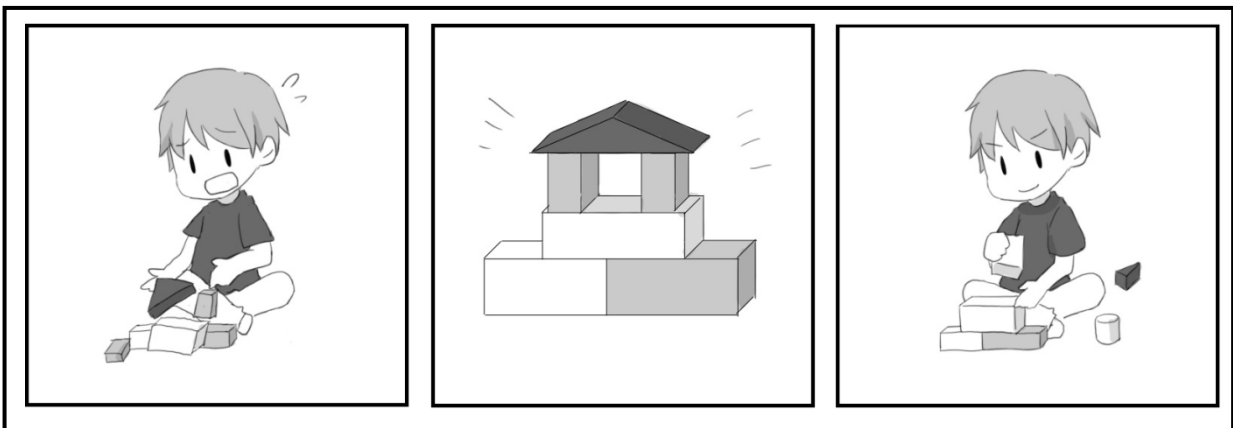
7



8



9



1

に や い こ み

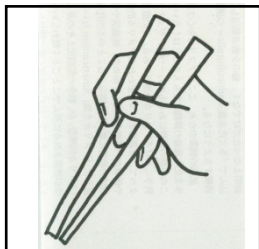
2

ぱ ぴ よ ま ぼ

3

う つ ろ へ ら

4



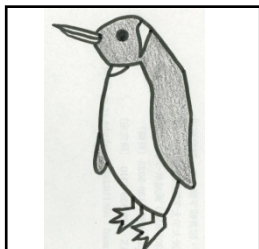
ほし	はつ
はし	まり

5



だろま	たるや
ばらよ	だるま

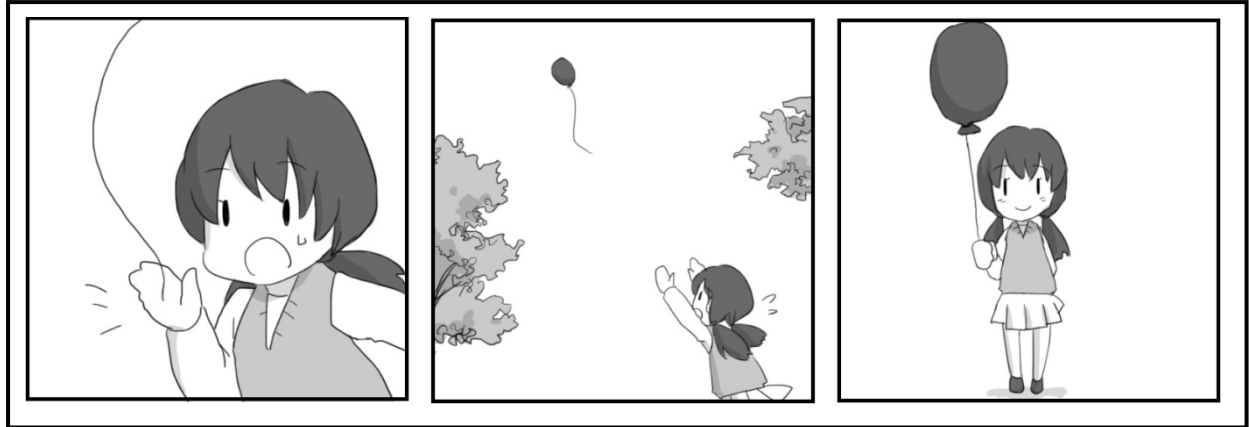
6



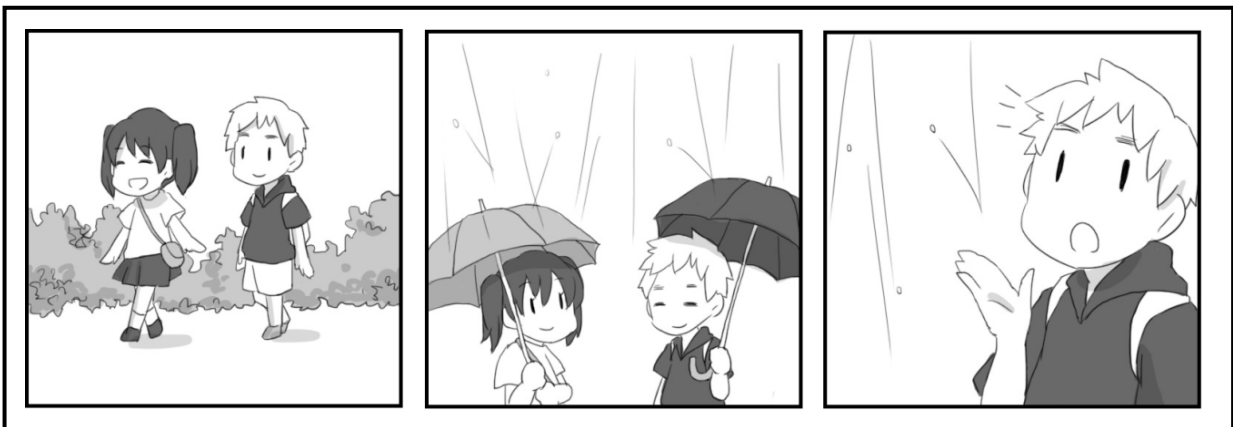
ぺんぎん	ぺんぎえ
べえきえ	ぺんぎん

付録5 読書のレディネス調査用紙（2回目調査）

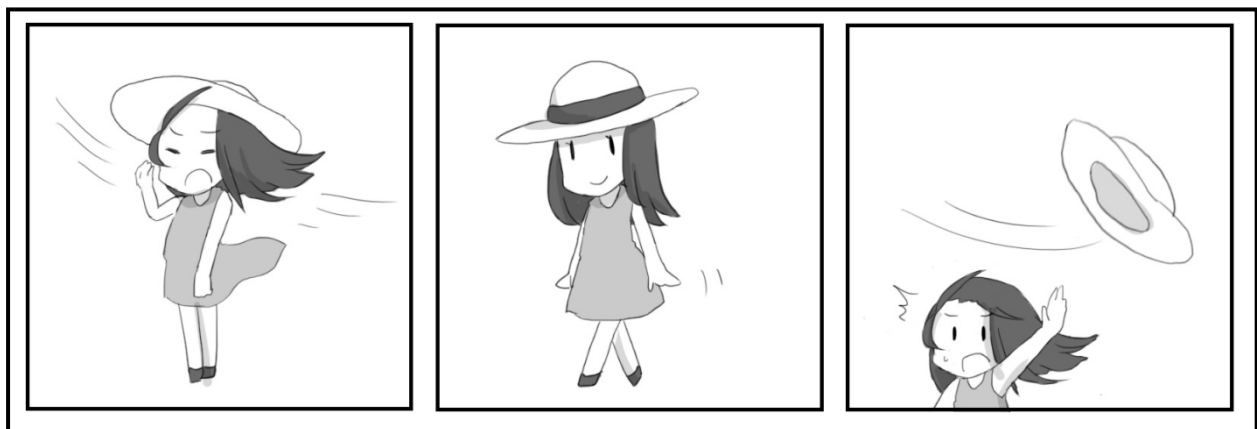
7



8



9



1

め お ぬ の あ

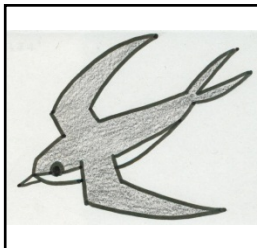
2

な お し い ひ

3

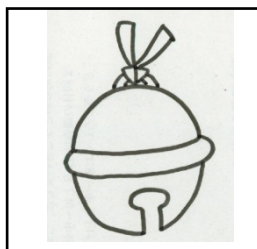
ざ さ ぎ い り

4



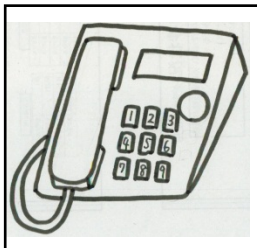
つはぬ	つばめ
うばめ	うぼぬ

5



つず	すす
すず	つつ

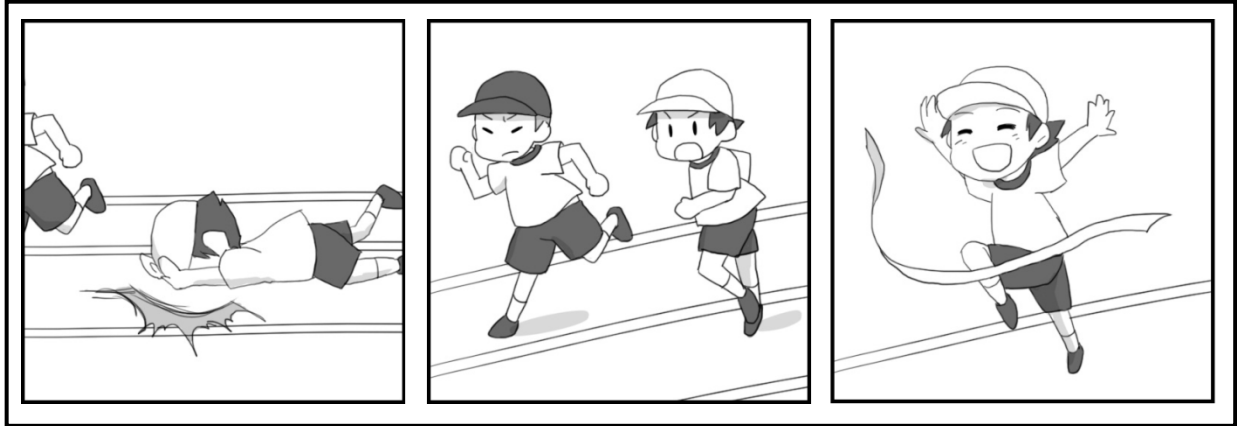
6



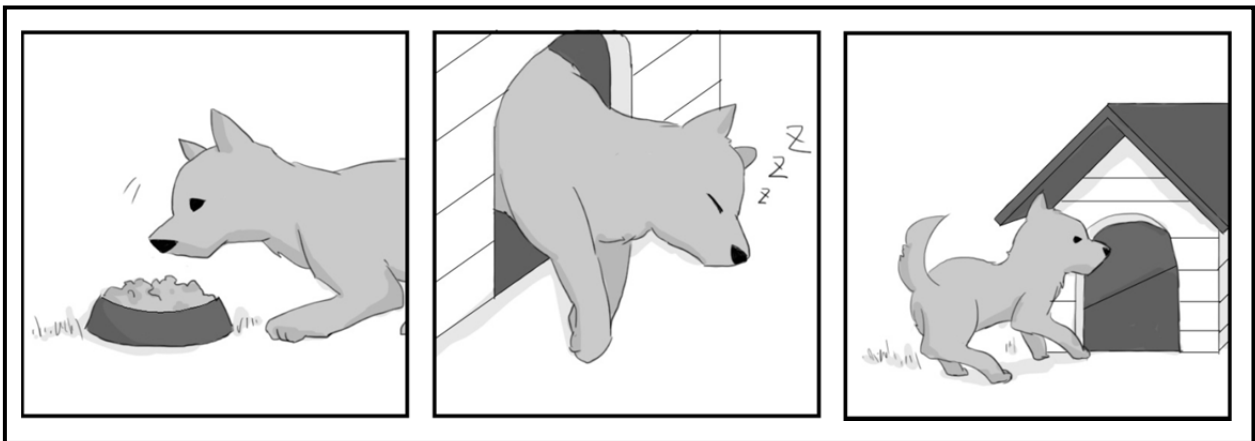
でんわ	でえれ
てんね	てんわ

付録6 読書のレディネス調査用紙（3回目調査）

7



8



9



付録7 施設向け質問紙

* 昨年度の状況についてご回答ください *

A. 絵本・紙芝居の蔵書量について

(A-1) 絵本の蔵書量についてお尋ねします。

[A-1a] 昨年度、園全体には絵本が何冊ありましたか。数字をカッコ内にご記入ください。

() 冊

[A-1b] 昨年度、年長クラスの保育室には絵本がありましたか。あてはまる数字1つに○をし、「1. はい」を選択した場合はカッコ内に冊数をご記入ください。

1. はい () 冊 2. いいえ

(A-2) 紙芝居の蔵書量についてお尋ねします。

[A-2a] 昨年度、園全体には紙芝居が何巻ありましたか。数字をカッコ内にご記入ください。

() 巻

[A-2b] 昨年度、年長クラスの保育室には紙芝居がありましたか。あてはまる数字1つに○をし、「1. はい」を選択した場合はカッコ内に巻数をご記入ください。

1. はい () 巻 2. いいえ

B. おはなし会について

(B-1) 昨年度、園でおはなし会を行っていましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。また、「1. 行っていた」を選択した場合は「(年/月/週)」のいずれかに○をつけて、カッコ内に回数をご記入ください。

1. 行っていた (年/月/週) に () 回 2. 行っていない

例：月に3回行っていた場合

① 行っていた (年/月/週) に (3) 回 2. 行っていない

(B-2) (B-1)で「1. 行っていた」を選択した園にお聞きします。昨年度、おはなし会1回あたり平均何冊の絵本・紙芝居などの読み聞かせを行っていましたか。数字をカッコ内にご記入ください。

1回あたり平均 () 冊

(B-3) (B-1)で「1. 行っていた」を選択した園にお聞きします。昨年度、おはなし会1回あたりの時間はどのくらいでしたか。数字をカッコ内にご記入ください。

1回あたり平均 () 分間

(B-4) (B-1)で「1. 行っていた」を選択した園にお聞きします。昨年度、おはなし会1回あたり平均何人の幼児を対象に行っていましたか。数字をカッコ内にご記入ください。

1回あたり平均 () 人

付録7 施設向け質問紙

(B-5) (B-1)で「1. 行っていた」を選択した園にお聞きします。昨年度、おはなし会はどなたが行っていましたか。あてはまる数字すべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 保育士・幼稚園教諭 | 2. 保護者 |
| 3. 保護者以外の読み聞かせ団体 | 4. その他（具体的に： _____） |

(B-6) (B-1)で「1. 行っていた」を選択した園にお聞きします。昨年度、親子で参加できるおはなし会などはありましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。また、「1. 行っていた」を選択した場合は「(年/月/週)」のいずれかに○をつけて、カッコ内に回数をお書きください。

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 行っていた（年/月/週）に（ _____ ）回 | 2. 行っていない |
|----------------------------|-----------|

C. 活動内容について

(C-1) 昨年度の年長クラスにおいて、一日の保育時間の中で子どもが自由に遊べる時間（自由保育）は平均するとどれくらいでしたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------------------|--------|
| 1. 0～30分 | 2. 31分～1時間 | 3. 2時間 |
| 4. 3時間 | 5. 4時間以上（具体的に： _____ 時間） | |

(C-2) 昨年度の年長クラスにおいて、一日の保育時間の中で子どもが一斉に何かに取り組む時間（一斉保育）は平均するとどれくらいでしたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------------------|--------|
| 1. 0～30分 | 2. 31分～1時間 | 3. 2時間 |
| 4. 3時間 | 5. 4時間以上（具体的に： _____ 時間） | |

(C-3) 昨年度の年長クラスにおいて、一日の保育時間の中で自由保育と一斉保育の割合はどのくらいでしたか。合計が10になるように数字をカッコ内にご記入ください。

例：自由保育（ 3 ） ： （ 7 ）一斉保育

自由保育（ _____ ） ： （ _____ ）一斉保育

(C-4) 昨年度の年長クラスにおいて、文字の指導を行っていましたか。あてはまる数字すべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. できるだけ教えない | 2. 遊びの中で必要に応じて教える |
| 3. カルタ等文字に触れる機会を多くする | 4. ドリル等を用いて教える |
| 5. その他（ _____ ） | |

(C-5) 昨年度の年長クラスにおいて、絵本などの貸し出しを行っていましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

付録7 施設向け質問紙

(C-6) 昨年度の年長クラスにおいて、絵本や読み聞かせなどに関する情報を保護者へ提供していましたか。あてはまる数字1つに○をつけ、「1. 行っていた」を選択した場合は「(年/月/週)」のいずれかに○をつけて、カッコ内に回数をご記入ください。また、「どのような方法で」の欄に自由に記入してください。

1. 行っていた(年/月/週)に()回 2. 行っていなかった
→どのような方法で()

(C-7) 昨年度の活動内容についてお尋ねします。以下の活動内容について、昨年度の年長クラスでの実施の頻度に最も近いと思われる数字1つに○をつけてください。

質問番号	活動内容	全くしなかった	たまにした	よくした	とてもよくした
a	外遊び	1	2	3	4
b	飼育・栽培	1	2	3	4
c	ごっこ遊び	1	2	3	4
d	劇あそび(ペープサート・人形なども含む)	1	2	3	4
e	図画工作活動	1	2	3	4
f	読み聞かせ	1	2	3	4
g	リズム表現・身体表現	1	2	3	4
h	音楽活動	1	2	3	4
i	園外保育	1	2	3	4
j	文字の読み書き	1	2	3	4
k	たし算・ひき算	1	2	3	4
l	英語	1	2	3	4
m	詩・俳句の暗唱	1	2	3	4

D 回答者について

(D-1) あなたの性別について、あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 男性 2. 女性

(D-2) あなたの役職について、あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 園長(所長) 2. 副園長(副所長) 3. その他()

(D-3) 現在の幼稚園・保育園での勤務年数について、カッコ内に数字をご記入ください。

今年で()年目

以上で質問は終わりです。もう一度、記入漏れがないかご確認ください。
調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

付録 8 施設向け質問紙（追加調査）

「幼稚園・保育園の環境」に関する追加調査

以下の質問に回答していただき、本紙を〇月〇日（〇）までに FAX にてご送信ください。お忙しいところ大変恐縮でございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

※昨年度の年長クラスの状況についてお答えください

1. 保護者への情報提供について

(1-1) 昨年度の年長クラスにおいて、絵本や読み聞かせなどに関する保護者への情報提供を行っていましたか。あてはまる数字1つに○をつけてください。

1. 行っていた 2. 行なっていない

(1-2) 昨年度の年長クラスにおいて、どのような情報をどのような方法・頻度で保護者への情報提供を行っていましたか。以下の例にしたがってご記入ください。

—例— 幼稚園便りにおいて、おはなし会で使った絵本の紹介を月1回行なっている場合

情報の内容	方法	頻度
① 絵本の紹介 2. 読み聞かせ活動の様子 3. 読み聞かせの知識 4. その他（ ）	① おたより 2. 施設での掲示 3. 保護者会 4. インターネット 5. その他（ ）	（年/月/週）に （ 1 ）回

情報の内容	方法	頻度
1. 絵本の紹介 2. 施設での読み聞かせ活動 3. 読み聞かせの知識 4. その他（ ）	1. おたより 2. 施設での掲示 3. 保護者会 4. インターネット 5. その他（ ）	（年/月/週）に （ ）回
1. 絵本の紹介 2. 施設での読み聞かせ活動 3. 読み聞かせの知識 4. その他（ ）	1. おたより 2. 施設での掲示 3. 保護者会 4. インターネット 5. その他（ ）	（年/月/週）に （ ）回
1. 絵本の紹介 2. 施設での読み聞かせ活動 3. 読み聞かせの知識 4. その他（ ）	1. おたより 2. 施設での掲示 3. 保護者会 4. インターネット 5. その他（ ）	（年/月/週）に （ ）回
1. 絵本の紹介 2. 施設での読み聞かせ活動 3. 読み聞かせの知識 4. その他（ ）	1. おたより 2. 施設での掲示 3. 保護者会 4. インターネット 5. その他（ ）	（年/月/週）に （ ）回

2. 施設名について

幼稚園・保育園（保育所）の名前をご記入ください。

※分析の際には、施設名に番号を用いて匿名化を行います。

施設名（ ）

もう一度、記入漏れがないかご確認ください。
調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。